三平Ⅰ遺跡（2）

八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第67集

2020

国　土　交　通　省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

第664集
三平Ⅰ遺跡(2)
八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第67集
二〇二〇
国土交通省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

三平Ⅰ遺跡（２）

八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第67集

2020

国　土　交　通　省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

1．三平Ⅰ遺跡遠景　H25年度調査区（○印対岸南から）

2．三平Ⅰ遺跡全景　H30年度調査区（北西から）

口絵２

３．縄文時代　土器

４．縄文時代　石器

５．縄文時代　石器

６．平安時代　鉄製品

序

八ッ場ダムは、治水・利水・発電を行う多目的ダムとして計画され、吾妻郡長野原町を中心に工事が進められてきました。八ッ場ダムの建設に伴う埋蔵文化財発掘調査は、当事業団が平成６年度から実施し、四半世紀となります。

三平Ⅰ遺跡は、平成16・17・24・25・30年度の発掘調査により、縄文時代早期から中期前半にかけて、また、平安時代、中世以降とそれぞれの時代で特徴的な遺構が確認され多くの遺物が出土しています。平成16・17年度の調査結果については、三平Ⅱ遺跡とともに、すでに刊行された報告書によって明らかになっています。本報告書は、平成24・25・30年度の発掘調査について報告するものです。今回の報告においても、平成16・17年度の調査結果に引き続き、縄文時代から中世以降までの遺構が確認され、三平地区における当時の人々の土地利用と生活の様相が明らかになりつつあります。

これらの調査成果は、長野原町を中心とした地域、ひいては群馬県における縄文時代、平安時代、中・近世史を考える上でも重要な資料になるものと考えております。

発掘調査から報告書の刊行に至るまで、国土交通省八ッ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会及び長野原町教育委員会をはじめとする関係機関や地元関係者の皆様には、多大なるご尽力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり、衷心より感謝申し上げます。

令和２年２月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長　　中 野 三 智 男

例　言

1．本書は、八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として平成24・25・30年度に実施された「三平Ⅰ遺跡」の埋蔵文化財発掘調査報告書である。三平Ⅰ遺跡については、平成10年度に先行発掘調査が行われており、発掘調査報告書『八ッ場ダム発掘調査集成（1）』（2002、群埋文303集）が刊行されている。その後、平成16年度（三平Ⅰ・Ⅱ遺跡）及び平成17年度（三平Ⅰ遺跡）に発掘調査が行われており、発掘調査報告書『三平Ⅰ・Ⅱ遺跡』（2007、群埋文401集）が刊行されている。

2．遺跡の呼称及び所在地

三平Ⅰ遺跡（さんだいらいちいせき）は、群馬県吾妻郡長野原町大字川原畑地内に所在する。

地番は、乙　567、574、573-1、572-1、572-2、572-3、572-4、572-5、572-6　（※平成24年度発掘届を確認）他である。573-2、533　（※平成25年度発掘届を確認）他である。459、460-2、462-1、468、472-1、472-2、473、474、475、476、477、535、536、537、538、539-1、539-2、　甲　540、541、543-1、543-2、544、545、546、547-1、548-3、550、551、552、553-2、554-3、555、556、乙　568、568-3、569-2、570-2　（※平成30年度発掘届を確認）他である。

3．事業主体　国土交通省関東地方整備局

4．調査主体　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

5．発掘事業及び整理事業の期間

（1）発掘事業

【平成24年度】

調査期間　平成24年９月10日～平成24年10月９日、平成24年11月30日～平成24年12月31日

調査担当　黒澤照弘（主任調査研究員）、山口逸弘（上席専門員）

調査面積　3,120㎡

遺跡掘削工事請負　株式会社歴史の杜

【平成25年度】

調査期間　平成25年11月18日～平成25年12月31日

調査担当　関　俊明（主任調査研究員）、小野和之（専門官）

調査面積　1,000㎡

遺跡掘削工事請負　株式会社測研

【平成30年度】

調査期間　平成30年４月２日～平成30年６月29日

調査担当　山本光明（主任調査研究員）、千明　隼（調査研究員）

調査面積　7,802㎡

遺跡掘削工事請負　歴史の杜・吉澤建設・南波建設吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体

（2）整理事業

【平成25年度】

整理期間　平成26年３月１日～平成26年３月31日

整理担当　中沢　悟（専門調査役）

【平成28年度】

整理期間　平成28年10月１日～平成28年12月31日

整理担当　洞口正史（専門調査役）

【令和元年度】

整理期間　平成31年４月１日～令和元年７月31日

整理担当　都木直人（資料統括・主任調査研究員）

６．本書作成の担当者は以下のとおりである。

編集　都木直人（資料統括・主任調査研究員）

本文執筆　第１章第１節：中沢　悟（専門調査役）・都木直人

第２章第１節・第２節２・３：中沢　悟・都木直人

第２章第２節１：田村　博（主任調査研究員）・都木直人

第３章：都木直人・小野和之（専門調査役）・洞口正史（専門調査役）

第６章第２節：小野和之

前記以外：都木直人

デジタル編集　齊田智彦（資料統括・主任調査研究員）

遺構写真　発掘調査担当

遺物写真　石器・石製品：都木直人・洞口正史

縄文土器：都木直人・洞口正史

土師器・須恵器・土製品：都木直人・洞口正史

陶磁器：都木直人・洞口正史

金属器：都木直人・板垣泰之（専門員）・洞口正史

遺物観察　石器・石製品：小野和之・洞口正史

縄文土器：小野和之・洞口正史

土師器・須恵器・土製品：小野和之・洞口正史

陶磁器：小野和之・洞口正史

金属器：小野和之・板垣泰之・洞口正史・都木直人

保存処理　板垣泰之・関　邦一（専門調査役）

７．発掘調査及び整理事業での委託

地上測量委託　株式会社測研

剥片石器類実測・トレース　株式会社シン技術コンサル、株式会社測研

自然科学分析　株式会社パレオ・ラボ

８．発掘調査及び報告書の作成にあたり群馬県教育委員会事務局文化財保護課、長野原町教育委員会事務局のご指導とご助言を得た。

９．発掘調査の記録資料と出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

凡　例

1．本書で使用した座標値及び方位は、日本測地系、平面直角座標系第Ⅸ系を用い、座標北で示した。

2．等高線・遺構断面図等に記した数値は、海抜標高を示す。

3．本報告書における遺構等の略称は以下の通り。

竪…竪穴建物、坑…土坑、P…ピット、掘…掘立柱建物、列…柱穴列、焼…焼土、石…石垣、確…確認調査坑

4．遺構図・遺物図については原則下記の縮尺で掲載した。但し、遺構・遺物によってはこの限りではない。また、遺物写真の縮尺は、実測図と同一の縮尺を原則とした。

遺構図　全体図：1/400・1/300、竪穴建物：1/60、竪穴建物カマド・炉・ピット断面：1/30、
土坑・ピット：1/40、掘立柱建物・溝・畑：1/80、石垣：1/60、柱穴列・焼土：1/40

遺物図　縄文土器　器形復元：1/4・1/3、破片：1/3・1/2
縄文石器　打製石斧・磨製石斧・磨石・凹石：1/3、石匙・スクレイパー：1/2、
石鏃・石錐・楔形石器：1/1
須恵器・土師器　甕類：1/4・1/3、埦・坏類：1/3
羽口：1/3、鉄滓・鉄製品：1/2、金床石：1/3、砥石：1/2、陶磁器：1/3、銭貨1/1

5．遺構番号は、原則調査時の番号を用いた。ただし、平成24・25年度調査は通し番号としているが、平成30年度調査は１番から新たに番号をつけている。そこで、平成24・25・30年度を全て通し番号とするため、平成30年度調査の遺構については番号の付け替えを行った。遺物番号は、種別に限らず遺構毎に通し番号とした。

6．本書の遺構図に使用したスクリーントーン表現は、次のことを示す。

平面図　硬化面…　焼土…　焼土-強…

7．遺構平面図中の遺物記号は、次のことを示す。

●…土器・陶磁器　▲…石器・石製品　■…鉄・金属製品

8．土器断面実測図中の●は繊維含有を表している。

9．遺構の計測は、全容が計測できない遺構について残存値（　）で表記してある。なお、畑の計測では、畝間から隣の畝間までの間をサク間幅として計測した。

10．本遺跡で検出された畑の畝間を埋めている浅間Ａ軽石（As-A）は、天明３（1783）年の浅間山噴出軽石の略である。また、「天明３年泥流」あるいは「天明泥流」は、天明３年７月８日（新暦８月５日）の浅間山噴火に伴う泥流堆積物の略称である。その他のテフラの略称は、浅間草津黄色軽石（As-YPk）（新井1962）、浅間粕川テフラ（As-Kk）である。

11．遺物観察表での表現及び記載法は、以下の通りである。

・遺物観察表は遺構毎とした。

・計測値の単位はcmとし、重量はｇで表記している。また、欠損した遺物の計測値には、（　）で現存値を記した。

目　次

口絵
序
例言
凡例
目次
挿図目次
表目次
写真図版目次

第１章　調査の方法と経過
　第１節　調査に至る経緯…… 1
　第２節　調査の方針・方法・経過…… 2
　　１　調査の方針…… 2
　　２　発掘調査の方法…… 2
　　３　調査の経過…… 2
　第３節　調査区の概要…… 4
　　１　調査区の設定…… 4
　　２　調査前の状況…… 4
　　３　基本土層…… 5

第２章　遺跡の環境
　第１節　地理的環境…… 9
　第２節　歴史的環境…… 9
　　１　周辺の遺跡…… 9
　　２　川原畑村の概要・変遷…… 11
　　３　川原畑村と交通…… 14
　三平１遺跡全体図

第３章　調査の内容
　第１節　調査の概要…… 21
　第２節　縄文時代の遺構と遺物…… 21
　第３節　平安時代の遺構と遺物…… 74
　第４節　中世以後の遺構と遺物……125

第４章　旧石器時代の調査
　第１節　概要……152
　第２節　旧石器時代確認調査坑について……152

第５章　自然科学分析
　第１節　分析の目的……154
　第２節　赤色顔料の蛍光Ｘ線分析……154

第６章　総括
　第１節　調査の成果……158
　第２節　縄文時代のまとめ……158
　第３節　吾妻川左岸の最上位河岸段丘上にある
　　陥し穴……159
　第４節　平安時代の鍛冶炉と鍛冶道具……162

遺構計測表……163

写真図版
報告書抄録
奥付

挿図目次

第１図　調査区設定図……7
第２図　上層堆積状況……8
第３図　遺跡位置図（国土地理院1/200000地勢図「長野」平成18年11月１日発行・1/50000地形図「草津」平成11年１月１日発行を使用）……10
第４図　周辺遺跡図（国土地理院1/250000地形図「長野」平成21年４月１日発行を使用）……12
第５図　三平Ⅰ遺跡H24・25・30年度調査区１・２面全体図・折り込み
第６図　三平Ⅰ遺跡H30年度調査区１面全体図……折り込み
第７図　三平Ⅰ遺跡H30年度調査区２面全体図……折り込み
第８図　６号竪穴建物遺物分布図……22
第９図　６号竪穴建物……22
第10図　６号竪穴建物ピット上層断面図……23
第11図　６号竪穴建物掘り方……23
第12図　６号竪穴建物出土遺物１……23
第13図　６号竪穴建物出土遺物２……24
第14図　８号竪穴建物……25
第15図　８号竪穴建物ピット上層断面図１……25
第16図　８号竪穴建物ピット上層断面図２……26
第17図　８号竪穴建物出土遺物１……26
第18図　８号竪穴建物出土遺物２……27
第19図　８号竪穴建物出土遺物３……28
第20図　９号竪穴建物遺物分布図……28
第21図　９号竪穴建物……29
第22図　９号竪穴建物ピット上層断面図……29
第23図　９号竪穴建物出土遺物……30
第24図　10号竪穴建物……30
第25図　10号竪穴建物ピット上層断面図……30
第26図　10号竪穴建物出土遺物……30
第27図　土坑１（１・４・５・40・58・59号土坑）……37
第28図　土坑２（61～68号土坑）……38
第29図　土坑３（69・76・77・79・82～85号土坑）……39
第30図　土坑４（86～91・94～96号土坑）……40
第31図　土坑５（97～105号土坑）……41
第32図　土坑６（108・113・116・117・120～122・124・128号土坑）……42
第33図　土坑出土遺物……43
第34図　ピット１（38号ピット）……45
第35図　ピット２（39～46・104・108～111号ピット）……46
第36図　ピット３（112～115号ピット）……47
第37図　ピット出土遺物……47
第38図　遺構外出土遺物１……50
第39図　遺構外出土遺物２……51
第40図　遺構外出土遺物３……52
第41図　遺構外出土遺物４……53
第42図　遺構外出土遺物５……54
第43図　遺構外出土遺物６……55
第44図　遺構外出土遺物７……56
第45図　遺構外出土遺物８……57
第46図　遺構外出土遺物９……58
第47図　遺構外出土遺物10……59
第48図　遺構外出土遺物11……60
第49図　遺構外出土遺物12……61
第50図　遺構外出土遺物13……62
第51図　１号竪穴建物……74
第52図　１号竪穴建物掘り方……75
第53図　１号竪穴建物出土遺物……75
第54図　２号竪穴建物……77
第55図　２号竪穴建物カマド……78
第56図　２号竪穴建物貯蔵穴・掘り方……78
第57図　２号竪穴建物鍛造剥片・粒状滓出土位置……79
第58図　２号竪穴建物鍛冶炉……79
第59図　２号竪穴建物出土遺物……80
第60図　３号竪穴建物……81
第61図　３号竪穴建物カマド……82
第62図　３号竪穴建物貯蔵穴・掘り方……82
第63図　３号竪穴建物出土遺物……83
第64図　４号竪穴建物……84
第65図　５号竪穴建物１……86
第66図　５号竪穴建物２……87
第67図　５号竪穴建物ピット上層断面図……87
第68図　５号竪穴建物カマド……88
第69図　５号竪穴建物出土遺物１……89
第70図　５号竪穴建物出土遺物２……90
第71図　７号竪穴建物……91
第72図　７号竪穴建物カマド……92
第73図　７号竪穴建物出土遺物……92
第74図　土坑１（６・７号土坑）……101
第75図　土坑２（10・12号土坑）……102
第76図　土坑３（15・16号土坑）……103
第77図　土坑４（17・18号土坑）……104
第78図　土坑５（19・20号土坑）……105
第79図　土坑６（22・23号土坑）……106
第80図　土坑７（24・25号土坑　25号土坑出土遺物）……107
第81図　土坑８（26・27号土坑）……108
第82図　土坑９（30・41号土坑）……109
第83図　土坑10（42・43号土坑　42号土坑出土遺物）……110
第84図　土坑11（44・46号土坑）……111
第85図　土坑12（47・48号土坑）……112
第86図　土坑13（49・51号土坑　51号土坑出土遺物）……113
第87図　土坑14（52・53号土坑）……114
第88図　土坑15（54・55号土坑　54号土坑出土遺物）……115
第89図　土坑16（56・70号土坑）……116
第90図　土坑17（71・75・81・93・106号土坑）……117
第91図　土坑18（107・109～112号土坑）……118
第92図　土坑19（114・115・118・119号土坑）……119
第93図　土坑20（123・126・127号土坑）……120
第94図　１号掘立柱建物……126
第95図　１号掘立柱建物出土遺物……126
第96図　２号掘立柱建物……127
第97図　土坑１（21・28・29・31～34号土坑）……131
第98図　土坑２（35～39・57号土坑）……132
第99図　土坑３（72～74・78・80・92号土坑）……133
第100図　ピット１（１～15号ピット）……139
第101図　ピット２（16～31号ピット）……140
第102図　ピット３（32～37・47～52号ピット）……141
第103図　ピット４（61～63・72～85・87・97・103・105～107号ピット）……142
第104図　ピット５（117～138号ピット）……143
第105図　ピット６（139～161号ピット）……144
第106図　ピット７（162～177号ピット）……145
第107図　１・２号柱穴列……147
第108図　１・２号溝……148
第109図　３号溝……148
第110図　１・２号畑……149
第111図　３号畑……150
第112図　１号焼土……150
第113図　１号石垣……151
第114図　遺構外出土遺物……151
第115図　旧石器時代確認調査坑……153
第116図　赤色顔料の蛍光Ｘ線分析結果……156
第117図　陥し穴分類図（第401集『三平Ⅰ・Ⅱ遺跡』第162図加筆修正）……160
第118図　陥し穴上層埋没状況図（第401集『三平Ⅰ・Ⅱ遺跡』第163図修正）……161

表目次

第１表　周辺遺跡一覧表……13
第２表　６号竪穴建物ピット計測表……23

第３表　８号竪穴建物ピット計測表……26
第４表　９号竪穴建物ピット計測表……29
第５表　10号竪穴建物ピット計測表……30
第６表　縄文時代　遺物観察表……63
第７表　２号竪穴建物　粒状滓・鍛造剥片集計表……76
第８表　７号竪穴建物ピット計測表……91
第９表　平安時代　遺物観察表……121
第10表　１号掘立柱建物計測表……125
第11表　２号掘立柱建物計測表……127
第12表　１号柱穴列ピット計測表……147
第13表　２号柱穴列ピット計測表……147
第14表　中世以後　遺物観察表……151
第15表　分析対象……154
第16表　遺構計測表……163
竪穴建物……163
土坑……163
ピット……165
掘立柱建物……168
柱穴列……168
溝……168
焼土遺構……168
石垣……168

写真図版目次

ＰＬ．１　１．　Ｈ24年度調査区遠景（南から）
２．　Ｈ24年度調査区遠景（東から）
３．　Ｈ24年度調査区全景（北から）
４．　Ｈ24年度調査区全景（北西から）
５．　Ｈ24年度調査区全景（南東から）
ＰＬ．２　１．　Ｈ25年度調査区全景（北から）
２．　Ｈ25年度調査区全景（南から）
３．　Ｈ25年度調査区全景（南から）
４．　Ｈ25年度調査区全景（南東から）
ＰＬ．３　１．　Ｈ30年度調査区遠景（北西から）
２．　Ｈ30年度調査区全景（上空から　上が東）
ＰＬ．４　１．　Ｈ30年度調査Ｃ区全景（南から）
２．　Ｈ30年度調査Ａ区全景（北から）
３．　Ｈ30年度調査Ｂ区全景（東から）
４．　Ｈ30年度調査Ｃ区全景（北西から）
５．　Ｈ30年度調査Ｃ区北西部（南東から）
ＰＬ．５　１．　６号竪穴建物全景（南から）
２．　６号竪穴建物土層断面（西から）
ＰＬ．６　１．　６号竪穴建物遺物出土状態（南から）
２．　６号竪穴建物Ｐ１土層断面（南から）
３．　６号竪穴建物Ｐ３土層断面（西から）
４．　６号竪穴建物出土遺物（南から）
５．　６号竪穴建物出土遺物（南から）
ＰＬ．７　１．　８号竪穴建物全景（東から）
２．　８号竪穴建物遺物出土状態（東から）
ＰＬ．８　１．　８号竪穴建物掘り方全景（西から）
２．　８号竪穴建物遺物出土状態（東から）
３．　８号竪穴建物Ｐ４・５全景（南から）
４．　８号竪穴建物土層断面（東から）
５．　８号竪穴建物Ｐ土層断面（東から）
ＰＬ．９　１．　９号竪穴建物全景（東から）
２．　９号竪穴建物掘り方全景（東から）
ＰＬ．10　１．　10号竪穴建物全景（東から）
２．　10号竪穴建物全景（西から）
ＰＬ．11　１．　１号土坑土層断面（南から）
２．　１号土坑全景（南から）
３．　４号土坑全景（南から）
４．　５号土坑全景（南から）
５．　40号土坑全景（南から）
６．　58号土坑全景（南から）
７．　59号土坑土層断面（南から）
８．　59号土坑全景（南から）
ＰＬ．12　１．　61・62号土坑土層断面（南から）
２．　61・62号土坑全景（南から）
３．　63号土坑全景（南から）
４．　64号土坑全景（南から）
５．　65号土坑全景（南から）
６．　66号土坑全景（南から）
７．　67号土坑全景（南から）
８．　69号土坑全景（南から）
ＰＬ．13　１．　68号土坑土層断面（西から）
２．　68号土坑全景（西から）
３．　76号土坑全景（南から）
４．　77号土坑全景（南から）
５．　79号土坑全景（南から）
６．　82号土坑全景（南から）
７．　83号土坑全景（南から）
８．　84号土坑全景（南から）
ＰＬ．14　１．　85号土坑全景（南から）
２．　86号土坑全景（南から）
３．　87号土坑全景（南から）
４．　88号土坑全景（南から）
５．　89号土坑遺物出土状態（南から）
６．　89号土坑全景（南から）
７．　90号土坑全景（南から）
８．　91号土坑全景（南から）
ＰＬ．15　１．　94号土坑全景（西から）
２．　95号土坑全景（南から）
３．　96号土坑全景（南から）
４．　97号土坑全景（南から）
５．　98号土坑全景（南から）
６．　99号土坑全景（南から）
７．　100号土坑全景（南から）
８．　105号土坑全景（南から）
ＰＬ．16　１．　101号土坑遺物出土状態（南から）
２．　101号土坑全景（北から）
３．　108号土坑全景（南から）
４．　116号土坑全景（東から）
５．　113号土坑土層断面（北東から）
６．　113号土坑全景（南西から）
７．　117号土坑全景（東から）
８．　120号土坑全景（南から）
ＰＬ．17　１．　121号土坑全景（南から）
２．　122号土坑全景（南から）
３．　124号土坑全景（東から）
４．　128号土坑全景（南から）
５．　38号ピット遺物出土状態（南から）
ＰＬ．18　１．　39号ピット全景（東から）
２．　40号ピット全景（南から）
３．　41号ピット全景（南から）
４．　42号ピット全景（南から）
５．　43号ピット全景（南から）
６．　44号ピット全景（東から）
７．　45号ピット全景（南から）
８．　46号ピット全景（南から）
９．　104号ピット全景（南から）
10．　109号ピット全景（南から）
11．　110号ピット全景（南から）
12．　111号ピット全景（南から）
13．　113号ピット全景（南から）
14．　114号ピット全景（南から）
15．　115号ピット全景（南から）
ＰＬ．19　１．　１号竪穴建物全景（西から）
２．　１号竪穴建物掘り方全景（西から）
ＰＬ．20　１．　１号竪穴建物遺物出土状態（南西から）
２．　１号竪穴建物遺物出土状態（西から）
３．　１号竪穴建物土層断面（西から）
４．　１号竪穴建物遺物出土状態（西から）
５．　１号竪穴建物土層断面（南から）

PL. 21 1. 2号竪穴建物全景（西から）
2. 2号竪穴建物全景（西から）
PL. 22 1. 2号竪穴建物遺物出土状態（西から）
2. 2号竪穴建物掘り方全景（西から）
3. 2号竪穴建物１号炉掘り方（南から）
4. 2号竪穴建物１号炉遺物出土状態（西から）
5. 2号竪穴建物カマド上層断面（南から）
6. 2号竪穴建物カマド上層断面（西から）
7. 2号竪穴建物上層断面　鍛造剥片分布状況（南から）
8. 2号竪穴建物上層断面　鍛造剥片分布状況（西から）
PL. 23 1. 3号竪穴建物全景（西から）
2. 3号竪穴建物遺物出土状態（西から）
PL. 24 1. 3号竪穴建物カマド全景（西から）
2. 3号竪穴建物カマド遺物出土状態（西から）
3. 3号竪穴建物カマド上層断面（南から）
4. 3号竪穴建物カマド掘り方全景（西から）
5. 3号竪穴建物上層断面（南から）
6. 3号竪穴建物上層断面（西から）
7. 3号竪穴建物掘り方上層断面（西から）
8. 3号竪穴建物掘り方全景（西から）
PL. 25 1. 1・2・3・4号竪穴建物全景（南東から）
2. 4号竪穴建物上層断面（南から）
PL. 26 1. 5号竪穴建物全景（西から）
2. 5号竪穴建物掘り方全景（西から）
PL. 27 1. 5号竪穴建物カマド全景（西から）
2. 5号竪穴建物カマド遺物出土状態（西から）
3. 5号竪穴建物カマド掘り方全景（西から）
4. 5号竪穴建物Ｐ２上層断面（南から）
5. 5号竪穴建物上層断面（南から）
6. 5号竪穴建物上層断面（西から）
7. 5号竪穴建物床下土坑全景（南から）
8. 5号竪穴建物貯蔵穴全景（西から）
PL. 28 1. 7号竪穴建物全景（西から）
2. 7号竪穴建物掘り方全景（西から）
PL. 29 1. 7号竪穴建物上層断面（南から）
2. 7号竪穴建物カマド遺物出土状態（南から）
3. 7号竪穴建物カマド上層断面（南から）
4. 7号竪穴建物カマド遺物出土状態（西から）
5. 7号竪穴建物カマド掘り方全景（南西から）
PL. 30 1. 6号土坑上層断面（南から）
2. 6号土坑全景（東から）
3. 7号土坑全景（東から）
4. 10号土坑全景（南から）
5. 12号土坑全景（南から）
6. 15号土坑全景（東から）
7. 16号土坑上層断面（南から）
8. 16号土坑全景（南から）
PL. 31 1. 17号土坑全景（西から）
2. 18号土坑上層断面（南東から）
3. 19号土坑全景（南東から）
4. 20号土坑全景（南から）
5. 22号土坑上層断面（南から）
6. 22号土坑全景（北から）
7. 23号土坑全景（東から）
8. 24号土坑全景（南から）
PL. 32 1. 25号土坑全景（南から）
2. 26号土坑全景（南東から）
3. 27号土坑全景（北東から）
4. 30号土坑全景（東から）
5. 41号土坑上層断面（東から）
6. 41号土坑全景（東から）
7. 42号土坑全景（東から）
8. 43号土坑全景（南から）
PL. 33 1. 44号土坑全景（西から）
2. 46号土坑全景（東から）
3. 47号土坑上層断面（南から）
4. 47号土坑全景（南から）
5. 48号土坑全景（南から）
6. 49号土坑全景（西から）
7. 51号土坑全景（西から）
8. 52号土坑全景（西から）
PL. 34 1. 53号土坑全景（東から）
2. 54号土坑全景（南から）
3. 55号土坑全景（南から）
4. 56号土坑全景（南から）
5. 70号土坑全景（東から）
6. 71号土坑全景（南から）
7. 75号土坑全景（南から）
8. 81号土坑全景（北から）
PL. 35 1. 93号土坑全景（南から）
2. 106号土坑全景（西から）
3. 107号土坑全景（西から）
4. 109号土坑全景（東から）
5. 110号土坑上層断面（西から）
6. 110号土坑全景（西から）
7. 111号土坑全景（南から）
8. 112号土坑全景（南から）
PL. 36 1. 114号土坑全景（西から）
2. 115号土坑全景（南から）
3. 118号土坑全景（南から）
4. 119号土坑上層断面（南から）
5. 123号土坑全景（東から）
6. 126号土坑全景（南から）
7. 127号土坑上層断面（東から）
8. 127号土坑全景（東から）
PL. 37 1. １号掘立柱建物全景（東から）
2. １号掘立柱建物全景（南から）
3. １号掘立柱建物Ｐ５上層断面（南から）
4. １号掘立柱建物Ｐ６上層断面（南から）
5. １号掘立柱建物Ｐ８上層断面（南から）
6. １号掘立柱建物Ｐ９上層断面（南から）
7. １号掘立柱建物Ｐ14上層断面（南から）
8. １号掘立柱建物Ｐ15上層断面（南から）
9. １号掘立柱建物Ｐ16上層断面（南から）
PL. 38 1. ２号掘立柱建物全景（東から）
2. ２号掘立柱建物全景（南から）
3. ２号掘立柱建物Ｐ３上層断面（北から）
4. ２号掘立柱建物Ｐ５上層断面（南から）
5. ２号掘立柱建物Ｐ９上層断面（西から）
6. ２号掘立柱建物Ｐ14上層断面（南から）
7. ２号掘立柱建物Ｐ19上層断面（南から）
8. ２号掘立柱建物Ｐ21上層断面（西から）
9. ２号掘立柱建物完（北から）
PL. 39 1. 29号土坑全景（東から）
2. 38号土坑全景（南から）
3. 72号土坑土層断面（南から）
4. 73号土坑全景（南から）
5. 74号土坑全景（南から）
6. 78号土坑全景（北から）
7. 92号土坑全景（南から）
8. １号ピット全景（南から）
PL. 40 1. ２号ピット全景（南から）
2. ３号ピット上層断面（南から）
3. ３号ピット全景（南から）
4. ４号ピット上層断面（南から）
5. ７号ピット上層断面（南から）
6. 10号ピット上層断面（南から）
7. 17号ピット上層断面（南から）
8. 19号ピット上層断面（南から）
9. 20号ピット上層断面（南から）
10. 21号ピット上層断面（南から）
11. 32号ピット上層断面（南から）
12. 34号ピット全景（南から）
13. 48号ピット全景（東から）
14. 52号ピット全景（南から）
15. 61号ピット上層断面（南から）

ＰＬ．41　１．　72号ピット全景（南から）
　　２．　73号ピット全景（南から）
　　３．　78号ピット全景（南から）
　　４．　117号ピット全景（南から）
　　５．　118号ピット全景（南から）
　　６．　119号ピット全景（南から）
　　７．　120号ピット全景（南から）
　　８．　123号ピット全景（南から）
　　９．　124号ピット全景（南から）
　　10．　126号ピット全景（南から）
　　11．　127号ピット全景（南から）
　　12．　131号ピット全景（南から）
　　13．　151号ピット全景（南から）
　　14．　152号ピット全景（南から）
　　15．　159号ピット全景（南から）
ＰＬ．42　１．　１・２号柱穴列全景（東から）
　　２．　１・２号溝全景（南から）
　　３．　１・２号溝全景（南から）
　　４．　３号溝全景（南から）
　　５．　１号畑全景（西から）
　　６．　２号畑全景（東から）
　　７．　３号畑全景（東から）
　　８．　１号焼土土層断面（南から）
ＰＬ．43　１．　１号石垣全景（南から）
　　２．　１号石垣全景（西から）
　　３．　H24年度調査区基本土層２断面（東から）
　　４．　H24年度調査区基本土層３断面（東から）
　　５．　H30年度調査区基本土層２断面（東から）
　　６．　H30年度１号旧石器時代確認調査坑断面（東から）
　　７．　H30年度２号旧石器時代確認調査坑断面（東から）
　　８．　H30年度旧石器時代確認調査坑調査風景（南から）
ＰＬ．44　縄文時代出土遺物１
ＰＬ．45　縄文時代出土遺物２
ＰＬ．46　縄文時代出土遺物３
ＰＬ．47　縄文時代出土遺物４
ＰＬ．48　縄文時代出土遺物５
ＰＬ．49　縄文時代出土遺物６
ＰＬ．50　縄文時代出土遺物７
ＰＬ．51　縄文時代出土遺物８
ＰＬ．52　平安時代出土遺物１
ＰＬ．53　平安時代出土遺物２
ＰＬ．54　平安時代出土遺物３・中世以後出土遺物

自然科学分析　写真１　分析対象となる赤色顔料

第１章　調査の方法と経過

第１節　調査に至る経緯

吾妻川は、その源を群馬・長野県境の鳥居峠に発し、浅間山・草津白根山の中間を東流して万座川・熊川・白砂川等の支流を合わせ、途中、吾妻峡と称される美観をつくりながら、さらに温川・四万川・名久田川等の支流を合わせ、渋川市付近で利根川と合流する全長76.2㎞の一級河川である。

八ッ場ダムは、その吾妻川の中流に建設され、①洪水調節、②流水の正常な機能維持、③水道及び工業用水の新たな確保、④発電を目的とする多目的ダムで、天端標高586m、堤高116m、湛水面積約3.0㎢、総貯水容量1,075億㎥の規模を測る重力式コンクリートダムである。ダム位置は、左岸が群馬県吾妻郡長野原町大字川原畑字八ッ場、右岸が大字川原湯字金花山にあり、名勝「吾妻峡」の入口部付近にあたる。

八ッ場ダム建設計画は、「昭和24年利根川改修改定計画」の一環として、昭和27（1952）年５月に調査着手後、平成４（1992）年７月、「八ッ場ダム建設事業に係る基本協定書」及び「用地補償調査に関する協定書」が締結されることによって本格着工となった。

八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査の実施に関しては、平成６（1994）年３月18日に建設省（現国土交通省）関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長との間で「八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する協定書」が締結され、埋蔵文化財発掘調査事業の実施計画が決定した。これにより、委託者である建設省関東地方建設局長と受託者である群馬県教育委員会教育長とが年度区分ごとに発掘調査受委託契約を締結のうえ、以後発掘調査が実施されることが決定したのである。

この協定を踏まえて、平成６年４月１日に関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長により発掘調査受委託契約を、同日に群馬県教育委員会教育長と財団法人（現公益財団法人）群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長により発掘調査受委託契約を締結し、八ッ場ダム進入路関連遺跡を調査箇所とする八ッ場ダム埋蔵文化財発掘調査が開始された。

平成11（1999）年４月１日には、建設省関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長の間で、「八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する協定の一部を変更する協定書（第１回変更）」が締結され、発掘調査受委託契約についての変更が行われた。これにより、受託者が群馬県教育委員会教育長から財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長となり、その後の数度の変更を経て現在の体制に至っている。

三平Ⅰ遺跡は長野原町大字川原畑字三平に所在する。今回の調査成果は、平成24（2012）年度（９月10日～10月９日、11月30日～12月31日）、平成25（2013）年度（11月18日～12月31日）及び平成30（2018）年度（４月２日～６月29日）の３か年度にわたって、八ッ場ダム建設工事に関連する道路建設及び代替地造成を原因として実施された発掘調査のものである。

これまで、三平Ⅰ遺跡は平成10年度に先行発掘調査が行われており、発掘調査の成果は『八ッ場ダム発掘調査集成（１）』（2002、群埋文303集）で報告済みである。その後、平成16年度（三平Ⅰ・Ⅱ遺跡）及び平成17年度（三平Ⅰ遺跡）の発掘調査が行われており、『三平Ⅰ・Ⅱ遺跡』（2007、群埋文401集）で、既に報告済みである。そして今回、八ッ場ダム建設工事の進展に伴い、これまで実施されてこなかった範囲の埋蔵文化財調査が着手されることになった。今回の発掘調査に至る経緯は下記の通りである。

まず、平成24（2012）年５月10日、群馬県教育委員会文化財保護課により、三平Ⅰ遺跡について試掘・確認調査が実施され、事業地内の一部で竪穴建物・土坑・ピットが確認された。西側の隣接地は、長野原教育委員会の発掘調査や分布調査により平安時代の集落が発見されており、確認された竪穴建物は、この集落の一部であると考えられる。今回実施された試掘・確認調査の結果からも、本格的な発掘調査の必要があるとの判断に至り、本調査が実施された。

第２節　調査の方針・方法・経過

１　調査の方針

三平Ⅰ遺跡では、平成24（2012）年５月に実施された群馬県教育委員会文化財保護課の試掘・確認調査の結果から、縄文時代及び平安時代の竪穴建物・土坑・ピットの存在が確認されていた。また、平成16・17年度の発掘調査では、掘立柱建物も確認されていることから、当該時期の遺構の様相が明らかになることが期待された。

また、調査原因が八ッ場ダム建設工事に関連する道路建設及び代替地造成のための発掘調査であることから、調査範囲が明確であり、遺跡全体の様相を幅広く明らかにすることができる調査であると期待された。

以上の経緯を踏まえた上で、調査方針は、本遺跡の構成要素である遺構（竪穴建物、掘立柱建物、土坑、ピットなど）を精査し、記録保存を実施するとともに、遺跡の全体像（景観）を明らかにすることとした。

２　発掘調査の方法

三平Ⅰ遺跡は、主に吾妻川左岸上位段丘上に立地し、周辺は穏やかな南傾斜面だが、調査区東側は急斜面地形となり穴山沢に至る。

調査は、まずバックホーを使用することにより、表土の除去作業から始めたが、天明泥流は確認されなかった。その後、発掘作業員によって、ジョレンや移植ゴテ等による遺構の検出作業、並びにトレンチ掘削や截ち割り作業等により、遺構調査を実施した。

遺物取り上げについては、遺構別地点別取り上げを基本とし、遺物の所属が明らかでない遺物に関しては、遺構外遺物として通番で取り上げ、整理段階で想定できた遺構の遺物として報告した。遺構平面測量にあたっては、測量業者委託によるデジタル測量を基本として、縮率1/10・1/20・1/40を基準に、縮率を適宜選択して実施した。

遺構断面測量も平面測量に準じた。

遺構写真については、現場担当者による地上写真、並びに高所作業車及びドローン使用による高所写真撮影を行った。現場担当者による撮影には、デジタルカメラ（Canon EOS Kiss Digital N）と６×７版モノクロネガフィルムを使用した。

３　調査の経過

（１）発掘調査の経過

三平Ⅰ遺跡の発掘調査は、前記の平成16（2004）・17（2005）年度の後、平成24（2012）年度に再開され、平成24年度（９月10日～ 10月９日、11月30日～ 12月31日）、平成25（2013）年度（11月18日～ 12月31日）、平成30（2018）年度（４月２日～６月29）に実施された。これらの発掘調査の成果のうち、平成16・17年度までの成果が『三平Ⅰ・Ⅱ遺跡（１）』（2007、群埋文401集）として調査報告書にまとめられている。

平成24年度の発掘調査は、八ッ場ダム建設工事に関連する県道建設を原因としている。発掘調査は、西畑に一筆を残して９・10月に行い、12月に残地を調査した。調査区の土層は、黒色土の堆積が西側に行くほど厚く、そのため調査区西部は２面調査となり、黒色土上層とローム漸移層の２回に分けた調査となった。第１面の調査では、竪穴建物、土坑、隘し穴、掘立柱建物などが確認された。竪穴建物は平安時代の遺構である。遺構の分布としては、調査区西側に集中する傾向が見られた。西側調査区域外に、集落の続きが存在すると推察された。覆土の状況は、遺構上層に浅間粕川テフラ（As-Kk）の堆積が確認された。第２面の調査では、包含層が調査区西側に集中しており、縄文時代早期～前期の出土遺物が確認された。早期に比定される押型文系土器片は同一個体と思われる貴重なものである。

【三平Ⅰ遺跡平成24年度日誌抄】

９月10日（月）　表土掘削を開始
９月13日（木）　遺構確認作業開始
　　土坑、竪穴建物などがあることを確認
９月24日（月）　調査区南東隅部は遺構がないことを確認、埋め戻す
９月25日（火）　３号土坑全掘
９月27日（木）　１号竪穴建物　石垣の調査開始
９月下旬　　土坑、ピット調査
　　イノシシの被害が続く
10月５日（金）　当面の遺構調査を終了
　　上原Ⅰ遺跡に移動

11月26日（月）　調査再開　遺構確認　土坑等調査
11月28日（水）　調査区を拡張し表土掘削　遺構確認
11月29日（木）　２号竪穴建物確認　土坑等調査継続
12月３日（月）　３号竪穴建物確認
12月６日（木）　掘立柱建物確認
12月11日（火）　全景写真撮影　縄文面調査準備
12月12日（水）　縄文面ダリッド調査開始
12月17日（月）　押型文土器出土
12月18日（火）　発掘調査終了
12月21日（金）　調査区埋め戻し終了
12月25日（月）　調査終了　現場引き渡し

平成25年度の発掘調査は、代替地造成によるものである。前年度に引き続き同様の遺構が想定された。調査区は黒色土の堆積が厚く、２面調査を行った。第１面では、前年度同様に竪穴建物、陥し穴など平安時代の遺構が確認された。１棟の竪穴建物から鍛冶遺構が検出され、鍛造剥片や鞴の羽口が出土した。覆土の状況は、埋没土中には浅間粕川テフラの堆積が確認された。第２面では、竪穴建物、土坑など縄文時代の遺構が確認された。竪穴建物からは、土器、石鏃、石錐などが出土した。

【三平Ⅰ遺跡平成25年度日誌抄】
11月15日（金）　現地打合せ
11月18日（月）　調査準備　調査範囲確認
11月19日（火）　表土掘削、遺構確認開始
11月20日（水）　２号竪穴建物、陥し穴など確認
11月22日（金）　遺構確認状況写真撮影
11月28日（木）　２号竪穴建物で鉄滓、鍛造剥片等を確認
12月２日（月）　２号竪穴建物鍛造剥片抽出
ドット図作成
12月３日（火）　５号竪穴建物調査開始
12月６日（金）　１面全景写真撮影　６号竪穴建物調査開始　２面目トレンチ調査着手
12月９日（月）　２号竪穴建物鍛冶炉確認
12月13日（金）　５号竪穴建物と６号竪穴建物は同一遺構と判断
12月19日（木）　降雪、作業中止
12月20日（金）　７号竪穴建物調査開始　降雪
12月25日（水）　発掘調査終了
12月26日（木）　調査区埋め戻し終了　現場引き渡し

平成30年度の発掘調査は、八ッ場ダム建設工事に伴うものである。調査区の北側をＡ区として、調査区を横切る道路を境に北側をＢ区と南側をＣ区に分けて調査を行った。天明泥流は確認できなかった。表土掘削するとすぐにロームや軽石の層になる。Ｃ区の一部では黒色土が堆積する。その下層に縄文時代相当層があり、２面調査を行った。第１面では、黒色土下面で浅間粕川テフラを包含する層が堆積しており、竪穴建物など平安時代の遺構が確認された。竪穴建物内からは赤色顔料が検出された。第２面では、竪穴建物、土坑など縄文時代の遺構が確認されている。竪穴建物内からは、平安時代の竪穴建物と同様に、赤色顔料が検出されている。（第５章自然科学分析参照）

【三平Ⅰ遺跡平成30年度日誌抄】
４月２日（月）　調査準備
４月６日（金）　Ａ区・Ｂ区・Ｃ区南端部表土掘削
４月９日（月）　Ａ・Ｂ区第１面調査開始
４月12日（木）　Ｃ区第１面調査開始
４月17日（火）　Ｂ区第２面調査開始
４月18日（水）　Ｃ区第２面調査開始
４月24日（火）　Ａ区調査終了
５月18日（金）　Ｂ区調査終了
６月12日（火）　Ｃ区旧石器確認調査開始
６月29日（金）　Ｃ区調査・Ｃ区旧石器確認調査終了
機材・資材整理

（２）整理事業の経過

整理事業は、平成26（2014）年３月１日から31日までの１か月間、平成28（2016）年10月１日～12月31日までの３か月間、平成31（2019）年４月１日から７月31日までの４か月間、合計８か月間実施した。

平成26年度の整理では、平成24・25年度調査区について、遺物の復元、図面整理、写真整理を実施した。平成28年度の整理では、平成24・25年度調査区について、未整理の遺構、遺物の整理、記載を行うとともに、先行作業の情報を集約し、本文原稿及び挿図、図版、観察表を

作成した。一部石器については実測及びトレースを外部委託した。遺構図面の編集及び基本記載、遺物写真撮影、実測図の作成、観察及び観察表の作成を行い、レイアウトを作成した。平成31年度整理では、平成24・25年度調査区についての先行する整理作業の情報を集約し、さらに平成30年度調査区についての整理作業を行った。遺構については、図の修正作業の後にデジタル編集作業を行い、併せて遺構写真の選定、本文執筆を行った。出土遺物については、接合・復元、掲載遺物の選定、写真撮影、実測作業、これら遺物図のトレース作業を行い、各遺物の観察表の執筆を行った。一連の作業後、報告書版下のレイアウト作成、全体のデジタル編集作業及びデジタル組版を行い、印刷・製本を業者委託して発掘調査報告書を刊行した。遺物・図面・写真等の記録資料については、群馬県埋蔵文化財調査センターに収納、保管した。なお、整理作業において遺構名等の変更が生じたが、これに伴う遺物注記について書きかえは行っていない。

第３節　調査区の概要

１　調査区の設定

平成６（1994）年度から始まった八ッ場ダム建設に伴う発掘調査においては、遺跡名称の略号やグリッドの設定などについて、「八ッ場ダム関連埋蔵文化財発掘調査方法」に基づき進められている。以下、本報告書でもそれに準拠し、必要部分について掲載する。

調査における遺跡番号は、八ッ場ダム建設に関わる長野原町の大字５地区（１：川原畑、２：川原湯、３：横壁、４：林、５：長野原）、東吾妻町の大字３地区（６：三島、７：大柏木、８：松谷）に番号を付し、八ッ場ダムの略号（YD）に続ける。ハイフン以下は各地区内に所在する遺跡に対して調査順に通し番号を付し、遺跡番号とする。三平Ⅰ遺跡は「YD １-04」である。

基準座標は、国家座標（2002年４月改正以前の日本測地系）に基づく平面直角座標第Ⅸ系（日本測地系）を使用し、東吾妻町大柏木付近を原点（座標値X=+58,000.0、Y=-97,000.0）とした１㎞方眼を基点として60の区画を設定し、この大グリッドを「地区」と呼ぶ。本遺跡はこの34・35地区に所在する。さらに、１㎞方眼を南東隅から100m方眼の１～100に区画し、この中グリッドを「区」とする。南東隅を１とし、東から西へ連続する10単位を南から北へ配列し、北西隅を100として完結するよう配置する。

「区」の100m方眼は、さらに４m方眼で625区画に分割され、その４m方眼の小グリッドを「グリッド」と呼ぶ。なお、小グリッドの東西にはＡ～Ｙまでのアルファベットを、南北には１～25までの算用数字を用いながら、南東隅を基点としグリッドを呼称する。また、遺構図や本文中の記載において、特に混乱が予想されない場合は地区番号を略して用いている（例：79区Ｘ－10）。

また、本遺跡は平成24・25・30年度に調査した内容を整理したものであるが、本稿構成上の都合で、それぞれの調査年度の内容を合わせて時代別に記述してある。平成30年度調査においては、Ａ区・Ｂ区・Ｃ区に分かれているものの、合わせて同時に整理して記述してある。

２　調査前の状況

三平Ⅰ遺跡は、「イドクボ」の伝承地名を有する谷地形を隔てて三平Ⅱ遺跡の東側に位置している。平成16・17年度調査区は、「イドクボ」を隔てて隣接しており、先述の通り『三平Ⅰ・Ⅱ遺跡』（2007、群埋文401集）により、既に報告済みである。

今回整理対象である調査区は、平成16・17年度調査区と旧町道を挟んで東側に平成24・25年度調査区が、南側の町道を隔てて平成30年度調査区が位置している。

以下、第１図に三平Ⅰ遺跡における前回報告による平成16・17年度調査区、及び今回報告する平成24・25・30年度調査区を掲載しておく。

三平Ⅰ遺跡は、吾妻川左岸の最上位河岸段丘上にある。平成24・25年度調査区は緩やかな南斜面だが、東側は急斜面地形にとなり穴山沢へ至る。平成30年度調査区は、吾妻川に向かって南東方向張り出す舌状台地の突端部分であり、南向きの緩斜面地である。

平成16・17年度調査区は、当時畑地であった。また、平成24・25年度調査区も畑地であり、平成30年度調査区は、道路、宅地、山林であった。

３　基本土層

三平Ⅰ遺跡は、吾妻川左岸の最上位河岸段丘上にある。平成24・25年度調査区は、段丘上の緩やかな傾斜地に立地し、平成30年度調査区は吾妻川に向かって南東方向へ張り出す舌状台地の突端部分であり、南側の遺跡範囲は制限されている。三平Ⅰ遺跡は、ほとんど全域が天明泥流に被覆されていない。平成24・25年度調査区においては、表土掘削すると黒色土が15 ～ 50cm程堆積しており、西側へ行くほど堆積が厚い。また、平成30年度調査区においては表土掘削するとすぐにロームや軽石の層になるが、Ｃ区中央部から西部にかけては、黒色土が堆積している。

天明泥流は、比高50m程に及ぶ段丘崖の中腹まで一時的に水位が達していると考えられ、漸次堆積厚は小さくなる傾向にはあるが、段丘下位の東宮遺跡の調査により、標高542.0mまで到達点を確認した。天明泥流の発生日時は、天明３（1783）年７月８日（新暦８月５日）である。このことより、吾妻川河床との比高80m程に位置する三平Ⅰ遺跡の調査区には、天明泥流が到達していないと考えられる。

東宮遺跡では、天明泥流の直下には、浅間A軽石（As-A）が約１cmの厚さで堆積している。浅間A軽石降下日時は、新暦７月27 ～ 29日と推測されている（関俊明2003）。本遺跡に堆積する浅間A軽石の降下日時を新暦７月27 ～ 29日頃とすると、泥流発生日時との間には１週間ほどの時間差が存在したこととなる。本遺跡で確認された浅間A軽石堆積層は、一次堆積層に限られることはなく、畑の耕作状況（培土=サクキリ等）や屋敷内（庭など）の清掃・除去状況等の理由により、二次的に堆積したと思われる堆積層の可能性もある。

天明３（1783）年の遺構面の下層には、黒褐色土層（平安時代遺物包含層）、さらに、褐色・黄褐色のローム二次堆積層等が堆積している。調査区内は平坦ではなく、深層までの明確な基本土層の確認には至らなかった。なお、ローム二次堆積層の上下から土師器片が出土しており、この頃に土砂災害に襲われた可能性が考えられる。

以下、第２図に三平Ⅰ遺跡における平成24年度及び平成30年度の調査区における基本土層を掲載しておく。

参考文献
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2002『長野原一本松遺跡（１）』
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2002『八ッ場ダム発掘調査集成（１）』
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2003『久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2005『川原湯勝沼遺跡（２）』
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2007『三平Ⅰ・Ⅱ遺跡』
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2011『東宮遺跡（１）』
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『東宮遺跡（２）』
（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2017『東宮遺跡（３）』
（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2018『東宮遺跡（４）』
関俊明2003「７月27日～ 29日降下As-A軽石『鍵層』としての位置付け－天明三年浅間災害に関する地域史的研究－」『研究紀要』21 （財）群馬県埋蔵文化財調査事業団

平成24年度調査

基本土層１（ＳＰＡ－Ａ´　ＳＰＢ－Ｂ´）

1　黒褐色土　褐色土ブロック、小粒As-YPkを含む。
2　黒色土　大粒のAs-YPkを多く含む。下層より押型文出土。
3　黒褐色土　As-YPkを多量含む。粘性強い。漸移層上層。

基本土層２

1　褐灰色土　耕作土。表土。
2　黒色土　白色粒微量含む。As-Kkが上層に混入する。締まり弱い。
3　黒褐色土　褐色土ブロック、小粒のAs-YPkを含む。粘性強い。
4　黒色土　大粒のAs-YPkを多く含む。粘性強い。
5　黒褐色土　As-YPkを少量含む。粘性強い。漸移層上層。
6　暗褐色土　明るいロームブロックと褐色土ブロックの混土。粘性弱い。漸移層。
7　黄褐色ローム　As-YPkを少量含む。軟質。
8　黄褐色ローム　砂壌ブロックからなる。硬質。
9　黄褐色ローム　砂壌ブロックを筋状に堆積する。硬質。
10　黄褐色ローム　大粒のAs-YPkを少量含む。
11　As-YPk層

基本土層３

1　褐灰色土　耕作土。表土。
2　黒色土　白色粒微量含む。As-Kkが上層に混入する。締まり弱い。

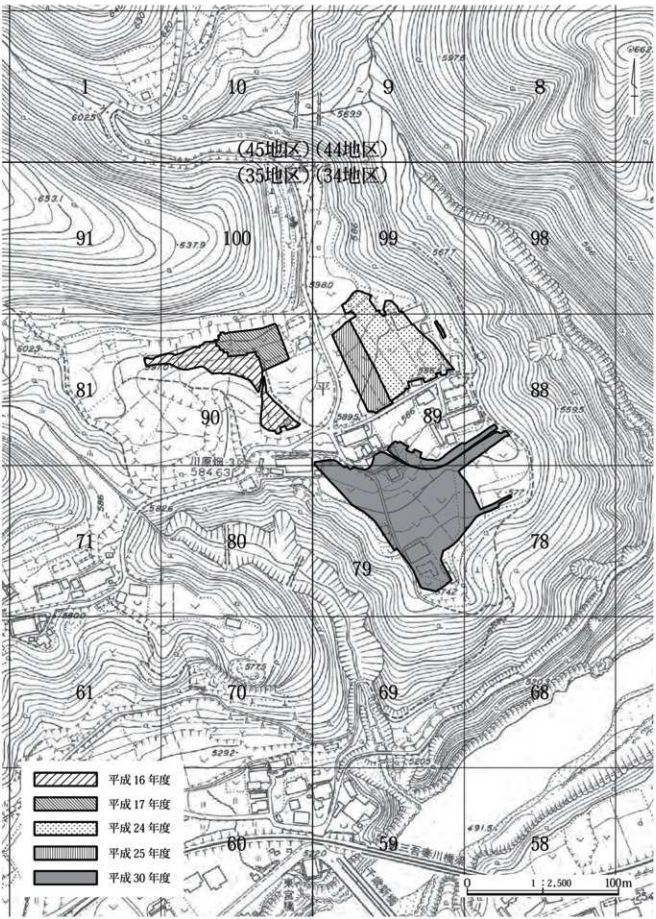
3　黒褐色土　褐色土ブロック、小粒のAs-YPkを含む。粘性強い。
4　黒色土　大粒のAs-YPkを多く含む。粘性強い。
11　As-YPk層
＊基本土層2の5～6層に相当する層位の堆積は基本土層3周辺ではうすい。

平成30年度調査

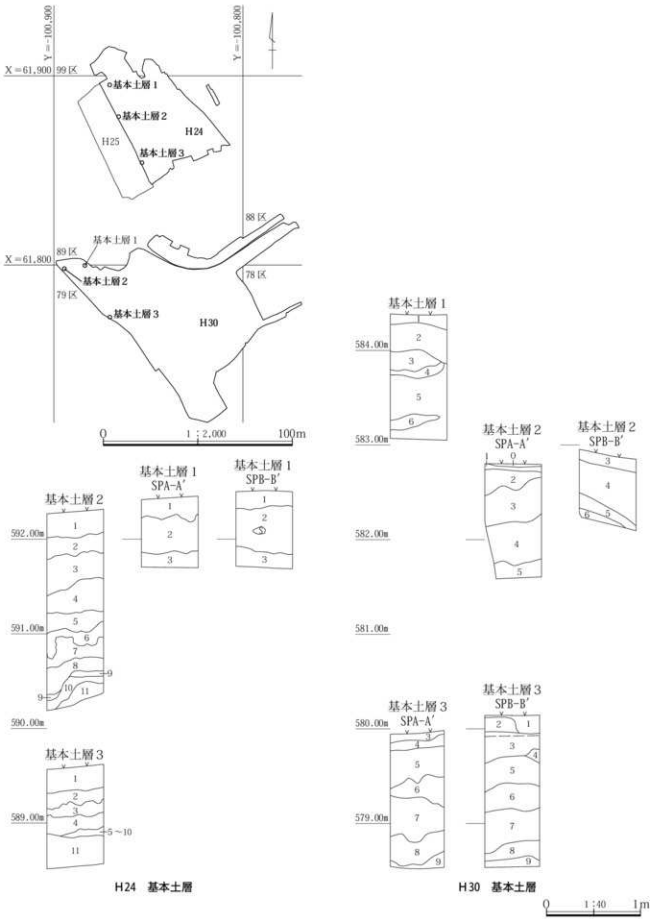
基本土層1
1　暗褐色土　小礫少量含む。やや砂質。締まりなし。
2　にぶい黄橙色軽石　As-YPkとみられる軽石層にわずかに黒色土が入る部分。攪乱。
3　黄褐色軽石　As-YPkとみられる軽石層。
4　灰色火山灰　火山灰層　数層を成す　灰色・灰褐色・明褐色等の層。
5　黄褐色土　ローム　灰白色・浅黄色の軽石がやや多く、小礫僅か含む。締まりあり。粘性あり。
6　黄褐色土　「白糸」とみられる白色軽石を含む部分。

基本土層2（ＳＰＡ－Ａ´　ＳＰＢ－Ｂ´）
0　暗褐色土　小礫少量含む。締まりなし。やや砂質。
1　黒色土　ロームブロック少量含む。黒褐色土・褐色土が斑状に混入する。締まりあり。
2　黒褐色土　黄橙・明黄褐・白等の軽石をやや多く、炭化物・ローム粒少量、橙色粒子・黒色土ブロック・ロームブロック僅か含む。締まりあり。粘性あり。
3　黒褐色土　基本土層3の「6」に準ずる。灰白・黄・橙色粒子、黄褐・灰黄色軽石・ローム粒をやや多く含む。
4　黒色土　基本土層3の「7」に準ずる。ロームブロック、黄色軽石、褐色微細粒子僅かに含む。締まり弱い。粘性あり。黄・灰黄色軽石をやや多く含む。
5　褐色土　基本土層3の「8」に準ずる。褐色粒子、ロームブロックをやや多く、灰白・黄色軽石少量含む。締まりあり。粘性あり。漸移層。
6　黄褐色土　基本土層1の「11」に準ずる。「白糸」とみられる白色（黄色）軽石を含むローム。

基本土層3（ＳＰＡ－Ａ´　ＳＰＢ－Ｂ´）
1　暗褐色土　黄色粒子（軽石かローム粒か）少量含む。やや砂質。やや締まりあり。
2　黒褐色土　黄・灰白・褐色粒子多量、炭化物・ローム粒子少量含む。黒色土がブロック状に混入する。締まりあり。
3　褐灰色土　黒色土がブロック状に混入する。黄褐色軽石僅か含む。本層または下位層にAs-Kk（粕川テフラ）が混入する。やや砂質。締まり弱い。
4　黒褐色土　暗褐色のロームが斑状に混入する。黄褐色粒子（軽石）僅か含む。締まり弱い。
5　暗褐色土　黒色土に褐色ロームが多く混入する。黄色軽石少量含む。黒色土・黄褐色土・暗褐色土が斑状に混入する。
6　黒褐色土　黒色土に暗褐色土が斑状またはブロック状混入する。黄褐色・黄色粒子・ローム粒がややや多く含む。
7　黒色土　ロームブロック、黄色軽石、褐色微細粒子僅かに含む。締まり弱い。粘性ある。
8　褐色土　漸移層。ローム粒子・ロームロックをやや多く、灰白・黄色軽石少量含む。締まりあり。粘性あり。
9　明黄褐色土　ローム層。黄・灰白色軽石、褐色ブロック（軽石か）少量含む。締まりあり。


1
10
9
8
(45地区)(44地区)
(35地区)(34地区)
91
100
99
98
81
90
89
88
71
80
79
78
61
70
69
68
60
59
58
川原畑-3
584.63
平成16年度
平成17年度
平成24年度
平成25年度
平成30年度
0
1：2,500
100m

第１図　調査区設定図


Y＝-100,900
Y＝-100,800
X＝61,900
99区
基本土層１
基本土層２
H25
H24
基本土層３
88区
X＝61,800
89区
基本土層１
78区
基本土層２
79区
基本土層３
H30
0
1：2,000
100m
基本土層１
584.00m
583.00m
基本土層２
SPA-A′
基本土層２
SPB-B′
582.00m
581.00m
基本土層２
592.00m
基本土層１
SPA-A′
基本土層１
SPB-B′
591.00m
590.00m
基本土層３
589.00m
基本土層３
SPA-A′
基本土層３
SPB-B′
580.00m
579.00m
H24　基本土層
H30　基本土層
0
1：40
1m

第２図　土層堆積状況

第２章　遺跡の環境

第１節　地理的環境

三平Ⅰ遺跡の所在する長野原町は群馬県北西部、吾妻郡の南西隅に位置する。町域の北部を吾妻川が東流し、川を挟んで北西には草津白根山、南西には浅間山が位置する。また東部には、吾妻川より北側に高間山（1342m）や王城山（1123m）、南側に丸岩（1124m）や管峰（1474m）、浅間隠山（1757m）、鼻曲山などが南北に連なる。長野原町は、その地形の特徴から、高間及び白根の両山系と管峰に挟まれた吾妻川流域地帯の北部と浅間高原地帯の南部とに大別される。

吾妻川は、長野原境の鳥居峠（1362m）付近に水源を発して東流し、町域のほぼ中央では川幅をやや広くするものの、東端では第三紀層を刻んで吾妻渓谷を形成している。その支流は、両岸の山地から発する河川や渓流が多く、左岸には草津白根山麓から発する万座川や赤川、遅沢川、上信越国境の白砂山麓から発する白砂川などが南流する。また右岸には、浅間山麓から発する小宿川や、鼻曲山麓から発する熊川などが北流する。流長76.2㎞の吾妻川は、渋川市街地付近で全長322㎞の利根川に合流する。

長野原町は、地質構造上では那須火山帯と富士火山帯が接する付近にあるため、周囲の山地は火山活動により形成された火山性山地が多く、浅間山や白根山は現在も活動を続ける。高間山や王城山、管峰も約100 ～ 90万年前頃活動していた火山であるが、現在は浸食が進みほとんど原形を止めていない。管峰火山から流出した溶岩が断層によって独立したものが「丸岩」である。丸岩は南側を除いた三方が100mにも達する垂直の崖に囲まれ、吾妻川方面から望むと巨大な円柱状に見える特徴的な岩峰である。それは、長野原・横壁・林・川原湯・川原畑の八ッ場ダム関連の５地区どこからでも望むことができるランドマークとなっている。

吾妻川両岸には、吾妻川からの比高差を基準に、最上位・上位・中位・下位の４段階の河岸段丘が形成されている。現在の吾妻川からの平均的な比高は、最上位段丘で約80 ～ 90m、上位段丘で約60 ～ 65m、中位段丘で約30 ～ 50m、下位段丘で約10 ～ 15mを測る。

長野原町の地質形成に大きな影響を与えた火山が浅間山である。町域の南西部、長野原境に位置し、古い方から黒斑山・仏岩・前掛山・釜山の４つの火山体で構成される標高2568mの成層火山である。約2.1万年前の黒斑火山の噴火では、山体崩壊によって「応桑泥流」が発生した。この泥流堆積物は、当時の河床を数十mの厚さで埋めており、その後の浸食によって吾妻川両岸に最上位と上位の河岸段丘が形成されたといわれる。浅間山はその後も多くの火山噴出物を堆積させているが、特に町域では浅間草津黄色軽石（As-YPk：1.3 ～ 1.4万年前）の堆積が顕著である。また、浅間Ｂテフラ（As-B：天仁元（1108）年）や浅間粕川テフラ（As-Kk：大治３（1128）年）も平安時代の黒色土中に数㎝の厚さで確認できる。さらに天明３（1783）年の噴火により発生した泥流（天明泥流）は、下位段丘や中位段丘を平均約１mの厚さで覆っている。

三平Ⅰ遺跡は、標高約576 ～ 584mの吾妻川左岸最上位河岸段丘上の長野原町大字川原畑に所在し、高間山の南東麓に位置する。高間山頂から吾妻川左岸に露出する川原湯岩脈（国指定天然記念物）の方向へは、南に延びる細長い尾根が張り出しており、尾根の東、川原畑地区内を流れる戸倉沢・ミョウガ沢・境沢・松葉沢・八ッ場沢・穴山沢、その支流の鈴沢と温井沢等の渓流は、すべて高間山及びこの尾根に源を発している。従って、川原畑地区内の渓流は、源流付近では東流し、中・下流から吾妻川へ流れ込む付近にかけて、次第に南流する傾向がある。本遺跡は、西側の松葉沢、東側の穴山沢に区画された最上位河岸段丘上の平坦地に主として立地している。

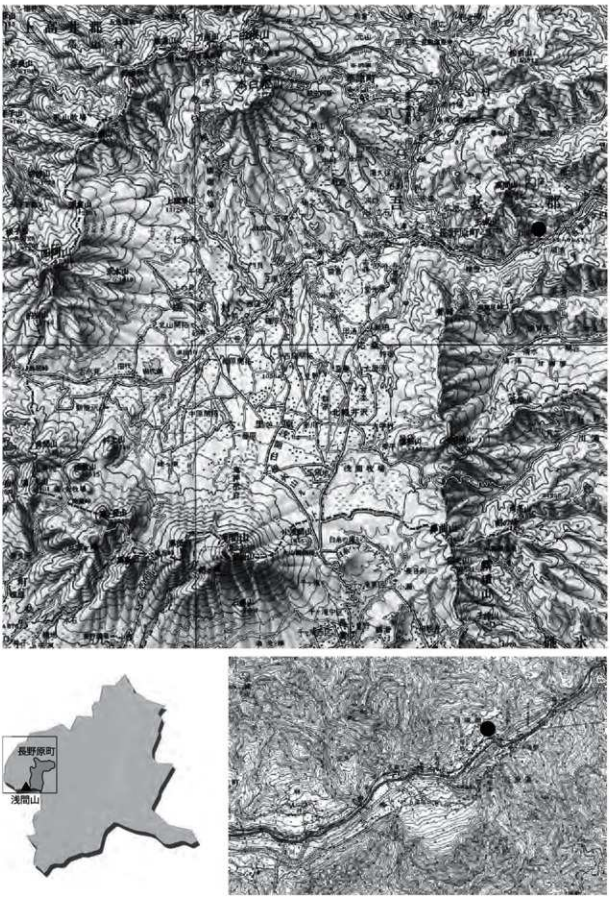
（第３図）

第２節　歴史的環境

１　周辺の遺跡

（１）旧石器時代

長野原町域においては、旧石器時代の遺跡は確認されていない。



第３図　遺跡位置図（国土地理院1/200000地勢図「長野」平成18年11月１日発行・1/50000地形図「草津」平成11年１月１日発行を使用）

（２）縄文時代

吾妻川及びその支流沿岸の段丘、特に中・上・最上位河岸段丘、丘陵部に遺跡が多く分布し、集落が展開する。早期の撚糸文土器や押型文土器などが榆木Ⅱ遺跡（第４図範囲外）・立馬Ⅱ遺跡（第４図19）等で出土している。前期の遺構数は少なく、上原Ⅰ遺跡（第４図25）で竪穴建物が確認されている。中期になると遺跡数・遺構数とも大幅に増加する。大きな集落遺跡として上ノ平Ⅰ遺跡（第４図５）・林中原Ⅱ遺跡（第４図27）・長野原一本松遺跡（第４図範囲外）・横壁中村遺跡（第４図範囲外）等がある。後期になると遺跡数・遺構数ともやや減少する。主な遺跡としては、中期から引き続き林中原Ⅱ遺跡（第４図27）・長野原一本松遺跡（第４図範囲外）・横壁中村遺跡（第４図範囲外）等がある。晩期になると遺跡数・遺構数はさらに減少する。川原湯勝沼遺跡（第４図36）からは氷Ⅱ式土器による再葬墓と考えられる土坑が確認されている。

（３）弥生時代

長野原町域においては、弥生時代の遺跡は少ない。尾坂遺跡（第４図範囲外）からは前期の再葬墓や土坑、立馬Ⅰ遺跡（第４図18）からは中期の竪穴建物と甕棺墓が確認されている。

（４）古墳時代

長野原町においては、古墳時代の遺跡は少なく、古墳は確認されていない。上原Ⅰ遺跡（第４図25）からは前期と推定される竪穴建物、下原遺跡（第４図範囲外）・上原Ⅳ遺跡（第４図範囲外）からは５～６世紀の竪穴建物が確認されている。

（５）奈良・平安時代

長野原町域においては、奈良時代の遺跡は確認されていない。平安時代の９世紀中頃になると大きな集落が造られるようになる。上ノ平Ⅰ遺跡（第４図５）からは、皇朝十二銭の「貞観永宝」や多くの灰釉陶器等が出土している。この他、横壁中村遺跡（第４図範囲外）・榆木Ⅱ遺跡（第４図範囲外）等から集落が確認されている。

（６）中世

長野原町における中世城館は、金花山砦跡（第４図30）・丸岩城跡（第４図範囲外）・長野原城跡（第４図範囲外）等がある。城館以外では、三平Ⅰ遺跡（第４図７）・三平Ⅱ遺跡（第４図８）・東原Ⅰ遺跡（第４図21）・東原Ⅱ遺跡（第４図22）・東原Ⅲ遺跡（第４図23）・榆木Ⅱ遺跡（第４図範囲外）から土坑・畑等が確認されている。

（７）近世

長野原町域においては、天明泥流で埋没した多くの遺跡が発掘調査されている。これらの遺跡は吾妻川流域の比較的標高の低い段丘に位置し、多くは畑が確認されている。集落は東宮遺跡のほか西宮遺跡（第４図３）・石川原遺跡（第４図31）・尾坂遺跡（第４図範囲外）・町遺跡（第４図範囲外）・下田遺跡（第４図範囲外）・横壁中村遺跡（第４図範囲外）等で確認されている。

（第１表、第４図）

２　川原畑村の概要・変遷

川原畑村（長野原町大字川原畑）は、群馬県北西部の高間山南東麓に位置し、その大部分は山林である。集落は吾妻川左岸の河岸段丘上（中位及び最上位河岸段丘）に存在し、中位段丘上の集落部を川原畑村下村、最上位段丘上の集落部を上村と一般に称する。

「河原畑村」の地名は、天正12（1584）年と推定される12月25日付の真田昌幸朱印状に見える（「渡文書」『群馬県史』資料編７（中世３）所収）。天正18（1590）年より真田氏（沼田藩）領となり、天和元（1681）年の真田氏改易後、幕府領となった。

明治時代に入ると、明治５（1872）年の大小区制期には第20大区第10小区に属し、明治11（1878）年の郡区町村制に移行すると、林村、横壁村、川原畑村、川原湯村が組み合わされて林村に戸長役場が置かれた。その後、明治17（1884）年には、戸長配置区域の改正があり、川原畑村外３か村戸長役場として、川原畑村に連合戸長役場が置かれることとなった。さらに、明治22（1889）年の市町村制の施行により、10か村が合併して長野原町になると、旧来の町村は大字となり、長野原町大字川原畑村と称したが、大正６（1917）年からは村の呼称がとれ、長野原町大字川原畑となった。

①東宮遺跡②三ツ堂岩陰③西宮遺跡④西宮岩陰⑤上ノ平Ⅰ遺跡⑥上ノ平Ⅱ遺跡⑦三平Ⅰ遺跡⑧三平Ⅱ遺跡⑨温井Ⅰ遺跡
⑩温井Ⅱ遺跡⑪二社平遺跡⑫二社平岩陰⑬石畑遺跡⑭石畑Ⅰ岩陰⑮石畑Ⅱ岩陰⑯久森沢Ⅰ岩陰群⑰久森沢Ⅱ岩陰群
⑱立馬Ⅰ遺跡⑲立馬Ⅱ遺跡⑳立馬Ⅲ遺跡㉑東原Ⅰ遺跡㉒東原Ⅱ遺跡㉓東原Ⅲ遺跡㉔花畑遺跡㉕上原Ⅰ遺跡㉖林の御塚
㉗林中原Ⅱ遺跡㉘下湯原遺跡㉙西ノ上遺跡㉚金花山砦跡㉛石川原遺跡㉜前原遺跡㉝川原湯中原Ⅰ遺跡㉞川原湯中原Ⅱ遺跡
㉟川原湯中原Ⅲ遺跡㊱川原湯勝沼遺跡

第４図　周辺遺跡図（国土地理院1/250000地形図「長野」平成21年４月１日発行を使用）

第１表　周辺遺跡一覧表

	遺跡名	遺跡番号	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世	種別・概要	文献
1	東宮遺跡	0208		○				○	○	散布地、集落、その他	1、10、17、
2	三ツ堂岩陰	0021							○	その他	
3	西宮遺跡	0007		○				○	○	散布地、その他	13
4	西宮岩陰	0013				不明				その他	13
5	上ノ平Ⅰ遺跡	0005		○	○		○	○		散布地、集落、その他	7
6	上ノ平Ⅱ遺跡	0006				不明				その他	
7	三平Ⅰ遺跡	0003		○	○		○	○		散布地、集落、その他	6、25、本報告書
8	三平Ⅱ遺跡	0004		○			○	○		散布地、集落、その他	6
9	温井Ⅰ遺跡	0001		○			○			散布地	
10	温井Ⅱ遺跡	0002		○						散布地	
11	一社平遺跡	0209		○			○		○	散布地	1
12	一社平岩陰	0011				不明				その他	
13	石畑遺跡	0210		○	○				○	散布地、生産遺跡	27
14	石畑Ⅰ岩陰	0009		○						墓、その他	27
15	石畑Ⅱ岩陰	0010				不明				その他	
16	久森沢Ⅰ岩陰群	0053				不明				その他	
17	久森沢Ⅱ岩陰	0054				不明				その他	
18	立馬Ⅰ遺跡	0037		○	○		○	○	○	散布地、集落、その他	4
19	立馬Ⅱ遺跡	0213		○	○				○	散布地、集落	5
20	立馬Ⅲ遺跡	0215		○	○					散布地	8
21	東原Ⅰ遺跡	0038		○	○		○	○	○	散布地、集落、その他	9、20、21
22	東原Ⅱ遺跡	0039		○			○	○	○	散布地、集落、その他	9
23	東原Ⅲ遺跡	0040		○	○		○	○	○	散布地、集落、その他	9、20、21
24	花畑遺跡	0205		○			○			散布地、集落、その他	1
25	上原Ⅰ遺跡	0041		○	○	○	○	○	○	散布地、集落	11、21、24、26
26	林の御塚	0059							○		28
27	林中原Ⅱ遺跡	0046		○	○			○	○	散布地、集落	12、18～23
28	下湯原遺跡	0217						○	○	その他	16
29	西ノ上遺跡	0212							○	生産遺跡	2
30	金花山牧跡	0207						○		郡域	
31	石川原遺跡	0017		○					○	集落、その他	15
32	前原遺跡	0221							○	その他	
33	川原湯中原Ⅰ遺跡	0016		○						散布地	
34	川原湯中原Ⅱ遺跡	0018					○			散布地	
35	川原湯中原Ⅲ遺跡	0019		○			○			散布地	14
36	川原湯諏訪遺跡	0206		○			○		○	散布地、その他	1、3

文献

1 （財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2002『八ッ場ダム発掘調査集成（1）』
2 （財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2004『久々戸遺跡（2）・中棚Ⅱ遺跡（2）・西ノ上遺跡・上郷Ａ遺跡』
3 （財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2005『川原湯勝沼遺跡（2）』
4 （財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2006『立馬Ⅰ遺跡』
5 （財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2006『立馬Ⅱ遺跡』
6 （財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2007『三平Ⅰ・Ⅱ遺跡』
7 （財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『上ノ平Ⅰ遺跡（1）』、（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2017『上ノ平Ⅰ遺跡（2）』、2018『上ノ平Ⅰ遺跡（3）』
8 （財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2009『立馬Ⅲ遺跡』
9 （財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2010『東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡』
10 （財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2011『東宮遺跡（1）』、2012『東宮遺跡（2）』、（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2017『東宮遺跡（3）』、2018『東宮遺跡（4）』
11 （公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『上原Ⅰ遺跡・上原Ⅲ遺跡・林宮原遺跡』
12 （公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2016『林中原Ⅱ遺跡（1）』、2018『林中原Ⅱ遺跡（2）』、2018『林中原Ⅱ遺跡（3）』
13 （公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2018『西宮遺跡（1）・西宮岩陰』
14 （公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2018『川原湯中原Ⅲ遺跡』
15 （公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2018『石川原遺跡（1）』
16 （公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団2018『下湯原遺跡（1）』
17 長野原町教育委員会2002『町内遺跡Ⅰ』
18 長野原町教育委員会2004『町内遺跡Ⅳ』
19 長野原町教育委員会2005『町内遺跡Ⅴ』
20 長野原町教育委員会2006『町内遺跡Ⅵ』
21 長野原町教育委員会2007『町内遺跡Ⅶ』
22 長野原町教育委員会2009『町内遺跡Ⅷ』
23 長野原町教育委員会2011『町内遺跡Ⅹ』
24 長野原町教育委員会2013『町内遺跡ⅩⅡ』
25 長野原町教育委員会2013『三平Ⅰ遺跡』
26 長野原町教育委員会2015『林地区遺跡群』
27 長野原町教育委員会・高崎鉄道管理局1979『石畑遺跡概報』、1996『石畑遺跡略報』
28 吾妻教育会1929『群馬県吾妻郡誌』

３　川原畑村と交通

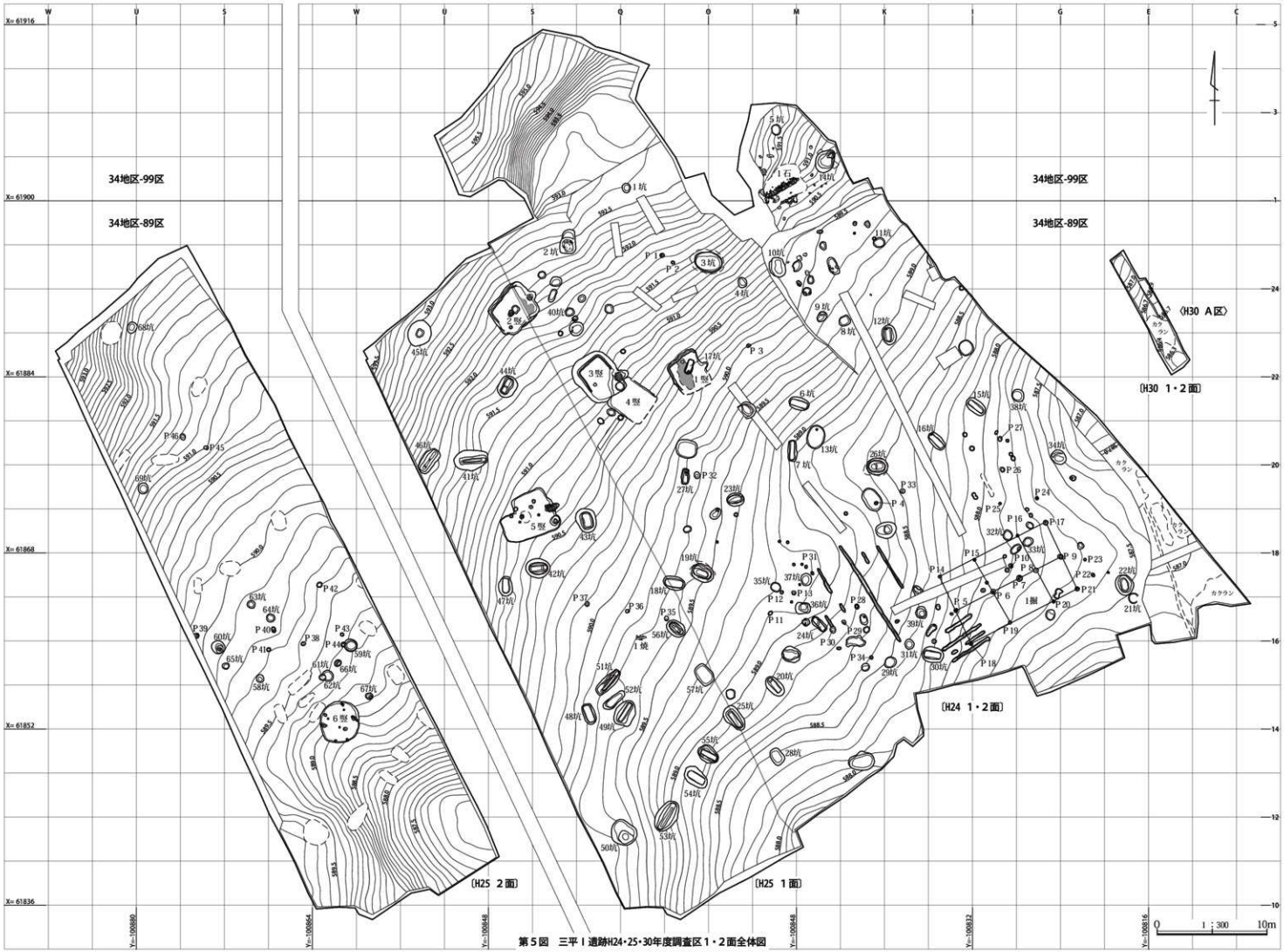
鎌倉時代の建久４（1193）年、源頼朝の三原野狩の往路は、碓氷峠を越え、軽井沢、中軽井沢を経て六里ヶ原を通り、帰路は、狩宿村から万騎峠を越え、関屋（本宿村）に向かったと伝承されている。

また、戦国時代になり、永禄６（1563）年、長野原合戦の際の、岩櫃軍の長野原城への侵攻路をみても、天険を越え大城山（王城山）へ駆け上った道や暮坂峠を越え湯窪（湯久保）へ、または火打花を経て長野原へと入る道があったとされている。

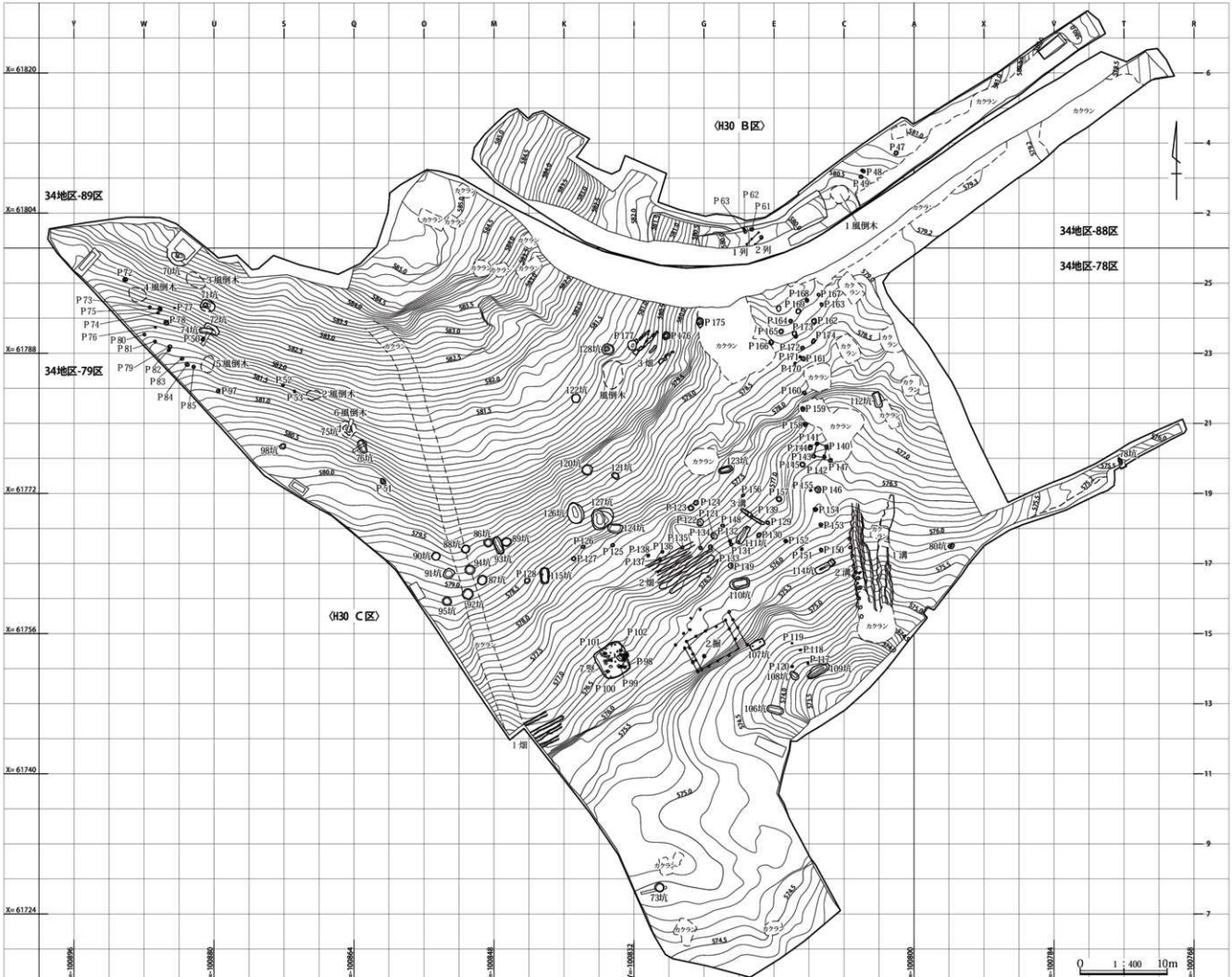
さらに、この時代からは、草津温泉への浴客の往来も始まり、江戸時代初期には川原湯温泉に浴するものも数多くなったことから、長野原町を通過する中山道裏街道は、相当の交通量があったものと想像できる。

川原畑村の旧道は、天保14（1843）年の絵図によれば、川原畑上村・下村を分ける段丘崖の中腹から麓に当たる部分を東西に走行し、東は旧三ッ堂（三ッ堂岩陰）の石段下を通って吾妻渓谷（道陸神峠）へ、西は旧諏訪神社の石段下を通って久森峠へと抜けている。当時の川原畑村の集落はこの旧道に沿って東西に細長く形成され、その南側になだらかに広がる日当たりの良い河岸段丘平坦面は畑を中心とした耕作地として利用されていたことが推測できる。

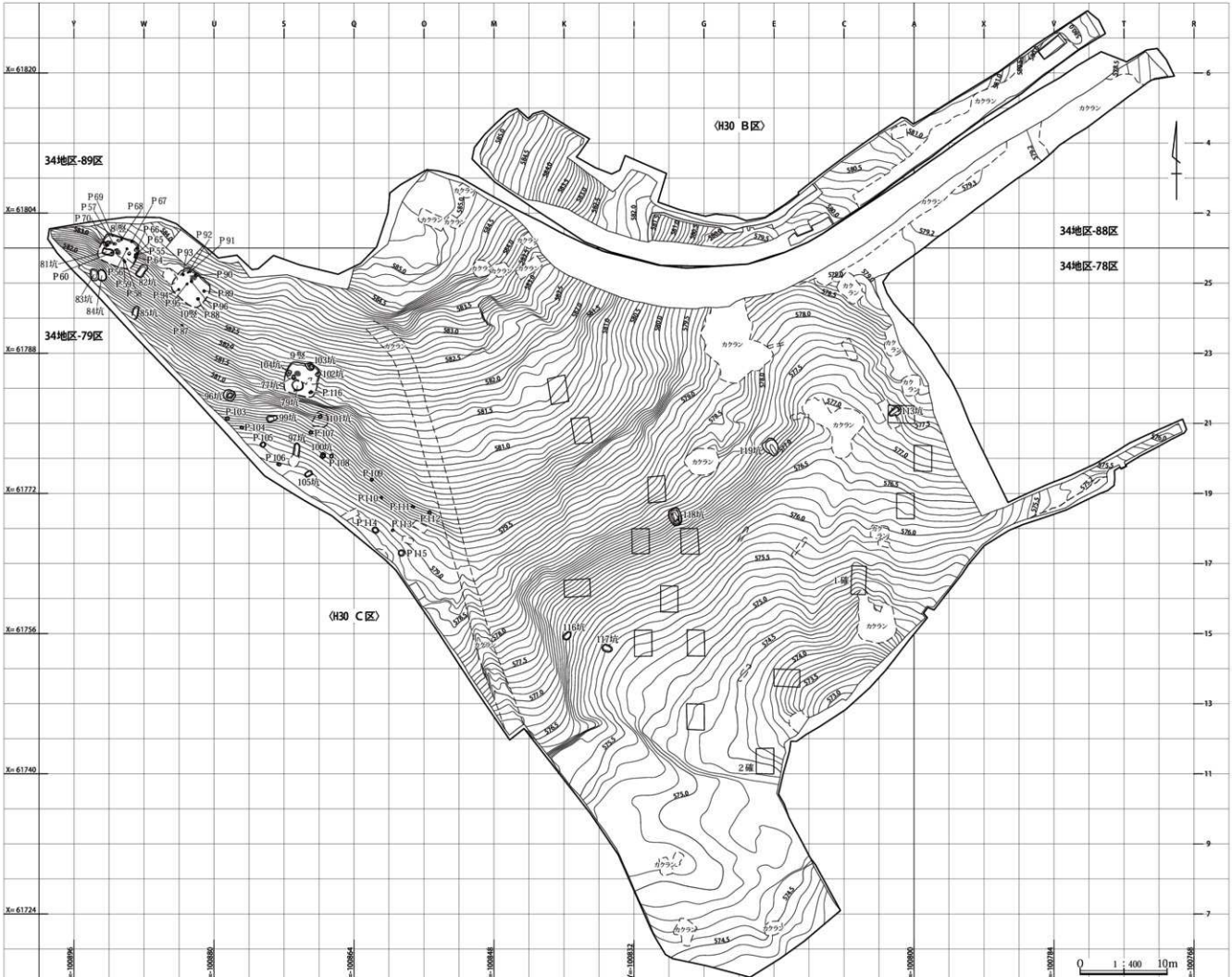
参考文献（第１表文献以外）
群馬県文化事業振興会1985「上野国郡村誌」11
群馬県史編さん委員会1986「群馬県史」資料編７（中世３）
篠原正洋2008「天明泥流に呑まれた屋敷の謎」『埋文群馬』No.47（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
上毛民俗学会1987「長野原町の民俗」
関俊明2006「天明泥流はどう流下したか」『ぐんま史料研究』第24号
群馬県立文書館
長野原町誌編纂委員会1976「長野原町誌」上
萩原進1963「富豪加部安盛衰記」『あがつま史帖』西毛新聞社
萩原進1986「浅間山天明噴火史料集成」Ⅱ　群馬県文化事業振興会
山崎一1972「群馬県古城塁址の研究」下　群馬県文化事業振興会
山崎一・山口武夫1972「吾妻郡誌県史」西毛新聞社
マッピングぐんま
http://mapping-gunma.pref-gunma.jp/pref-gunma/top



第５図　三平Ⅰ遺跡H24・25・30年度調査区１・２面全体図



第６図　三平Ⅰ遺跡H30年度調査区１面全体図



第７図　三平Ⅰ遺跡H30年度調査区２面全体図

第３章　調査の内容

第１節　調査の概要

三平Ⅰ遺跡の平成24・25年度調査では、縄文時代の竪穴建物１棟、平安時代の竪穴建物５棟、土坑59基、そのうち縄文時代の土坑15基、平安時代の土坑31基、中世以降の土坑13基、ピット46基、そのうち縄文時代のピット９基、中世以後のピット37基、中世以後の掘立柱建物１棟、焼土遺構１基、石垣１基を検出した。出土遺物は、縄文土器144点、石器38点、弥生土器１点、平安時代の土器41点、そのうち須恵器19点、土師器22点、鉄製品７点、鞴の羽口１点、鉄滓12点、金床石１点、砥石１点、中近世内耳１点、陶磁器２点、銭貨１点を掲載した。縄文・弥生土器は主にグリッドからの出土が多く、石器については竪穴建物及びグリッドから、平安時代の土器類、鉄滓及び鉄製品については竪穴建物からの出土が多かった。

三平Ⅰ遺跡の平成30年度調査では、縄文時代の竪穴建物３棟、土坑34基、ピット14基、平安時代の竪穴建物１棟、土坑18基、中世以降の掘立柱建物１棟、土坑６基、ピット85基、柱穴列２基、溝３条、畑３条を検出した。出土遺物は、縄文土器140点、石器24点、弥生土器３点、須恵器１点を掲載した。平成30年度調査においても、縄文・弥生土器は主にグリッドから、石器については竪穴建物及びグリッドから、平安時代の土器類については竪穴建物からの出土が多かった。

第２節　縄文時代の遺構と遺物

本節で報告するのは、縄文時代に帰属すると判断される遺構と遺物である。平成24・25年度調査においては、竪穴建物１棟、土坑15基、ピット９基及び同時代の出土遺物について記載する。竪穴建物が調査区南西部の緩斜面にあって、土坑やピットもこの周辺に多く認められた。遺物は早期押型文土器から後期までの土器が出土しているほか、石鏃、石匙、石斧などがあるが、量は多くなく、遺構に伴う遺物はごく少ない。平成30年度においては、黒色土が堆積している下層に縄文時代相当層があり、黒色土下層を確認面とした遺構と遺物であり、本調査区の２面として調査を行った。吾妻川に向かって張り出す舌状台地の先端部に位置している。全体的に遺構は密集しておらず、削平も進んでいるため、検出された遺構の残存状態は良好ではなかった。竪穴建物３棟、土坑34基、ピット14基が検出された。遺構面の大半は、黒褐色土で埋没しており、軽石やロームブロック、地山の崩壊などが散見できる。出土遺物は縄文時代のものであり、時期の想定に矛盾はない。

第１項　竪穴建物

概要　平成24・25年度調査区では、竪穴建物を１棟確認した。調査区西部の南東方向へ傾斜する緩斜面に位置している。平成30年度調査区では、竪穴建物を３棟確認した。舌状台地の西面の傾斜地に立地している。確認された竪穴建物は、舌状台地の縁辺部にあると考えられる。双方の調査で検出された竪穴建物は、平成24・25調査区の西に位置し、平成30年度調査区の北西に位する『三平Ⅰ・Ⅱ遺跡』(2007、群理文401集）で報告した縄文時代の遺構と関連する可能性が推察できる。

６号竪穴建物（第８～13図　PL. ５～６・44）

位置　調査区の南西部、89区0・P-13・14グリッドに位置する。北西から南東に傾斜する傾斜面だが、南西から北東方向に狭い帯状に延びる緩傾斜面にあたる。南東は谷頭状に落ち込む。

重複　なし。

平面形状　ほぼ円形であるが、僅かに南北方向が長い。南側が傾斜に沿って削平されている。

主軸方位　N-７°-W。

規模　南北方向が僅かに長く、南辺がやや緩やかであるが、ほぼ円形の平面形を呈する。南北4.00m、東西3.90m。北西から南東への傾斜地に立地するため、南東側の壁は３～４cmほどしかないが、北西部での最大壁高は49cmある。明確な炉が確認されなかったが、柱穴等の配列、地形等から、ほぼ南北に主軸を持つと考えられる。

面積　10.94㎡

埋没土層　粘性ややあり、軟質の黒褐色土を主体とし、下部にはローム小ブロック、ローム粒多く含む黄褐色土

で埋まる。礫等の混入見られず。

床面　傾斜に従って、床面も北西から南東へ僅かに傾斜する。全体として地山ロームを深くは掘り込んでおらず、掘削底面を床としたようである。硬化面は認められなかった。

炉　ほぼ中央に僅かに炭化物が検出されており、炉の可能性があるが、確定には至らなかった。

埋甕　確認されなかった。

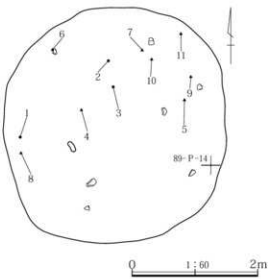
柱穴　８基が確認された。南にやや近接して２本、そのほか壁に沿って４本を確認した。南２本の間がやや狭く、入り口部と推定される。計測値は第２表の通りである。

周溝　検出されず。

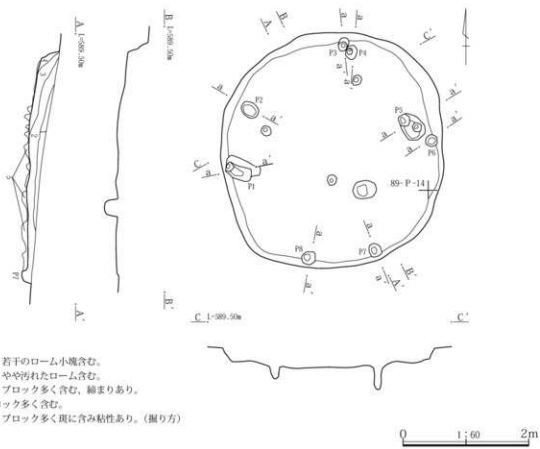
掘り方　掘り方底面には全面に小さな凹凸が多数認められる。また、北西部に北東-南西方向にやや長い、1.1m×1.05mの隅丸方形の平面形を呈する浅い掘り込みがある。

遺物　散在的に土器、石器が出土している。取り上げ記録のある遺物が63点あるが、整理段階ではこのうち55点の石器類を確認した。石錐１点、石匙１点、石鏃４点、石鏃未製品２点のほか、剥片、砕片が46点取り上げられている。P7からは砕片１点が出土している。

所見　炉は明確には確認できなかったが、形状、出土遺物などから竪穴建物と認定した。当該遺構の時期は僅かながら出土した土器片から、前期初頭ないしは前半と考えられる。

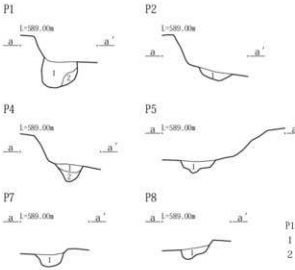


第８図　６号竪穴建物遺物分布図



1　黒褐色土　ローム粒、若干のローム小塊含む。
2　黒褐色土　ローム粒、やや汚れたローム含む。
3　暗褐色土　ローム粒、ブロック多く含む、締まりあり。
4　黄褐色土　ロームブロック多く含む。
5　黒褐色土　ローム粒、ブロック多く斑に含み粘性あり。（掘り方）

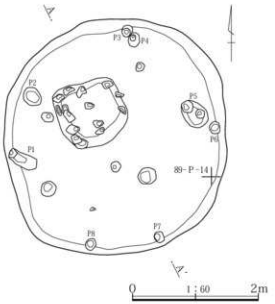
第９図　６号竪穴建物



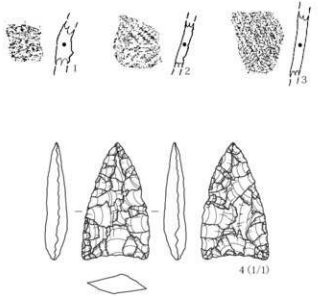
第２表　６号竪穴建物ピット計測表

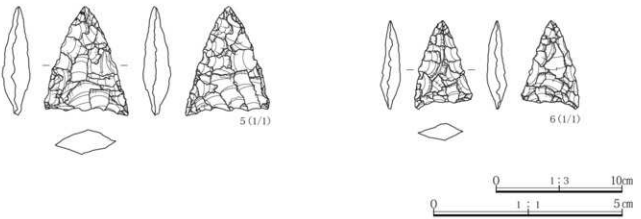
６号竪穴建物ピットNo.	最大長×短×深さ cm
1	48×21×20
2	33×26× 6
3	20×16×18
4	22×18×14
5	48×35×10
6	19×16×12
7	18×15×10
8	20×16× 8

第10図　６号竪穴建物ピット土層断面図

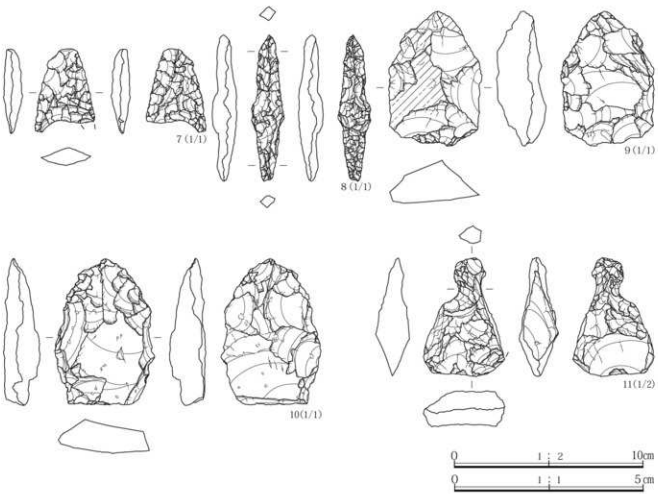


第11図　６号竪穴建物掘り方





第12図　６号竪穴建物出土遺物１



第13図　６号竪穴建物出土遺物２

８号竪穴建物（第14～19図　PL. 7・8・44・45）

位置　79区調査区西側の南斜面上位の、傾斜変換点部分、79区Ⅶ・X-25、89区Ⅶ・X- 1 グリッドに位置する。

重複　建物の南西部に12号土坑が重複、本址を切る。

平面形状　隅丸長方形を呈すと思われる、南側は斜面部に掛かり削平されている。

主軸方位　N-74° -E。

規模　長軸4.30m、短軸（3.80）m、深さ0.52m。

面積　（13.37）㎡。

埋没土層　粘性ややあり、黒褐色土を主体とし、下部にはローム小ブロック、大粒のAs-YPk粒が多く点在、締まりの良い土を主体とし、中央中層以下には焼土及び炭化物の混入が見られる。

床面　掘り込んだローム面に黒色土を張って床面としている、厚さはなくローム粒を多く含む黒褐色土主体で比較的締まり良い。炉の周囲には焼土が広がる。

炉　ほぼ中央に長さ0.82m、幅0.56mの範囲に集中する焼土範囲を確認、炉と考えられる。数cmの硬化した焼土層を中心に炭化物、土器片が検出されている。

埋甕　確認されなかった。

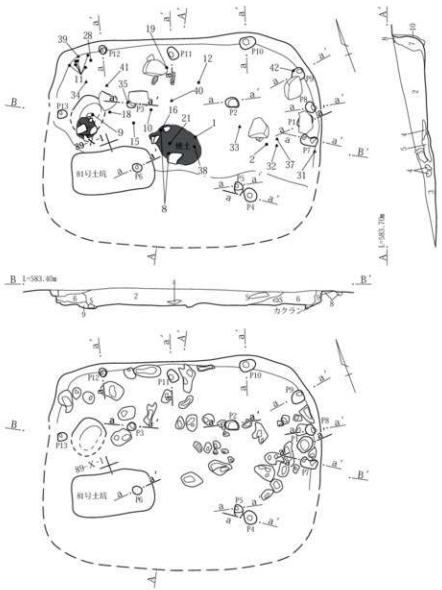
柱穴　壁際及び竪穴建物内に13基を確認した。竪穴建物内の４本が主柱穴と考えられる。規模は第３表の通り。

周溝　検出されず。

掘り方　ローム粒混じりの黒褐色土を除去後、ピット状の凹凸が多く検出された。径は10から30cmで規則的な配置は認められなかったが、中央部に集中する傾向が伺える。掘り方からの出土遺物はほとんど見られない。

遺物　複数の土器が炉を中心に出土しているが覆土中からのものが多い。炉の周囲に比較的大型品が検出されている。石器は石鏃が複数と、磨石類が出土した。

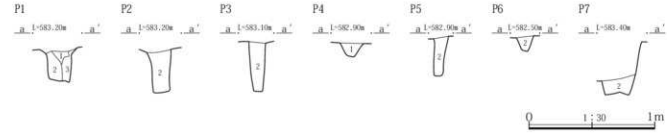
所見　谷の傾斜変換地点に在り、長軸を等高線と並行に取るため、南側を削られている。床面の比較的残りが良かった北半分に遺物も多く出土している。出土土器から時期は前期初頭と判断される。



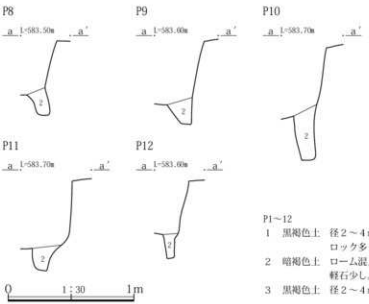
1　黒色土　土色がやや黒っぽく、大径の浅黄橙軽石を少量含む。
2　黒色土　大径のAs-YPk多量、中径のローム粒・ブロック中量、中径の微細上器片中量、炭化物僅かに含む。ローム粒が斑状に混入する。締まっている。
3　黒褐色土　２に似るが混入物がすくなく炭化物はやや多い。締まりあり。
4　黒褐色土　２に似るが大粒の軽石は少ない　焼土・焼土粉を含む。混入物は少ない
5　にぶい黄褐色土　焼土が大量に入る。大径の黄・褐色軽石を中量含む。極小の白・黄・褐色粒子少量含む。黒色土がブロック状に入る。締まっている。
6　黒色土　大径軽石少量含む。褐色粒子は２より小径で量は少なく炭化物、微細上器片少量含む。
7　黒褐色土　４に似るがやや明るい色調、下層は６と判別しにくい。
8　黒褐色土　７より明るい色調で炭化物、焼土粒含む、締まりあり。
9　黒褐色土　中径の浅黄橙色軽石、極小の黄・褐色粒子少量、小径の黄粒子僅かに含む。斑状ロームブロック少量含み締まりあり。
10　にぶい黄褐色土　黒色土に多量の黄褐色ロームが混入する。灰白・黄・浅黄橙・褐色粒子僅かに含み締まりあり。

0　1:60　2m

第14図　８号竪穴建物



第15図　８号竪穴建物ピット土層断面図１

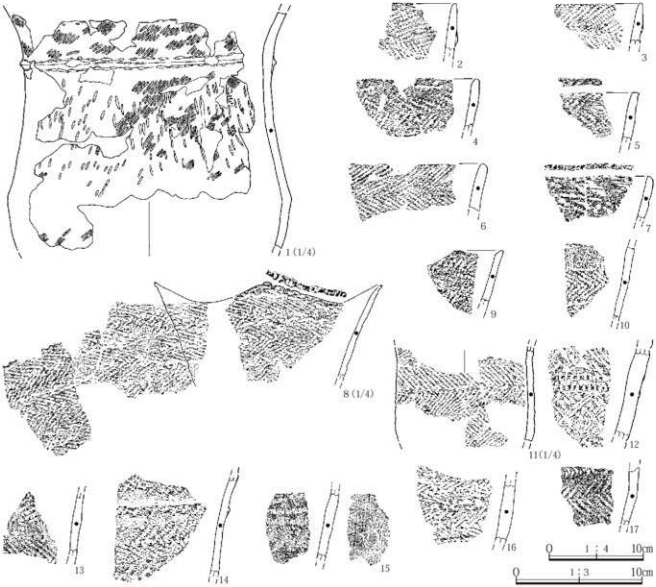


第３表　８号竪穴建物ピット計測表

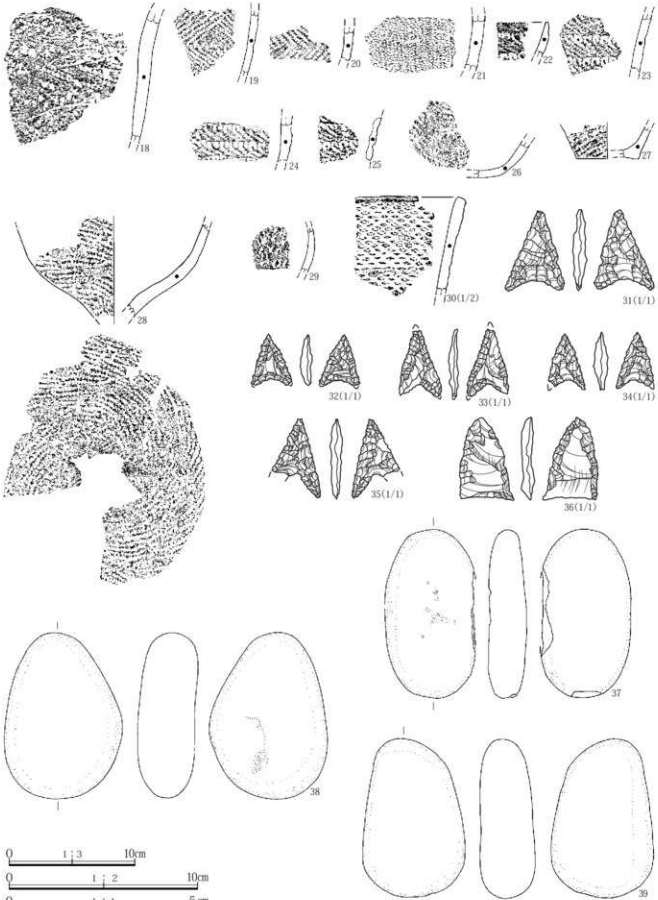
８号竪穴建物ピットNo.	平面図ピットNo.	最大長×短×深さ cm
1	55	26×21×24
2	56	22×15×32
3	57	14×13×38
4	58	23×19×10
5	59	20×14×21
6	60	15×13×12
7	64	27×13×14
8	65	18×14×22
9	66	20×19×20
10	67	26×18×42
11	68	21×15×18
12	69	14×12×20
13	70	(15)×(13)×７

P1～12
1　黒褐色土　径２～４㎜の黄褐・浅黄橙色軽石多く入る。径４～７㎜のロームブロック多く入る。締まりなし。
2　暗褐色土　ローム混入多い。黒色土がブロック状・斑状に入る。径２～４㎜の軽石少し。やや締まっている。
3　黒褐色土　径２～４㎜ほどの白・黄色軽石目立つ（やや多い）。締まり弱い。

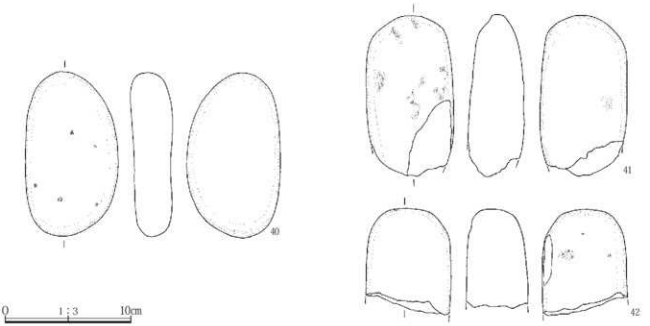
第16図　８号竪穴建物ピット土層断面図２



第17図　８号竪穴建物出土遺物１



第18図　８号竪穴建物出土遺物２



第19図　８号竪穴建物出土遺物３

９号竪穴建物（第20～23図　PL. ９・45）

位置　79区R-22グリッドに位置する。

重複　壁に沿うように右回りに102・103・104号土坑が、竪穴建物内には77号土坑、さらに南側には79号土坑が重複する。いずれの土坑も本建物より古いと考えられるが、102号土坑については新しい可能性がある。

平面形状　東西に長辺をとる隅丸長方形であろう、南側は斜面に掛かっており削平されている。

主軸方位　N-82°-W。

規模　長軸3.90m、短軸（3.60）m、深さ0.30m。

面積　（13.28）㎡。

埋没土層　暗褐色土主体で黄色ローム粒を多く混入、一部に焼土粒を含む層が見られた。

床面　大粒の黄色軽石を多く含んだ暗褐色土でほぼ平坦に作られていた。比較的締まりがあるが南側は削平を受けている。

炉　中央やや西寄りに焼土及び若干の炭化物が集中して確認されている、床面に浅い落ち込みも見られ、炉と考えられる、炉石などは見られない。

埋甕　確認されなかった。

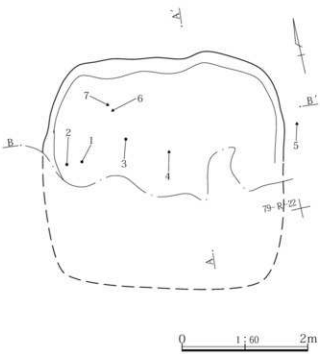
柱穴　明確なものは検出されなかった。建物南側斜面部に２基が確認されている。本建物に伴うかは確認できない。規模は第４表の通り。

周溝　検出されなかった。

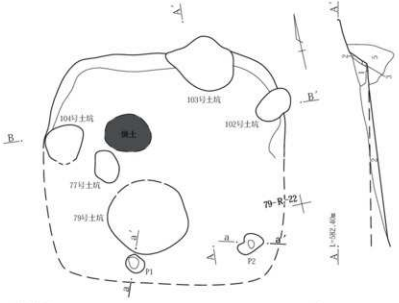
掘り方　中央部に不定形な落ち込みが確認されたが、規則的な傾向は見られない。

遺物　10点ほどの土器片と、石器、その他石片など20点程が出土している。

所見　出土土器は表裏縄文、撚糸文土器片が僅かに出土している、時期は早期と思われる。

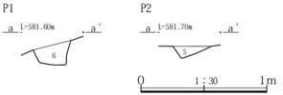


第20図　９号竪穴建物遺物分布図



1　暗オリーブ褐色土　炭化物、中径の白・黄・浅黄橙軽石中量含む。締まりあり。微細土器片僅かに含む。
2　オリーブ褐色土　炭化物、土器片（早期）・石片（チャート：石器を含む）少量、中径の白・浅黄橙・褐色軽石中量含む。締まりあり。
3　オリーブ褐色土　２と同質だが、黄色軽石多く含む部分。
4　にぶい黄褐色土　２を基調とし、焼土粒含む赤色土（粉状）含む。
5　褐色土　中・大径の黄色・褐色軽石、ロームブロック多量に含み、炭化物若干混入、締まりあり。
6　黒褐色土　浅黄橙・黄・橙色軽石やや多く含む。ロームが斑状に混入する。

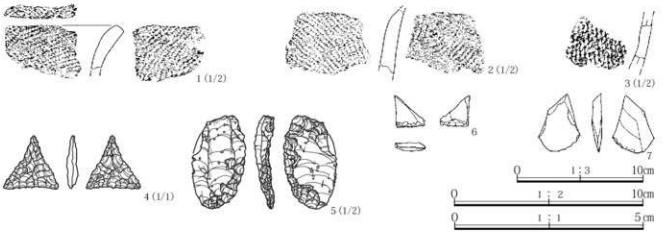
第21図　９号竪穴建物



第22図　９号竪穴建物ピット土層断面図

第４表　９号竪穴建物ピット計測表

９号竪穴建物ピットNo.	平面図ピットNo.	最大長×短×深さ cm
1	53	30×28×18
2	116	44×26×10



第23図　９号竪穴建物出土遺物

10号竪穴建物（第24～26図　PL. 10・45）

位置　79区調査区西側の南斜面上位の、傾斜変換点部分、79区U-24・25グリッドに位置する。

重複　西側に近世の撹乱が重複する。

平面形状　隅丸長方形を呈すと思われる、北側から東壁部分は立ち上がりが確認できるが、南側部分については壁の立ち上がりは確認できなかった。床面についても同様で、削平部分が多かった。

主軸方位　N-50°-W。

規模　長軸4.25m、短軸（3.40）m、深さ0.20m。

面積　（13.51）㎡。

埋没土層　上層に撹乱層が見られ、本来の埋没土層は僅かである。ローム粒多く含む黒褐色土でやや軟質である。

床面　床面として確認されたのは北側コーナー部分のみ

である。凹凸が見られ、比較的締まった部分は少なかった。炭化物と焼土粒が部分的に広がり、80cmほどの不定形に広がる焼土範囲も確認された。

炉　東壁寄りに焼土の広がりを確認したが、明確な炉とは判断できなかった。

埋甕　確認されなかった。

柱穴　９基が確認された。壁下に沿って掘り込まれたものと、竪穴建物内の対角線上にほぼ並ぶものである。壁に沿って廻るピットは削平された部分にも廻っていた可能性がある。規模は第５表の通り。

周溝　確認されなかった。

掘り方　明確な掘り方は確認されなかった。

遺物　遺物は北側隅と東壁下２か所に集中、土器片、石器片が僅かに出土している。

所見　掘り込み面がローム軽石層中にあり、壁もかなり崩れた状態で、床面も本来の張り床と思われる面は殆ど失われている。時期は出土遺物から前期初頭とみられる。

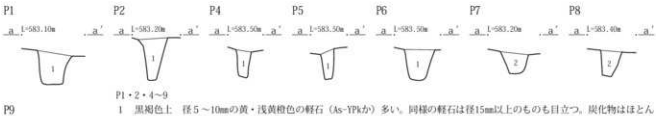
1　黒褐色土　大径の黄・浅黄橙色の軽石（As-YPkか）多量、炭化物僅かに含む。黄褐色土（ローム）僅かに斑状に入る。大径のロームブロック少量含む。締まりあり。

2　暗褐色土　中径の白・浅黄橙色軽石少量、大径の軽石僅かに含む。黄褐色土（ローム）斑状に混入する。締まりあり。

3　暗褐色土　大径の黄・浅黄橙色の軽石と黒色土の混土、炭化物僅かに含む。黄褐色土（ローム）斑状に入る、締まりあり。

0　1:60　2m

第24図　10号竪穴建物



P1・2・4～9

1　黒褐色土　径５～10mmの黄・浅黄橙色の軽石（As-YPkか）多い。同様の軽石は径15mm以上のものも目立つ。炭化物はほとんどない。黄褐色土（ローム）僅かに斑状に入る。径４～10mmのロームブロック少し、締まりややあり。

2　暗褐色土　径１～４mmの白・浅黄橙色軽石少し入る。やや大粒（径５～７mm）の軽石も僅かに見られる。黄褐色土（ローム）斑状に入る。締まりあり。

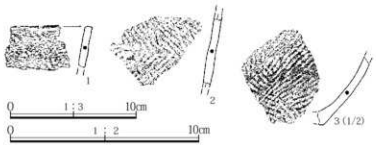
3　黒褐色土　ロームが多く混入（斑状にまとまったところや暗褐色土に見える部分も）。径２～４mmの白・浅黄橙色軽石少し入る。１cmほどのやや大粒な軽石も僅かに見られる。

0　1:30　1m

第25図　10号竪穴建物ピット土層断面図

第５表　10号竪穴建物ピット計測表

10号竪穴建物ピットNo.	平面図ピットNo.	最大長×短×深さ cm
1	88	28×26×26
2	89	27×26×32
3	90	36×23×24
4	91	16×13×21
5	92	15×11×22
6	93	25×22×24
7	94	23×19×16
8	95	22×18×20
9	96	28×24×38



第26図　10号竪穴建物出土遺物

第２項　土坑

概要　平成24・25年度調査では、第１面で調査された土坑のうち、形状や埋没土の堆積状況から縄文時代の所産と判断した土坑３基、及び第２面調査時に確認され、縄文時代に帰属するものとした土坑12基について記載する。土坑の平面形は偏円を呈するもので、1号、59号、68号土坑は貯蔵穴的な用途が想定されるが、他は用途、機能を判断しがたい。調査区西南部の７号竪穴建物周辺の緩斜面に58 ～ 67号がまとまる。北西部の傾斜上位にあたる位置にも１、４、40、68、69号土坑が点在する。平成30年度調査１面から２面にかけて、形状や埋没土の堆積状況から縄文時代に比定されるもの34基の土坑について記載する。竪穴建物と同時期に帰属すると考える。土坑が検出された位置は、舌状台地の全体にわたっているが、特に尾根筋に多く位置している。平面形は、円形、楕円形、隅丸長方形を呈している。断面形は逆台形、すり鉢型、方形を呈している。底面は平坦である。土坑は、竪穴建物の造られた標高580m前後に位置するが、平面形、断面形、底部の形状、傾斜方向に直交するものと並行するものなど、複数の分類が可能である。また、分布の様相から計画的な配置があったことも推察される。

（詳細については第16表に記した。）

１号土坑（第27図　PL. 11）

位置　99区P- １グリッド　調査区北部、標高592.6mにある。**形状**　ロームをしっかりと掘り込む。平面形は不整な円形で、壁は外に広がる。**規模**　0.86×0.72m　**深さ**　0.48m　**主軸方位**　N- 8° -W　**覆土**　ロームブロックやローム粒を含む黒褐色土、暗褐色土である。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　埋没土の様相から縄文時代の土坑と推定される。

４号土坑（第27図　PL. 11）

位置　89区N-24グリッド　調査区北より、標高590.8mにある。**形状**　平面形はゆがんだ円形に近く、断面形は碗状を呈する。**規模**　0.94×0.79m　**深さ**　0.30m　**主軸方位**　N-25° -W　**覆土**　地山土のブロックやロームブロックを含む暗褐色土、黒褐色土である。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　１面調査時に確認されているが、締まりの良い埋没土の特徴から縄文時代の土坑と想定されている。

５号土坑（第27図　PL. 11）

位置　99区M- ２グリッド　調査区北部、標高591.6mにある。**形状**　平面形は南北にやや長い円形で、底面が緩やかに窪み、断面形はＵ字状を呈する。**規模**　0.96×0.83m　**深さ**　0.41m　**主軸方位**　N- 9° -W　**覆土**　大粒のAs-YPkを含む暗褐色土、黒褐色土である。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　１面調査時に確認されているが、締まりの良い埋没土の特徴から縄文時代のものと想定されている。

40号土坑（第27図　PL. 11）

位置　89区R-23グリッド　調査区北西部、標高591.7mにある。**形状**　平面形は不整円形で、断面形は浅い碗状を呈する。**規模**　0.85×0.72m　**深さ**　0.21m　**主軸方位**　N-50° -E　**覆土**　やや砂質の黒色土である。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑の掘削の目的は判断できなかった。埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

58号土坑（第27図　PL. 11）

位置　89区R-15グリッド　調査区南西部の589.6mの位置にある。**形状**　平面形は円形、断面形は上部の開いた碗状を呈する。**規模**　0.72×0.66m　**深さ**　0.34m　**主軸方位**　N- 3° -E　**覆土**　炭化物や大粒の軽石を含む暗褐色土である。**重複**　認められない。**遺物**　深鉢口縁部破片　**所見**　本土坑の掘削の目的は判断できなかった。埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

59号土坑（第27・33図　PL. 11・45）

位置　89区P-15・16グリッド　調査区南西部の標高589.3mの位置にある。南西に66、61、62号土坑が並ぶ。**形状**　平面形は円形、断面形は箱状を呈する。**規模**　1.18×1.14m　**深さ**　0.79m　**主軸方位**　N-37° -W　**覆土**　軽石粒を含む黒褐色土で、上位に軽石が目立つ。**重複**　44号ピットより古い。**遺物**　深鉢胴部破片が出土している。**所見**　本土坑の掘削の目的は判断できなかった。埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

61号土坑（第28・33図　PL. 12・45）
位置　89区P-15グリッド　調査区南西部の標高589.4mの位置にある。北東に66、59号土坑が並ぶ。**形状**　平面形は円形、断面形は上部に開いた浅い皿状を呈する。**規模**　0.59×0.57m　**深さ**　0.16m　**主軸方位**　N-1°-E　**覆土**　軽石粒、ローム粒を含む暗褐色土である。**重複**　62号土坑より新しい。**遺物**　深鉢口縁部の破片　**所見**　なし。

62号土坑（第28・33図　PL. 12・45）
位置　89区P-15グリッド　調査区南西部の標高589.4mの位置にある。61号土坑に切られる。北東に66、59号土坑が並ぶ。**形状**　平面形は円形、断面形は上部に開いた浅い箱型を呈する。**規模**　0.96×0.57m　**深さ**　0.19m　**主軸方位**　N-51°-W　**覆土**　軽石粒を含む暗褐色土で、61号覆土より黒味が強い。**重複**　61号土坑より古い。**遺物**　深鉢胴部細片、磨石。**所見**　なし。

63号土坑（第28図　PL. 12）
位置　89区R-16グリッド　調査区南西部の標高589.8mの位置にある。南東4mに64号土坑がある。**形状**　平面形は円形、底部中央がやや窪み、断面形は碗状を呈する。**規模**　0.73×0.71m　**深さ**　0.24m　**主軸方位**　N-34°-W　**覆土**　軽石粒を含む締まりの弱い暗褐色土である。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　なし。

64号土坑（第28図　PL. 12）
位置　89区Q・R-16グリッド　調査区南西部の標高589.8mの位置にある。北西4mに63号土坑がある。**形状**　平面形は円形、底部は中央がやや窪み、断面形は碗状を呈する。**規模**　0.75×0.74m　**深さ**　0.29m　**主軸方位**　N-20°-W　**覆土**　軽石粒、ローム斑を含む暗褐色土である。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　なし。

65号土坑（第28図　PL. 12）
位置　89区R・S-15グリッド　調査区南西部の標高589.8mの位置にある。**形状**　平面形は円形で、底面は中央がやや窪んで、断面形は碗状を呈する。**規模**　0.64×0.56m　**深さ**　0.19m　**主軸方位**　N-31°-W　**覆土**　軽石粒、ローム粒を含む暗褐色土である。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　なし。

66号土坑（第28・33図　PL. 12・45）
位置　89区P-15グリッド　調査区南西部の標高589.3mの位置にある。北東に59号、南西に61、62号土坑が並ぶ。**形状**　平面形は円形、南東側が深く掘られるため、断面形はゆがんだ台形を呈する。**規模**　0.64×0.56m　**深さ**　0.24m　**主軸方位**　N-47°-E　**覆土**　ロームブロック、粘土ブロックを含む暗褐色土である。**重複**　認められない。**遺物**　深鉢口縁部の破片。**所見**　なし。

67号土坑（第28図　PL. 12）
位置　89区O-14グリッド　調査区南西部の標高589.1mの位置にある。北西5mほどに66号土坑がある。**形状**　平面形はゆがんだ円形、断面形は中央がやや高まる碗状で、南東部に小ピットを伴う。**規模**　0.68×0.60m　**深さ**　0.14m　**主軸方位**　N-63°-W　**覆土**　ロームブロックと暗褐色土の締まりの弱い混土である。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　なし。

68号土坑（第28図　PL. 13）
位置　89区U-23グリッド　調査区北西部、標高592.5mの位置にある。**形状**　平面形は南北にやや長いゆがんだ円形、断面形はU字状を呈する。**規模**　1.04×0.83m　**深さ**　0.75m　**主軸方位**　N-22°-E　**覆土**　軽石粒を含む黒褐色土で、上位にローム斑が目立つ。**重複**　認められない。**遺物**　深鉢の胴部破片。**所見**　なし。

69号土坑（第29・33図　PL. 12・45）
位置　89区T-19グリッド　調査区北西部、標高591.1mの位置にある。**形状**　平面形は円形、断面形は碗状を呈する。**規模**　2.40×0.90m　**深さ**　0.47m　**主軸方位**　N-1°-W　**覆土**　軽石粒、炭化物粒を含む黒褐色土である。**重複**　認められない。**遺物**　深鉢の胴部破片。**所見**　なし。

76号土坑（第29・33図　PL. 13・45）
位置　79区P-20グリッド　**形状**　隅丸長方形である。断面形は逆台形である。平底である。**規模**　1.54×0.85m　**深さ**　0.23m　**主軸方位**　N-25°-W　**覆土**　黒褐色土

で埋没している。ロームブロックを含む。締まりはない。**重複**　認められない。**遺物**　深鉢の胴部片。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できない。1面調査時に確認されているが、埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

77号土坑（第29・33図　PL. 13・45）
位置　79区R-22グリッド　**形状**　長円形である。断面形は逆台形を呈する。平底である。**規模**　0.53×0.39m　**深さ**　0.13m　**主軸方位**　N-2°-W　**覆土**　黒褐色土で埋没している。ロームブロック、黄色粒子を含む。締まりはない。**重複**　9号竪穴建物と重複している。**遺物**　土器出土（3点）。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。時期比定の根拠に乏しいが、埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

79号土坑（第29・33図　PL. 13・45）
位置　79区R-22グリット　**形状**　円形である。断面形はレンズ状を呈する。**規模**　1.30×(1.18)m　**深さ**　0.07m　**主軸方位**　N-65°-W　**覆土**　暗褐色土で埋没している。軽石、炭化物を含む。締まりがある。**重複**　9号竪穴建物と重複している。**遺物**　深鉢の胴部片。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。時期比定の根拠に乏しいが、埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

82号土坑（第29図　PL. 13）
位置　79区V・W-25グリッド　**形状**　隅丸長方形である。断面形は逆台形を呈する。平底である。**規模**　1.60×0.78m　**深さ**　0.15m　**主軸方位**　N-35°-E　**覆土**　黒色土で埋没している。軽石を含む。締まっている。**重複**　認められない。**遺物**　掲載する遺物はない。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。時期比定の根拠に乏しいが、埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

83号土坑（第29図　PL. 13）
位置　79区X-25グリッド　**形状**　長円形である。断面形は不整形である。**規模**　1.35×0.92m　**深さ**　0.38m　**主軸方位**　N-10°-W　**覆土**　黒褐色土で埋没している。軽石や土器片を含む。締まりがある。**重複**　84号土坑より新しい。**遺物**　認められなかった。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。時期比定の根拠に乏しいが、埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

84号土坑（第29・33図　PL. 13・45）
位置　79区X-25グリッド　**形状**　長円形である。断面形はレンズ状を呈する。底面は平底状である。**規模**　1.28×0.93m　**深さ**　0.20m　**主軸方位**　N-8°-W　**覆土**　黒色土で埋没している。軽石を含む。ロームが斑に混入する。**重複**　83号土坑より古い。**遺物**　燃糸。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。埋没土及び形状及び83号土坑より古いことから縄文時代の所産と考えられる。

85号土坑（第29・33図　PL. 14・45）
位置　79区W-24グリッド　**形状**　隅丸長方形である。断面形は不整形である。**規模**　(1.45)×0.62m　**深さ**　0.28m　**主軸方位**　N-11°-E　**覆土**　黒褐色土で埋没している。軽石を含む。ロームが斑に混入する。**重複**　認められない。**遺物**　土器出土　**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。時期比定の根拠に乏しいが、埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

86号土坑（第30図　PL. 14）
位置　79区M-17グリッド　**形状**　円形である。断面形は長方形を呈する。底面は平底である。**規模**　0.96×0.92m　**深さ**　0.63m　**主軸方位**　N-55°-E　**覆土**　黒褐色土で埋没している。軽石を含む。炭化物が混入しており締まりが弱い。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。1面調査時に確認されているが、埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

87号土坑（第30図　PL. 14）
位置　79区M-16グリッド　**形状**　円形である。断面形は長方形を呈する。底面は平底である。**規模**　1.10×1.03m　**深さ**　0.36m　**主軸方位**　N-24°-E　**覆土**　黒褐色土で埋没している。軽石を含む。炭化物が混入しており締まりが弱い。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。

所見　本土坑の掘削目的は判断できなかった。１面調査時に確認されているが、埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

88号土坑（第30・33図　PL. 14・45）

位置　79区M-17グリッド　**形状**　円形である。断面形は長方形を呈する。底面はレンズ状である。**規模**　0.95×0.89m　**深さ**　0.66m　**主軸方位**　N-50°-E　**覆土**　黒褐色土で埋没している。軽石を含む。締まりが弱い。**重複**　認められない。**遺物**　土器出土。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できない。１面調査時に確認されているが、埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

89号土坑（第30図　PL. 14）

位置　79区L-17グリッド　**形状**　円形である。断面形は長方形を呈する。底面は平底である。**規模**　1.16×0.98m　**深さ**　0.27m　**主軸方位**　N-72°-E　**覆土**　黒褐色土で埋没している。軽石を含む。締まりが弱い。下面に焼土・炭を認める。**重複**　93号土坑より古い。**遺物**　掲載する遺物はない。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。１面調査時に確認されているが、埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

90号土坑（第30図　PL. 14）

位置　79区N-17グリッド　**形状**　円形である。断面形は長方形を呈する。底面は平底である。**規模**　0.92×0.90m　**深さ**　0.27m　**主軸方位**　N-44°-E　**覆土**　黒褐色土で埋没している。軽石を含む。締まりが弱い。壁際に地山の崩落が見られる。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。１面調査時に確認されているが、埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

91号土坑（第30図　PL. 14）

位置　79区N-16グリッド　**形状**　不整形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。**規模**　1.32×1.09m　**深さ**　0.72m　**主軸方位**　N-70°-E　**覆土**　黒褐色土で埋没している。軽石、炭化物を含み、締まりが弱い。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。１面調査時に確認されているが、埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

94号土坑（第30・33図　PL. 15・45）

位置　79区M-16グリッド　**形状**　円形である。断面形は長方形を呈する。底面は平底である。**規模**　1.13×1.03m　**深さ**　1.24m　**主軸方位**　N-74°-E　**覆土**　黒褐色土、暗褐色土、黒色土で埋没している。軽石、炭化物を含み、締まりが弱い。**重複**　認められない。**遺物**　深鉢の胴部片。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。１面調査時に確認されているが、埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

95号土坑（第30図　PL. 15）

位置　79区N-15グリッド　**形状**　円形である。削平前の断面形は長方形を呈していたと思われる。底面はレンズ状である。**規模**　1.02×1.00m　**深さ**　0.42m　**主軸方位**　N-35°-W　**覆土**　暗褐色土である。As-YPkを多く含み、壁際に地山の崩落が見られる。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。１面調査時に確認されているが、埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

96号土坑（第30図　PL. 15）

位置　79区T-21グリッド　**形状**　円形である。断面形は不整形である。**規模**　1.32×1.18m　**深さ**　0.56m　**主軸方位**　N-68°-W　**覆土**　漸移層の褐色土に暗褐色土と黒色土が堆没する。軽石を含む。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。時期比定の根拠に乏しいが、埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

97号土坑（第31図　PL. 15）

位置　79区R-19・20グリッド　**形状**　長円形である。削平前の断面形は逆台形を呈していたと思われる。底面は平底である。**規模**　(1.48)×0.68m　**深さ**　0.16m　**主軸方位**　N-4°-E　**覆土**　黒色土で埋没している。軽石とロームブロックを含む。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。時期比定の根拠に乏しいが、埋没土及び形状か

ら縄文時代の所産と考えられる。

98号土坑（第31図　PL. 15）

位置　79区R・S-20グリッド　**形状**　平面形は円形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。**規模**　0.70×0.61m　**深さ**　0.37m　**主軸方位**　N-50°-E　**覆土**　黒色土で埋没している。軽石とロームブロックを含む。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。1面調査時に確認されているが、埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

99号土坑（第31図　PL. 15）

位置　79区S-21グリッド　**形状**　不整形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。**規模**　1.20×0.74m　**深さ**　0.24m　**主軸方位**　N-72°-E　**覆土**　黒褐色土で埋没している。As-YPk、ロームブロック含む。微細土器片散見される。**重複**　認められない。**遺物**　掲載する遺物はない。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。時期比定の根拠に乏しいが、埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

100号土坑（第31図　PL. 15）

位置　79区Q-20グリッド　**形状**　隅丸長方形である。断面形は不整形を呈する。底面は平底である。**規模**　0.62×0.52m　**深さ**　0.37m　**主軸方位**　N-29°-E　**覆土**　黒褐色土で埋没している。軽石、炭化物を含む。底面に焼土が散見される。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。時期比定の根拠に乏しいが、埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

101号土坑（第31・33図　PL. 16・46）

位置　79区Q・R-20・21グリッド　**形状**　不整形である。断面形はロート状を呈す。底面は平底である。**規模**　1.70×1.61m　**深さ**　0.52m　**主軸方位**　N-8°-E　**覆土**　褐色土、暗褐色土、黒褐色土で埋没している。軽石、炭化物を含み、締まりある。**重複**　認められない。**遺物**　深鉢の口縁部片、胴部片。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。時期比定の根拠に乏しいが、埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

102号土坑（第31図）

位置　79区Q・R-22グリッド　**形状**　長円形である。断面形は逆台形を呈する。**規模**　0.61×0.40m　**深さ**　0.50m　**主軸方位**　N-60°-E　**覆土**　褐色土で埋没している。軽石、炭化物含み、締まりはある。**重複**　9号竪穴建物より古い。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

103号土坑（第31図）

位置　79区R-22グリッド　**形状**　不整形である。断面形は不整形である。**規模**　0.89×0.76m　**深さ**　0.66m　**主軸方位**　N-36°-W　**覆土**　褐色土で埋没している。軽石、炭化物、ロープロックを含み、締まりがある。**重複**　9号竪穴建物より古い。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

104号土坑（第31図）

位置　79区R-22グリッド　**形状**　不整円形である。断面形は不整形である。**規模**　(0.61)×0.59m　**深さ**　0.36m　**主軸方位**　N-10°-E　**覆土**　褐色土で埋没している。軽石、炭化物含み、締まりはある。**重複**　9号竪穴建物より古い。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

105号土坑（第31図　PL. 15）

位置　79区R-19グリッド　**形状**　不整形である。削平前の断面形は逆台形を呈していたと思われる。底面は平底である。**規模**　0.85×0.56m　**深さ**　0.24m　**主軸方位**　N-65°-E　**覆土**　黒褐色土で埋没している。軽石、ロームブロックを含む。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。時期比定の根拠に乏しいが、埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

108号土坑（第32図　PL. 16）

位置　79区D-13グリッド　**形状**　長円形である。断面形は不整形である。**規模**　1.15×0.75m　**深さ**　0.38m　**主軸方位**　N-46°-W　**覆土**　黒褐色土で埋没している。軽石とロームブロックを含む。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。SPP不明。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。１面調査時に確認されているが、埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

113号土坑（第32図　PL. 16）

位置　79区A-21グリッド　**形状**　平面形は不整形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。**規模**　1.53×0.91m　**深さ**　0.64m　**主軸方位**　N-53°-E　**覆土**　黒褐色土で埋没している。軽石とロームブロックを含む。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。時期比定の根拠に乏しいが、埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

116号土坑（第32図　PL. 16）

位置　79区I-14グリッド　**形状**　長円形である。削平前の断面形は逆台形を呈すると思われる。底面は平底である。**規模**　1.09×0.72m　**深さ**　0.20m　**主軸方位**　N-47°-E　**覆土**　黒褐色土で埋没している。ロームブロック、軽石を含む。締まりがある。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。時期比定の根拠に乏しいが、埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

117号土坑（第32図　PL. 16）

位置　79区I-14グリッド　**形状**　長円形である。削平前の断面形は逆台形を呈すると思われる。底面は平底である。**規模**　1.16×0.80m　**深さ**　0.22m　**主軸方位**　N-69°-W　**覆土**　黒褐色土で埋没している。ロームブロック、軽石を含む。締まりがある。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。時期比定の根拠に乏しいが、埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

120号土坑（第32図　PL. 16）

位置　79区J-19グリッド　**形状**　円形である。削平前の断面形は逆台長方形を呈すると思われる。底面は平底である。**規模**　1.20×1.18m　**深さ**　0.49m　**主軸方位**　N-49°-E　**覆土**　黒褐色土で埋没している。ロームブロック、軽石を含む。炭化物が混入する。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。１面調査時に確認されているが、埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

121号土坑（第32図　PL. 17）

位置　79区I-19グリッド　**形状**　長円形である。削平前の断面形は逆台形を呈すると思われる。底面は平底である。**規模**　0.85×0.64m　**深さ**　0.19m　**主軸方位**　N-51°-W　**覆土**　黒褐色土で埋没している。軽石を含む。ロームが斑に混入する。締まりがない。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。１面調査時に確認されているが、埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

122号土坑（第32図　PL. 17）

位置　79区J-21グリッド　**形状**　円形である。削平前の断面形は逆台形を呈すると思われる。底面は平底である。**規模**　0.97×0.93m　**深さ**　0.43m　**主軸方位**　N-18°-E　**覆土**　黒色土で埋没している。ロームブロック、軽石を含む。締まりがない。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。１面調査時に確認されているが、埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

124号土坑（第32図　PL. 17）

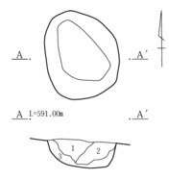
位置　79区I-17・18グリッド　**形状**　長円形である。削平前の断面形は逆台形を呈すると思われる。底面は丸底である。**規模**　1.61×1.02m　**深さ**　0.34m　**主軸方位**　N-83°-W　**覆土**　黒褐色土で埋没している。ロームブロック、軽石を含む。やや締まりがある。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。１面調査時に確認されているが、埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

128号土坑（第32図　PL. 17）

位置　79区I-23グリッド　**形状**　円形である。断面形

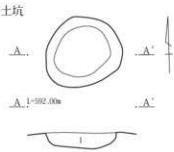
は逆釣鐘形を呈している。**規模**　1.38×1.17m　**深さ**　0.59m　**主軸方位**　N-79°-W　**覆土**　黒褐色土で埋没している。ロームブロック、軽石を含む。締まりがある。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。１面調査時に確認されているが、埋没土及び形状から縄文時代の所産と考えられる。

4号土坑



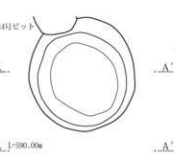
4号土坑
1　黒褐色土　暗褐色土塊・As-YPkを含む　粘性・締まり強い。
2　黒褐色土　大型のローム塊を多く含む。締まりやや弱い。
3　暗褐色土　黒褐色土塊・As-YPkを少量含む。粘性・締まり強い。

40号土坑

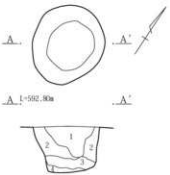


40号土坑
1　黒色土　やや締まりなくやや砂質。均質。白色粒子、赤色粒子散在。礫を含む。

59号土坑

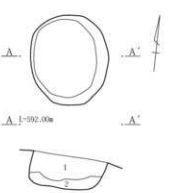


1号土坑



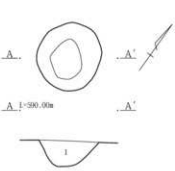
1号土坑
1　黒褐色土　暗い。橙色粒を少量含む。均質で締まり強い。
2　暗褐色土　ローム粒を多く含む。軟質で締まり弱い。
3　黒褐色土　小型のローム塊を少量含む。締まりはやや弱い。
4　黒褐色土　やや硬質。小型のローム塊を多く含む。締まり強い。

5号土坑



5号土坑
1　暗褐色土　黒褐色土塊を少量含む。As-YPkを多く含む。締まり弱い。
2　黒褐色土　少量のローム塊・As-YPkを含む。締まりやや強い。

58号土坑



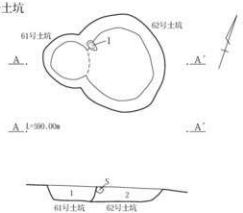
58号土坑
1　暗褐色土　炭化粒を極僅か含み、５～10mm大の黄色軽石を少量含む均質土。締まりやや弱く、粘性ややあり。

59号土坑
1　黒褐色土　黄色軽石をやや多く含み、締まりやや弱い。炭化粒を僅かに含む。色調明るく、不均質に地山ロームを少量含む。
2　黒褐色土　１層に比べ、軽石粒が少ない。
3　黄褐色　地山ローム

0　1:40　1m

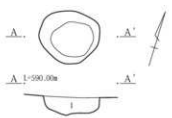
第27図　土坑１（１・４・５・40・58・59号土坑）

61・62号土坑



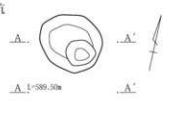
61・62号土坑
1　暗褐色土　黄色軽石粒を僅かに含み、締まりやや弱く、粘性ややある。全体に不均質。地山ロームをやや多く含む。(61土：新)
2　暗褐色土　黄色軽石粒を僅かに含み、締まりやや弱く、粘性ややある。全体に不均質。地山ロームを少量含む。(62土：古)

65号土坑



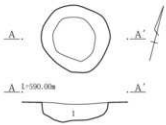
65号土坑
1　暗褐色土　黄色軽石粒を僅かに含み、締まりやや弱く、粘性やや強く、色調やや明るく、全体に不均質。地山ロームを少量含む。

67号土坑



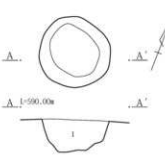
67号土坑
1　暗褐色土　地山ロームをブロック状に１：１に含む。上層乱れ不均質で締まり弱い。

63号土坑



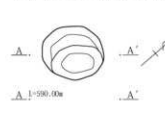
63号土坑
1　暗褐色土　黄色軽石粒を僅かに含み、締まりやや弱く、粘性ややある。全体に不均質。地山ロームを少量含む。

64号土坑



64号土坑
1　暗褐色土　黄色軽石粒を僅かに含み、締まりやや弱く、粘性ややある。全体に不均質。地山ロームを不均質に１：１程度に含む。(土器片含む)

66号土坑



66号土坑
1　暗褐色土　地山ロームをブロック状に２：１に不均質に含む。As-YPk下層に含まれる粘性強い粘土ブロックを含む。(遺物：縄文土器含む)

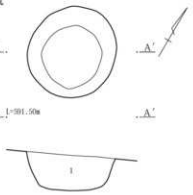
68号土坑

68号土坑
1　黒褐色土　ロームブロック、ローム粒含む。
2　黒褐色土　１と似るが粘性、締まりあり。

0　1:40　1m

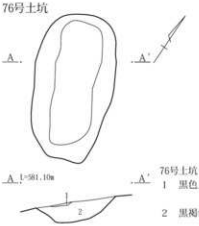
第28図　土坑２（61～68号土坑）

69号土坑



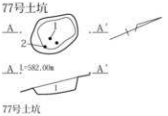
69号土坑
1　黒褐色土　黄色軽石をやや多く含み、締まりやや弱い。炭化粒を僅かに含む。色調明るく、不均質に地山ロームを少量含む。

76号土坑



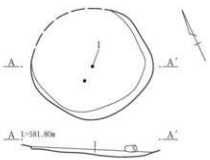
76号土坑
1　黒色土　ロームブロックやや多く、黄・黄褐粒子僅かに含む。締まりなし。
2　黒褐色土　黄・黄褐色粒子、ロームブロック（斑状の褐色部分あり）、白・黄粒子少量含む。締まりあまりなし。

77号土坑



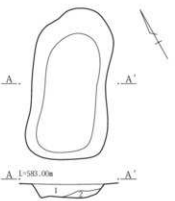
77号土坑
1　黒褐色土　ロームブロックやや多く、黄・黄褐粒子僅かに含む。締まりなし。

79号土坑



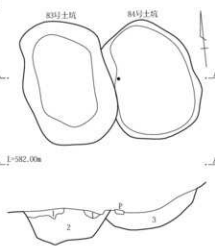
79号土坑
1　暗褐色土　暗褐色土ににぶい黄褐色土・褐色土・黒色土が斑状に入る。黄・橙軽石少量、白・黄・橙・褐色粒子ややや多く含む。炭化物を僅かに含む。締まりあり。

82号土坑



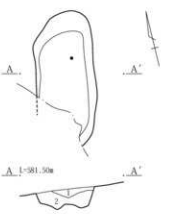
82号土坑
1　黒色土　白・黄・褐色軽石少し含む。上器微細片やローム粒ややや多く含む。締まりややあり。
2　黒褐色土　微細粒子・褐・浅黄橙色軽石少量含む。締まっている。

83・84号土坑



83・84号土坑
1　黒褐色土　ロームブロック・浅黄橙・黄色軽石少量、白・橙・浅黄橙色微細粒子やや多く含む。締まりあり。
2　黒褐色土　暗赤褐色土の層あり。ロームブロック・浅黄橙・白色軽石が層下位に少量、微細上器片僅か含む。ロームが斑状に入る。締まっている。
3　黒色土　ロームブロック、白・黄・浅黄橙・褐色軽石多量に含む。斑状にロームが入る部分あり。

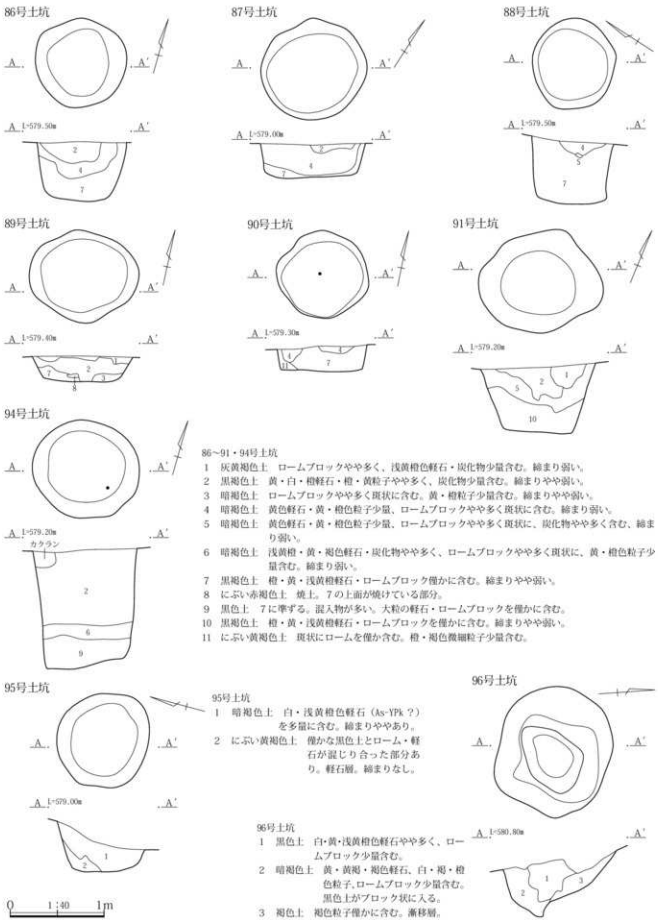
85号土坑



85号土坑
1　にぶい黄褐色土　微細粒子少量、白・黄軽石僅か含む。ローム粒が斑状に入る。締まりあり。
2　黒褐色土　ローム多量、白・浅黄橙色軽石少量、大粒な軽石僅か含む。

0　1:40　1m

第29図　土坑３（69・76・77・79・82～85号土坑）



86～91・94号土坑

1　灰黄褐色土　ロームブロックやや多く，浅黄橙色軽石・炭化物少量含む。締まり弱い。
2　黒褐色土　黄・白・橙軽石・橙・黄粒子やや多く，炭化物少量含む。締まりやや弱い。
3　暗褐色土　ロームブロックやや多く斑状に含む。黄・橙粒子少量含む。締まりやや弱い。
4　暗褐色土　黄色軽石・黄・橙色粒子少量，ロームブロックやや多く斑状に含む。締まり弱い。
5　暗褐色土　黄色軽石・黄・橙色粒子少量，ロームブロックやや多く斑状に，炭化物やや多く含む，締まり弱い。
6　暗褐色土　浅黄橙・黄・褐色軽石・炭化物やや多く，ロームブロックやや多く斑状に，黄・橙色粒子少量含む。締まり弱い。
7　黒褐色土　橙・黄・浅黄橙軽石・ロームブロック僅かに含む。締まりやや弱い。
8　にぶい赤褐色土　焼土。７の上面が焼けている部分。
9　黒色土　７に準ずる。混入物が多い。大粒の軽石・ロームブロックを僅かに含む。
10　黒褐色土　橙・黄・浅黄橙軽石・ロームブロックを僅かに含む。締まりやや弱い。
11　にぶい黄褐色土　斑状にロームを僅か含む。橙・褐色微細粒子少量含む。

95号土坑

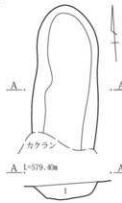
1　暗褐色土　白・浅黄橙色軽石（As-YPk？）を多量に含む。締まりやや有り。
2　にぶい黄褐色土　僅かな黒色土とローム・軽石が混じり合った部分あり。軽石層。締まりなし。

96号土坑

1　黒色土　白・黄・浅黄橙色軽石やや多く、ロームブロック少量含む。
2　暗褐色土　黄・黄褐・褐色軽石，白・褐・橙色粒子，ロームブロック少量含む。黒色土がブロック状に入る。
3　褐色土　褐色粒子僅かに含む。漸移層。

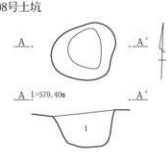
第30図　土坑４（86～91・94～96号土坑）

97号土坑



97号土坑
1　黒色土　大粒ロームブロック、白・黄・浅黄橙色軽石少量含む。褐・黄・灰白色粒子、ロームブロックをやや多く含む。(崩れ)

98号土坑

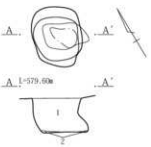


98号土坑
1　黒色土　ロームブロック少量、浅黄橙色軽石僅かに含む。

99号土坑

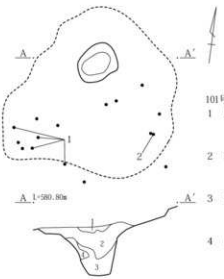
99号土坑
1　黒褐色土　浅黄橙色軽石（As-YPkか）多量、ローム粒・ブロック、微細上器片少量、締まりあり。

100号土坑



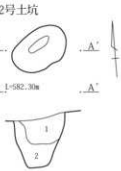
100号土坑
1　黒褐色土　ロームブロック少量、浅黄橙色軽石・炭化物僅かに含む。
2　暗赤褐色土　焼土または84号土坑内の暗赤褐色土。白・褐色粒子僅かに含む。ロームブロック（斑状）少量含む。

101号土坑

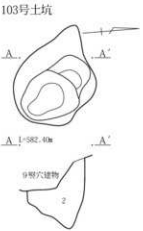


101号土坑
1　黒褐色土　灰白・浅黄橙・黄・褐色軽石、灰白・黄褐色粒子、炭化物やや多く、ロームブロック少量含む。締まりあり。
2　暗褐色土　灰白・浅黄橙・黄・褐色軽石、灰白・黄褐色粒子、炭化物やや多く、ロームブロック少量含む。締まりあり。
3　褐色土　灰白・浅黄橙・黄・褐色軽石、灰白・黄褐色粒子、ロームブロック僅か、炭化物少量含む。締まりあり。(1・2ほどではない)
4　黄褐色土　ローム。掘りすぎ部分か。

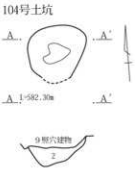
102号土坑



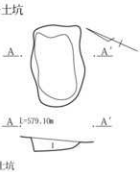
103号土坑



104号土坑



105号土坑



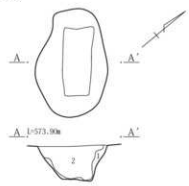
105号土坑
1　黒褐色土　ロームブロック少量、浅黄橙色軽石僅かに含む。

102～104号土坑
1　オリーブ褐色土　白・浅黄橙・褐色軽石やや多く、炭化物少量含む。締まりあり。
2　褐色土　白・浅黄橙・黄・褐・橙色軽石（As-YPkか）、ロームブロック多量に、炭化物やや多く含む。締まりあり。

0　1:40　1m

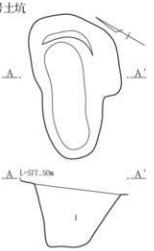
第31図　土坑5（97～105号土坑）

108号土坑



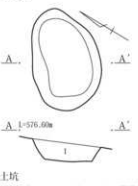
108号土坑
1　暗褐色土　ロームブロック少量含む。軽石（As-YPkか）多量に含む。（崩れ）締まり弱い。ロームを斑状に含む。
2　黒褐色土　炭化・浅黄橙色軽石僅か、ロームブロック少量含む。ロームを斑状に含む。締まりややあり。

113号土坑



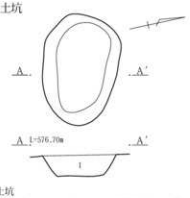
113号土坑
1　黒褐色土　浅黄橙・褐色軽石僅かに、ロームブロック、白・黄・褐色微細粒子少量含む。締まりあり。

116号土坑



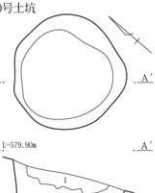
116号土坑
1　黒褐色土　ロームブロック・浅黄橙軽石・黄・浅黄橙・褐色粒子僅かに含む。締まりあり。

117号土坑



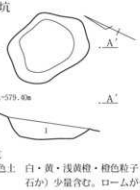
117号土坑
1　黒褐色土　ロームブロック・浅黄橙軽石・黄・浅黄橙・褐色粒子僅かに含む。締まりあり。ロームブロックやローム粒が116号土坑の１よりやや多い。

120号土坑



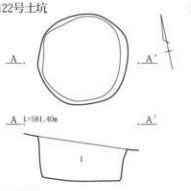
120号土坑
1　黒褐色土　黄・浅黄橙色軽石、橙色粒子（ローム粒か）少量含む。締まりなし。
2　黒褐色土　黄・浅黄橙色軽石・橙・褐色ロームブロック・粒多量含む。炭化物僅かに混入する。

121号土坑



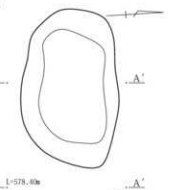
121号土坑
1　黒褐色土　白・黄・浅黄橙・橙色粒子（軽石か）少量含む。ロームが少量斑状に混入する。締まりなし。

122号土坑



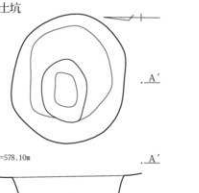
122号土坑
1　黒色土　ロームブロック・ローム粒多量に含む。黄色軽石僅かに含む。締まりなし。

124号土坑



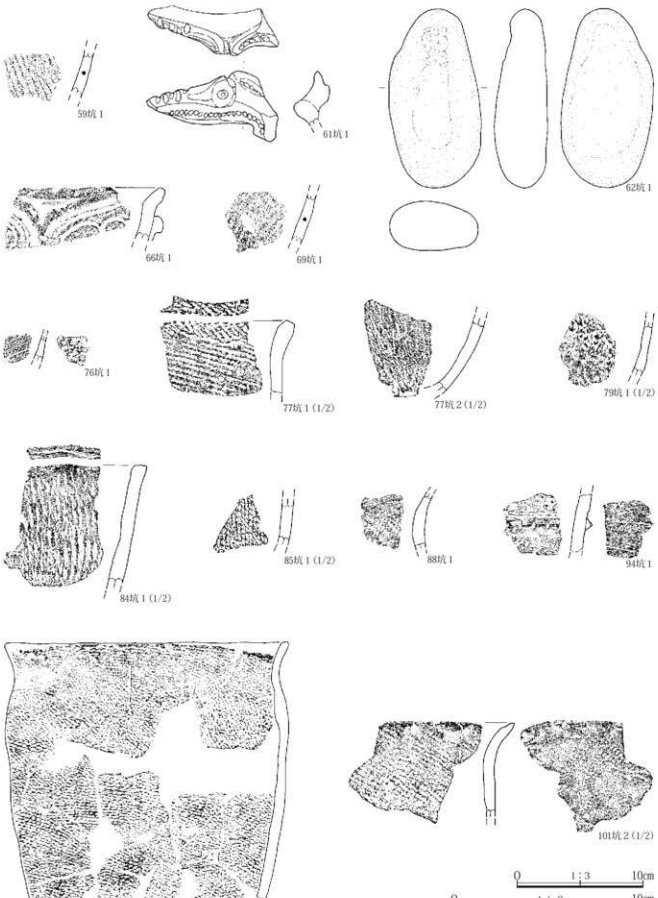
124号土坑
1　黒褐色土　黄褐色軽石少量、橙色粒子・ロームブロック僅かに含む。ロームと黒色土が斑状に入る。やや締まりあり。

128号土坑



128号土坑
1　黒褐色土　ロームブロック少量、褐・黄褐色軽石僅かに含む。ロームが斑状に混入する。締まりあり。

第32図　土坑６（108・113・116・117・120～122・124・128号土坑）


59坑１
61坑１
62坑１
66坑１
69坑１
76坑１
77坑１(1/2)
77坑２(1/2)
79坑１(1/2)
84坑１(1/2)
85坑１(1/2)
88坑１
94坑１
101坑１(1/2)
101坑２(1/2)
0　1:3　10cm
0　1:2　10cm

第33図　土坑出土遺物

第３項　ピット

概要　平成24・25年度調査では、第２面で調査され、縄文時代の所産と想定されたピット９基について記載する。時期判定のできないピットについては第４節で扱う。38号ピットからは浅鉢の大型破片が出土しており、43、44号ピットも覆土に縄文土器片を含むが、建物等を構成するものとは認められない。平成30年度調査では、第２面調査で、14基のピットを検出した。そのうち９基について記載する。C区で確認したものであり、ほとんどのピットが舌状台地の西側斜面、縄文時代の竪穴建物の周辺から検出した。ピット群の中には、建物の柱穴や柱穴列を構成する可能性を否定できないものもあるが、柱穴の規模、形状、柱間、建物全体の形状等、建物や柱穴列を復元するための明確な資料が見つからなかった。また、土坑（陥し穴）周辺のピットは、陥し穴の関連施設の可能性も考えられるが、やはり明確な資料が見つからなかった。**位置**　平成24・25年度調査では、６号竪穴建物周辺の緩傾斜面に７基、北西部の傾斜上位にあたる位置に２基があり、土坑と類似した分布状況を示す。平成30年度調査では、舌状台地の西側に緩辺部の傾斜地、縄文時代の竪穴建物や陥し穴の周辺にある。調査時には、ピットが配置されている範囲が、１面のピットと重複しているものはほとんどなく、１面の遺構との関連はほとんどないと考えられる。後世の崩れや開拓によって削平が進んでいるものの、人の活動が見て取れる。**重複**　認められない。**規模形状**　多くが小型で楕円形や円形を呈する。これらのピット群は、建物の柱穴である可能性も否定できないが、復元には至らなかった。**埋没土**　主に黒褐色土及び暗褐色土で埋没しており、軽石やロームブロックを含む。舌状台地に位置するピットは締まりがある。**遺物**　少量認められる。**所見**　ロームブロックを含み、ほぼ共通する埋没土により、同一時期のものと考えられる。竪穴建物及び陥し穴と思われる周辺の遺構と同時期であると考えられる。関連施設の柱穴の可能性がある。

（詳細については第16表に記載した。）

38号ピット（第34・37図　PL. 17・46）　89区Q-15グリッド　調査区の西部、標高589.58mにある。長軸42、短軸36、深さ25cm。平面形は偏円形、断面形は丸底の碗状を呈する。覆土下層はローム粒、ロームブロックを含むや や粘質の暗褐色土、上層は若干のローム粒を含む黒褐色土。覆土上層に浅鉢口縁の比較的大きな破片を含む。６号竪穴建物の北にあたり、縄文時代の土坑、ピットが多い部分である。

39号ピット（第35図　PL. 18）　89区S-16グリッド　調査区西端中央、６号竪穴建物の北西の縄文時代土坑、ピット群の北端、標高590.04mにある。長軸44、短軸38、深さ26cm。平面形は偏円形、断面形は浅い鍋状を呈する。覆土は地山の黄褐色ロームと暗褐色土の混土で、やや粘質だが締まりはやや弱い。深鉢胴部細片が出土している。

40号ピット（第35図　PL. 18）　89区Q-16グリッド　調査区南西部、標高589.83mにある。長軸52、短軸37、深さ43cm。平面形は長円形、断面形はゆがんだU字状を呈する。覆土は軽石粒をほとんど含まず、ロームブロックを不均質に少量含む暗褐色土で、粘性締まりともにやや弱い。

41号ピット（第35図　PL. 18）　89区Q・R-15グリッド　調査区南西部、標高589.74mにある。長軸38、短軸36、深さ26cm。平面形は偏円形、断面形は底面が平坦な鍋状を呈する。覆土は軽石粒をほとんど含まず、ロームブロックを不均質に少量含む暗褐色土で、粘性締まりともにやや弱い。

42号ピット（第35図　PL. 18）　89区P-17グリッド　調査区南西部、標高589.64mにある。長軸47、短軸45、深さ25cm。平面形は偏円形、断面形は椀型を呈する。覆土は黄色軽石粒を少量含み、やや粘質の暗褐色土。断面図中央の窪みは植物の土壌攪乱によるものである。

43号ピット（第35・37図　PL. 18・46）　89区P-16グリッド　調査区南西部、標高589.45mにある。長軸33、短軸30、深さ16cm。平面形は偏円形、断面形は底面が平坦な鍋状を呈する。覆土はロームブロックの斑と暗褐色土の混土で、締まりは弱い。上層から深鉢胴上部の破片が出土している。

44号ピット（第35図　PL. 18）　89区P-15グリッド　調査区南西部、標高589.41mにある。59号土坑を切る。長軸42、短軸40、深さ39cm。平面形は偏円形、断面形はU字状を呈する。覆土は軽石粒をほとんど含まず、ロームブロックを不均質に少量含む暗褐色土で粘性締まりやや弱い。

45号ピット（第35図　PL. 18）　89区S-20グリッド　調

査区の北西部、6号竪穴建物周辺の土坑、ピット群とはやや離れて傾斜上位の標高589.02mにある。長軸40、短軸33、深さ43cm。平面形は偏円形、断面形はU字状を呈する。覆土はローム ブロックや軽石をほとんど含まず、くすんだ暗褐色土で、やや締まり弱い。

46号ピット（第35図　PL. 18）　89区S・T-20グリッド　調査区の北西部、6号竪穴建物周辺の土坑、ピット群とはやや離れて、傾斜上位の標高591.2mにある。長軸58、短軸48、深さ31cm。平面形は偏円形、断面形は深い碗状を呈する。覆土はローム ブロックや軽石をほとんど含まず、くすんだ色調の暗褐色土で、締まりはやや弱い。

104号ピット（第35図　PL. 18）　79区T-20グリッド　調査区の北西部、標高579.50mにある。長軸38、短軸27、深さ12cm。平面形は楕円形、断面形は不整形である。覆土は、ローム粒、ローム ブロックを含む黒褐色土でる。締まりがある。9号竪穴建物の西、周囲に縄文時代の遺構がある。

108号ピット（第35図）　79区Q-20グリッド　調査区北西部、9号竪穴建物の南、標高579.70mにある。長軸46、短軸36、深さ13cm。平面形は楕円形、断面形は不整形である。覆土は、ローム粒、ローム ブロックを含む黒褐色土でる。締まりがある。周囲に縄文時代の遺構がある。

109号ピット（第35図　PL. 18）　79区P-19グリッド　調査区北西部、標高580.00mにある。長軸33、短軸31、深さ17cm。平面形は円形、断面形は逆台形を呈する。覆土は、ローム粒、ローム ブロックを含む黒褐色土でる。締まりがある。9号竪穴建物の南、周囲の遺構と同時期と考えられる。

110号ピット（第35図　PL. 18）　79区P-18グリッド　調査区北西部、標高579.60mにある。長軸28、短軸25、深さ45cm。平面形は円形、断面形は底面が平坦な漏斗状を呈する。覆土は、軽石・ローム ブロックを含んだ黒色土であり、締まりは弱い。9号竪穴建物の南、周囲の遺構と同時期と考えられる。

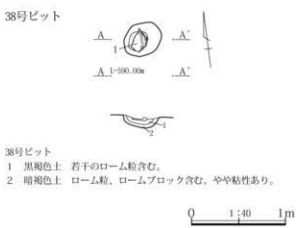
111号ピット（第35図　PL. 18）　79区O-18グリッド　調査区西部、標高580.10mにある。長軸39、短軸26、深さ67cm。平面形は不整形、断面形は漏斗状を呈する。覆土は、軽石・ローム ブロックを含んだ黒色土であり、締まりは弱い。9号竪穴建物の南、周囲の遺構と同時期と考えられる。

112号ピット（第36図）　79区N-18グリッド　調査区西部、標高580.10mにある。長軸39、短軸36、深さ18cm。平面形は円形、断面形は逆台形を呈する。覆土は、ローム ブロック・軽石・炭化物を含む灰黄褐色土であり、締まりは弱い。9号竪穴建物の南東、周囲の遺構と同時期と考えられる。

113号ピット（第36図　PL. 18）　79区O-17グリッド　調査区北西部、標高579.10mにある。長軸30、短軸24、深さ54cm。平面形は円形、断面形は逆台形を呈する。覆土は、軽石・ローム ブロックを含んだ黒色土であり、締まりは弱い。9号竪穴建物の南、周囲の遺構と同時期と考えられる。

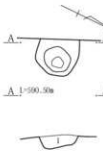
114号ピット（第36図　PL. 18）　79区P-17グリッド　調査区の北西部、標高578.80mにある。長軸72、短軸63、深さ21cm。平面形は長円形、断面形は平坦な鍋状を呈する。覆土は、ローム ブロック、軽石を含む黒褐色土である。9号竪穴建物の南、周囲の遺構と同時期であると考えられる。

115号ピット（第36図　PL. 18）　79区O-17グリッド　調査区の北西部、標高578.90mにある。長軸72、短軸70、深さ15cm。平面形は円形、断面形は平坦な碗状を呈する。覆土は、ローム ブロック、軽石を含む黒褐色土である。9号竪穴建物の南、周囲の遺構と同時期と考えられる。



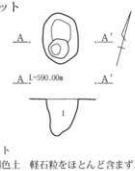
第34図　ピット1（38号ピット）

39号ピット



39号ピット
1　暗褐色土　地山黄褐色ロームを１：１に含む不均質上。やや締まり弱く、粘性ややあり。

40号ピット

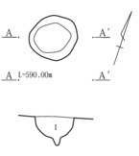


40号ピット
1　暗褐色土　軽石粒をほとんど含まず、地山ロームを不均質に少量含む。粘性締まりやや弱い不均質上。

41号ピット

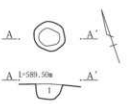
41号ピット
1　暗褐色土　軽石粒をほとんど含まず、地山ロームを不均質に少量含む。粘性締まりやや弱い不均質上。

42号ピット



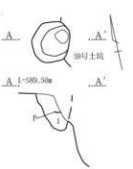
42号ピット
1　暗褐色土　黄色軽石粒を少量含み、粘性ややあり、均質。やや色調明るく、地山は樹痕？と思われる凸凹あり。

43号ピット



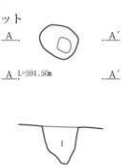
43号ピット
1　暗褐色土　地山ロームを不均質に１：１に含む。締まり弱く、縄文土器片を含む。

44号ピット



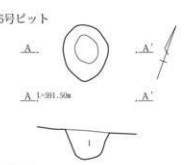
44号ピット
1　暗褐色土　軽石粒をほとんど含まず、地山ロームを不均質に少量含む。粘性締まりやや弱い不均質上。（土器片含む）

45号ピット



45号ピット
1　暗褐色土　地山ブロック、軽石をほとんど含まず、くすんだ色調の均質上。やや締まり弱い。

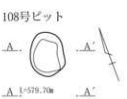
46号ピット



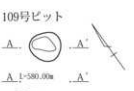
46号ピット
1　暗褐色土　地山ブロック、軽石をほとんど含まず、くすんだ色調の均質上。やや締まり弱い。

104号ピット

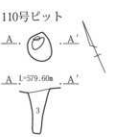
108号ピット



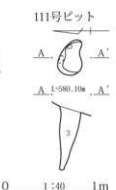
109号ピット



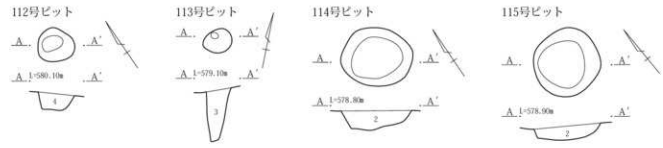
110号ピット



111号ピット



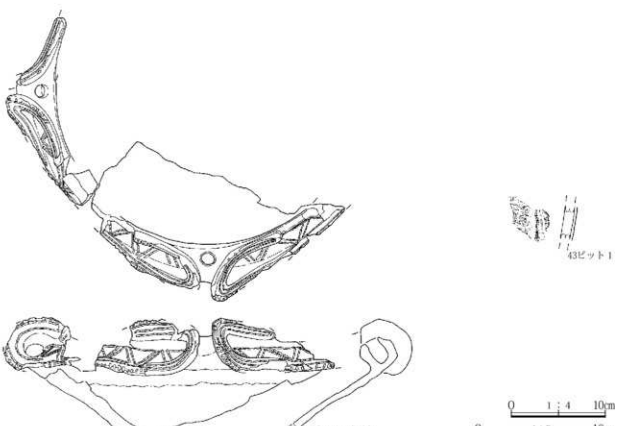
第35図　ピット２（39～46・104・108～111号ピット）



104・108～115号ピット
1　黒褐色土　ロームが斑状に混入する。
2　黒褐色土　ロームブロック少量、浅黄橙色軽石僅か含む。
3　黒色土　白・黄色粒子（軽石か）・ロームブロック少量含む。斑状のロームが僅かに混入する。締まり弱い。
4　灰黄褐色土　ロームブロックやや多く、浅黄橙色軽石・炭化物少量含む。締まり弱い。

0　1:40　1m

第36図　ピット３（112～115号ピット）



第37図　ピット出土遺物

第４項　遺構外から発見された遺物

概要　平成24・25年度調査では、縄文時代の遺物は早期押型文から後期までの土器及び石鏃、石錐、石匙や磨石などの石器がある。調査区全体に散在するが、東半に少なく、西半に多い傾向があり、当然ながら縄文時代の６号竪穴建物のある南西部に特に多い。竪穴建物内及びそれより下位のグリッドには土器が少なく、かえって傾斜上位のグリッドに比較的多くの土器が認められる。押型文土器は調査区北部のQ・R-23・24グリッドに集中し、石器も多く得られている。以後の時期の遺物とは分布域を異にしている。平成30年度調査の遺構外出土遺物の傾向は、平成24・25年度調査に準ずる。縄文土器は、調査区全体に散在するが、竪穴建物が確認された北西部に多く出土している。

遺構外出土の土器（第38～46図　PL. 46～51）

第１群　早期

第１類　表裏縄文

１は口縁外反、横位ＬＲ縄文施文。２は薄手で外反する口縁、直線的で口唇部やや肥厚し丸み有す、表裏にＬＲ横位。

第２類　撚糸文系土器群

ａ種　撚糸文を縦位施文するもの

３は口縁部外反、条の太さにばらつきが見られる撚糸文Ｒを縦位施文、金雲母多く含み、砂粒が目立ち器面ざらつく、内面に指頭痕。４、５は同一個体と思われる、口縁外反し撚糸文Ｒ縦位施文、口唇部内側に条線。

６は厚手で口縁部短く外反、撚糸文Ｌを浅く施文、７～９は撚糸文Ｒ縦位施文する。

ｂ種　条線文

10は撚糸文に条線文伴う。

ｃ種　格子状撚糸文

11、12は器面荒れている、同一個体片であろう。

第３類　縄文系土器群

ａ種　縄文施文

13は原体の細い縄文ＲＬ縦位方向施文。14は部分的に羽状構成を取る。

第４類　無文土器

15は器面荒れて不鮮明であるが無文であろう、やや薄手で焼きは堅致で砂粒目立つ。新しくなる可能性もある。

第５類　押型文土器

ａ種　楕円文を横位施文するもの

20～23は口縁部、20～22は同一個体と見られる、少量の繊維含む。23は薄手で口縁部短く外反。35は楕円文重層施文だが、施文具が異なる。16は小片のため判然としないが横楕円文施文、砂粒含む。

ｂ種　異種　楕円文＋綾杉文を多段施文するもの

24～34で、ａ種とした20～22も同一個体の口縁部とみられる。

ｃ種　山形文を縦位施文するもの

17～19。

第２群　早期沈線文系

第１類　沈線文系

ａ種　口縁部多段刺突文を持つもの

36は角頭状で刺突文を横位多段施文。

ｂ種　沈線文を持つもの

37～42は細沈線を斜位施文、37は縦位斜格子。39～41は繊維含む。

ｃ種　刺突文を持つもの

43は沈線文と櫛歯状工具による刺突文。

ｄ種　隆帯を持つもの

44は横位隆帯、口縁部に連続刺突文。

第３群　早期条痕文系

第１類　絡条体圧痕文を持つもの

ａ種

45、口縁部横位、以下横位羽状施文、口唇上部にも施文。

ｂ種

絡条体圧痕を横位、斜位に施文、46、48は口縁部の隆帯上に絡条体圧痕文、47は連続山形に施文か、49～51は横位多段施文。

第２類　刺突文を持つもの

52は施文が判然としない。53は縦位沈線に刺突文を伴う。

第３類　条痕文を施すもの

内外面に条痕を有すもの、54～75で76は器面が荒れていて判然としない。

第４群　前期初頭～前期前半

第１類　前期初頭花積下層式期

ａ種　撚糸側面圧痕を有すもの

77～82。77は口縁部、隆帯に沿ってＲ・Ｌ２本単位の側面圧痕文、78は直立する口縁部で、２本単位の側面圧痕文斜位施文、77は81と同一片、80は横位施文以下縄文、79は横位施文と刺突文を有す。82は２本単位の側面圧痕文による斜格子文、原体は細い。

ｂ種　隆帯を持つもの

83は口縁部に横位隆帯廻らし、隆帯に縄文施文。

c種　縄文施文

84はやや外反する口縁部、施文不明瞭、85～88は羽状構成、85は口唇部にも施文、89は無節か、90は粗い施文、口唇部に刻み。羽状縄文91～111。112は結び目文か、113は浅い施文の撚糸Lか。

d種　縦位施文で施文が深い一群

114～123。116を除き同一個体片と見られる。124は薄手、125は横羽状、126は胴下部片、127は厚手土器、128は浅い施文。129は施文粗く硬質、無文部有す。

e種　撚糸文施文

粗い撚糸文L斜位施文130、131、133。131は施文が深い。132は斜位密接施文か。

f種　底部

134、135は実底部片、縄文施文。

g種　薄手無繊維土器

136は口縁部有段部に連続刻み、137～139は同一個体の無文胴部片、いずれも硬質で内面に指頭痕。140は斜位の細縄文。石英粒含む。

第２類　前期前半関山、黒浜式期

a種　コンパス文を持つもの

141は横位沈線下にコンパス文。142はループ文多段施文。143は口縁部片斜格子文、口唇部に刻み有す、波状口縁か。

b種　底部

144は底部に縄文施文。

第５群　前期後半～末

第１類　諸磯a式期

a種　縄文施文

145～152。145、146は口縁部RL横位施文、147、148は同一個体、147は口縁部に刻み。149は無節。150～152は羽状構成、いずれもやや薄手で雲母石英小粒含む。

b種　竹管文

153～156。153は格子状平行沈線の交点に円形竹管文、154～156は連続爪形文。

c種　底部

157は粗い縄文施文見られる底部片。

第２類　諸磯b式期

a種　浮線文を有す

158～162は同一個体である。口縁部は強く内湾、縄文施文後浮線による曲線文、渦巻き文を描き、浮線上には連続刻みを付す。地文には縄文RL横位施文、また口縁部にも浮線による梯子状、X状文。

b種　沈線文

163、164は同一個体と思われる。口縁部片横位集合沈線文、164は添付文有す。165～171は同一個体、４単位の波状を呈し、口縁部が強く内屈する器形。口縁部は平行沈線による曲線文、連続山形文描く、胴部は横位沈線で区画、区画内には羽状縄文。172は集合沈線を多段施文、薄手で内面研磨。

第３類　諸磯c式期

集合沈線文地文に添付文付すもの、173、174。

第４類　十三菩提式期

集合沈線文を横位縦位施文するもの。175～178。177は集合沈線による三角文意匠する。178は厚手の底部片、横位沈線廻り、内面研磨。

第６群　中期初頭から前半

第１類

179は沈線による三角文を基本とする多段区画、刻み文を内側２重に廻らし、中央には三角印刻文、180は口縁部片、沈線文様描く、口縁下に瘤状貼り付け文。

第２類　阿玉台式期

a種　隆帯、連続結節文有す

181～184は口縁部片。口縁部区画文内に結節刺突文を廻らす。185～191、196、ヒダ状文、垂下隆帯に押圧文。隆帯、沈線見られるもの192～195、197～202。

b種

203は無文浅鉢、口縁部肥厚する、波状口縁。204～206は浅鉢の胴部、輪積痕明瞭に残る、206は内外面研磨。時期は下る可能性あり。

c種　底部片

207は押圧文を持つ垂下隆帯、208は垂下沈線。

第７群　中期中葉から後半

a種

209は口縁部片隆帯及び沈線による曲線文。210も隆帯に沿って沈線廻らし、区画文描き、細い施文具による刺突文。211は沈線と刺突文。

b種

212は横位隆帯に幅狭H状垂下文で区画、隆帯に沿って刺突文、区画内には沈線により縦位綾杉文。213は隆帯両側に縦位集合斜位沈線文。

c種　縄文施文

214は厚手胴部片、ＬＲ縦位施文。215は沈線によるＶ字文内に縄文充填。

d種　沈線文

216は縦位の沈線と集合条線文､217は垂下沈線の端部、新しくなる可能性あり。

第８群　後期前半

第１類

218は波状を呈す浅鉢か、波頂部小さく環状把手、口縁部及び内面に円形文、刻みを付す。219は口縁がくの字に肥厚、口縁外側は帯状に浅く撫でている。220～223は同一個体片と見られる、薄手で口縁下に並行する２本の隆線廻らす、８字文で繋ぎ、そこから隆線垂下。隆線に押圧文見られる。

第２類　無文土器

224～227。224は直立気味の口縁部浅い隆線が廻る、225は鉢か、内外面研磨、226、227は頸部がやや締まる壺型を呈す。

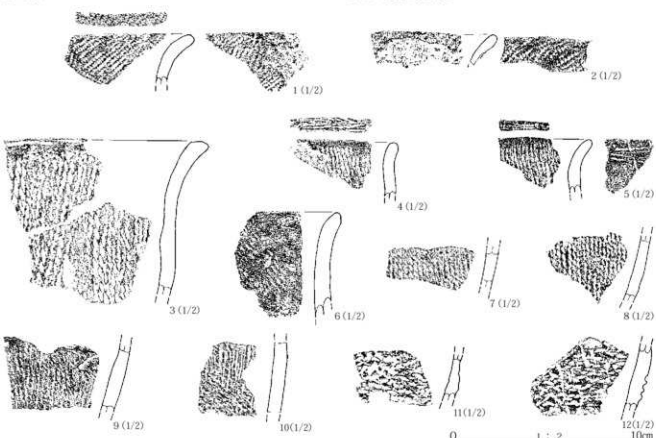
第９群　縄文晩期から弥生

第１類　縄文晩期

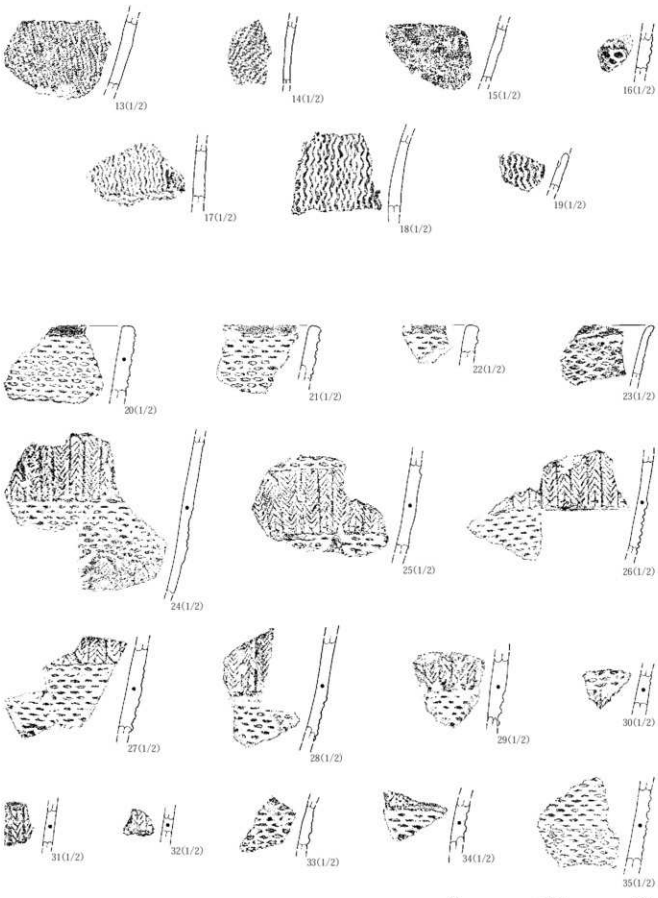
228浅鉢、横位沈線間縄文施文。229は沈線による変形工字文か、以下縄文施文。

第２類　弥生

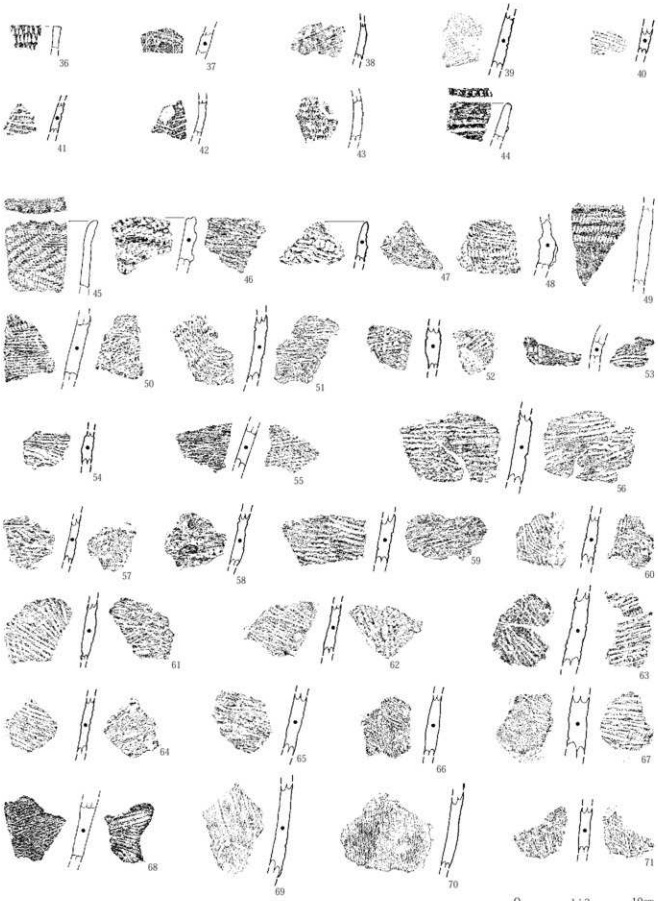
230～232は縦位条痕文。233は多段の刺突文及び３本単位の連続鋸歯文。



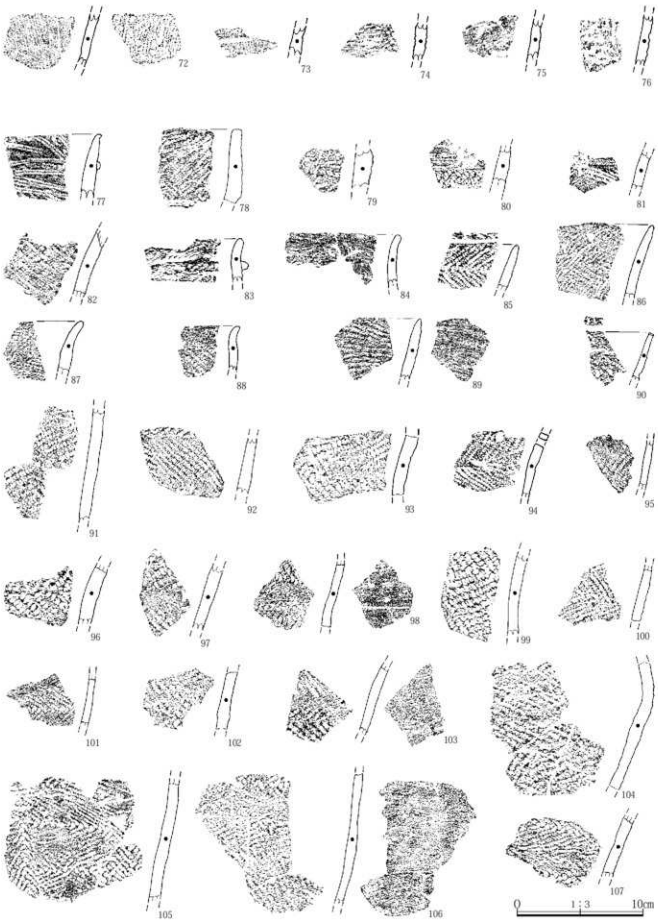
第38図　遺構外出土遺物１



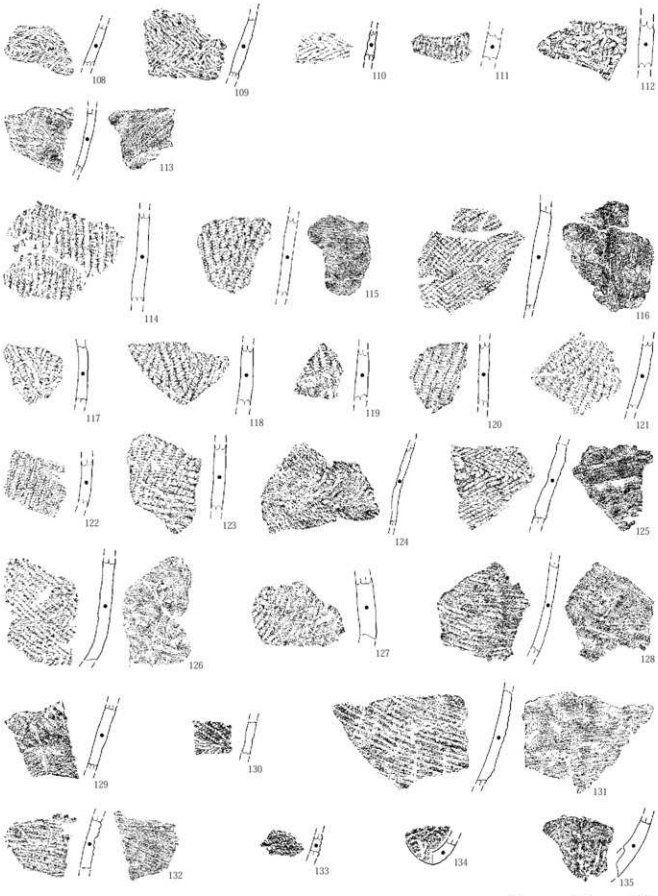
第39図　遺構外出土遺物２



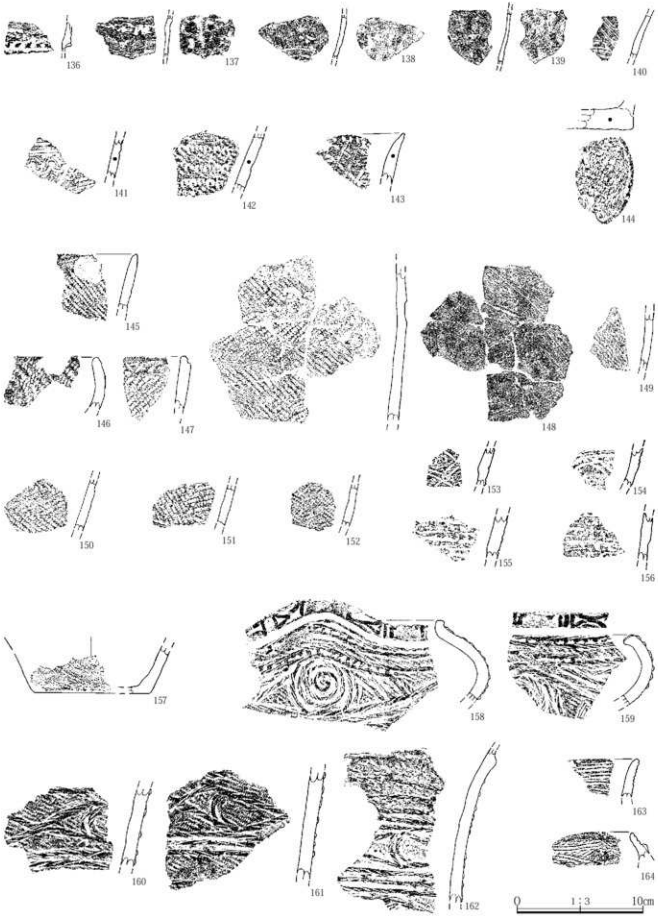
第40図　遺構外出土遺物３



第41図　遺構外出土遺物４



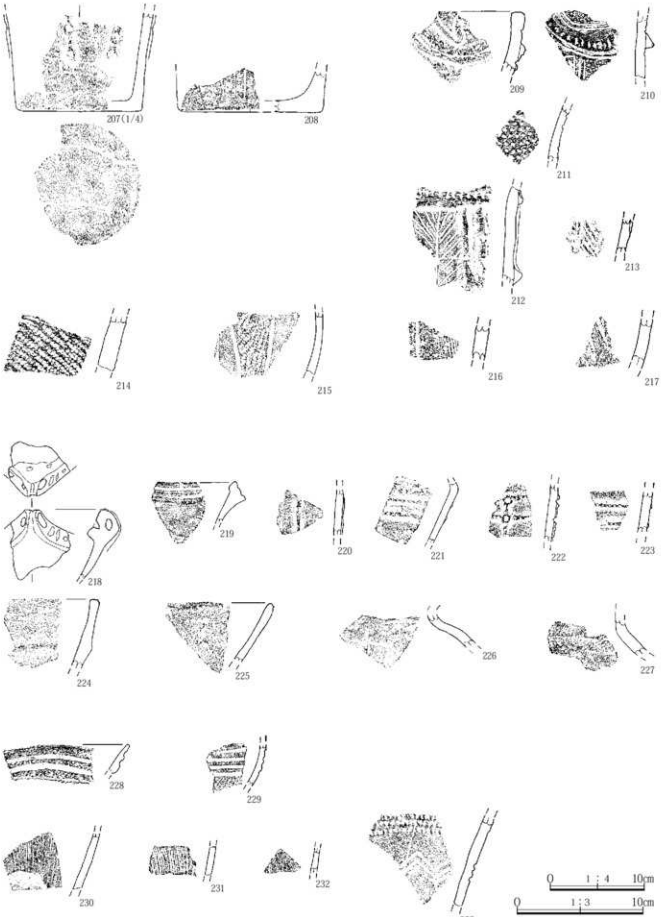
第42図　遺構外出土遺物５



第43図　遺構外出土遺物６

第44図　遺構外出土遺物７

第45図　遺構外出土遺物８



第46図　遺構外出土遺物９

遺構外出土の石器（第47～50図　PL. 51）

三平Ⅰ遺跡では、製品、剥片等含め300点以上が出土している。

この内製品として記載した点数は62点で、竪穴建物、及び土坑等の遺構に伴って出土したものが25点、遺構外からのものが37点である。

石鏃は未製品を含め18点、石錐１点、楔形石器１点、石匙２点、スクレイパー２点、打製石斧５点、磨製石斧１点、磨石５点、凹石２点である。

遺構外出土石器の多くは、平成24・25年度調査区北側部に集中して見られた、遺構は平安期の竪穴建物、及び土坑が点在するが、縄文時代の遺構に関しては僅かな土坑以外見られない場所となる。

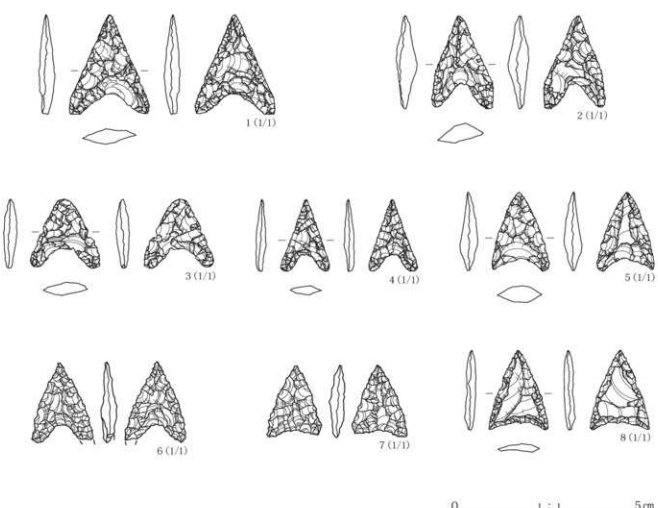
ただ、土器に関しては早期から中期前半期のものがややまとまった状況で出土している。

器種の特徴としては、石鏃類は凹基無茎鏃１～12を主体とし、若干の平基鏃13、14、16が見られる。15、17、19は未製品と考えられる。石材は黒曜石、チャートの他流紋岩が多く使われている。

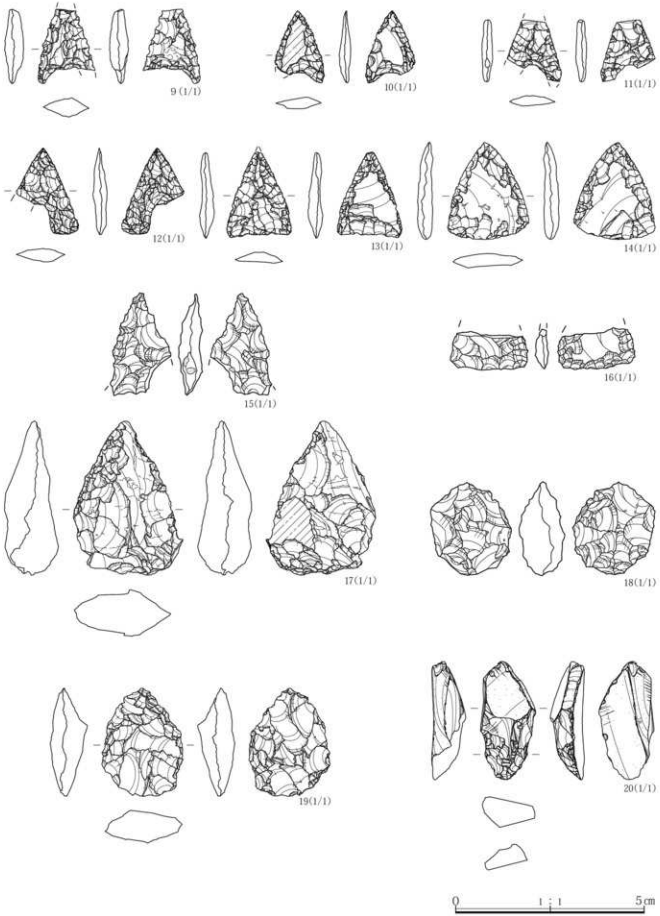
18は楔形石器。20は彫器あるいは石錐の未製品か。

石匙は縦型２点21、22が見られるが、22は不定形で未製品とみられる。23、24はスクレイパーか、23は横型で直刃。

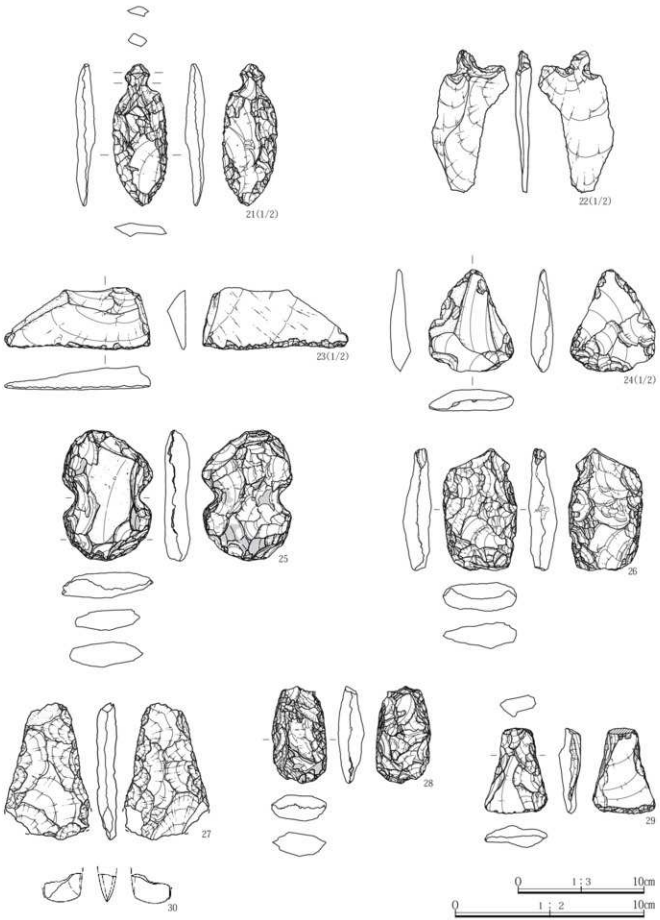
打製石斧については、分銅型25、撥型27、29の他極めて短身の26、28がある。27は平安時代の竪穴建物のカマド上で出土。磨製石斧の刃部片30も７号竪穴建物の覆土中より出土している。磨石は、不定形な礫を利用している、33、34は平安時代の竪穴建物からの出土であり、帰属時期は不明である。凹石２点36、37はいずれも割れており、両面に凹み穴が見られる。



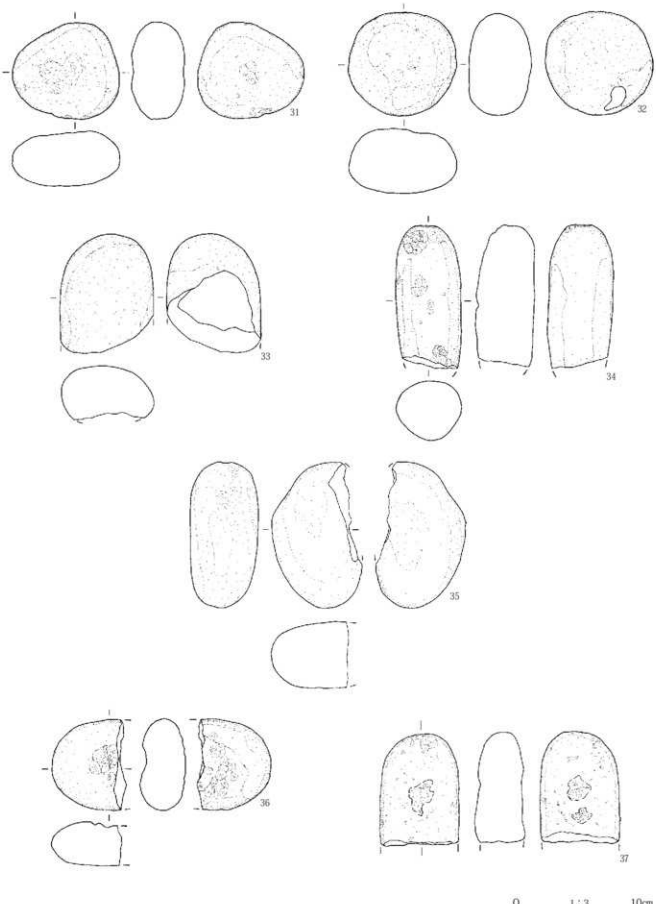
第47図　遺構外出土遺物10



第48図　遺構外出土遺物11



第49図　遺構外出土遺物12



第50図　遺構外出土遺物13

第６表　縄文時代　遺物観察表

６号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第12図 PL.44	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部				含繊維/普通/にぶい橙色	横位隆帯に結条体圧痕文か	第３群第１類
第12図 PL.44	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部				含繊維/普通/にぶい橙色	縄文ＲＬ・ＬＲで羽状縄文	第４群第１類
第12図 PL.44	3	縄文土器 深鉢	覆土 胴部				含繊維/普通/にぶい橙色	縄文ＲＬ斜位施文	第４群第１類
第12図 PL.44	4	剥片石器 石鏃	覆土 完形	長 3.05 幅 1.80	厚 0.52 重 2.79		流紋岩	無茎凹基であるが、抉りはほとんど見られない、鏃身下部が厚み有す	第３群第１類
第12図 PL.44	5	剥片石器 石鏃	覆土 ほぼ完形	長 2.89 幅 2.20	厚 0.62 重 3.19		チャート	凹基無茎であるが、抉りはきわめて浅い、両脚は僅かに作り出される形状、片脚を欠く、厚み有し、全体に作りは丁寧	第３群第１類
第12図 PL.44	6	剥片石器 石鏃	覆土 ほぼ完形	長 2.29 幅 1.52	厚 0.47 重 1.18		流紋岩	凹基無茎鏃であるが、両脚が僅かに作り出される形状、片脚を欠く	第３群第１類
第13図 PL.44	7	剥片石器 石鏃	覆土 欠損	長 2.25 幅 1.58	厚 0.45 重 1.35		流紋岩	凹基無茎鏃であるが、両脚が僅かに作り出される形状、片脚、先端部を欠く、器面風化	第３群第１類
第13図 PL.44	8	剥片石器 石鏃	覆土 完形	長 3.80 幅 0.83	厚 0.60 重 1.63		チャート	中央部分が幅狭に膨らみ、両端が細く刃部が作り出される	第３群第１類
第13図 PL.44	9	剥片石器 石鏃	覆土 未製品	長 3.51 幅 2.45	厚 1.10 重 9.94		流紋岩	中央部が高まり荒割りされた剥片、石鏃未製品と思われる	第３群第１類
第13図 PL.44	10	剥片石器 石鏃	覆土 未製品	長 3.82 幅 2.59	厚 0.84 重 8.64		流紋岩	両側縁部が荒割りされた剥片、石鏃未製品と思われる	第３群第１類
第13図 PL.44	11	剥片石器 石匙	覆土 欠損	長 (2.10) 幅 3.05	厚 0.90 重 (5.05)		チャート	横型石匙、つまみ部分を残し半分を欠く	第３群第１類

８号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第17図 PL.44	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部				含繊維/普通/にぶい褐色・にぶい橙色	口縁部欠、やや外反、胴中下位に屈曲を持つ器形、胴上部に横位の隆帯廻らす、隆帯及び沿うように横斜突文、縄文ＬＲを施文するが、まばらである。胴部には縦方向の斜突文が見られる	第４群第１類
第17図 PL.44	2	縄文土器 深鉢	覆土 口縁片				含繊維/普通/黒褐色	口縁部肥厚、縄文ＲＬ、ＬＲの横位羽状縄文、３と同一個体	第４群第１類
第17図 PL.44	3	縄文土器 深鉢	覆土 口縁片				含繊維/普通/黒褐色	口縁部肥厚、縄文ＲＬ、ＬＲの横位羽状縄文、２と同一個体	第４群第１類
第17図 PL.44	4	縄文土器 深鉢	覆土 口縁片				含繊維/普通/黒褐色	羽状縄文ＬＲ、ＲＬ横位施文	第４群第１類
第17図 PL.44	5	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部片				含繊維/良/黒褐色	横位羽状縄文	第４群第１類
第17図 PL.44	6	縄文土器 深鉢	覆土 口縁片				含繊維/普通/黒褐色	縄文ＬＲ・ＲＬで横位羽状縄文	第４群第１類
第17図 PL.44	7	縄文土器 深鉢	覆土 口縁片				含繊維/普通/褐色	８と同一個体	第４群第１類
第17図 PL.44	8	縄文土器 深鉢	炉 口縁片	口 (24.0)			含繊維/普通/灰黄褐色	波状口縁、横位結節縄文ＲＬ・ＬＲ横位多段施文、口縁部に連続刻み文、７と同一個体	第４群第１類
第17図 PL.44	9	縄文土器 深鉢	覆土 口縁片				含繊維/普通/黒褐色	縄文ＲＬ・ＬＲで羽状縄文	第４群第１類
第17図 PL.44	10	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片				含繊維/普通/褐色	横位沈線で文様帯を画す、縦位、斜格子文様描く、以下ＲＬ・ＬＲ羽状縄文施文	第４群第１類
第17図 PL.44	11	縄文土器 深鉢	覆土 胴部				含繊維/普通/黒褐色・褐色	縄文ＲＬ・ＬＲによる多段羽状縄文	第４群第１類
第17図 PL.44	12	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片				含繊維/普通/灰黄褐色	２本の横位隆帯に連続刺突列文、口縁部区画帯には斜め方向の刺突文、Ｒ・Ｌ２本１対の撚糸側面圧痕文、下位には２本の撚糸文Ｒとして斜格子、Ｊ字状の側面圧痕文、地文にはＲＬ縄文横位施文	第４群第１類
第17図 PL.44	13	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片				含繊維/良/褐色	横位羽状縄文	第４群第１類
第17図 PL.44	14	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片				含繊維/普通/にぶい黄褐色	横位の肥厚する隆帯、０段多条ＬＲ・ＲＬによる横位羽状縄文	第４群第１類
第17図 PL.44	15	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片				含繊維/普通/にぶい黄橙色	絡条体圧痕、複数横位及び斜めに施文、内面縦位の擬条痕、内面に指頭圧痕文	第３群第１類
第17図 PL.44	16	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片				含繊維/普通/褐色	縄文ＲＬ・ＬＲで羽状縄文	第４群第１類
第17図 PL.44	17	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片				含繊維/普通/黒褐色	０段多条縄文ＲＬ・ＬＲで羽状多段施文	第４群第１類
第18図 PL.44	18	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片				含繊維/普通/褐色	縄文ＲＬ・ＬＲで羽状縄文	第４群第１類
第18図 PL.44	19	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片				含繊維/普通/橙色	０段多条ＬＲ・ＲＬによる横位羽状縄文、菱形構成か	第４群第１類
第18図 PL.44	20	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片				含繊維/良/褐色	横位羽状縄文	第４群第１類

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）					胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第18図 PL.44	21	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片						含繊維/普通/橙色	0段多条縄文ＬＲ斜位施文、条が縦方向に走る	第４群第１類
第18図 PL.44	22	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部片						含繊維/良/褐色	口唇部は直立し薄く仕上げられている、直下からループ文横位多段施文、23・25と同一個体	第４群第２類
第18図 PL.44	23	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片						含繊維/普通/にぶい黄褐色	ループ文多段施文、22・25と同一個体	第４群第２類
第18図 PL.44	24	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片						含繊維/良/褐色	輪状のループ文多段施文	第４群第２類
第18図 PL.44	25	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片						含繊維/普通/にぶい黄褐色	ループ文多段施文、22・23と同一個体	第４群第２類
第18図 PL.44	26	縄文土器 深鉢	覆土 底部						含繊維/普通/にぶい黄褐色	縄文ＬＲ施文	第３群第１類
第18図 PL.44	27	縄文土器 深鉢	覆土 底部片	底	(5.0)				含繊維/良/褐色	縄文ＬＲ施文	第４群第２類
第18図 PL.45	28	縄文土器 深鉢	覆土 胴～底部						含繊維/普通/にぶい黄褐色	先底端部を欠く、縄文ＬＲを先端部に向かって斜位施文	第３群第１類
第18図 PL.45	29	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片						微砂粒含む/良/にぶい黄褐色	爪形文をハの字連続縦位施文、やや薄手	第３群第２類
第18図 PL.45	30	縄文土器 深鉢	覆土 口縁片						少量の繊維含む/良/にぶい黄褐色	楕円押型文	第１群第５類
第18図 PL.45	31	剥片石器 石鏃	覆土 ほぼ完形	長	2.15 (1.53)	厚 重	0.32 (0.78)		チャート	凹基無茎鏃、抉りは浅い、側縁は直線的で作りは丁寧	
第18図 PL.45	32	剥片石器 石鏃	覆土 完形	長 幅	1.36 0.98	厚 重	0.24 0.25		黒曜石	小型の凹基無茎鏃、山形に抉り、先端を僅かに欠く抉りは浅く円形	
第18図 PL.45	33	剥片石器 石鏃	覆土 ほぼ完形	長 幅	1.71 1.12	厚 重	0.18 0.33		黒曜石	小型の凹基無茎鏃、山形に抉り、先端を僅かに欠く	
第18図 PL.45	34	剥片石器 石鏃	覆土 欠損	長 幅	1.50 (0.97)	厚 重	0.26 (0.30)		黒曜石	片脚を僅かに欠く、小型の凹基無茎でやや厚みあり	
第18図 PL.45	35	剥片石器 石鏃	覆土 欠損	長 幅	2.00 (1.35)	厚 重	0.28 (0.43)		黒曜石	凹基無茎鏃、脚は長く先端部は細く仕上げられている、抉りは深い、片脚を欠く	
第18図 PL.45	36	剥片石器 石鏃	覆土 ほぼ完形	長 幅	2.10 (1.37)	厚 重	0.27 (0.77)		黒曜石	平基無茎鏃、板状の薄片から作り出す薄片鏃、両側縁部に刃部調整見られるが、基部はほとんど無調整	
第18図 PL.45	37	礫石器 磨石	覆土 ほぼ完形	長 幅	13.30 (6.80)	厚 重	3.00 491.8		粗粒安山岩	扁平な長円形礫、両面に使用痕、片側縁部に打痕、表面部分的に赤色顔料の付着	
第18図 PL.45	38	礫石器 磨石	覆土 完形	長 幅	13.10 9.30	厚 重	4.40 899.5		粗粒安山岩	扁平なやや厚手の礫、両面に使用痕	
第19図 PL.45	39	礫石器 磨石	覆土 完形	長 幅	12.50 8.10	厚 重	4.40 723.7		細粒安山岩	なすび形の扁平礫利用、両面、側縁部使用、両側縁部の使用範囲著	
第19図 PL.45	40	礫石器 磨石	覆土 完形	長 幅	13.00 7.30	厚 重	3.30 483.0		粗粒安山岩	扁平な長円礫、両面に若干の使用痕	
第19図 PL.45	41	礫石器 磨石	覆土 欠損	長 幅	(12.70) 6.80	厚 重	4.40 568.0		粗粒安山岩	扁平な長円礫利用、両面、側縁部使用、両表面に粗い凹凸見られ、赤色顔料が凹部に残る	
第19図 PL.45	42	礫石器 磨石	覆土 欠損	長 幅	(8.10) 6.60	厚 重	4.80 432.6		細粒輝石安山岩	端部に打痕、表面に使用痕	

９号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）					胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第23図 PL.45	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁片						石英、雲母の混入目立つ/良/にぶい褐色	口縁は角頭状でやや外反、縄縄文ＬＲ横位、表裏及び口唇部に施文、内面黒色、石英、雲母の混入目立つ	第１群第１類
第23図 PL.45	2	縄文土器 深鉢	覆土 口縁片						石英、雲母の混入目立つ/良/にぶい赤褐色	やや外反、口唇部僅かに欠損、縄縄文ＲＬ横位、表裏及び口唇部に施文、内面黒色、石英、雲母の混入目立つ	第１群第１類
第23図 PL.45	3	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片						砂粒含む/良/褐色	燃糸Ｌ縦位密接施文	第１群第２類
第23図 PL.45	4	剥片石器 石鏃	覆土 完形	長 幅	1.48 1.41	厚 重	0.25 0.25		黒曜石	ほぼ平基鏃、頂点部が尖る正三角形で、先端部と基部の判別がつきにくい	
第23図 PL.45	5	剥片石器 石匙	覆土 未製品	長 幅	(4.88) (2.33)	厚 重	0.76 12.0		黒曜石	木の葉状の薄片の両側縁部に刃部を作り出す、つまみ部片側に抉り、未製品か	
第23図 PL.45	6	剥片石器 スクレイパー	覆土 欠損	長 幅	(2.29) (2.63)	厚 重	0.75 4.0		黒色頁岩	直刃部の破片、両側から押圧剥離により刃部を作出	
第23図 PL.45	7	剥片石器 スクレイパー	覆土 欠損	長 幅	(3.01) (4.05)	厚 重	0.60 11.60		黒色頁岩	不定形薄片の丸みを有す縁辺の一部に刃部を作出	

10号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）					胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第26図 PL.45	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁片						含繊維/にぶい黄橙色	口縁直立気味、横位ＲＬ	第４群第１類
第26図 PL.45	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片						含繊維/普通/橙色	羽状縄文ＬＲ、ＲＬ横位施文	第４群第１類
第26図 PL.45	3	縄文土器 深鉢	覆土 胴～底部片						含繊維/良/にぶい赤褐色	0段多状羽状縄文施文、実底部	第４群第１類

土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第33図 PL.45	59土 1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片					無/良/灰褐色	０段多条ＲＬ横位	第４群第１類
第33図 PL.45	61土 1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部					砂粒多く含む/良/灰黄褐色	隆帯による突起文，円形文を表出．口縁部に刺突状の刻み有す．隆帯下に連続刺突文	第６群第２類
第33図 PL.45	62土 1	礫石器 磨石	覆土 ほぼ完形	長 幅	14.03 6.77	厚 重	3.98 500.0	変質安山岩	扁平な楕円形，両面に使用痕	
第33図 PL.45	66土 1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁					砂粒多く含む/良/橙色	隆帯による楕円区画文，隆帯に沿って連続結節文，連弧状文	第６群第２類
第33図 PL.45	69土 1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片					含繊維/良/にぶい褐色	０段多条ＬＲ横位	第４群第１類
第33図 PL.45	76土 1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片					微砂粒含む/良/にぶい橙色	平行細沈線	第２群第１類
第33図 PL.45	77土 1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁片					微砂粒含む/良/にぶい橙色	口縁，口唇部ＲＬ縄文施文，口唇部上，口縁，体部と3回の施文が観察される，器面の乾燥具合の違い か	第１群第３類
第33図 PL.45	77土 2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片					微砂粒含む/良/にぶい黄橙色	燃糸Ｒ縦位，施文は浅い	第１群第２類
第33図 PL.45	79土 1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片					砂粒含む/良/にぶい黄橙色	縄文ＬＲ不定方向施文，薄手で硬質	第１群第３類
第33図 PL.45	84土 1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁片					微砂粒含む/良/にぶい褐色	口縁部僅かに外反，燃糸Ｒ縦位，原体の撚りが弱い，内面指頭圧痕，粗による擦乱か	第１群第２類
第33図 PL.45	85土 1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片					微砂粒含む/良/にぶい橙色	燃糸Ｒ縦位	第１群第２類
第33図 PL.45	88土 1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片					砂粒多く含む/良/にぶい赤褐色	縄文ＲＬ横位	第５群第１類
第33図 PL.45	94土 1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片					砂粒多く含む/良/明赤褐色	断面三角の横位隆帯に刻み，上下に２本の連続押し引き文	第５群第１類
第33図 PL.46	101土 1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁～胴部	口	15.0			砂粒含む/良/黒褐色・にぶい橙色	縦構文ＬＲを密接施文，口縁部直下より縦位に施文，内外面炭化物付着，成形時の指頭痕顕著	第１群第３類
第33図 PL.46	101土 2	縄文土器 深鉢	覆土 口縁片					砂粒含む/良/にぶい橙色	口縁部外反，縄文ＲＬ横位，口縁内面にも部分的に施文	第１群第１類

ピット

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第37図 PL.46	38ピット 1	縄文土器 浅鉢	覆土 口縁	口	(42.8)			砂粒多く含む/良/橙色	口縁部に楕円文を隆線で４単位作りだす，接点部は高まり環状となり，上位に円孔．隆帯に沿って細い２条の結節沈線を廻らし，内側には連続山形文を描く．体部ヒダ状正横文．	第６群２類
第37図 PL.46	43ピット 1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片					無/良/にぶい赤褐色	縦位隆帯	第６群２類

遺構外

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第38図 PL.46	1	縄文土器 深鉢	口縁片					微砂粒、金雲母含む/良/灰褐色	表裏、口唇部縄文ＬＲ横位施文	第１群第１類
第38図 PL.46	2	縄文土器 深鉢	口縁部片					精製/良/褐色	外反する口縁部片，薄手で口唇部やや肥厚，表面が調落，内外面上位に縄文ＬＲ横位施文	第１群第１類
第38図 PL.46	3	縄文土器 深鉢	口縁部					金雲母、石英多く含む/良/にぶい赤褐色・黒褐色	口縁部短く外反，太めの原体による燃糸文Ｒ縦位施文，金雲母目立つ	第１群第２類
第38図 PL.46	4	縄文土器 深鉢	口縁片					微砂粒含む/良/暗褐色	口縁部短く外反，直下から縦位燃糸文Ｒ縦位，口唇部内面横位の条線，５と同一個体	第１群第２類
第38図 PL.46	5	縄文土器 深鉢	口縁片					微砂粒含む/良/暗褐色	口唇部，口縁部直下から縦位燃糸文Ｒ縦位，口唇部内面横位の条線，４と同一個体	第１群第２類
第38図 PL.46	6	縄文土器 深鉢	口縁片					精製/良/明赤褐色	口縁部短く外反，燃糸文R浅い施文，胎土に夾雑物含まず焼きが良い，９と同一個体	第１群第２類
第38図 PL.46	7	縄文土器 深鉢	胴部片					精製/良/にぶい褐色	燃糸文Ｒ縦位	第１群第２類
第38図 PL.46	8	縄文土器 深鉢	胴部片					微砂粒含む/良/にぶい黄褐色	燃糸文Ｒ縦位	第１群第２類
第38図 PL.46	9	縄文土器 深鉢	胴部片					精製/硬質/褐色	燃糸文Ｒ縦位施文，胎土に夾雑物含まず，焼きが良い，６と同一個体	第１群第２類
第38図 PL.46	10	縄文土器 深鉢	胴部					精製/良/にぶい褐色	斜位燃糸文R施文，条痕文	第１群第２類
第38図 PL.46	11	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒含む/良/明赤褐色	器面荒れている，燃糸文Ｒ	第１群第２類
第38図 PL.46	12	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒含む/良/にぶい赤褐色	器面荒れている，燃糸文Ｒか	第１群第２類
第39図 PL.46	13	縄文土器 深鉢	胴部片					微砂粒含む/良/明褐色	縄文ＲＬ施文	第１群第３類

挿図PL.No.	No.	種類器種	出土位置残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第39図PL.46	14	縄文土器深鉢	胴部					石英、雲母混入目立つ/良/黒褐色	縄文ＬＲ横位施文、薄手である、石英粒含む	第１群第３類
第39図PL.46	15	縄文土器深鉢	胴部片					微砂粒含む/良/にぶい赤褐色	薄手の無文土器、砂粒含む	第１群第４類
第39図PL.46	16	縄文土器深鉢	胴部					微砂粒含む/良/にぶい赤褐色	横構円押型文	第１群第５類
第39図PL.46	17	縄文土器深鉢	胴部片					微砂粒含む/良/にぶい褐色	山形押型文を縦方向密接施文	第１群第５類
第39図PL.46	18	縄文土器深鉢	胴部片					微砂粒含む/良/にぶい橙色	山形押型文を縦方向密接施文	第１群第５類
第39図PL.46	19	縄文土器深鉢	胴部片					微砂粒含む/良/にぶい赤褐色	山形押型文	第１群第５類
第39図PL.47	20	縄文土器深鉢	胴部					少量の繊維含む/良/にぶい褐色	横構円押型文	第１群第５類
第39図PL.47	21	縄文土器深鉢	口縁					微砂粒含む/良/にぶい黄褐色	横構円押型文	第１群第５類
第39図PL.47	22	縄文土器深鉢	口縁					微砂粒含む/良/にぶい黄橙色	横構円押型文	第１群第５類
第39図PL.47	23	縄文土器深鉢	口縁片					微砂粒含む/良/にぶい橙色	薄手作り、横構円押型文	第１群第５類
第39図PL.47	24	縄文土器深鉢	胴部					少量の繊維含む/良/にぶい橙色	横構円文と山形文を交互に施文、山形文は連続せず、縦に区画線があることから、縦位矢羽根状に見える	第１群第５類
第39図PL.47	25	縄文土器深鉢	胴部					少量の繊維含む/良/にぶい橙色	横構円文と山形文を交互に施文、山形文は連続せず、縦に区画線があることから、縦位矢羽根状に見える	第１群第５類
第39図PL.47	26	縄文土器深鉢	胴部					少量の繊維含む/良/にぶい橙色	横構円文と山形文を交互に施文、山形文は連続せず、縦に区画線があることから、縦位矢羽根状に見える	第１群第５類
第39図PL.47	27	縄文土器深鉢	胴部					少量の繊維含む/良/にぶい橙色	横構円文と山形文を交互に施文、山形文は連続せず、縦に区画線があることから、縦位矢羽根状に見える	第１群第５類
第39図PL.47	28	縄文土器深鉢	胴部					微砂粒含む/良/灰褐色	横構円文と山形文を交互に施文、山形文は連続せず、縦に区画線があることから、縦位矢羽根状に見える	第１群第５類
第39図PL.47	29	縄文土器深鉢	胴部					少量の繊維含む/良/橙色	横構円文と山形文を交互に施文、山形文は連続せず、縦に区画線があることから、縦位矢羽根状に見える	第１群第５類
第39図PL.47	30	縄文土器深鉢	胴部					少量の繊維含む/良/にぶい赤褐色	横構円文と山形文を交互に施文	第１群第５類
第39図PL.47	31	縄文土器深鉢	胴部					少量の繊維含む/良/橙色	山形文施文、山形文は連続せず、縦に区画線があることから、縦位矢羽根状に見える	第１群第５類
第39図PL.47	32	縄文土器深鉢	胴部					微砂粒含む/良/にぶい赤褐色	山形文を施文	第１群第５類
第39図PL.47	33	縄文土器深鉢	胴部					微砂粒含む/良/にぶい橙色	横構円押型文	第１群第５類
第39図PL.47	34	縄文土器深鉢	胴部					少量の繊維含む/良/橙色	横構円文と山形文を交互に施文、山形文は連続せず、縦に区画線があることから、縦位矢羽根状に見える	第１群第５類
第39図PL.47	35	縄文土器深鉢	胴部					少量の繊維含む/良/にぶい赤褐色	横構円押型文	第１群第５類
第40図PL.47	36	縄文土器深鉢	口縁部片					微砂粒含む/良/暗褐色	口縁部に連続する爪形文を多段施文、口唇部角頭状	第２群第１類平安竪穴建物出土
第40図PL.47	37	縄文土器深鉢	胴部片					砂粒含む/普通/明褐色	縦位の刺沈線により菱形文表出	第２群第１類
第40図PL.47	38	縄文土器深鉢	胴部					微砂粒含む/良/橙色	斜位の並行細沈線文	第２群第１類
第40図PL.47	39	縄文土器深鉢	胴部					少量の繊維含む/良/黒褐色	斜位の細沈線文	第２群第１類
第40図PL.47	40	縄文土器深鉢	胴部					少量の繊維含む/良/にぶい褐色	平行沈線文	第２群第１類
第40図PL.47	41	縄文土器深鉢	胴部					少量の繊維含む/良/灰黄褐色	平行沈線文	第２群第１類
第40図PL.47	42	縄文土器深鉢	胴部					砂粒含む/良/褐灰色	並行細沈線	第２群第１類
第40図PL.47	43	縄文土器深鉢	胴部					微砂粒含む/良/にぶい橙色	４本単位の櫛歯状工具による刺突文及び沈線による曲線文	第２群第１類
第40図PL.47	44	縄文土器深鉢	口縁部					砂粒多く含む/良/明褐色	横位細隆帯上に結節文か、口唇部に連続刺突文	第２群第１類
第40図PL.47	45	縄文土器深鉢	口縁					砂粒多く含む/良/明褐色	口縁部僅かに外反、口唇部は緩やかな小波状を呈し、縄文が施文される、口縁下は絡条体圧痕により羽状文構成、口縁下に横位の圧痕文で文様を画す、さらに縦位の絡条体圧痕文	第３群第１類
第40図PL.47	46	縄文土器深鉢	口縁					含繊維/普通/にぶい赤褐色	低い隆帯上に絡条圧痕文か、内面条痕文	第３群第１類
第40図PL.47	47	縄文土器深鉢	胴部					含繊維/普通/にぶい褐色	絡条体圧痕文により山形文表出、地文条痕文	第３群第１類
第40図PL.47	48	縄文土器深鉢	胴部					含繊維/普通/暗褐色	隆帯に絡条体圧痕文、及び条痕文	第３群第１類

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第40図 PL.47	49	縄文土器 深鉢	胴部					白色粒多く含む/良/にぶい黄橙色	絡条体圧痕文	第３群第１類
第40図 PL.47	50	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/普通/にぶい橙色	絡条体圧痕及び横位条痕文、内面条痕文	第３群第１類
第40図 PL.47	51	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/普通/にぶい橙色	絡条体圧痕及び条痕文、内面条痕文	第３群第１類
第40図 PL.47	52	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒含む/普通/明褐灰色	沈線文、縄文か	第３群第２類
第40図 PL.47	53	縄文土器 深鉢	胴部片					含繊維/普通/明褐色	刺突文、沈線	第３群第２類
第40図 PL.47	54	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/普通/にぶい橙色	条痕文	第３群第３類
第40図 PL.47	55	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/普通/にぶい橙色	絡条体圧痕及び横位条痕文、内面条痕文	第３群第３類
第40図 PL.47	56	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/普通/にぶい橙色	内外面条痕文	第３群第３類
第40図 PL.47	57	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒含む/普通/橙色	斜位、横位の条痕文	第３群第３類
第40図 PL.47	58	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/普通/赤褐色	条痕か	第３群第３類
第40図 PL.47	59	縄文土器 深鉢	胴部					砂礫含む/普通/黒褐色	内外面条痕文	第３群第３類
第40図 PL.47	60	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒含む/普通/にぶい橙色	斜位、横位の条痕文	第３群第３類
第40図 PL.47	61	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/普通/褐灰色	内外面条痕文	第３群第３類
第40図 PL.47	62	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒含む/良/浅黄橙色	条痕文	第３群第３類
第40図 PL.47	63	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/普通/明赤褐色	内外面条痕文	第３群第３類
第40図 PL.47	64	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/普通/淡赤橙色	内外面条痕文	第３群第３類
第40図 PL.47	65	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/普通/にぶい橙色	条痕文	第３群第３類
第40図 PL.47	66	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/普通/浅黄橙色	縦位の繊条痕文	第３群第３類
第40図 PL.47	67	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/普通/にぶい赤褐色	内外面条痕文	第３群第３類
第40図 PL.47	68	縄文土器 深鉢	胴部片					砂粒含む/普通/にぶい黄褐色	繊条痕文、内面粗い条痕文、やや厚手	第３群第３類
第40図 PL.47	69	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒含む/普通/にぶい橙色	縦位の繊条痕文	第３群第３類
第40図 PL.47	70	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒含む/普通/にぶい黄橙色	縦位の繊条痕文	第３群第３類
第40図 PL.47	71	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/普通/橙色	内外面条痕文	第３群第３類
第41図 PL.47	72	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/普通/にぶい褐色	内外面条痕文	第３群第３類
第41図 PL.47	73	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒含む/普通/にぶい黄橙色	縦位条痕文	第３群第３類
第41図 PL.47	74	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/普通/にぶい黄橙色	条痕文か	第３群第３類
第41図 PL.48	75	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/やや軟/にぶい橙色	条痕文か	第３群第３類
第41図 PL.48	76	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/やや軟/にぶい橙色	条痕文か、器面荒れて不鮮明	第３群第３類
第41図 PL.48	77	縄文土器 深鉢	口縁片					含繊維/良/にぶい黄橙色	隆線及びR、L縄文２本単位の側面圧痕文、内面に僅かに赤彩痕、81と同一個体	第４群第１類
第41図 PL.48	78	縄文土器 深鉢	口縁					含繊維/普通/にぶい黄橙色	燃糸R・L２本一組の側面圧痕文	第４群第１類
第41図 PL.48	79	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/普通/灰黄褐色	縄文R・L２本による側面圧痕	第４群第１類
第41図 PL.48	80	縄文土器 深鉢	胴部片					含繊維/やや軟/灰黄褐色	R・L縄文２本単位の側面圧痕文を横位多段施文、以下縄文L R横位	第４群第１類
第41図 PL.48	81	縄文土器 深鉢	胴部片					含繊維/良/灰黄褐色	２本１単位の燃糸RとLの側面圧痕文による菱形文構成か、77と同一個体	第４群第１類
第41図 PL.48	82	縄文土器 深鉢	胴部片					含繊維/普通/にぶい橙色	R・L縄文側面圧痕文による斜格子文	第４群第１類
第41図 PL.48	83	縄文土器 深鉢	口縁片					含繊維/普通/にぶい褐色	口縁下に横位隆帯、隆帯及び器面にL R縄文横位施文	第４群第１類
第41図 PL.48	84	縄文土器 深鉢	口縁片					含繊維/やや軟/褐色	口縁端部丸みを持って肥厚、刺突文見られる	第４群第１類

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第41図 PL.48	85	縄文土器 深鉢	口縁片					微砂粒含む/良/にぶい黄褐色	縄文０段多条ＬＲ・ＲＬの横位羽状縄文、口唇部に斜めの連続刻み文	第４群第１類
第41図 PL.48	86	縄文土器 深鉢	口縁部片					含繊維/普通/にぶい黄褐色	縄文０段多条ＬＲ・ＲＬの横位羽状縄文を多段施文か	第４群第１類
第41図 PL.48	87	縄文土器 深鉢	口縁部片					微砂粒含む/普通/にぶい黄褐色	縄文０段多条ＬＲ・ＲＬの横位羽状縄文を多段施文か	第４群第１類
第41図 PL.48	88	縄文土器 深鉢	口縁片					含繊維/普通/にぶい黄橙色	口縁僅かに外反、縄文ＲＬ横位施文	第４群第１類
第41図 PL.48	89	縄文土器 深鉢	口縁片					含繊維/良/明褐色	縄文ＲＬ横位施文	第４群第１類
第41図 PL.48	90	縄文土器 深鉢	口縁部片					微砂粒含む/普通/橙色	縄文ＬＲ縦位、口唇部に刻み	第４群第１類
第41図 PL.48	91	縄文土器 深鉢	胴部片					砂粒含む/良/にぶい橙色	０段多条ＬＲ・ＲＬ縄文羽状縄文、菱形を構成か	第４群第１類
第41図 PL.48	92	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒多く含む/良/橙色	縄文ＬＲ・ＲＬ横位羽状縄文	第４群第１類
第41図 PL.48	93	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/普通/橙色	０段多条ＬＲ・ＲＬ羽状縄文横位施文	第４群第１類
第41図 PL.48	94	縄文土器 深鉢	胴部片					含繊維/普通/明褐色	０段多条ＬＲ・ＲＬの横位羽状縄文、補修孔あり	第４群第１類
第41図 PL.48	95	縄文土器 深鉢	胴部片					微砂粒含む/良/にぶい橙色	０段多条ＲＬ・ＬＲ羽状縄文	第４群第１類 遺構は平安時代
第41図 PL.48	96	縄文土器 深鉢	胴部片					含繊維/普通/にぶい黄褐色	ＲＬ・ＬＲ羽状縄文	第４群第１類
第41図 PL.48	97	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/普通/にぶい黄橙色	縄文ＬＲ・ＲＬ横位羽状縄文	第４群第１類
第41図 PL.48	98	縄文土器 深鉢	胴部片					砂粒含む/普通/黒褐色	０段多条ＬＲ・ＲＬの横位羽状縄文	第４群第１類
第41図 PL.48	99	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/良/橙色	０段多条ＬＲ・ＲＬ羽状縄文横位施文	第４群第１類
第41図 PL.48	100	縄文土器 深鉢	胴部片					微砂粒含む/良/黒褐色	縄文０段多条ＬＲ・ＲＬの横位羽状縄文を多段施文か	第４群第１類
第41図 PL.48	101	縄文土器 深鉢	胴部片					微砂粒含む/良/灰黄褐色	ＲＬ・ＬＲ羽状縄文	第４群第１類
第41図 PL.48	102	縄文土器 深鉢	胴部片					含繊維/普通/にぶい黄橙色	１段多状羽状縄文施文	第４群第１類 遺構は平安時代
第41図 PL.48	103	縄文土器 深鉢	胴部片					砂粒含む/良/にぶい褐色	縄文０段多条ＬＲ・ＲＬの横位羽状縄文を多段施文	第４群第１類
第41図 PL.48	104	縄文土器 深鉢	胴部片					含繊維/普通/明褐色	縄文０段多条ＬＲ・ＲＬの横位羽状縄文を多段施文後、斜格子の燃糸文施文	第４群第１類
第41図 PL.48	105	縄文土器 深鉢	胴部片					含繊維、小礫含む/普通/明褐色	縄文０段多条ＬＲ・ＲＬの羽状縄文横位、縦位施文	第４群第１類
第41図 PL.48	106	縄文土器 深鉢	胴部片					含繊維/普通/明赤褐色	横位羽状縄文	第４群第１類
第41図 PL.48	107	縄文土器 深鉢	胴部片					含繊維/良/褐色	ＲＬ・ＬＲ羽状縄文	第４群第１類
第42図 PL.48	108	縄文土器 深鉢	胴部片					含繊維/普通/黒褐色	正反の合ＲＲＬか	第４群第１類
第42図 PL.48	109	縄文土器 深鉢	胴部片					含繊維/普通/赤褐色	正反の合ＲＲＬか	第４群第１類
第42図 PL.48	110	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/普通/にぶい赤褐色	横位羽状縄文、無節か	第４群第１類
第42図 PL.48	111	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/普通/橙色	０段多条縄文ＬＲ斜位方向施文	第４群第１類
第42図 PL.48	112	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/普通/浅黄橙色	ＲＬ縄文多方向施文	第４群第１類
第42図 PL.48	113	縄文土器 深鉢	胴部片					微砂粒含む/良/褐色	縄文ＲＬ施文、不規則な施文	第４群第１類
第42図 PL.48	114	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/普通/橙色	０段多条ＲＬ縄文斜位方向充填施文	第４群第１類
第42図 PL.48	115	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/普通/橙色	０段多条ＲＬ・ＬＲ縄文縦位羽状、菱形構成か	第４群第１類
第42図 PL.48	116	縄文土器 深鉢	胴部片					含繊維/普通/明褐色	縄文２段多条ＬＲ・ＲＬの羽状縄文を多段施文、菱形構成か	第４群第１類
第42図 PL.48	117	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/良/橙色	０段多条ＬＲ縄文斜位方向充填施文	第４群第１類
第42図 PL.48	118	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/良/灰褐色	縄文ＬＲ・ＲＬ縦位、斜位の羽状縄文	第４群第１類
第42図 PL.48	119	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/普通/黄橙色	０段多条縄文ＲＬ斜位方向施文	第４群第１類
第42図 PL.48	120	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/普通/浅黄橙色	０段多条ＲＬ縄文斜位方向施文	第４群第１類

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第42図 PL.48	121	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/良/にぶい褐色	０段多条ＲＬ縄文斜位方向充填施文	第４群第１類
第42図 PL.48	122	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/普通/褐灰色	０段多条ＲＬ縄文斜位方向施文	第４群第１類
第42図 PL.48	123	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/良/橙色	０段多条ＲＬ・ＬＲ縄文縦位羽状施文	第４群第１類
第42図 PL.48	124	縄文土器 深鉢	胴部片					含繊維/やや軟/橙色	縄文０段多条ＬＲ・ＲＬの横位羽状縄文を多段施文か、やや薄手	第４群第１類
第42図 PL.48	125	縄文土器 深鉢	胴部片					含繊維/普通/にぶい褐色	縄文０段多条ＬＲ・ＲＬの横位羽状縄文を多段施文、菱形構成か	第４群第１類
第42図 PL.48	126	縄文土器 深鉢	胴部片					含繊維/やや軟/にぶい黄褐色	縄文０段多条ＬＲ・ＲＬの横位羽状縄文を多段施文か	第４群第１類
第42図 PL.48	127	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/普通/にぶい橙色	０段多条ＲＬ縄文異方向充填施文	第４群第１類
第42図 PL.48	128	縄文土器 深鉢	口縁片					含繊維/普通/明黄褐色	縄文０段多条ＬＲ施文、浅い施文	第４群第１類
第42図 PL.49	129	縄文土器 深鉢	胴部片					含繊維/良/赤褐色	ＲＬ・ＬＲ羽状縄文	第４群第１類
第42図 PL.49	130	縄文土器 深鉢	胴部片					砂粒含む/良/明黄褐色	撚糸文ＲとＬ横位羽状構成か	第４群第１類
第42図 PL.49	131	縄文土器 深鉢	胴部片					含繊維、褐色粒含む/良/黒褐色	撚糸文Ｌを条間を空けて斜位施文、施文は深い、132は同一個体	第４群第１類
第42図 PL.49	132	縄文土器 深鉢	胴部片					含繊維/良/褐色	撚糸文Ｌを条間を空けて斜位施文、施文は深い、131は同一個体	第４群第１類
第42図 PL.49	133	縄文土器 深鉢	胴部片					含繊維/普通/黒褐色	撚糸文Ｌ横位、条間が広い	第４群第１類
第42図 PL.49	134	縄文土器 深鉢	底部					含繊維/普通/にぶい黄橙色	０段多条縄文ＬＲ	第４群第１類
第42図 PL.49	135	縄文土器 深鉢	底部					含繊維/普通/橙色	底部片、縄文、及び条痕か不鮮明	第４群第１類
第43図 PL.49	136	縄文土器 深鉢	胴部片					微砂粒含む/良/にぶい黄褐色	輪積み部に廻らした隆帯に連続の刺突文、薄手	第４群第１類
第43図 PL.49	137	縄文土器 深鉢	胴部片					微砂粒含む/良/にぶい黄橙色	横位の連続爪形文により、器面に屈曲を表出、無文、薄手、指頭による押圧痕	第４群第１類
第43図 PL.49	138	縄文土器 深鉢	胴部片					微砂粒含む/良/にぶい黄橙色	横位の連続爪形文により、器面に屈曲を表出、無文、薄手、指頭による押圧痕	第４群第１類
第43図 PL.49	139	縄文土器 深鉢	胴部片					微砂粒含む/良/にぶい黄橙色	横位の連続爪形文により、器面に屈曲を表出、無文、薄手、指頭による押圧痕	第４群第１類
第43図 PL.49	140	縄文土器 深鉢	胴部片					雲母小片多く含む/良/暗褐色	薄手で焼きは堅致、斜位の細条痕文交差	第４群第１類
第43図 PL.49	141	縄文土器 深鉢	胴部					含繊維/普通/灰赤色	竹管文による横位平行沈線、連続コンパス文	第４群第２類
第43図 PL.49	142	縄文土器 深鉢	胴部片					含繊維/良/にぶい橙色	ループ文多段施文	第４群第２類
第43図 PL.49	143	縄文土器 深鉢	口縁片					含繊維/良/橙色	やや外反し口唇部は先細で刻み有す、細線による斜格子文描く、内面に僅かに赤彩痕	第４群第２類
第43図 PL.49	144	縄文土器 深鉢	底部片					含繊維/普通/にぶい黄褐色	やや厚手の底部片、底部縄文羽状縄文施文	第４群第２類
第43図 PL.49	145	縄文土器 深鉢	口縁部片					砂粒多く含む/良/にぶい黄褐色	横位縄文ＲＬ	第５群第１類
第43図 PL.49	146	縄文土器 深鉢	口縁片					石英粒含む/良/暗赤褐色	口縁部にＲＬ縄文横位施文	第５群第１類
第43図 PL.49	147	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒含む/良/にぶい赤褐色	口縁部に斜めの刻み文、縄文ＬＲ、ＲＬで羽状縄文	第５群第１類
第43図 PL.49	148	縄文土器 深鉢	口縁～胴部					砂粒含む/良/にぶい赤褐色	口縁部に斜めの刻み文、縄文ＬＲ、ＲＬで羽状縄文	第５群第１類
第43図 PL.49	149	縄文土器 深鉢	胴部					微砂粒含む/良/明黄褐色	縄文無節Ｒ横位	第５群第１類
第43図 PL.49	150	縄文土器 深鉢	胴部片					石英粒多く含む/良/にぶい黄褐色	ＲＬ横位施文、小石英、雲母粒多く含む	第５群第１類
第43図 PL.49	151	縄文土器 深鉢	胴部片					白色粒含む/良/褐色	縄文ＬＲ・ＲＬ縦位羽状	第５群第１類
第43図 PL.49	152	縄文土器 深鉢	胴部片					精製/良/褐色	縄文ＬＲ異方向施文	第５群第１類
第43図 PL.49	153	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒含む/良/橙色	平行沈線による矩形文、交点に円形竹管文	第５群第１類
第43図 PL.49	154	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒含む/良/にぶい赤褐色	並行沈線文様、及び結節文	第５群第１類
第43図 PL.49	155	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒含む/普通/赤褐色	横位連続爪形文重層施文、器面荒れている、156と同一個体	第５群第１類
第43図 PL.49	156	縄文土器 深鉢	胴部					砂粒含む/普通/にぶい赤褐色	横位連続爪形文重層施文、器面荒れている、155と同一個体	第５群第１類

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第43図 PL.49	157	縄文土器 深鉢	胴部	底 (9.0)			砂粒含む/良/明赤褐色	縄文RL横位、施文は粗い	第５群第１類
第43図 PL.49	158	縄文土器 深鉢	口縁片				砂粒含む/良/赤褐色	波状口縁で強く内湾、口縁に沿って梯子状の浮線文、下位に刻み を持つ浮線で渦巻き文、斜方向の文様を描く、口唇部にも浮線による X字文様、159と同一個体	第５群第２類
第43図 PL.49	159	縄文土器 深鉢	口縁片				砂粒含む/良/赤褐色	口縁部内湾、口縁に沿って梯子状の浮線文、下位に刻みを持つ浮線で渦巻き文、斜方向の文様を描く、口唇部にも浮線による X字文様、158と同一個体	第５群第２類
第43図 PL.49	160	縄文土器 深鉢	胴部片				砂粒含む/良/橙色	刻み有す浮線文により横位並行文、曲線文、交差文様を描く、地文にはRL縄文横位、161、162と同一個体	第５群第２類
第43図 PL.49	161	縄文土器 深鉢	胴部片				砂粒含む/良/橙色	刻み有す浮線文により横位並行文、曲線文、交差文様を描く、地文にはRL縄文横位、160、162と同一個体	第５群第２類
第43図 PL.49	162	縄文土器 深鉢	胴部片				砂粒含む/良/橙色	刻み有す浮線文により横位並行文、曲線文を描く、地文にはRL縄文横位、160、161と同一個体	第５群第２類
第43図 PL.49	163	縄文土器 深鉢	口縁片				石英粒含む/良/にぶい赤褐色	竹管文による平行沈線を多段施文	第５群第２類
第43図 PL.49	164	縄文土器 深鉢	口縁片				砂粒含む/良/暗赤褐色	口縁僅かに波状を呈し、くの字に内屈、地文に無節Lを横位施文し、並行沈線間に添付文	第５群第２類
第44図 PL.49	165	縄文土器 深鉢	口縁片				石英粒含む/良/褐色	口縁内屈、並行竹管文	第５群第２類
第44図 PL.49	166	縄文土器 深鉢	口縁片				石英粒含む/良/褐色	内傾する口縁部片、竹管による沈線文	第５群第２類
第44図 PL.49	167	縄文土器 深鉢	口縁片				石英粒含む/良/褐色	内屈する波状口縁、竹管文による沈線文様描き、波頂下に添付文	第５群第２類
第44図 PL.49	168	縄文土器 深鉢	口縁片				石英粒含む/良/暗褐色	口縁端部を欠く、波状口縁部、竹管文による平行沈線で渦巻き文を描く、	第５群第２類
第44図 PL.49	169	縄文土器 深鉢	胴部片				砂粒含む/良/暗褐色	RL、LRの羽状縄文を多段施文後、竹管文による横位平行沈線文、171と同一個体	第５群第２類
第44図 PL.49	170	縄文土器 深鉢	口縁片				石英粒含む/良/暗褐色	口縁端部を欠く、竹管文による平行沈線で連続山形文、平行線文描く、下部にRL縄文を横位施文	第５群第２類
第44図 PL.49	171	縄文土器 深鉢	胴部片				砂粒含む/良/明褐色	RL、LRの羽状縄文施文後上下に横位平行沈線文、169と同一個体	第５群第２類
第44図 PL.49	172	縄文土器 深鉢	胴部片				少量の砂粒含む/良/褐色	横位集合沈線文を多段施文	第５群第２類
第44図 PL.49	173	縄文土器 深鉢	口縁片				砂粒含む/良/赤褐色	口縁部内湾、斜行集合沈線文、耳状添付文	第５群第３類
第44図 PL.49	174	縄文土器 深鉢	胴部片				砂粒含む/良/にぶい橙色	縦位、斜行の集合沈線文、添付文	第５群第３類
第44図 PL.49	175	縄文土器 深鉢	胴部				砂粒多く含む/良/にぶい橙色	横位、縦位の集合沈線	第５群第４類
第44図 PL.49	176	縄文土器 深鉢	胴部片				砂粒含む/良/にぶい黄褐色	横位、縦位の集合沈線文	第５群第４類
第44図 PL.49	177	縄文土器 深鉢	胴部				砂粒多く含む/良/にぶい黄橙色	横位、斜位に集合沈線文、深い沈線で三角文を表出か	第５群第４類
第44図 PL.49	178	縄文土器 鉢	底部片	底 (11.0)			石英粒含む/良/黒色	底部肥厚横位の竹管文廻らす	第５群第４類
第44図 PL.49	179	縄文土器 深鉢	口縁～胴部	口 14.0			微砂粒含む/良/褐色	口縁部に３カ所の突起、４本の沈線で２段の文様対を画す、沈線と刺突文を廻らした三角文を交互に描く、それぞれの三角文中央には三角印刻文を配す	第６群第１類
第44図 PL.50	180	縄文土器 深鉢	口縁				砂粒僅かに含む/良/明赤褐色	口縁部短く外傾、口縁下部に横長の瘤状文、以下沈線による画線文様か	第６群第１類
第44図 PL.50	181	縄文土器 深鉢	口縁部				砂粒多く含む/良/明赤褐色	口縁部くの字に内傾、隆帯による連続弧状文、隆帯内側に沿って４列の角押し文さらに斜めの角押し文を充填	第６群第２類
第44図 PL.50	182	縄文土器 深鉢	口縁部				砂粒多く含む/良/橙色	口唇部内面状で、隆帯により楕円文、内側に沿って角押し文	第６群第２類
第44図 PL.50	183	縄文土器 深鉢	口縁				砂粒多く含む/良/橙色	口縁部短く外傾、隆帯による楕円区画文、２単位の結節沈線が廻る	第６群第２類
第45図 PL.50	184	縄文土器 深鉢	口縁				砂粒、若干の金雲母含む/良/褐灰色	波状口縁、隆帯による楕円文、内側沿うように角押し文	第６群第２類
第45図 PL.50	185	縄文土器 深鉢	胴部片				砂粒多く含む/良/にぶい赤褐色	横位隆帯に沿って波状の沈線、輪積み部分にヒダ状圧痕文	第６群第２類
第45図 PL.50	186	縄文土器 深鉢	胴部				砂粒多く含む/良/灰黄褐色	押し引き文による楕円文様表出	第６群第２類
第45図 PL.50	187	縄文土器 深鉢	胴部片				砂粒、若干の金雲母含む/良/にぶい褐色	凹圧文有す垂下隆帯、輪積み部に襞状文	第６群第２類
第45図 PL.50	188	縄文土器 深鉢	胴部片				砂粒多く含む/良/にぶい褐色	凹圧文有す垂下隆帯、ヒダ状圧痕文	第６群第２類
第45図 PL.50	189	縄文土器 深鉢	胴部片				砂粒多く含む/良/にぶい褐色	凹圧文有す垂下隆帯、襞状文	第６群第２類
第45図 PL.50	190	縄文土器 深鉢	胴部片				砂粒多く含む/良/にぶい褐色	隆帯及び連続結節文	第６群第２類
第45図 PL.50	191	縄文土器 深鉢	胴部片				砂粒多く含む/良/灰褐色	やや不明瞭なヒダ状圧痕文	第６群第２類

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第45図 PL.50	192	縄文上器 深鉢	胴部片					砂粒多く含む/良/明赤褐色	隆帯と沈線文	第６群第２類
第45図 PL.50	193	縄文上器 深鉢	胴部片					砂粒多く含む/良/にぶい赤褐色	横位隆帯の突起から２本の垂下隆帯、ヒダ状圧痕文	第６群第２類
第45図 PL.50	194	縄文上器 深鉢	胴部片					砂粒多く含む/良/にぶい赤褐色	ヒダ状圧痕文	第６群第２類
第45図 PL.50	195	縄文上器 深鉢	胴部片					砂粒多く含む/良/にぶい赤褐色	隆帯による曲線文	第６群第２類
第45図 PL.50	196	縄文上器 深鉢	胴部片					砂粒多く含む/良/にぶい赤褐色	横位隆帯に沿って波状の沈線	第６群第２類
第45図 PL.50	197	縄文上器 深鉢	胴部片					砂粒多く含む/良/にぶい赤褐色	横位波状沈線	第６群第２類
第45図 PL.50	198	縄文上器 深鉢	胴部片					砂粒多く含む/良/にぶい赤褐色	横位隆帯に沈線伴う	第６群第２類
第45図 PL.50	199	縄文上器 深鉢	胴部					砂粒含む/良/にぶい赤褐色	垂下隆帯	第６群第２類
第45図 PL.50	200	縄文上器 深鉢	胴部					砂粒、金雲母含む 金/良/明赤褐色	石英粒、金雲母多く含む、垂下隆帯	第６群第２類 平安整穴建物出土
第45図 PL.50	201	縄文上器 深鉢	胴部片					砂粒多く含む/良/にぶい褐色	横位隆帯	第６群第２類
第45図 PL.50	202	縄文上器 深鉢	胴部片					砂粒多く含む/良/にぶい赤褐色	横位隆帯に沿って沈線文	第６群第２類
第45図 PL.50	203	縄文上器 浅鉢	口縁	口	(26.0)			砂粒多く含む/良/にぶい黄橙色	口縁部僅かに外反し段差を持ち、体部緩やかなカーブを呈し無文	第６群第２類
第45図 PL.50	204	縄文上器 浅鉢	胴部片					白色砂粒多く含む/良/灰褐色	無文胴部片、内面良く研磨されている。外面輪積み痕、砂粒目立つ、38ビット１と同一個体	第６群第２類
第45図 PL.50	205	縄文上器 浅鉢	胴部					微砂粒含む/普通/にぶい褐色	無文、浅鉢の胴部片	第６群第２類
第46図 PL.50	206	縄文上器 深鉢	胴部片					無/普通/黒褐色	無文、器外面研磨、種実圧痕	第６群第２類
第46図 PL.50	207	縄文上器 深鉢	胴部～底部	底	13.0			白色粒含む/良/橙色	凹圧文有す垂下隆帯、ヒダ状圧痕文	第６群第２類
第46図 PL.50	208	縄文上器 深鉢	底部	底	11.4			白色粒多く含む/良/橙色	複数の垂下沈線	第６群第２類
第46図 PL.50	209	縄文上器 深鉢	胴部					砂粒含む/良/褐色	隆帯による曲線文描き、脇に沿って半裁竹管による並行線文、曲線文様描く	第７群
第46図 PL.50	210	縄文上器 深鉢	胴部					砂粒多く含む/良/褐色	刻み有す隆帯により円形文、沿うように沈線による円形、矩形文を描き区画内には刺突文を充填	第７群
第46図 PL.50	211	縄文上器 壺	胴部片					微砂粒含む/良/赤褐色	沈線による文様内に刺突文を充填	第７群
第46図 PL.50	212	縄文上器 深鉢	胴部片					砂粒含む/良/橙色	横位隆帯から幅狭の目状垂下文、地文に縦位矢羽根状の沈線文、隆帯に沿って連続爪形文	第７群
第46図 PL.50	213	縄文上器 深鉢	胴部					砂粒含む/良/赤褐色	縦位隆帯、斜位集合沈線	第７群
第46図 PL.50	214	縄文上器 深鉢	胴部片					微砂粒含む/良/灰黄褐色	縄文ＬＲ縦位施文、厚手	第７群
第46図 PL.50	215	縄文上器 深鉢	胴部					砂粒含む/良/にぶい褐色	垂下沈線文内に縄文ＲＬ縦位施文	第７群
第46図 PL.50	216	縄文上器 深鉢	胴部					砂粒含む/普通/明赤褐色	縦位沈線、集合条線文	第７群
第46図 PL.50	217	縄文上器 深鉢	胴部					白色粒多く含む/普通/褐灰色	複数の沈線文端部が見える	第７群
第46図 PL.50	218	縄文上器 深鉢	口縁部					砂粒含む/良/にぶい黄橙色	波状口縁、波頂部は肥厚し小環状となり、両側口唇部に刻み、円形文、内面にも円形刺突文	第８群第１類
第46図 PL.50	219	縄文上器 深鉢	口縁					精製/良/明黄褐色	口縁部肥厚しくの字に内屈、横位沈線	第８群第１類 平安整穴建物出土
第46図 PL.50	220	縄文上器 深鉢	胴部					精製/良/にぶい橙色	垂下隆帯、222・223は同一個体	第８群第１類
第46図 PL.50	221	縄文上器 深鉢	胴部片					精製/良/橙色	横位２本の刻みを付す隆線、内面黒色	第８群第１類
第46図 PL.50	222	縄文上器 深鉢	胴部					精製/良/にぶい橙色	２本の横位刻み隆帯を８字文でつなぐ、220・223は同一個体	第８群第１類
第46図 PL.50	223	縄文上器 深鉢	胴部					精製/良/にぶい橙色	２本の横位刻み隆帯、220・222は同一個体	第８群第１類
第46図 PL.50	224	縄文上器 深鉢	口縁					微砂粒含む/良/にぶい黄橙色	口縁無文帯下に横位肥厚隆帯	第８群第２類
第46図 PL.50	225	縄文上器 鉢	口縁部					砂粒含む/良/橙色	無文、内外面磨き	第８群第２類
第46図 PL.50	226	縄文上器 深鉢	頸部					精製/良/浅黄橙色	頸部でややすぼまる、無文、227と同一個体	第８群第２類
第46図 PL.50	227	縄文上器 深鉢	頸部					精製/良/浅黄橙色	頸部でややすぼまる、無文、226と同一個体	第８群第２類

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）						胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第46図 PL.51	228	縄文土器 浅鉢	口縁							精製/良/にぶい黄橙色	縄文施文後口縁に沿って並行沈線を引く	第９群第１類
第46図 PL.51	229	縄文土器 浅鉢	胴部							微砂粒含む/良/明黄褐色	横位沈線による変形 I 字文か、下位には縄文 L R 施文	第９群第１類 平安型の建物出土
第46図 PL.51	230	弥生土器 甕	胴部片							砂粒含む/良/にぶい褐色	縦位条痕文、	第９群第２類 遺構は平安時代
第46図 PL.51	231	弥生土器 甕	胴部片							微砂粒含む/良/淡黄色	縦位条痕文、薄手の作り	第９群第２類
第46図 PL.51	232	弥生土器 甕	胴部片							微砂粒含む/良/にぶい黄橙色	縦位条痕文、薄手の作り	第９群第２類
第46図 PL.51	233	弥生土器 深鉢	胴部							微砂粒含む/良/橙色	３本沈線による山形文描き、横位連続爪形刺突文を3条付す	第９群第２類
第47図 PL.51	1	剥片石器 石鏃	完形	長	2.69	厚	0.38			黒曜石	凹基無茎鏃、抉りは広がるV字形、均整がとれ、作りは丁寧	
				幅	2.10	重	1.20					
第47図 PL.51	2	剥片石器 石鏃	完形	長	2.52	厚	0.46			黒色頁岩	凹基無茎鏃、抉りはV状、両側縁下部が僅かに膨らむ形状	
				幅	1.59	重	1.23					
第47図 PL.51	3	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長	1.86	厚	0.32			黒曜石	凹基無茎鏃、抉りは深く脚は長く作られる、先端部僅かに欠く	
				幅	1.82	重	0.74					
第47図 PL.51	4	剥片石器 石鏃	完形	長	1.92	厚	0.24			チャート	凹基無茎鏃、抉り深い、やや小型で丁寧な作り	
				幅	1.27	重	0.36					
第47図 PL.51	5	剥片石器 石鏃	完形	長	2.06	厚	0.44			珪質頁岩	凹基無茎鏃、抉りはあまり深くなく作りは丁寧	
				幅	1.49	重	0.96					
第47図 PL.51	6	剥片石器 石鏃	完形	長	2.08	厚	0.28			黒曜石	凹基無茎鏃、先端部は薄く仕上げている、抉りは開いた U 字形	
				幅	1.54	重	0.59					
第47図 PL.51	7	剥片石器 石鏃	完形	長	1.89	厚	0.28			黒曜石	凹基無茎鏃、丁寧な作り、抉りは浅い	
				幅	1.35	重	0.61					
第47図 PL.51	8	剥片石器 石鏃	完形	長	2.13	厚	0.21			流紋岩	凹基無茎鏃、抉りは浅い、肉薄で器面風化	
				幅	1.56	重	0.69					
第48図 PL.51	9	剥片石器 石鏃	欠損	長	(1.96)	厚	0.46			流紋岩	凹基、抉りは深くなく、広がるU字形、片脚、先端部を欠く	
				幅	(1.49)	重	(1.03)					
第48図 PL.51	10	剥片石器 石鏃	欠損	長	1.95	厚	0.22			黒曜石	薄手の凹基薄片鏃、片脚を欠く	
				幅	(1.32)	重	(0.46)					
第48図 PL.51	11	剥片石器 石鏃	欠損	長	(1.49)	厚	0.24			黒曜石	凹基無茎鏃、抉りはやや深く脚は長く作られる、先端部及び片脚を欠く	
				幅	(1.42)	重	(0.49)					
第48図 PL.51	12	剥片石器 石鏃	欠損	長	2.25	厚	0.33			チャート	凹基、抉り深く脚の先端が広がる、いわゆる鰭形鏃、片脚を欠く	
				幅	(1.69)	重	(0.76)					
第48図 PL.51	13	剥片石器 石鏃	完形	長	2.25	厚	0.30			黒曜石	平基無茎鏃、側縁部に細かな剥離施す	
				幅	1.69	重	0.98					
第48図 PL.51	14	剥片石器 石鏃	完形	長	2.54	厚	0.31			流紋岩	平基無茎鏃であるが基部が僅かに膨らむ、肉薄で側縁部、基部に円圧剥離を施す	
				幅	2.12	重	2.04					
第48図 PL.51	15	剥片石器 石鏃	欠損	長	(2.72)	厚	0.58			黒曜石	平基無茎鏃、粗く作られており未製品か、片脚を欠く	
				幅	(1.72)	重	(1.76)					
第48図 PL.51	16	剥片石器 石鏃	欠損	長	(0.98)	厚	0.29			流紋岩	平基無茎鏃の基部片と見られる、板状で器面に付着物	
				幅	2.00	重	(0.86)					
第48図 PL.51	17	剥片石器 石鏃	未製品	長	4.02	厚	1.29			チャート	肉厚大型品、先端部分はかなり成形されているが、基部は未成形	
				幅	(2.95)	重	(13.33)					
第48図 PL.51	18	剥片石器 楔形石器	完形	長	2.33	厚	1.21			黒曜石	ほぼ円形に打ち欠き、縁辺部に刃部作出、片面が肥厚	
				幅	2.02	重	5.02					
第48図 PL.51	19	剥片石器 石鏃	未製品	長	2.82	厚	1.07			流紋岩	肉厚で未成形状態、円基	
				幅	2.17	重	4.56					
第48図 PL.51	20	剥片石器 石錐	完形	長	3.07	厚	0.86			黒曜石	縦長の素材利用、先端部の片面加工し刃部を作出	
				幅	1.46	重	3.16					
第49図 PL.51	21	剥片石器 石匙	ほぼ完形	長	7.44	厚	0.92			細粒輝石安山岩	縦型、木の葉形の刃部上端につまみ部を作出、両面に素材薄片の凹凸が残る	
				幅	2.89	重	18.17					
第49図 PL.51	22	剥片石器 石匙？	ほぼ完形	長	7.38	厚	0.80			頁岩	不定形な横長薄片につまみ部を作出、未製品か	
				幅	3.50	重	14.0					
第49図 PL.51	23	剥片石器 スクレイパー	完形	長	7.61	厚	1.00			黒色頁岩	不定形縦長薄片利用、一辺に直線的な刃部を作出	
				幅	3.15	重	24.0					
第49図 PL.51	24	剥片石器 スクレイパー	完形	長	5.40	厚	1.10			黒色頁岩	丸みを持つ三角形を呈し、各辺に粗く刃部作出、	
				幅	4.55	重	24.0					
第49図 PL.51	25	剥片石器 打製石斧	完形	長	10.41	厚	1.96			黒色頁岩	分厚型、短身で両刃部は円みを持つ、片面に自然面	
				幅	7.17	重	182.0					
第49図 PL.51	26	剥片石器 打製石斧	欠損	長	(9.65)	厚	2.11			変質玄武岩	身の短い短冊型か、刃部欠損品か未製品の可能性あり	
				幅	5.71	重	140.0					
第49図 PL.51	27	剥片石器 打製石斧	ほぼ完形	長	10.70	厚	1.68			安山岩	撥型で刃部は広がる、先端部は欠損している、使用痕は顕著ではない	平安時代の竪穴建物より出土
				幅	6.39	重	140.0					
第49図 PL.51	28	剥片石器 打製石斧	完形	長	7.65	厚	1.87			変質玄武岩	小型品、中央部分に厚み有し、刃部は円みを持つ	
				幅	4.22	重	72.0					
第49図 PL.51	29	剥片石器 打製石斧	完形	長	6.87	厚	1.56			黒色頁岩	小型のいわゆる直刃斧、刃部は広がり直線的でやや厚みのある片刃状、基部に自然面	
				幅	4.91	重	50.0					

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第49図 PL.51	30	剥片石器 磨製石斧	刃部片	長	(2.12)	厚	1.20	蛇紋岩	刃部片側部分、無縁部には明瞭な隆線見られ、やや丸みを呈す刃部につながる、丁寧な研磨成形	
				幅	(3.01)	重	12.0			
第50図 PL.51	31	礫石器 磨石	完形	長	8.23	厚	4.25	粗粒輝石安山岩	おにぎり形の扁平礫、両面に不定形な浅い凹み有す	
				幅	7.52	重	406.0			
第50図 PL.51	32	礫石器 磨石	完形	長	8.59	厚	5.03	粗粒輝石安山岩	扁平な円礫利用、両面使用痕	
				幅	8.24	重	480.0			
第50図 PL.51	33	礫石器 磨石	欠損	長	(9.13)	厚	4.38	粗粒輝石安山岩	やや扁平な楕円形、両面に使用痕、端部には打痕が観察される、半分ほど欠損している	
				幅	7.15	重	436.0			
第50図 PL.51	34	礫石器 磨石	欠損	長	(11.47)	厚	4.50	粗粒輝石安山岩	棒状で一端を欠損している、側面、先端部に打痕見られる	
				幅	5.05	重	430.0			
第50図 PL.51	35	礫石器 磨石	欠損	長	10.50	厚	5.13	粗粒輝石安山岩	やや扁平な楕円形、両面に使用痕、側面には打痕が観察される、被熱している	
				幅	5.95	重	(585.0)			
第50図 PL.51	36	礫石器 凹石	欠損	長	7.16	厚	3.68	粗粒輝石安山岩	半分を欠く扁平な楕円礫、片面に比較的大きな凹み持ち、裏面側には打痕顕著	
				幅	(6.28)	重	232.0			
第50図 PL.51	37	礫石器 凹石	欠損	長	(8.78)	厚	4.01	粗粒安山岩	やや扁平な長円礫利用、両面に浅い複数の凹み有す	
				幅	6.14	重	362.0			

第３節　平安時代の遺構と遺物

本節で報告するのは、平安時代に帰属すると判断された遺構である。平成24・25年度調査では、第１面で調査された遺構のうち、竪穴建物５棟、土坑31基について記載する。平成30年度調査では、ロームを含む暗褐色土、黒褐色土を確認面とした遺構と遺物であり、調査区の１面として調査を行った。調査区は、吾妻川に張り出した舌状台地上にある。本節では、竪穴建物１棟、土坑18基について記述する。遺構の大半は細粒軽石を含む暗褐色土及び黒褐色土で埋没している。本調査区で出土した遺物は豊富ではないが、須恵器、土師器が確認されており調査面の時期の想定に矛盾はない。

第１項　竪穴建物

概要　平成24・25年度調査では、竪穴建物５棟を調査した。調査区の北西四半の標高は590mから592.5mの範囲にまとまる。特徴を持った竪穴建物が確認されている。２号は鍛冶炉を伴い、３号はカマド周辺に棚状構造を持ち、５号は張出を持ったＬ字状の平面形をしている。平成30年度調査では、竪穴建物１棟を調査した。本調査区における竪穴建物は、舌状台地の先端近くにある。確認された竪穴建物は、台地の縁辺部にあたると考えられる。平成24・25年度調査区における台地の付け根にある竪穴建物群とは１棟だけ離れている。

１号竪穴建物（第51～53図　PL. 19・20・25・52）

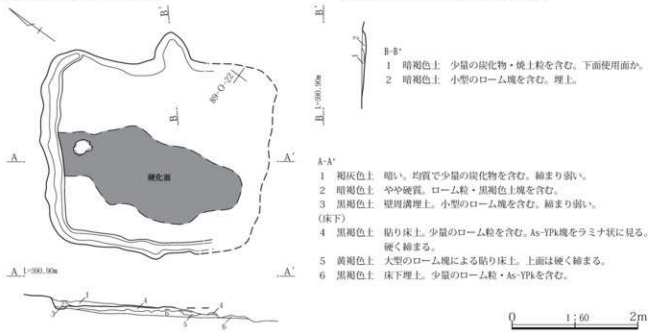
位置　調査区の中央のやや北寄り、89区0-21・22グリッドにある。北西から南東に傾斜する傾斜面にあり、最高標高は590.60m、最低標高は590.22m。

規模形状　北西から南東への傾斜地に立地するため、南東壁は失われている。カマドが作られる北東壁が最も長く、推定長3.75m、対応する南西壁は3.26mである。短軸は3.10m。残存する北及び西の隅部はやや丸みをもって屈曲する。南東壁が失われているが、僅かに横に長い長方形ないし台形の平面形を呈する。カマドを基準とした主軸方位はN-48°-Eを示し、ほぼ等高線に沿う。

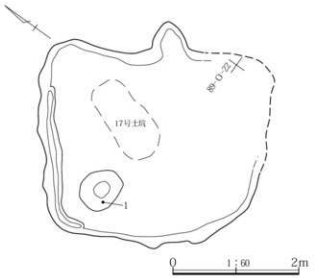
面積　10.75㎡

掘り方・床　地山の傾斜に従って、床面も北西から南東へ僅かに傾斜する。掘り方底面には、地山の高い北西側に掘削具の痕跡を思わせる小さな凹凸が多く認められる。床面は貼り床構造である。掘り方に少量のローム土を含む黒褐色土を入れ、西部ではこの上に多量のローム土を含む黒褐色土を貼る。特にこの上面は固く締まっている。さらに、少量のローム粒子を含む黒褐色土を貼って床面を形成する。最上位の黒褐色土中にはAs-YPkの小ブロックがラミナ状に含まれる。柱穴は認められない。

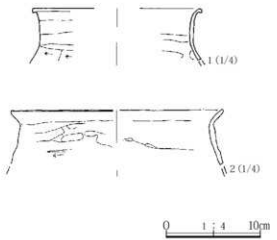
壁　南東壁は失われている。壁は上方にやや開き気味に立ち上がり、北西部での最大壁高は20cmほどある。北西壁から南西壁にかけて壁周溝が廻る。幅16cm～35cm、床面からの最大深度は8cmほどである。



第51図　１号竪穴建物



第52図　１号竪穴建物掘り方



第53図　１号竪穴建物出土遺物

カマド　赤化気味の斑状のローム粒が北東壁のほぼ中央から壁外に向けて分布しており、この内部土壌には炭化物も含まれる。２～５cmの覆土しかなく、ほとんど破壊された状態であるが、燃焼部をほぼ壁外に置く形でカマドが造られていたものと思われる。

覆土　北部でやや厚い堆積土が観察された。壁周溝を埋めて小さなローム塊を含む締まりの弱い黒褐色土が堆積する。壁際にはやや硬質で、ローム粒や黒褐色土塊を含む暗褐色土があり、それより中央寄りは均質で、少量の炭化物を含む、締まりの弱い褐灰色土が広く覆う。

遺物　土師器のコ字状口縁甕破片が出土している。

所見　年代を示す遺物が乏しいが、コ字状口縁甕から見て９世紀後半の所産として良いものと思われる。

２号竪穴建物（第54～59図　PL. 21・22・25・52）

位置　調査区の北部、89区R・S-23・24グリッドにある。北西から南東に傾斜する傾斜面にあり、この調査区内では最も高い位置にある竪穴建物である。最高標高は592.35m、最低標高は591.75m。

規模形状　平成24年度調査区と平成25年度調査区にまたがる位置にあって、前年度調査より確認面が高いため、平面図上では不連続である。北西から南東への傾斜地に立地するため、南東壁は失われている。長軸4.20m、短軸3.48mで、カマドは短辺の北東壁に造られる。各隅は丸みをもって屈曲し、特にカマド右手にあたる東隅部は貯蔵穴あるいは床下土坑と思われる掘り込みの外縁線に沿って円弧を描く。縦長の隅丸長方形の平面形を呈する。カマドを基準とした主軸方位はN-45°-Eを示し、ほぼ等高線に沿う。

面積　14.33㎡

掘り方・床　平成24年度は、カマドが設けられた北東壁に沿った部分を調査した。カマド右手にあたる東南隅には土坑状の掘り込み、左手側もカマド前よりもやや深く掘り込んだ掘り方を有する。掘り方上には微量の白色粒と炭化物を含み、均質で締まりの強い黒色土及び小型のローム塊を含んで固く締まった黒色土で床面を形成する。平成25年度は西側を広く調査しているが、こうした掘り方及び床構造は確認されていない。南隅部には直径30cm、深さ15cmのピットがあるが、柱穴として組みあうピットはほかにない。

壁　北西壁から南西壁の半ばにかけて、壁周溝が廻る。幅25～30cm、深さ3.4cmほどである。24年度調査分のうち、北隅部でやや深く掘られた部分を確認しているが、これが壁周溝の末端にあたるかもしれない。壁は床面から丸みを持って立ち上がり、上方にやや開く。

カマド　北東壁を掘り込むが、燃焼部はほとんど壁内にある。燃焼部中央はよく焼けて赤化しているが、カマドとしての形状はとどめていない。周辺では覆土上位に礫が含まれ、またロームのブロックや輪郭のぼやけた斑も認められた。礫を構造材とし、ロームを貼って構築したものであっただろう。

貯蔵穴　カマド右手に東西87cm、南北80cm、深さ47cmの円形土坑がある。南東隅を形成する土坑状の掘り込みを切るように掘られており、位置から見ても貯蔵穴と考え

られるが、覆土上位の黒色土及び明黄褐色土が床面構成土と類似するため、床下土坑の可能性もある。ただし、明黄褐色土下の覆土の締まりは弱いこと、明黄褐色土がカマド構築土にも用いられていることを考えると、上位覆土は床面構成土ではなく、カマド構築土の残痕である可能性もあろう。出土遺物はない。

鍛冶炉　覆土下層に鉄滓や鍛造剥片が多く含まれており、床面で検出された窪みを２基の鍛冶炉として調査している。１号炉は長軸58cm、短軸45cm、深さ15cmほどで、北東-南西方向に長軸を持ち、北東辺がやや長いゆがんだ卵型の平面形で、南西部がやや深く、その中央から南側にかけて、粘土製の炉壁破片がまとまって出土している。埋土は粗粒で、多量の鍛造剥片や粒状滓を含む黒褐色土を主体とし、炭化物や焼土は見られない。鍛冶作業が粘土製の炉内で行われ、地山に痕跡を残さなかったものであろう。２号炉は南北74cm、東西72cmのゆがんだ円形に近い不整形の平面形を呈し、深さは15cmほどある。北西部で羽口の破片が出土している。原位置を保ったものではないが、２号炉が羽座であった可能性を示すものかもしれない。覆土は少量の炭化物やローム粒を含んだ、締まりのある黒色土が下層に、上層には細粒で炭化物を含む黒色土があるが、焼土等は見られない。

覆土　床構造と同様に、西部と東部で異なる所見が得られている。東部では黒色土による貼り床があり、壁際に微量の白色粒を含む均質な黒色土が断面三角形状に堆積する。この上位には竪穴建物中央の床面を覆って多量の褐色土塊を含む締まりの弱い黒褐色土が比較的厚く堆積し、その上にAs-Kkが斑状に含まれる。

西部では掘削底面の地山を床面とする。Ａラインの南西壁近くでは壁際にAs-Kkを含まない黄褐色土が堆積し、この上にローム粒を含み、締まりのある黄褐色土が厚く堆積する。この層にはAs-Kkが僅かに含まれており、この上位の黄褐色土にもAs-Kkが含まれるとの記載がある。また、全体に鍛造剥片が多く含まれることが注意されている。この鍛造剥片類は、１号炉を中心に円形の広がりをもち、さらに南東及び北東方向に張り出すような分布を示す。また、北西壁に沿ってやや薄いもののまとまりのある分布がみられる。一方、２号炉周辺は空白域となる。

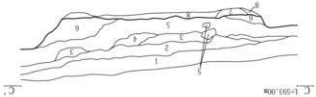
Ａライン東部ではこれらの層が、東側から連続する可能性のある黒褐色土層及びAs-Kkを多く含む灰褐色土層を切るかのような所見が得られている。

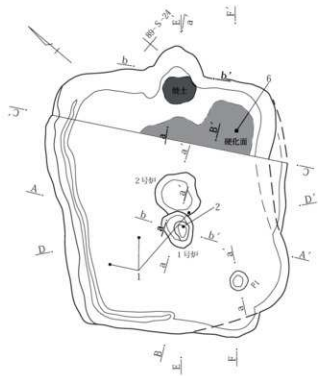
遺物　カマド周辺から土師器甕、須恵器塊、墨書のある高台付塊が出土している。また多量の鍛造剥片や粒状滓、鉄滓が得られているほか、２号炉からは輸羽口片が出土している。

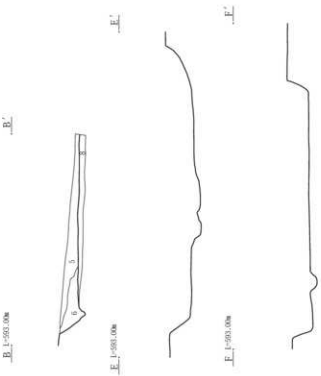
所見　鍛冶炉を伴う竪穴建物として調査されている。炉の周辺覆土に鍛造剥片、粒状滓、碗状滓が多量に含まれ、また輸羽口も出土していることから、この場で鍛錬鍛冶の作業が行われていたことは確実である。しかし、中断を含んで二か年にわたる調査となったため、カマド周辺部と炉を中心とする西側部分の調査記録に整合性がない。カマド部分については、コ字状口縁甕から見て９世紀後半の所産として良いものと思われるが、鍛冶炉を伴う竪穴建物が、これと同一であるか否かが問題である。基本的には調査時の所見に従うべきであろうが、東西で覆土の色調、As-Kkの含有状況が大きく異なること、西部の覆土が東部の覆土を切るような所見が得られていることからすると、２棟の建物が重複してあったという可能性もある。これによれば南西壁南部や南東壁中部の壁のゆがみも説明できるが、確定できるだけの根拠は得られていない。

第７表　２号竪穴建物　粒状滓・鍛造剥片集計表

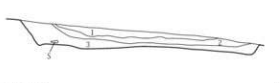
	鉄滓		粒状滓	鍛造剥片	砂鉄・鍛造剥片粉	備考
	磁着	非磁着				
２号竪穴建物覆土	467.4ｇ	197.3ｇ	2.9ｇ（65点）	40.9ｇ	507.6ｇ	－
１号炉	613.9ｇ	19.4ｇ	6.2ｇ（556点）	322.1ｇ	572.8ｇ	－
２号炉	32.1ｇ	4.0ｇ	4.3ｇ（192点）	71.7ｇ	100.3ｇ	羽口（１点）出土
計	1,113.4ｇ	220.7ｇ	13.4ｇ（813点）	450.9ｇ	1,180.7ｇ	－







A L=593.00m　　A′



D L=593.00m　　D′

P1

a L=592.00m　　a′

1　暗褐色土　表土。締まり弱いパサパサの層。
2　暗褐色土　灰色味を帯びる。小礫を少量含む。締まり弱い。
3　灰褐色土　粕川テフラか。塊状にまとまる。締まりはやや強い。
4　暗褐色土　褐色土塊を多く含む。締まり弱い。
5　黒褐色土　大型の褐色土塊を含む。締まり弱い。
6　黒色土　均質。微量の白色粒を含む。締まりやや強い。
7　黒色土　小型のローム塊を含む。やや硬く締まる。
8　黒色土　6に近似するが、炭化物を含み締まりが強い。

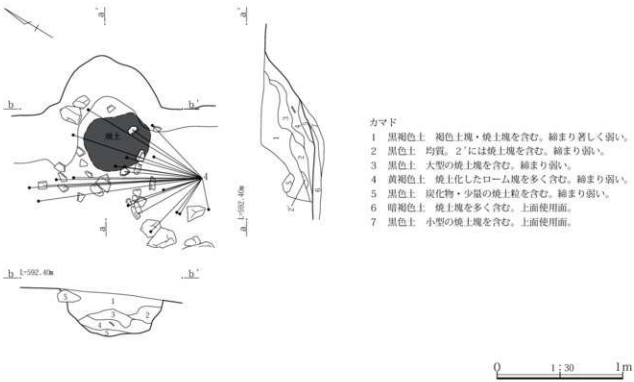
0　1:60　2m

P1
1　黒色土　細粒で軟質。

0　1:30　1m

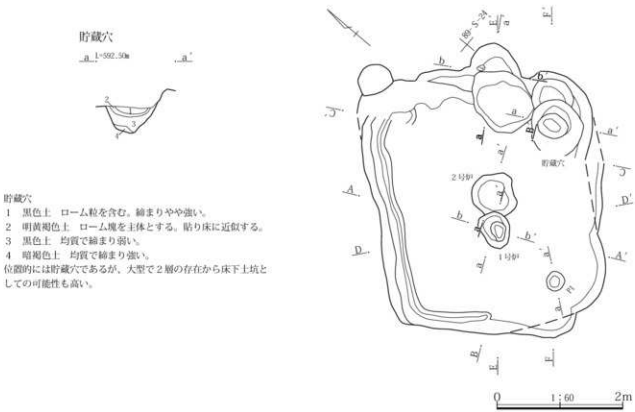
第54図　２号竪穴建物

カマド



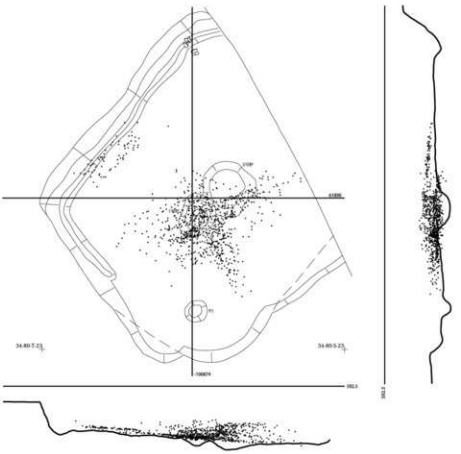
カマド
1　黒褐色土　褐色土塊・焼土塊を含む。締まり著しく弱い。
2　黒色土　均質。2´には焼土塊を含む。締まり弱い。
3　黒色土　大型の焼土塊を含む。締まり弱い。
4　黄褐色土　焼土化したローム塊を多く含む。締まり弱い。
5　黒色土　炭化物・少量の焼土粒を含む。締まり弱い。
6　暗褐色土　焼土塊を多く含む。上面使用面。
7　黒色土　小型の焼土塊を含む。上面使用面。

第55図　２号竪穴建物カマド



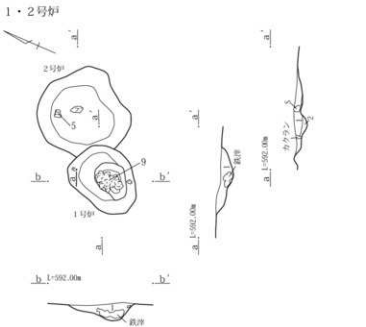
貯蔵穴
1　黒色土　ローム粒を含む。締まりやや強い。
2　明黄褐色土　ローム塊を主体とする。貼り床に近似する。
3　黒色土　均質で締まり弱い。
4　暗褐色土　均質で締まり強い。
位置的には貯蔵穴であるが、大型で２層の存在から床下土坑としての可能性も高い。

第56図　２号竪穴建物貯蔵穴・掘り方

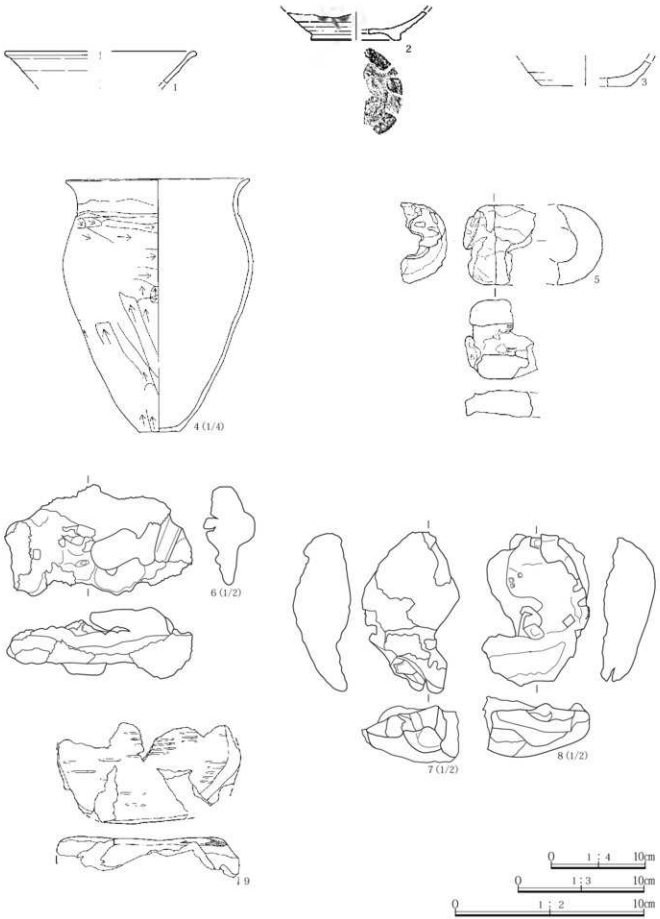


２号竪穴建物における鍛造剥片、粒状滓の分布を、遺構平面図及びX=−100874とY=61890ラインにおける高低図に投影した図である。が内は土壌を別に採取しているため空白となるが、床面直上に特に濃密な滓の分布がみられる。

第57図　２号竪穴建物鍛造剥片・粒状滓出土位置



第58図　２号竪穴建物鍛冶炉



第59図　２号竪穴建物出土遺物

3号竪穴建物（第60～63図　PL. 23～25・52・53）

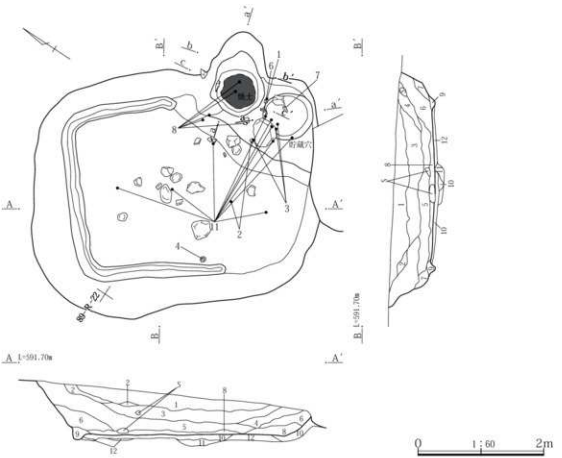
位置　調査区の北部、89区P～R-21･22グリッドにある。北西から南東に傾斜する傾斜面にあり、1号竪穴建物の西4m、2号竪穴建物からは6m南東にあたる。最高標高は591.41m、最低標高は590.80m。

規模形状　北西から南東への傾斜地に立地する。南東壁上部を一部攪乱されるが、最大壁高が85cmほどもあり、床面は全体が把握できる。長軸3.60m、短軸2.90m北東壁にカマドを持つ横長長方形で各隅は丸みをもって屈曲する。直線性の高い北西壁を基準とした主軸方位はN-50°-Eを示し、ほぼ等高線に沿う。

面積　16.31㎡

掘り方　ローム層を僅かに掘り込んで掘り方底面を置く。掘り方全体に小さな凹凸がある。北東壁の中央、カマド左手から北西壁を経て南西壁の南部に至るコの字状に壁周溝が掘られる。北西壁の中央部は膨らみをもって上端幅50cmほどにもなるが、床面では幅15cmほどである。竪穴建物中央には1号床下土坑が掘られる。北西-南東の長軸109cm、短軸100cmのややゆがんだ長円形の平面形で深さ13cm。この南西には北西-南東の長軸47cm、短軸37cm、深さ12cmのピットが接する。南東隅には2号床下土坑が掘られる。南北にやや長い長円形で、長軸97cm、短軸88cm、深さ8cm。貯蔵穴はこの床下土坑より北東にずれて掘り直されている。

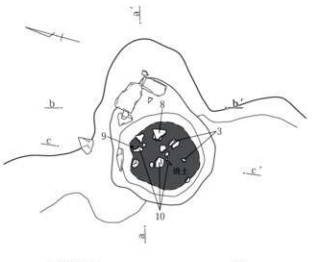
床　掘り方を暗褐色土、褐色土の混土や大型ローム塊を含む暗褐色土で埋めて均平な貼り床を構成する。地山の高い北部では床面構成土はごく薄いが、中央から南部にかけては4～6cmの厚さがある。カマド前から南東隅部は特に厚く盛られている。南東隅では19cm、カマド前部でも13cmほど厚みがあって、周辺床面から7cmほど高い



1　灰褐色土　粕川テフラか。明褐灰色土塊を下層に不連続に堆積する。締まり弱い。
2　黒色土　テフラ塊を含む。軟質。
3　黒色土　褐色土塊・炭化物を含む。締まり弱い。
4　黒褐色土　均質。微量のAs-YPkを含む。締まりやや強い。
5　黒褐色土　少量のローム粒・As-YPkを含む。やや明るい。締まりやや強い。
6　暗褐色土　小型のローム塊を少量含む。締まり強い。
7　暗褐色土　暗褐色粘質土塊を含む。基盤崩落土。
8　暗褐色土　ローム粒を多く含む。締まり弱い。
9　黒褐色土　ローム粒を少量含む。締まり弱い。
10　暗褐色土　大型のローム塊を含む。締まりやや強い。貼り床構成土。
11　暗褐色土　小型のローム塊を多く含む。締まり弱い。床下土坑埋土。
12　褐色土　暗褐色土塊・褐色土塊からなる。締まり強い。床下埋土。

第60図　3号竪穴建物

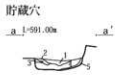
カマド



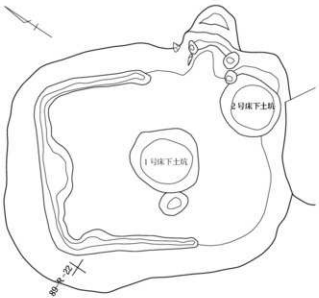
カマド
1　黒褐色土　少量の焼土塊を含む。締まり弱い。
2　暗赤褐色土　小型の焼土塊を多く含む。締まり弱い。構築材崩壊土。
3　赤褐色土　焼土化したローム塊からなる。小礫含む。構築材崩壊土。
4　黒褐色土　焼土粒・炭化物を含む。締まり強い。下面使用面。
5　黒褐色土　均質。若干焼土化する。
6　赤褐色土　焼土塊・炭化物を含む。締まり弱い。上面使用面。
7　黒褐色土　ローム塊を含む。締まり弱い。
8　黒褐色土　ローム塊を含む。貼り床土。
9　黒褐色土　ローム粒を少量含む。締まりやや強い。

0　1:30　1m

第61図　３号竪穴建物カマド

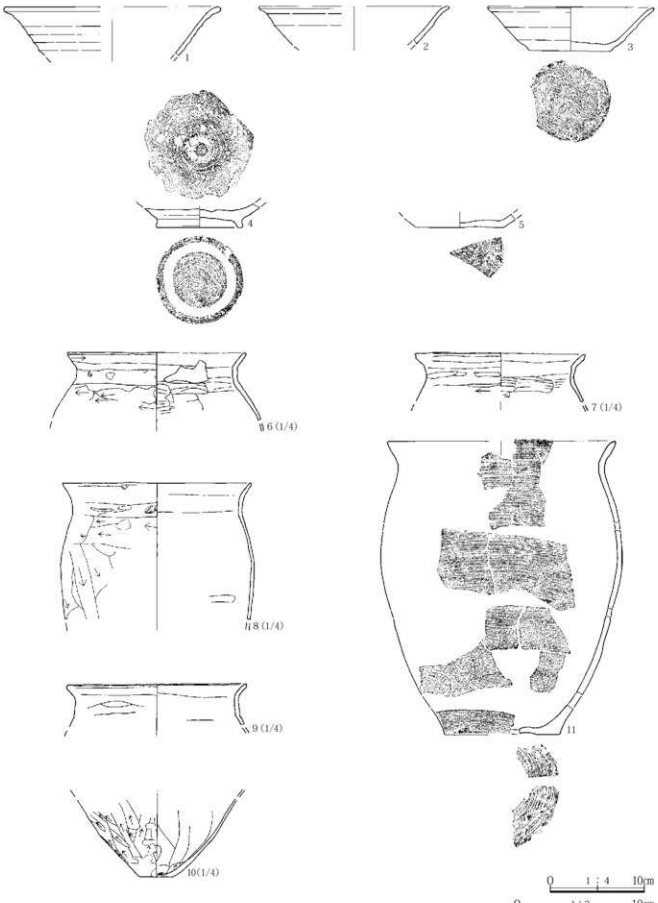


貯蔵穴
1　黒褐色土　やや締まりなく粘質。１～３cm程の黒色ブロック土散在。
2　にぶい黄褐色土　やや締まりなく粘質。焼土を非常に多く含む。１cm未満の炭化物含む。
3　黒褐色土　やや締まりなく粘質。１cm未満の炭化物含む。
4　暗褐色土　やや締まりなく粘質。赤色粒子をやや多く含む。層下半を中心に明黄褐色ロームブロック散在。１～15cm程の黒色土ブロック散在。
5　黒褐色土　締まりあり。粘質。地山か。



0　1:60　2m

第62図　３号竪穴建物貯蔵穴・掘り方



第63図　３号竪穴建物出土遺物

テラスが形成される。カマドや貯蔵穴はこの上に築かれる。

壁　北東壁から南西壁の半ばにかけて、壁周溝が廻る。幅15～25cm、床面からの深さ10cmほどである。床面がローム層上面近くにあって壁面は黒色土であるためか、上方に大きく崩れて開く。

カマド　北東壁の南寄りを掘り込むが、燃焼部はほとんど壁内にある。燃焼部中央は径50cmの円形に焼土、炭化物を含む締まりの弱い赤褐色土が、厚さ10cmほどたまっている。この上には焼土化したローム塊を主体とする赤褐色土が堆積していることから、一部礫を構造材とし、ロームを主たる構築材としていたことがわかる。支脚は認められないが、壁と燃焼部の接点左右に小ピットが残されていた。この小ピットを結ぶ線の直交方向をカマド主軸とすると、N-77°-Eを示し、竪穴建物主軸よりかなり東に傾く。

覆土　下位はローム粒を含む暗褐色土、黒褐色土で埋まる。北東、南西部の壁際のみ暗褐色の粘質土塊が含まれる。覆土中位に褐色土塊や炭化物を含む黒色土が厚く堆積し、その上位にはAs-Kkが含まれる。

遺物　中央から東隅にかけて礫が集中し、その周辺に土器片が多く含まれ、須恵器坏、高台付埦、土師器甕、いわゆるろくろ甕などが出土してる。カマド内にも構造材と思われる礫とともに、土師器甕などの破片が出土している。中央南東寄りから少量の鉄滓、炉壁片が出土している。

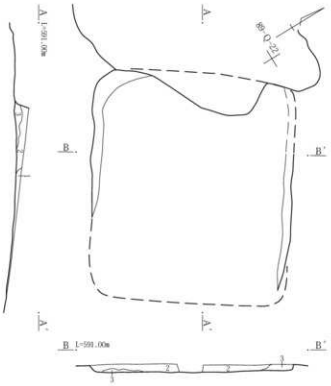
所見　深い掘り方を持つ、残りの良い竪穴建物である。カマド、貯蔵穴の周辺を盛り上げたテラス状の構造がみられる。ろくろ甕、コ字状口縁甕から見て９世紀後半の所産であろう。

４号竪穴建物（第64図　PL. 25）

調査区中央やや北西寄りの台地上にある。南東に下る傾斜地に立地している。残存状態は不良である。

位置　89区P・Q-21にある。

規模形状　東西長：3.68m以上　南北長：3.22m以上である。北辺、南辺共に直線的で、西辺は３号竪穴建物と重複しており、東辺は削平が進んでいる。カマドは確認できなかった。南西隅の形状から、隅丸方形を呈していたと推察される。　**埋没土・壁**　暗褐色土で埋没している。全体的に粒状軽石を僅かに含む。上中位層にはAs-Kk及びロームブロックを含む。壁際から流れ込み、レンズ状に重なっている。自然堆積であると思われる。壁高0.15mである。　**方位**　N-32°-E　**面積**　(11.61)㎡　**床面**



1　黒褐色土　黄橙色の軽石、白色軽石、ローム粒僅かに含む。鮫川テフラ混入。均質土である。
2　暗褐色土　黄橙色の軽石（As-YPk）、白色軽石少量、ローム斑に僅かに含む。締まりあり。
3　黒褐色土　黄橙色の軽石（As-YPk）少量、ローム僅かに含む。締まりあり。

0　1:60　2m

第64図　４号竪穴建物

南東斜面に沿うように床面が構成されており南東が低い。全体的に起伏はない。高低差は0.16m程である。

掘り方　認められない。　**壁溝**　認められない。　**ピット（柱穴）**　認められない。　**貯蔵穴**　認められない。

床下土坑　認められない。　**カマド**　認められない。

重複遺構　3号竪穴建物より古い。　**遺物**　掲載するような遺物は認められない。　**所見（帰属時期）**　確認面、遺構の形状、埋没土、出土遺物等から、3号竪穴建物など周囲の遺構と同じく9世紀後半の所産であると考えられる。ただし、カマド、貯蔵穴、柱穴などが確認されず竪穴建物の条件を満たしているとは言い難い。竪穴建物と想定される遺構と評価した。

5号竪穴建物（第65～70図　PL. 26・27・53・54）

位置　調査区の西部、89区R・S-18・19グリッドにある。北西から南東に傾斜する傾斜面にあって、2号竪穴建物からは南14m、3号竪穴建物からは南西10mほど離れる。最高標高は591.00m、最低標高は590.59m。

規模形状　カマドを北東壁に持ち、南西部に張出部を持った逆L字形の平面形を呈する。北東壁長4.20、北西壁長3.20mの横長長方形を基本とするが、南東壁は5.16mあり、南西壁は張出部で2.70m、張出部より北が1.30mある。貯蔵穴の作られる東隅と張出部の南隅は丸みをもって屈曲する。北隅と西隅も小さな丸みをもって屈曲するが、南西壁と張出部との接合部は丸みを持たずに屈曲する。カマドを基準とする主軸方位はN-70°-Eを示す。

面積　18.30㎡

掘り方・床　掘り方底面はロームまで達しない。カマド前に大きな床下土坑が掘られる。長軸190cm、短軸170cmのゆがんだ円形の平面形で、深さ23cmあるが、ここでもローム面には達していない。掘り方調査時に張出部から北西壁に沿うように列状に並ぶ小ピットが確認されているが、建物の壁外にあたるものもあって、掘り方と関連する物か否か判断できない。床面は掘り方を埋めた貼り床構造であるが、床面構成土の観察所見を欠く。

南西壁中央部に、北西-南東に長軸を置く、長軸52cm、短軸43cmの偏円形の平面形を呈するくぼみがある。底面にはロームが貼られたような状態で認められた。炭化物、焼土等は認められていないが、鍛冶炉を思わせる。

張出部は中央が深く掘られ、これを黒色土、暗褐色土で埋めて床面を構成する。

壁　壁周溝などの施設はない。各壁ともに丸みをもって立ち上がり、やや上方に開く。

ピット　竪穴建物の中軸線より北西側に偏って、7基のピットが掘られていた。

P1　中央近くのカマド前に位置する。径20～23cmの円形の平面形で深さ25cm。黒色土、黒褐色土で埋没する。

P2　南西部にある。本体の南西壁中央近くにあたる。径15～18cmの円形の平面形で、深さ24cm。細粒でやや軟質の黒色土で埋没する。底面近くの壁際にはやや粘性のある暗褐色土がある。

P3　南西壁の北部、張出部との接点近くの壁を掘り込む。径35～36cmの円形の平面形で、深さ17cm。底面近くをやや粘性のある暗褐色土が埋め、その上位に黒褐色土、さらに黒色土が堆積していた。

P4　北東部中央寄りにある。径27～33cmの円形の平面形で、深さ19cm。黒色土、黒褐色土で埋没する。

P5　南西部の中央近くにある。ローム土が貼られた窪みを切る。径35～38cmの円形の平面形で、深さは58cmある。覆土についての観察所見を欠く。

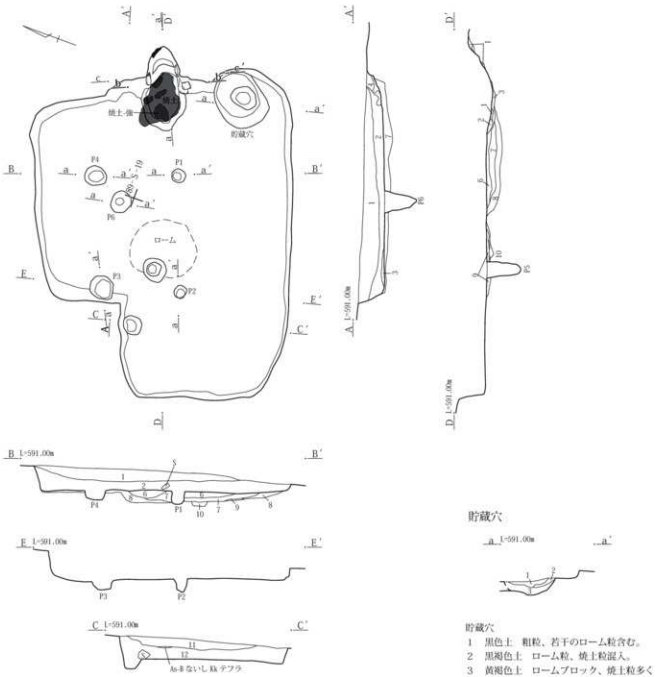
P6　北西部の中央近くにある。芯々距離でP4の南東50cmの位置にあたる。径30～35cmの円形の平面形で、深さは45cmある。ローム粒を少量含み、やや粘性のある黒色土で埋没する。

P7　張出部の北西壁東寄りを切り込むように掘られている。径30cmのゆがんだ円形の平面形で深さ14cm。黒色土で埋没する。柱痕は認められない。

P1・2は中軸線に近い位置にあるが、小径のため主要柱穴とは考えにくい。P3・4とP6・7も並ぶような位置にあるが、建物南部には対応する柱穴が認められない。

貯蔵穴　南隅に設けられる。南北方向にやや長い長円形の平面形で、長軸94cm、短軸72cm、深さ22cmほどである。底面中央部は長軸40cm、短軸32cm、深さ8cmほど、一段深く掘り込まれている。覆土下位にロームブロックや焼土粒を多く含む黄褐色土があり、カマドの破壊に伴う流入土かと思われる。

カマド　北東壁の中央を掘り込んで造られるが、燃焼部は壁内にある。確認面近くから大型の角礫が認められた。礫の下から土師器甕が押しつぶされた状態で出土したことなどから、礫が構造材として用いられ、黄褐色ローム



貯蔵穴

貯蔵穴
1　黒色土　粗粒、若干のローム粒含む。
2　黒褐色土　ローム粒、焼土粒混入。
3　黄褐色土　ロームブロック、焼土粒多く含む。やや粘性あり。

1　黒褐色土　As-Kk含む、やや軟質。
2　黒褐色土　ローム粒、若干の炭化物含む。
3　黒褐色土　2と似るが炭化物やや多く含む。
4　黄褐色土　ローム、炭化物含みやや軟質。
5　黄褐色土　4と似るがやや締まりあり。
6　黒色土　ローム粒、炭化物含む。
7　暗褐色土　ローム粒、ブロック、若干の焼土含む。
8　暗褐色土　ローム粒、ローム小塊含み粘性あり。
9　黄褐色土　ローム粒、ローム塊が層状に堆積。
10　暗褐色土　ローム粒含む。
11　黒褐色土　締まり欠き不均質で黒色味が強い粘質土。炭化物を極僅か含む。
12　黒褐色土　1に比べ、全く炭化物を含まない。
＊11と12の境界、中央付近に僅かなAs-Kkテフラと思われる火山灰層を確認する。

0　1:60　2m

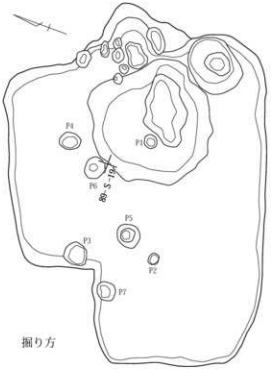
第65図　５号竪穴建物１

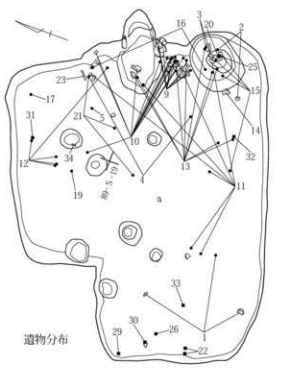
を構築材としたカマドであったことがわかる。掘り方を見ると燃焼部中央がやや深く掘られるほか、袖石の据え方と思われる小ピットが燃焼部左右に並ぶ。右袖には長さ50㎝の長い礫を据え、左袖は比較的小ぶりの石を用いたものらしく、円形ピットが並び、奥側に長さ20㎝の礫を２列に配している。崩落土中にも礫が多く含まれる。

覆土　炭化物粒を含む黒褐色土で埋没する。床面近くに、炭化物のやや多い部分が認められる。覆土上位の黒褐色土中にはAs-Kkが含まれ、張出部では層としてこれが認められた。

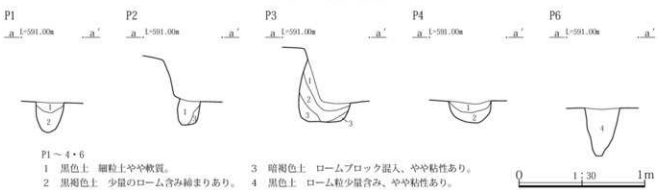
遺物　張出部も含め、建物内全体から土師器、須恵器の小片が出土しているが、特にカマド内及びカマド右手から貯蔵穴にかけて、須恵器坏、高台付埦、甕、土師器コ字状口縁甕などがまとまって出土している。また、ヤットコ、釘及び劣化錆着が激しく形状を判定できないが釘あるいは鏃が数本まとまった状態のものなど、鉄製品が竪穴建物本体部に散在している。さらに、鉄滓が本体部のカマド左手と掘り方の南寄りで各１点出土し、張出部では碗状滓片を含めて散在的に13点が出土している。

所見　張出部を有する特異な形状の竪穴建物として調査されている。甕が13個体分出土するというのもこの時期としては異例であり、鉄製品や特に張出部に多い鉄滓の出土、鍛冶炉を思わせる粘土被覆のある窪みの存在を併せて、居住用以外の機能を有した建物かもしれない。土師器コ字状口縁甕からみて９世紀後半の所産であろう。





第66図　５号竪穴建物２



P1～4・6
1　黒色土　細粒土やや軟質。
2　黒褐色土　少量のローム含み締まりあり。
3　暗褐色土　ロームブロック混入、やや粘性あり。
4　黒色土　ローム粒少量含み、やや粘性あり。

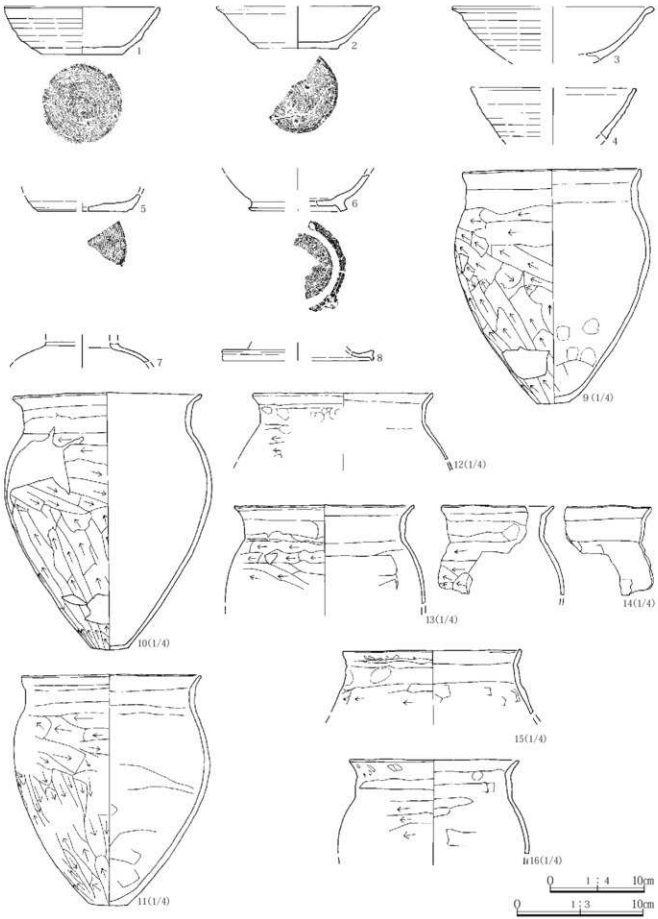
第67図　５号竪穴建物ピット土層断面図

カマド

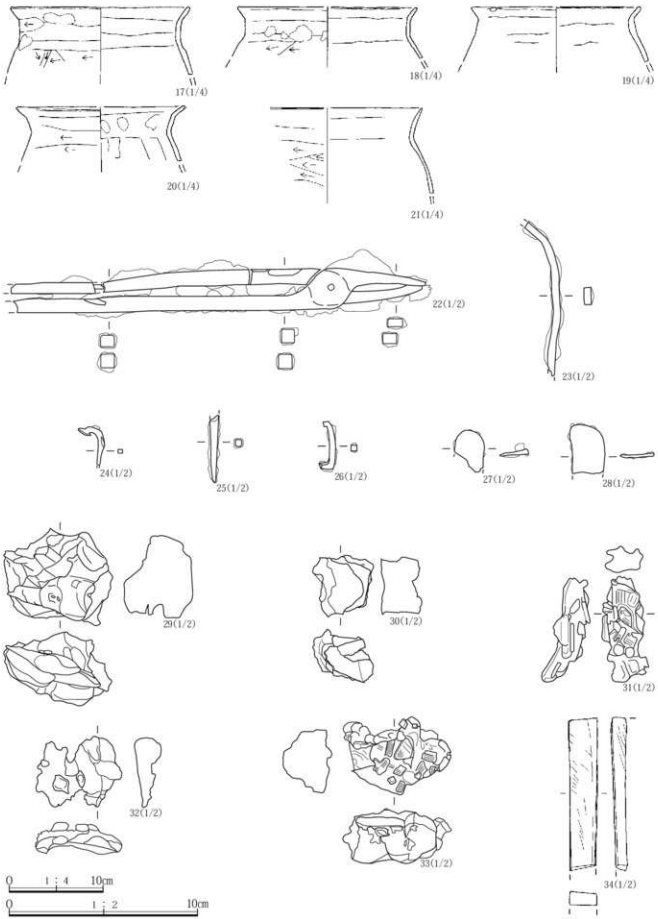
カマド

1　黄褐色土　多量の焼土含む。
2　黄褐色土　1と似るが焼土と黒色土が斑状を呈す。
3　黒褐色土　焼土、黒色土、炭化物含む。
4　橙黄褐色土　焼土層、僅かにローム粒含む。
5　橙褐色　焼土層。
6　暗灰黒色　灰層。
7　暗褐色土　ローム多く混入する粗粒土。
8　黒色土　少量の焼土粒含む。
9　黄褐色土　ローム粒、ローム小ブロック、焼土の混土層。カマドの構築材。
10　黄褐色土　ロームブロック多く含む。
11　黒褐色土　ローム、焼土若干含みやや粘性あり。

第68図　５号竪穴建物カマド



第69図　５号竪穴建物出土遺物１



第70図　５号竪穴建物出土遺物２

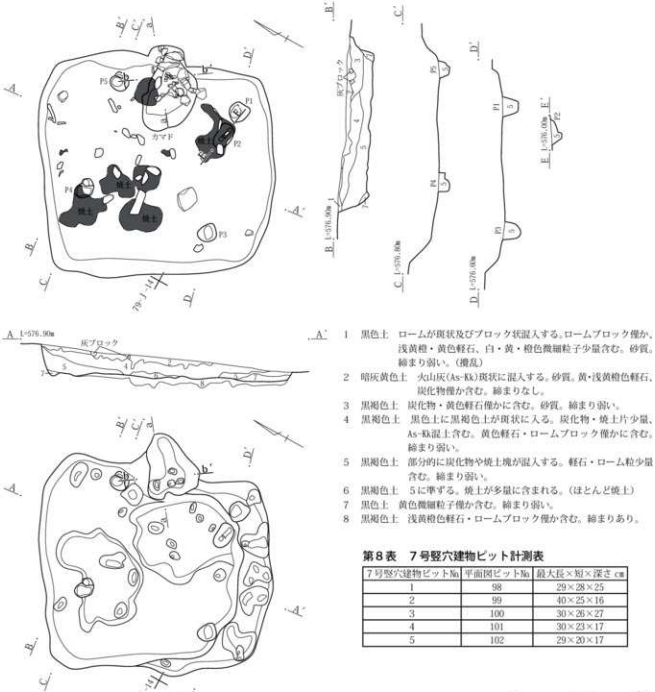
7号竪穴建物（第71～73図　PL. 28・29・54）

調査区中央やや南寄りの台地縁辺部にある。南に下る傾斜地に立地している。残存状態は凡そ良好である。

位置　79区I-14グリッドにある。

規模形状　東西長：3.60m　南北長：3.60m以上である。北辺、西辺共に直線的で、南辺、カマドの位置する東辺はやや外に張り出している。隅丸方形を呈している。

埋没土・壁　黒褐色土で埋没している。全体的に軽石を僅かに含む。床底には炭化物や焼土ブロック、上中位層にはAs-Kk及びロームブロックを含む。壁際から流れ込み、レンズ状に堆積している。自然堆積であると思われる。壁高0.44mである。　**方位**　N-55°-E　**面積**　13.60㎡　**床面**　南斜面に沿うように床面が構成されており南が低い。全体的に起伏があり高低差は0.10m程である。　**掘り方**　ほぼ全面に確認できた。埋没土は、黒褐色土ある。ロームブロック、軽石を含み、締まりが強



1　黒色土　ロームが斑状及びブロック状混入する。ロームブロック僅か、浅黄橙・黄色軽石、白・黄・橙色微細粒子少量含む。砂質。締まり弱い。（撹乱）
2　暗灰黄色土　火山灰(As-Kk)斑状に混入する。砂質。黄・浅黄橙色軽石、炭化物僅か含む。締まりなし。
3　黒褐色土　炭化物・黄色軽石僅かに含む。砂質。締まり弱い。
4　黒褐色土　黒色土に黒褐色土が斑状に入る。炭化物・焼土片少量、As-Kk混土含む。黄色軽石・ロームブロック僅かに含む。締まり弱い。
5　黒褐色土　部分的に炭化物や焼土塊が混入する。軽石・ローム粒少量含む。締まり弱い。
6　黒褐色土　5に準ずる。焼土が多量に含まれる。（ほとんど焼土）
7　黒色土　黄色微細粒子僅かに含む。締まり弱い。
8　黒褐色土　浅黄橙色軽石・ロームブロック僅かに含む。締まりあり。

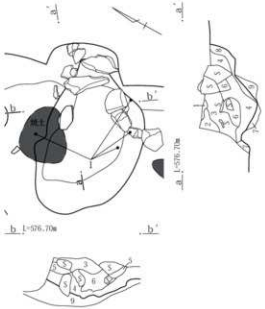
第8表　7号竪穴建物ピット計測表

7号竪穴建物ピットNo.	平面図ピットNo.	最大長×短×深さ cm
1	98	29×28×25
2	99	40×25×16
3	100	30×26×27
4	101	30×23×17
5	102	29×20×17

0　1:60　2m

第71図　7号竪穴建物

カマド

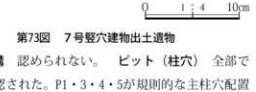


カマド

1　灰黄褐色土　Ks-Kk混入。炭化物少量、褐・浅黄橙色粒子僅かに含む。締まりなし。
2　黒色土　炭化物少量、黄色粒子、暗黄褐色斑僅かに含む。締まり弱い。
3　黒褐色土　炭化物少量、焼土・粘土が斑状、灰混入する。褐色微細粒子僅かに含む。締まり弱い。
4　黒褐色土　焼土・粘土・炭化物ブロック僅か、焼土・粘土・黒色土は斑状に混入する。黄灰色微細粒子、灰僅か混入する。
5　黒褐色土　４に準ずる。焼土少量含む。
6　明褐色土　焼土・粘土・黒色土がブロック状及び斑状に混入する。層上位に礫（カマドの天井石か）あり。
7　黒色土　黄褐色粒子（軽石か）僅かに混入する。締まり弱い。
8　黒褐色土　６に準ずる。締まりが弱い。
9　黒色土　黒色・暗褐色・黄褐色の土が斑状に混入する。ローム粒僅か、黄・褐色粒子少量混入する。締まりあり。

0　1:30　1m

第72図　７号竪穴建物カマド



第73図　７号竪穴建物出土遺物

い。　**壁溝**　認められない。　**ピット（柱穴）**　全部で５基が確認された。P1・3・4・5が規則的な主柱穴配置による柱穴の一部であると思われる。P1は、傾斜地に位置することから、強度を確保するためにP2を作り替えたものであると思われる。各柱穴の規模は第８表の通りである。埋没土は、竪穴建物下層の埋没土と類似しており、黒褐色土である。炭化物及び焼土ブロック、軽石、ローム粒を含む。　**貯蔵穴**　認められない。　**床下土坑**　認められない。竪穴建物北部と南部１つずつ浅い掘り込みを確認するが、貯蔵穴と判断しなかった。　**カマド**　東辺やや南寄りに位置する。全長 不明、幅 不明、焚口幅 不明、燃焼部幅 不明である。煙道は、認められなかった。燃焼部は、竪穴建物内から竪穴建物外にかけて位置している。火床に支脚と思われる礫が確認できた。支脚手前に天井石が崩れたと思われる礫が確認できた。袖は確認できなかったが、構築材として使用されていたと思われる複数の礫が積み上げられたいた。掘り方は、黒色土・暗褐色土・黄褐色土の混土であり、締まりが強い。深さは、15cm程度である。　**重複遺構**　認められない。**遺物**　須恵器１点（甕１）　**所見（帰属時期）**　確認面、竪穴建物の形状、埋没土、甕類、坏類を主体とした出土遺物等より９世紀後半の竪穴建物であると考える。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差の少ないものであった。

第２項　土坑

概要　平成24・25年度調査では、第１面で調査された土坑のうち、形状や覆土の堆積状況から古代の所産と想定されるもの31基について記載する。本調査区で確認された土坑は、竪穴建物と同じく、平安時代に帰属する遺構であろう。古代の土坑の多くは上面が円形、楕円形に近い平面形で中位以下が幅の狭い長方形ないし長円形を呈し、深く掘られていて、断面形は漏斗状ないしＶ字形を呈する。遺物を伴うことはほとんどない。このような土坑は、陥し穴と考えられているものである。陥し穴は、竪穴建物の造られる標高590.5-592.5m及びその上下段に分布するが、590m以下に特に多く造られている。底部幅の比較的広いもの、狭いもの、等高線に直交するもの、並行するものなど、いくつかの分類が可能でありまた、15-16号土坑や24-20-25-55-54号土坑のように並列するものもあって、計画的な配置があったことも想定される。平成30年度調査第１面では、形状や埋没土の堆積状況から古代に比定されるもの18基の土坑について記載する。本調査区で確認された土坑は、竪穴建物と同様に、主に平安時代に帰属すると考える。土坑が検出された位置は舌状台地の全体にわたっているが、特に尾根筋に多く位置している。古代以降の土坑も多く散見できる。土坑の平面形は、円形、楕円形、隅丸長方形を呈している。特に、陥し穴と思われる土坑の平面形は上面が円形、楕円形を、中位以下は幅の狭い長方形または長円形を呈して

いるか溝状を呈していることが多い。土坑の断面形は逆台形、すり鉢型、方形を呈している。陥し穴と思われる土坑の断面形は、漏斗状・逆台形・V字形・方形を呈する。底面は平坦である。陥し穴は、竪穴建物の造られた標高580m前後及びその前後に位置するが、平面形、断面形、底部の形状、傾斜方向に直交するもの並行するものなど、複数の分類が可能である。また、分布の様相から計画的な配置があったことも推察される。

（詳細については第16表に記した。）

6号土坑（第74図　PL. 30）

位置　89区L・M-21グリッド　調査区の中央近く、標高589.3mに、等高線に斜めに交わって掘られる。**形状**　底面は平坦で特別な施設を有さない。立ち上がり部は壁より外側にやや膨らむ。壁の下位は垂直に近く立ち上がり、上部でやや開く。**規模**　1.86×1.10m　**深さ**　1.35m　**主軸方位**　N-74°-W　**覆土**　ロームを掘り込んだ壁の崩落土である明褐色土が最下層にあり、中上位はロームブロックを含む暗褐色土、ロームブロック主体の明褐色土で埋没する。これを再掘削しているらしい。上位の覆土は黒褐色土が主体である。覆土全体に締まりはやや弱い。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　陥し穴と考える。時期決定の根拠を欠くが、形態や覆土の様相などは平安時代の陥し穴と共通する。

7号土坑（第74図　PL. 30）

位置　89区M-20グリッド　調査区の中央近く、標高589mの位置にあり、等高線とほぼ並行して掘られる。**形状**　底面は平坦で特別な施設を有さない。壁は外側にやや膨らみながら立ち上がり、壁の下位は垂直に近いが、上部でやや外側に開く。**規模**　1.89×0.81m　**深さ**　1.03m　**主軸方位**　N-0°　**覆土**　ロームを掘り込んだ壁の崩落土である明褐色土を最下層に、中上位はロームブロックを含む暗褐色土、ロームブロック主体の明褐色土で埋没し、これを再掘削しているらしい。上位の覆土は黒褐色土が主体である。覆土全体に締まりはやや弱い。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　陥し穴と考える。6号土坑と近い形態であり、これも平安時代の所産と思われる。

10号土坑（第75図　PL. 30）

位置　89区M-24グリッド　調査区の北東部、標高590.5mの位置に等高線と直交よりやや斜めに交わって掘り込まれている。**形状**　東側の地山が大きく削られており、西壁は高く残るものの、埋土は下部しか残っていない。陥し穴の底部と考えられている。**規模**　1.81×1.44m　**深さ**　0.33m　**主軸方位**　N-12°-W　**覆土**　両短辺の壁際がやや深く掘られる。締まりの弱い、にぶい褐色土、暗褐色土で埋没する。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　時期決定の根拠を欠くが、形態や覆土の様相などは平安時代の陥し穴と共通する。

12号土坑（第75図　PL. 30）

位置　89区J・K-22・23グリッド　調査区の北東部、標高589mにあり、等高線に斜めに交わって掘られる。**形状**　上面は胴張の強い楕円形の平面形を呈し、中位に段をもって、それ以下長方形となる。横断面は漏斗形、縦断面は中位以上が開く箱型を呈する。底面は平坦で特別な施設を有さない。**規模**　1.80×1.28m　**深さ**　1.04m　**主軸方位**　N-3°-E　**覆土**　下位は黒褐色土にロームブロック、ローム粒を混じ、上位は暗褐色土を主体にロームを混じる。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　陥し穴と考える。時期決定の根拠を欠くが、形態や覆土の様相などは平安時代の陥し穴と共通する。

15号土坑（第76図　PL. 30）

位置　89区H・I-21グリッド　調査区の中央東寄りの、標高588.1mの位置にあって、等高線と直交よりやや斜めに交わって掘られる。南西4mほどに同形同大の16号土坑がある。**形状**　上面は北西-南東に長い長円形、中位から隅丸長方形状の平面形を呈する。横断面は弱い漏斗状を呈する。縦断面では両小口ともに丸みを持って立ち上がり、上方に向かって外側にやや開く。底面は平坦で特別な施設を有さない。**規模**　1.98×1.12m　**深さ**　1.59m　**主軸方位**　N-51°-W　**覆土**　下位は大型のロームブロックなどを含む褐色～明褐色土、中・上位はローム粒や炭化物粒を含む黒褐色土で最上位には斑状のローム粒を含む締まりの強いにぶい黄褐色土が堆積している。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　陥し穴と考える。時期決定の根拠を欠くが、形態や覆土の様相

などは平安時代の陥し穴と共通する。

16号土坑（第76図　PL. 30）

位置　89区I-20グリッド　調査区の中央東寄りの、標高588.2～588.3mにあって、等高線と斜めに交わって掘られる。北東4mほどに同形同大の15号土坑が並ぶ。**形状**　上面は北西-南東に長い長円形、中位から長方形状の平面形を呈する。横断面は弱い漏斗状を呈する。縦断面では両小口ともに丸みを持って立ち上がり、上方で外側にやや開く。底面北隅に小ピットがある。**規模**　1.86×1.00m　**深さ**　1.24m　**主軸方位**　N-48°-W　**覆土**　下位は大型のロームブロックなどを含む黒褐色土で、これが堆積した後に中央部が再掘削されて、締まりの弱い暗褐色土などで埋まるとの観察所見が示されている。最上位には斑状のローム粒を含む締まりの強い暗灰褐色土が堆積している。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　陥し穴と考えられる。時期決定の根拠を欠くが、形態、覆土の様相や締まりの弱さなどは平安時代の陥し穴と共通する。

17号土坑（第77図　PL. 31）

位置　89区O-22グリッド　調査区中央北寄りにある１号竪穴建物の床面下で見つかっている。周辺地形から見ると、標高590.4mほどにあり、等高線とほぼ並行するように掘られたものである。**形状**　平面形は隅丸長方形で、長辺の壁は小さな丸みをもって垂直に近く立ち上がり、短辺は壁下がやや深く掘られ、小さな丸みをもって垂直に近く立ち上がる。南東隅にピット状の窪みがある。**規模**　1.36×0.64m　**深さ**　0.72m　**主軸方位**　N-21°-E　**覆土**　壁際にはロームブロックを多く含む黒褐色土が堆積し、中央部にはローム粒や炭化物粒を含む締まりの弱い暗褐色土が堆積する。**重複**　１号竪穴建物は９世紀後半の年代があてられ、これより古い。**遺物**　土師器甕小片　**所見**　形態、覆土の様相や締まりの弱さなどは平安時代の陥し穴と共通する。

18号土坑（第77図　PL. 31）

位置　89区P-17グリッド　調査区中央やや西寄りの、平成24年度調査区と25年度調査区の境にあたる。標高589.7mほどにあり、等高線と直交して掘られる。東に2mほど離れたやや低い位置に19号土坑が同方向で掘られている。**形状**　上面の平面形は長円形、下位は隅丸長方形を呈する。長辺の壁は小さな丸みをもって立ち上がり、中位から外に広がる。短辺の立ち上がり部は壁下がえぐられるように掘り込まれ、中位から上方にやや開く。**規模**　2.00×1.22m　**深さ**　1.34m　**主軸方位**　N-77°-W　**覆土**　下位にロームブロックを含む暗褐色土があり、中位には均質な黒色粘質土が厚く堆積する。上位は砂質の褐色土及び黒褐色土である。**重複**　認められない。**遺物**　土師器甕　**所見**　形態や覆土の様相などは平安時代の陥し穴と共通する。土師器甕小片が出土している。

19号土坑（第78図　PL. 31）

位置　89区N・O-17グリッド　調査区中央やや西寄り、標高598.5mほどにあり、等高線と直交して掘られる。西に2mほど離れた、やや高い位置に18号土坑が同方向で掘られている。**形状**　上面の平面形は長円形、下位は隅丸方形だが、中位が不定方向に大きくえぐれる。各壁は丸みをもって立ち上がり、中位でえぐれるように崩れて、上位では外に広がる。底面に特別な施設を有さない。**規模**　2.10×1.55m　**深さ**　1.94m　**主軸方位**　N-61°-W　**覆土**　下位にロームブロックを含む黒褐色土が厚く堆積し、中位の壁際には壁の崩落土を主体とする明黄褐色土があり、中央近くには黒色土がある。上位は砂質気味の黒褐色土である。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　形態や覆土の様相などは平安時代の陥し穴と共通する。

20号土坑（第78図　PL. 31）

位置　89区M-14・15グリッド　調査区中央の南寄り、標高589mの位置に、等高線と直交して掘られる。西4mの僅かに高い位置に25号土坑がほぼ同方位で掘られ、その西には54・55号土坑が並ぶ。また、北東6mほどには24号土坑がある。**形状**　上面の平面形は長円形で、下部は長方形を基本とするが、北西短辺は膨らみを持つ。各壁とも小さな丸みをもって立ち上がり、オーバーハング気味に内傾するが、中位以上は外に広がる。底面は北西短辺がやや深く掘られる。**規模**　2.05×1.15m　**深さ**　1.40m　**主軸方位**　N-40°-W　**覆土**　全体に締まりがある。壁面の崩落が少ないため最下層以外にはロームの混入も少

ない。上位覆土はやや砂質である。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　平安時代の隔し穴か。

22号土坑（第79図　PL. 31）

位置　89区E-17グリッド　調査区の南東端近く、標高587.5mに掘られる。南に21号土坑が近接する。傾斜がやや緩い部分で、長軸方位は等高線と並行よりやや斜めに交わる。**形状**　上面の平面形は胴の張った不整長円形で、下位は長円形ないし崩れた隅丸長方形を呈する。壁は上方に開き、さらに中位がえぐれるように崩れ、上位も外に広がる。底面に特別な施設を有さない。**規模**　1.89×1.61m　**深さ**　1.14m　**主軸方位**　N-19°-W　**覆土**　下位は崩落したロームが主体で、中位には粘質の暗褐色土が厚く堆積する、上位はやや砂質でロームブロック、ローム斑を含むにぶい黄褐色土である。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　平安時代の隔し穴か。

23号土坑（第79図　PL. 31）

位置　89区N-19グリッド　調査区の中央近く、標高598.4mの位置に、等高線と直交するように掘られる。西4mに27号土坑、南西6mに19号土坑があるが、主軸方向は異なる。**形状**　上面の平面形は胴の張った長円形で、下位も長円形を基本とするが、2個の円形を連ねたように中央がくびれる。壁は丸みをもって立ち上がり、外に広がるが、中位はえぐれるように崩れている。**規模**　1.58×1.18m　**深さ**　1.25m　**主軸方位**　N-89°-E　**覆土**　下位に壁の崩落土と暗褐色土が堆積し、上位には黒色、黒褐色の粘質土がある。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　隔し穴である。覆土の特徴から平安時代と想定される。

24号土坑（第80図　PL. 31）

位置　89区L-16グリッド　調査区の中央南寄り、標高588.9mほどにあり、等高線と直交するように掘られる。南西6mのやや下位に20号土坑がほぼ同方位で並び、その西に25・55・54号土坑が連なる。**形状**　上面は崩れた隅丸長方形、下位は長方形の平面形を呈する。長辺の各壁は小さな丸みをもって立ち上がり、中位から外に広がる。短辺の壁はえぐり込むような膨らみをもって立ち上がり、中位から外に広がる。底面に特別な施設を有さない。**規模**　1.63×0.75m　**深さ**　0.47m　**主軸方位**　N-42°-W　**覆土**　下位は壁際に崩れたロームブロックがあり、中央近くにやや砂質の黒褐色土、上位は粘質の黒色土である。**重複**　認められない。**遺物**　土師器甕小片。**所見**　平安時代の隔し穴か。

25号土坑（第80図　PL. 32・54）

位置　89区N-14グリッド　調査区の南寄りにある。平成24年度調査区と25年度調査区にまたがる。標高588.9mほどにあり、等高線と直交するように掘られている。南西3mほどに55号土坑があり、これに隣接する54号土坑と同標高にあり、さらに北西4mの20号土坑、さらにやや離れるが24号土坑も含めて、等高線に直交する方向で並ぶ。**形状**　上面は長円形の平面形を呈するが、下位は整った長方形である。長辺の各壁は垂直に近く立ち上がり、中位から崩れて外に広がる。短辺の壁は丸みをもって立ち上がり、中位から崩れて外に広がる。底面は北西側がやや深く掘られる。**規模**　2.51×1.42m　**深さ**　1.51m　**主軸方位**　N-38°-W　**覆土**　下位はロームブロックを含む締まりのない黒褐色土、中位以上はやや粘質の黒色土、暗褐色土である。**重複**　認められない。**遺物**　須恵器塊の口縁破片。**所見**　平安時代の隔し穴と考えられる。

26号土坑（第81図　PL. 32）

位置　89区J・K-19・20グリッド　調査区の中央東寄り、標高588.6mほどにあり、等高線と直交するように掘られる。東約4mに16号土坑がある。**形状**　上面形は楕円形を呈し、下位も大きく崩れていて不整な楕円形の平面形となっている。各壁ともに上方に開きながら立ち上がり、中位のAs-YPk層が深くえぐれるように崩れる。底面は北西側がやや深く掘られるが、特別な施設はない。**規模**　1.88×1.50m　**深さ**　1.63m　**主軸方位**　N-87°-W　**覆土**　下位にAs-YPkに黒色粘質土が混じる層、中位以上は暗褐色、黒色の粘質土が主体で、最上位に砂質気味の暗褐色土が堆積している。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　隔し穴である。埋土の特徴から平安時代のものと想定される。

27号土坑（第81図　PL. 32）

位置　89区O-19グリッド　調査区のほぼ中央、標高

589.8mほどにあり、等高線と並行して掘られる。東4mに23号土坑があるが、方向は異なる。10mほど東で0.8mほど下位に７号土坑があり、これとは形態・方位が近い。**形状**　長辺中部が崩れてややひろがるが、長方形を基本とした平面形である。隔壁は強く立ち上がり、中位からやや外に広がる。底面は北端が掘り込まれ、中央北寄りに小さなピットがある。**規模**　1.43×0.74m　**深さ**　0.87m　**主軸方位**　N-４°-E　**覆土**　下位にロームブロックを特に多く含む褐色粘質土、中位以上にやはりロームブロックの多い暗褐色粘質土があり、上位には黒色の粘質土が堆積する。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　平安時代の隔し穴か。

30号土坑（第82図　PL. 32）

位置　89区I・J-15グリッド　調査区南部、標高588.1mに、等高線とほぼ直交して掘られる。周囲には円形土坑が多く、直近の隔し穴は北西に10mほど離れた24号土坑になる。**形状**　上面の平面形は胴張のある長円形で、下部は隅丸長方形を呈する。底面は軽石層にあたって中央が窪み、立ち上がりはやや膨らみ気味に、丸みを持つ。中位以上は外に広がる。**規模**　1.97×1.39m　**深さ**　1.42m　**主軸方位**　N-85°-W　**覆土**　最下層が砂質の黒褐色土で、壁際にはロームブロックが集中し、上位はやや粘質の暗褐色土、黒褐色土となる。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　平安時代の隔し穴か。

41号土坑（第82図　PL. 32）

位置　89区T-19・20グリッド　調査区北西部、標高591.6m付近に、等高線と直交するように掘られる。西2mに46号土坑があるが、これは等高線に並行するように掘られている。**形状**　上面の平面形は胴の膨らんだ長円形で、底部はごく幅の狭い隅丸長方形を呈する。底面は中央が窪んでおり、壁は下位では強く立ち上がり、上位は大きく開く。断面形は漏斗状を呈する。**規模**　3.07×1.90m　**深さ**　1.81m　**主軸方位**　N-88°-E　**覆土**　下位に締まりの弱い暗褐色ないし黒褐色土があり、壁面の崩落土を挟んでローム粒を含む暗褐色土が堆積する。最上位にはロームブロックを多く含む締まりの強い黄黒色土が堆積している。**重複**　認められない。**遺物**　土師器コ字状口縁甕の頸部小片。**所見**　平安時代の隔し穴か。

42号土坑（第83図　PL. 32・54）

位置　89区R・S-17グリッド　調査区西部、標高590.5m付近に、等高線と直交よりやや斜めに交わって掘られる。西1.5mに47号土坑、北東5mの位置に43号土坑があるが、ともに本土坑とは直交するような角度である。北西11mほどにある41号土坑とはほぼ並行する。**形状**　上面は胴張の強い楕円形、下部は隅丸長方形の平面形を呈する。西側底部が軽石層まで掘り込んで崩れているが、特別の施設は認められない。壁は底部との接点でややえぐれるように立ち上がり、上位では外側に開く。**規模**　2.21×1.77m　**深さ**　2.04m　**主軸方位**　N-85°-E　**覆土**　下位が壁面崩落土を中心とする黄褐色土、上位は暗褐色土、黒色土で、最上位にロームを多く含む黄褐色土が堆積している。**重複**　認められない。**遺物**　須恵器高台付塊の底部片。**所見**　平安時代の隔し穴か。

43号土坑（第83図　PL. 32）

位置　89区Q-18グリッド　調査区西部、標高590.5m付近に、等高線と直交よりやや斜めに交わって掘られる。南西8mに47号土坑がある。**形状**　上面の平面形は北部がやや広がった不整楕円形で、下位は隅丸長方形を呈する。底面は軽石層まで掘り込んで崩れているため、断面形はＶ字に近い。**規模**　2.22×1.80m　**深さ**　1.75m　**主軸方位**　N-15°-W　**覆土**　下層はロームブロックを含む暗褐色土、上位には軽石粒を多く含む黄褐色土が堆積する。**重複**　認められない。**遺物**　須恵器高台付塊の底部片。**所見**　平安時代の隔し穴か。

44号土坑（第84図　PL. 33）

位置　89区S-21グリッド　調査区北西部、標高591.6m付近に、等高線と並行して掘られる。南西7mに41号土坑があるが、方位が異なる。南西10mの46号土坑は形態が異なるものの、方位は近い。**形状**　上面の平面形は胴張の強い楕円形、下位は隅丸方形である。底面近くで軽石層まで掘り込み、立ち上がり部はえぐれるように膨らむ。壁中位以上は外方に広がる。断面形は漏斗状に近い。**規模**　2.01×1.53m　**深さ**　1.83m　**主軸方位**　N-28°-E　**覆土**　中・下層はローム粒をほとんど含まない軟質の暗褐色土で、上層にローム粒、斑状のローム粒を含む締まりの強い暗褐色土が堆積している。**重複**　認められな

い。**遺物**　認められない。**所見**　平安時代の陥し穴か。

46号土坑（第84図　PL. 33）

位置　89区U-19・20グリッド　調査区北部西端近くにある。標高592mの等高線に並行するように掘られている。東2mに形状の似た41号土坑が、北東10mには方向の近い44号土坑がある。**形状**　上面の平面形は乱れた隅丸長方形で、下部は中央がくびれた長円形を呈する。底部は中央近くが深く掘られていて、壁は外に広がる。横断面の形状はV字状に近い。**規模**　2.46×1.26m　**深さ**　1.24m　**主軸方位**　N-36°-E　**覆土**　下位はロームブロックが含まれるが、上位では少なく、黒味が強い。**重複**　認められない。**遺物**　土師器甕胴部細片。**所見**　平安時代の陥し穴か。

47号土坑（第85図　PL. 33）

位置　89区S-17グリッド　調査区中央西端近くにある。標高590.8mの等高線に並行するように掘られている。東2mに42号土坑が長軸を直交させるようにあり、北東8mの43号土坑の標高はやや低いもののほぼ並行する。**形状**　上面の平面形は南部が膨らんだ長円形で、下部も隅丸長方形を基本とするが南側短辺が丸みを持つ。底面に特別な施設はない。壁は小さな丸みをもって立ち上がり、中位から上方に広がる。**規模**　1.77×1.23m　**深さ**　1.20m　**主軸方位**　N-1°-E　**覆土**　下位はロームを多く含む暗褐色土で、中位に混入物の少ない黒褐色土を挟んで、上位にはローム粒を含む暗褐色土が堆積する。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　平安時代の陥し穴か。

48号土坑（第85図　PL. 33）

位置　89区Q-14グリッド　調査区南西部の標高589.9m付近に、等高線と並行よりやや斜めに交わって掘られる。東に51・52・49号土坑があるが、これらとは方向、形状ともに異なり、北にやや離れるが43号土坑、47号土坑とは方向、形状ともに近い。**形状**　上面の平面形は隅丸長方形ないし長円形で、下位は隅丸長方形を呈する。底面に特別な施設はない。壁は下部をややえぐり込むように立ち上がり、上方でやや開く。**規模**　1.92×1.05m　**深さ**　1.40m　**主軸方位**　N-19°-W　**覆土**　下・中位は黒色土で、下位にロームブロックを含む。上位はロームブロック、ローム粒と少量の炭化物を含む締まりのある黄褐色土である。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　平安時代の陥し穴か。

49号土坑（第86図　PL. 33）

位置　89区P・Q-14グリッド　調査区南西部の標高589.7m付近に等高線と並行するように掘られる。北に52・51号土坑が接するように並び、西には48号土坑がある。**形状**　平面形は長円形を基本とするが東側長辺上部が大きく広がる。下位は比較的幅の狭い隅丸長方形ないし長円形を呈する。長辺の壁は上方に開き気味に立ち上がり、中位から大きく広がる。短辺の壁はややえぐり込むように膨らんで立ち上がり、中位から外側に広がる。断面形は漏斗状を呈する。**規模**　2.46×1.71m　**深さ**　1.15m　**主軸方位**　N-37°-E　**覆土**　最下位がロームを主体とし、軟質の黒色土を挟んで、As-Kkと思われる軽石を含む黒色土が堆積し、最上位にはロームブロックを多く含む黄褐色土が堆積している。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　平安時代の陥し穴か。

51号土坑（第86図　PL. 33・54）

位置　89区Q-14・15グリッド　調査区南西部の標高589.8m付近に等高線と並行よりやや斜めに交わって掘られる。南に52・49号土坑が接するように並び、西には48号土坑がある。**形状**　平面形は胴張の強い長円形を基本とするが、下位は幅の狭い長円形を呈する。底部は中央が深く掘られていて、長辺の壁は外に広がり、横断面の形状はV字状に近い。短辺の壁は丸みをもって立ち上がり、縦断面は鍋底状を呈す。**規模**　2.81×1.06m　**深さ**　1.16m　**主軸方位**　N-40°-E　**覆土**　最下位がロームと黒色土の混土で、中位に壁の崩落層をはさみ、上位にはAs-Kkと思われる軽石を含む黒褐色土が堆積する。**重複**　認められない。**遺物**　土師器甕口縁部小片。**所見**　平安時代の陥し穴か。

52号土坑（第87図　PL. 33）

位置　89区P・Q-14グリッド　調査区南西部の標高589.7m付近に等高線とほぼ並行するように掘られる。南に49号、北に52号土坑が並び、西には48号土坑がある。**形状**　陥

し穴の下部であろう。上面の平面形は長円形を基本とするが、南西部が膨らむ。下部も相似形である。底部は平坦で特別な構造はない。長辺の壁は強く立ち上がり、横断面は箱型を呈す、短辺は南西部では緩く立ち上がり、北東部は丸みをもって立ち上がる。**規模**　2.36×0.88m　**深さ**　0.43m　**主軸方位**　N-51°-E　**覆土**　暗褐色土で、下部にロームブロックやローム粒が目立つ。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　平安時代の陥し穴か。

53号土坑（第87図　PL. 34）

位置　89区O・P-11・12グリッド　調査区南西隅近くの標高589.1mに等高線と並行よりやや斜めに交わって掘られる。北東2.5mに54号土坑がある。**形状**　上面の平面形は胴の張った楕円形で、下部は狭い隅丸長方形ないし長円形を呈す。底部中央は深く掘られていて、長辺の壁は中位から大きく外に開く。横断面はV字に近い漏斗状を呈する。短辺の壁はややえぐり込むように膨らんで立ち上がり、上位で外に開く。縦断面は弱い袋状ないし鍋底状を呈する。**規模**　3.01×1.80m　**深さ**　1.81m　**主軸方位**　N-34°-E　**覆土**　ローム粒やロームブロックを含む暗褐色土で、最上位にAs-Kkを含む灰黒褐色土が堆積している。**重複**　認められない。**遺物**　土師器甕胴部小片。**所見**　平安時代の陥し穴か。

54号土坑（第88図　PL. 34・54）

位置　89区O-12・13グリッド　調査区南西部の標高588.9m付近に等高線と直交するように掘られる。南東2.5mに53号土坑がある。北東には方向、形態ともに類似する55号土坑が並び、さらに25、20、24号土坑が並行する。**形状**　上面の平面形は長円形を基本とするが、北部が大きく張り出す。下位は隅丸長方形を呈す。底面は両端部がやや低くなるが、特別の施設はない。長辺の壁は強く立ち上がり、中位からやや外に開く。短辺の壁はえぐり込むように膨らみながら立ち上がり、中位以上は外に開く。**規模**　2.44×1.46m　**深さ**　1.69m　**主軸方位**　N-47°-W　**覆土**　最下位はロームブロック、ローム粒を多く含み、締まりの弱い黒色土を介して、中位にローム粒を含む黒褐色土、上位にローム粒と少量の炭化物を含む暗褐色土が堆積する。**重複**　認められない。**遺物**　内耳鍋の把手が混入している。**所見**　平安時代の陥し穴か。

55号土坑（第88図　PL. 34）

位置　89区N・O-13グリッド　調査区南西部の標高588.9m付近に等高線と直交するように掘られる。南西には方向、形態ともに類似する54号土坑が並び、北東に25、20、24号土坑が並行する。**形状**　上面の平面形は長円形を基本とするが、北部が大きく張り出す。下位は長方形を呈す。底面は両端部がやや低くなるが、特別の施設はない。長辺の壁は丸みをもって立ち上がり、中位に小さな段をもって上位が外に開く。短辺の壁はえぐり込むように膨らみながら立ち上がり、中位以上は外に開く。**規模**　2.04×1.44m　**深さ**　1.69m　**主軸方位**　N-56°-W　**覆土**　最下位は軽石粒に黒色土を混じ、締まりの弱い黒色土を介して、特に上層にロームブロック、ローム粒を含む黄褐色土が堆積する。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　平安時代の陥し穴か。

56号土坑（第89図　PL. 34）

位置　89区O-16グリッド　調査区南西部の標高589.6mに等高線と直交するように掘られる。北3mに18号土坑、北東5mに19号土坑がある。**形状**　上面は胴の張った楕円形で、下位も相似形であるが、底面が軽石層にあたって乱れるため判然としない。壁も軽石層相当部が崩れてえぐれているが、中位以上は外に開く。**規模**　1.83×1.28m　**深さ**　1.73m　**主軸方位**　N-53°-W　**覆土**　最下位に締まりの弱いロームと黒色土の混土があり、中位はローム粒を含む黒色土、上位にはAs-Kkを多く含む淡黄褐色土が堆積している。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　平安時代の陥し穴か。

70号土坑（第89図　PL. 34）

位置　79区U・V-25グリッド　**形状**　長円形である。断面形は不整形を呈する。**規模**　2.66×（1.75）m　**深さ**　1.54m　**主軸方位**　N-50°-E　**覆土**　黒色土で埋没している。ローム及びAs-YPkを多く含む。**重複**　認められない。**遺物**　土器片出土。**所見**　本土坑は、陥し穴に使用されていたと考えられる。形態や覆土の様相は平安時代の特徴を呈する。

71号土坑（第90図　PL. 34）

位置　79区U-24グリッド　**形状**　不整形である。断面形は逆台形を呈する。下位は垂直に近いが、上部で外側に開く。平底である。**規模**　1.60×(1.35)m　**深さ**　0.94m

主軸方位　N-64°-E　**覆土**　ロームを掘り込んだ壁の崩落土である暗褐色土を最下層に、中上位はロームブロックを含む黒褐色土で埋没している。やや締まっている。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑は、陥し穴に使用されていたと考えられる。形態や覆土の様相は平安時代の特徴を呈する。

75号土坑（第90図　PL. 34）

位置　79区Q-20グリッド　**形状**　平面形、断面形ともに不整形である。底面のみ残存している。**規模**　(1.94)×(1.80)m　**深さ**　0.67m　**主軸方位**　N-37°-W　**覆土**　上部は倒木による攪乱部分である。底部が残存しており、黒褐色土で埋没している。軽石、ロームブロックを含み、締まっている。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。底部のみの残存で、時期比定の根拠に乏しいが、確認面、埋没土及び形状から、周辺の遺構と同時期と考えられる。

81号土坑（第90図　PL. 34）

位置　79区W・X-25グリッド　**形状**　隅丸長方形である。断面形は長方形を呈する。底面は平底である。**規模**　1.30×0.70m　**深さ**　0.46m　**主軸方位**　N-75°-W　**覆土**　壁際は黒褐色土、褐色土で埋没している。本体は、黒色土で埋没している。炭化物を含む。**重複**　8号竪穴建物より新しく、60号ピットと重複している。**遺物**　土器出土。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。2面調査時に確認されており底部のみの残存である。時期比定の根拠に乏しいが、埋没土及び形状から平安時代の所産と考えられる。

93号土坑（第90図　PL. 35）

位置　79区L-17グリッド　**形状**　隅丸長方形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。**規模**　2.06×0.94m　**深さ**　1.07m　**主軸方位**　N-25°-W　**覆土**　おおむね黒褐色土で埋没している。底部の壁際に地山の崩落が見られる。軽石及びAs-YPkが見られる。締まりは弱い。**重複**　89号土坑より新しい。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑は形状より陥し穴と考えられる。埋没土から平安時代の所産と考えられる。

106号土坑（第90図　PL. 35）

位置　79区D・E-12グリッド　**形状**　隅丸長方形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。**規模**　1.90×0.86m　**深さ**　1.00m　**主軸方位**　N-75°-W　**覆土**　黒色土で埋没している。ロームブロック、軽石を含む。締まりは弱い。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑は形状より陥し穴と考えられる。埋没土から周囲の陥し穴と同時期と考えられる。

107号土坑（第91図　PL. 35）

位置　79区E-14グリッド　**形状**　隅丸長方形である。断面形は上部が開いた長方形を呈する。底面は平底である。底部に2基のピットが連なる。**規模**　1.70×0.95m　**深さ**　0.77m　**主軸方位**　N-60°-E　**覆土**　黒色土で埋没している。ロームブロック、軽石を含む。締まりは弱い。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑は形状より陥し穴と考えられる。埋没土から周囲の陥し穴と同時期と考えられる。

109号土坑（第91図　PL. 35）

位置　79区C-13・14グリッド　**形状**　隅丸長方形である。断面形は漏斗状を呈する。**規模**　2.79×1.12m　**深さ**　0.81m　**主軸方位**　N-57°-E　**覆土**　黒褐色土、黒色土の順で埋没している。下部にはAs-YPkを含み、地山の崩落が見られる。上部はロームブロックと軽石を含む。**重複**　認められない。**遺物**　土器出土（土師器）。**所見**　本土坑は形状より陥し穴と考えられる。埋没土から周囲の陥し穴と同時期と考えられる。

110号土坑（第91図　PL. 35）

位置　79区E・F-16グリッド　**形状**　隅丸長方形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。**規模**　2.29×1.24m　**深さ**　1.19m　**主軸方位**　N-79°-E　**覆土**　黒色土、黒褐色土の順で埋没している。下部はロームブロックを含みAs-Kkが散見できる。上部は軽石や炭化物

を含む。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑は形状より陥し穴と考えられる。埋没土から周囲の陥し穴と同時期と考えられる。

111号土坑（第91図　PL. 35）

位置　79区E・F-17グリッド　**形状**　隅丸長方形である。断面形は逆台形を呈する。底面は平底である。**規模**　2.22×0.89m　**深さ**　1.11m　**主軸方位**　N-33°-E　**覆土**　黒色土、黒褐色土の順で埋没している。下部は砂質である。上部にはAs-Kkが散見できる。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑は形状より陥し穴と考えられる。埋没土から周囲の陥し穴と同時期と考えられる。

112号土坑（第91図　PL. 35）

位置　79区A・B-21グリッド　**形状**　隅丸長方形である。断面形は逆台形を呈する。底面は丸底である。**規模**　1.77×0.75m　**深さ**　1.46m　**主軸方位**　N-15°-W　**覆土**　黒色土で埋没している。軽石やロームブロックを含む。上部にロームが混入する。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑は形状より陥し穴と考えられる。埋没土から周囲の陥し穴と同時期と考えられる。

114号土坑（第92図　PL. 36）

位置　79区C-16・17グリッド　**形状**　隅丸長方形である。断面形は逆台形を呈する。底面は丸底である。底部に３基のピットが連なる。**規模**　1.80×0.80m　**深さ**　1.15m　**主軸方位**　N-62°-E　**覆土**　黒褐色土で埋没している。下部にはAs-YPkを含み、壁際に地山の崩壊が見られる。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑は形状より陥し穴と考えられる。埋没土から周囲の陥し穴と同時期と考えられる。

115号土坑（第92図　PL. 36）

位置　79区K-16グリッド　**形状**　平面形は隅丸長方形である。上方向に開いた長方形である。底面は平底である。底部に３基のピットが確認できる。**規模**　1.08×1.02m　**深さ**　1.07m　**主軸方位**　N-２°-W　**覆土**　黒褐色土、黒色土の順で埋没している。軽石とロームブロックを含む。底部は、軽石が集中する。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑は形状より陥し穴と考えられる。埋没土から周囲の陥し穴と同時期と考えられる。

118号土坑（第92図　PL. 36）

位置　79区G-18グリッド　**形状**　平面形は長円形である。断面形は不整形である。途中に段差があり、掘り込みが２段になっている。底面は平底である。底部に３基のピットが見られる。**規模**　1.98×1.40m　**深さ**　1.02m　**主軸方位**　N-22°-W　**覆土**　黒褐色土、黒色土の順で埋没している。壁際の崩壊した土にAs-YPkが含まれる。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑は形状より陥し穴と考えられる。２面調査時に確認されているが、埋没土から平安時代の所産と考えられる。

119号土坑（第92図　PL. 36）

位置　79区D・E-20グリッド　**形状**　不整形である。断面形は不整形である。北西に途中段差があり、掘り込みが２段になっている。**規模**　1.97×1.56m　**深さ**　1.47m　**主軸方位**　N-35°-W　**覆土**　黒色土で埋没している。軽石やロームブロックを含む。締まりはない。**重複**　認められない。**遺物**　土器出土。**所見**　本土坑は形状より陥し穴と考えられる。２面調査時に確認されているが、埋没土から平安時代の所産と考えられる。

123号土坑（第93図　PL. 36）

位置　79区F-19グリッド　**形状**　隅丸長方形である。断面形は逆台形を呈している。底面は平底である。**規模**　1.63×0.76m　**深さ**　0.74m　**主軸方位**　N-70°-E　**覆土**　黒色土で埋没している。As-YPk、ロームブロックを含む。やや締まりがある。**重複**　認められない。**遺物**　土器出土。**所見**　本土坑は形状より陥し穴と考えられる。埋没土から周囲の陥し穴と同時期と考えられる。

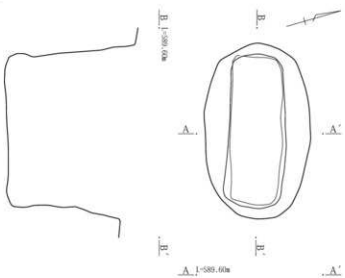
126号土坑（第93図　PL. 36）

位置　79区J-18グリッド　**形状**　不整形である。断面形は２重の逆台形を呈する。北東途中に段差があり、掘り込みが２段になっている。**規模**　2.42×1.87m　**深さ**　1.08m　**主軸方位**　N-17°-W　**覆土**　底部にローム軽石が多量に混入する層があり、壁際はAs-YPkを含む暗褐色

土が見られ、地山の崩壊が観察できる。ロームブロックを含み、締まりが弱い。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑は形状より陥し穴と考えられる。埋没土から周囲の陥し穴と同時期と考えられる。

127号土坑（第93図　PL. 36）

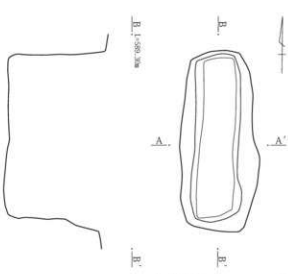
位置　79区I・J-18グリッド　**形状**　不整形である。断面形は逆台形を呈する。底部に段差がある。**規模**　2.85×2.35m　**深さ**　1.42m　**主軸方位**　N-37°-E　**覆土**　黒色土、黒褐色土で埋没している。下部は軽石やロームブロックを含み、締まりがある。上部は軽石とロームブロックを含み、地山の崩落が見られる。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑は形状より陥し穴と考えられる。埋没土から周囲の陥し穴と同時期と考えられる。



6号土坑

6号土坑
1　黒褐色土　やや砂質。1～5cm程の黄褐色地山ブロックを含む。As-YPk、炭化物散在。
2　灰黄褐色土　やや砂質。As-YPk、黄褐色地山ブロックを多く含む。炭化物散在。一部、大型の炭化物も見られる。
3a　黒色土　ややもろく粘質。均質。As-YPk僅かに散在。
3b　黒褐色土　もろく粘質。均質。層下半に1～2cm程の黄褐色地山ブロックを僅かに含む。As-YPk僅かに散在。
4　暗褐色土　粘質。層下半を中心に1～2cm程の黄褐色地山ブロックを僅かに散在。
5　明黄褐色土　もろい。地山ブロックの層。
6　暗褐色土　やや粘質。As-YPk、1～2cm程の黄褐色地山ブロックを含む。

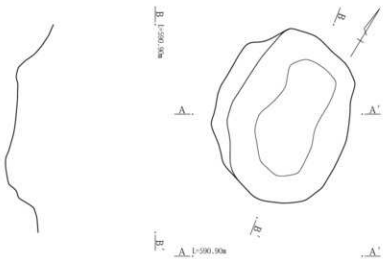
7号土坑

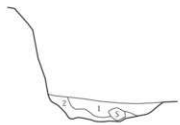


7号土坑
3　黒褐色土　ややもろく粘質。均質。As-YPk僅かに散在。
4　暗褐色土　粘質。層下半を中心に1～2cm程の黄褐色地山ブロックを僅かに散在。
5　明黄褐色土　もろい。地山ブロックの層。
6　暗褐色土　やや粘質。As-YPk、1～2cm程の黄褐色地山ブロックをやや多く含む。

第74図　土坑1（6・7号土坑）

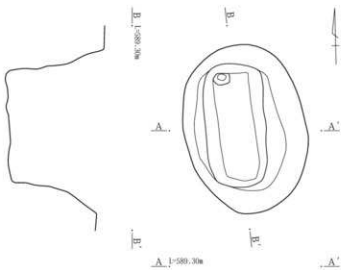
10号土坑



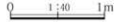


10号土坑
1　暗褐色土　褐色土塊・ローム塊を含む。締まり弱い。
2　にぶい褐色土　軟質で締まり弱い。

12号土坑

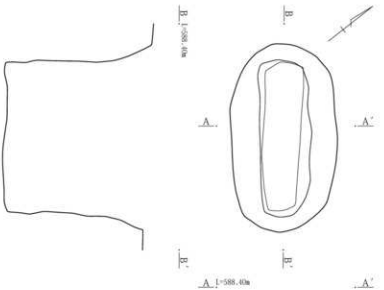


12号土坑
1　灰褐色土　小礫を含む。締まり弱い。別種土坑埋土。
2　褐色土　明るい。小型のローム塊を多く含む。締まり弱い。
3　褐色土　暗い。ローム粒を多く含む。締まり弱い。
4　黒褐色土　ローム粒を少量含む。締まり弱い。上坑外縁に見る上層。
5　暗褐色土　褐色土塊を多く含む。As-YPkを少量含む。
6　暗褐色土　やや暗い。均質。白色粒を微量含む。締まり強い。
7　暗褐色土　やや明るい。粘性ある褐色土塊を主体とする。
8　黒褐色土　やや明るい。ローム粒を多く含む。締まり弱い。
9　黒褐色土　やや暗い。ローム粒を少量含む。締まり弱い。
10　黒褐色土　暗い。ローム粒を少量含む。締まりやや強い。
11　黒褐色土　暗い。ローム粒を多く含む。締まりやや強い。
12　黒褐色土　暗い。小型のローム塊を多く含む。締まりやや強い。

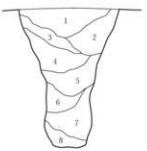


第75図　土坑２（10・12号土坑）

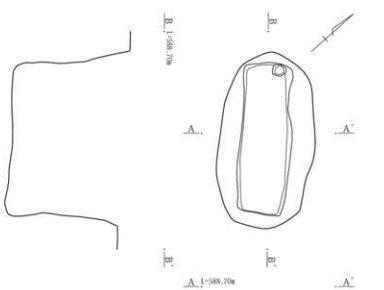
15号土坑



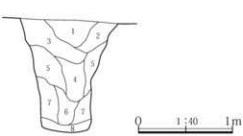
15号土坑
1　にぶい黄褐色土　ローム塊を主体とする。As-YPkを多く含む。締まり強い。
2　黒褐色土　暗い。均質で微量のローム粒を含む。締まり弱い。
3　黒褐色土　明るい。均質。炭化物・ローム粒を微量含む。
4　暗褐色土　炭化物・ローム粒を少量含む。締まり弱い。
5　暗褐色土　やや暗い。ローム粒を少量含む。締まり弱い。
6　褐色土　ローム粒を多く含む。締まり弱い。
7　褐色土　大型のローム塊・黒色土塊を含む。締まり弱い。
8　褐色土　小型のローム塊を多く含む。



16号土坑

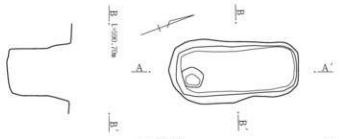


16号土坑
1　暗灰褐色土　ローム塊・As-YPkを多く含む。締まり強い。
2　黒褐色土　均質。褐色土塊・白色粒を少量含む。締まり弱い。
3　黒褐色土　やや明るい。均質。As-YPkを微量含む。締まり弱い。
4　黒褐色土　暗い。ローム粒を斑状に含む。締まり弱い。
5　暗褐色土　ローム粒・As-YPkを少量含む。締まりやや強い。
6　暗褐色土　やや暗い。ローム粒を少量含む。締まり弱い。
7　黄褐色土　黒褐色土塊・大型のローム塊を多く含む。締まり弱い。
8　黒褐色土　ローム粒を少量含む。締まり弱い。
※陥穴状土坑。１～６層は自然堆積か。



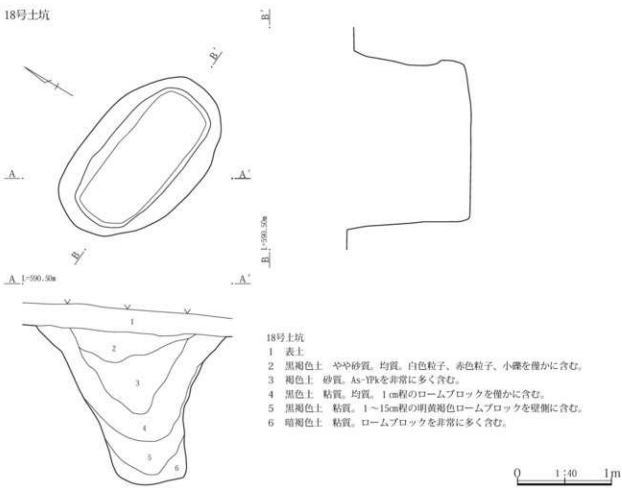
第76図　土坑３（15・16号土坑）

17号土坑



17号土坑
1　暗褐色土　ローム粒を多く含む。締まり弱い。
2　暗褐色土　小型のローム塊・炭化物を多く含む。締まり弱い。
3　暗褐色土　ローム粒・炭化物を少量含む。締まり弱い。
4　黒褐色土　小型のローム塊を少量含む。締まりやや強い。
5　黒褐色土　大型のローム塊を多く含む。締まり弱い。
6　黒褐色土　やや明るい。小型のローム塊を少量含む。
7　暗褐色土　微量のローム粒を含む。締まり強い。
8　黒褐色土　小型のローム塊を少量含む。締まり強い。
※１号住床下で検出した陥穴状土坑。自然堆積か。
※１号住との新旧は、土坑上層に貼り床が見られたため、１号住が新しい。

18号土坑

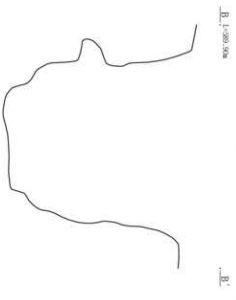


18号土坑
1　表土
2　黒褐色土　やや砂質。均質。白色粒子、赤色粒子、小礫を僅かに含む。
3　褐色土　砂質。As-YPkを非常に多く含む。
4　黒色土　粘質。均質。１cm程のロームブロックを僅かに含む。
5　黒褐色土　粘質。１～15cm程の明黄褐色ロームブロックを壁側に含む。
6　暗褐色土　粘質。ロームブロックを非常に多く含む。

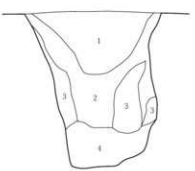
0　1:40　1m

第77図　土坑４（17・18号土坑）

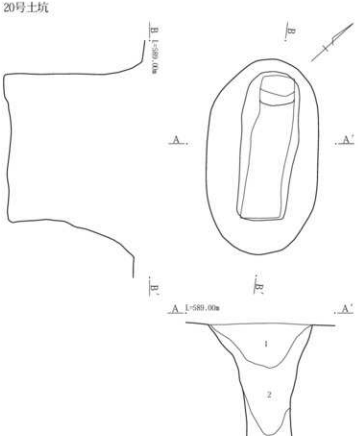
19号土坑



19号土坑
1　黒褐色土　やや砂質。As-YPkを多く含むブロック土が主体。
2　黒色土　粘質。均質。As-YPk、赤色粒子散在。
3　明黄褐色土　ロームブロック主体層。
4　黒褐色土　粘質。５～15cm程の明黄褐色ロームブロックを多く含む。



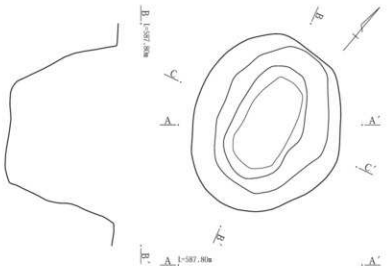
20号土坑



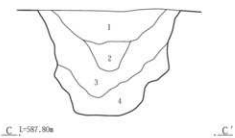
20号土坑
1　黒褐色土　締まりあり。やや砂質。As-YPkを多く含むブロック土が混在。
2　黒色土　締まりあり。粘質。均質。As-YPk、赤色粒子を僅かに含む。
3　暗褐色土　締まりあり。粘質。１～５cm程のにぶい黄褐色ロームブロックを多く含む。

第78図　土坑５（19・20号土坑）

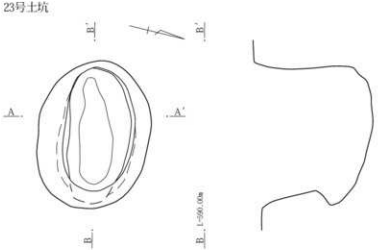
22号土坑

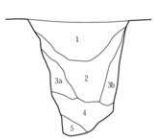


22号土坑
1　にぶい黄褐色土　やや砂質。ロームブロック、As-YPk、赤色粒子を含む。
2　にぶい黄褐色土　やや砂質。As-YPkを多く含むブロック土が混在。
3　暗褐色土　粘質。１～５cm程の明黄褐色ロームブロックを少量含む。
4　黄褐色土　砂質。ローム主体層。



23号土坑

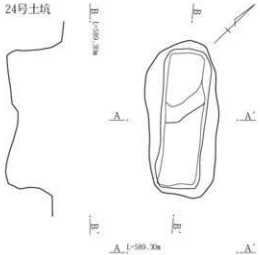




23号土坑
1　　黒褐色土　粘質。均質。As-YPk、赤色粒子僅かに散在。
2　　黒色土　粘質。均質。As-YPk、赤色粒子僅かに散在。
３ａ　暗褐色土　粘質。明黄褐色ロームブロックを多く含む。
３ｂ　褐色土　粘質。３ａ層より多くの明黄褐色ロームブロックを含む。
4　　暗褐色土　粘質。明黄褐色ロームブロックを含む。
5　　明黄褐色土　ロームブロック主体。

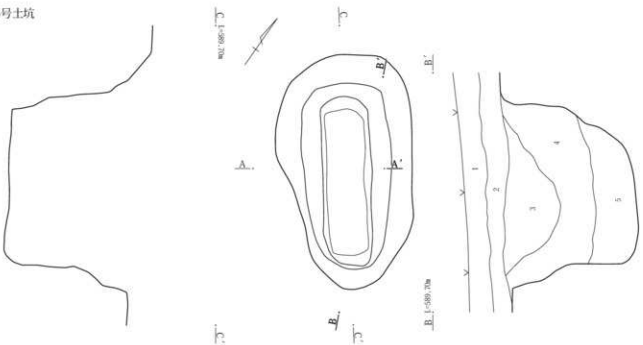
第79図　土坑６（22・23号土坑）

24号土坑

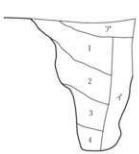


24号土坑
1　黒色土　粘質。均質。As-YPkを含む。
2　黒褐色土　やや砂質。As-YPk、ロームブロックを含む。
3　にぶい黄褐色土　ロームブロック主体。

25号土坑



25号土坑A-A'
ア　黒色土　攪乱土
イ　攪乱土　平成24年度調査後の埋め土。
1　黒色土　軟質。
2　黒色土　若干のローム粒含む。軟質。
3　暗褐色土　若干のローム粒、小ブロック含み軟質。
4　暗褐色土　ロームブロック、ローム粒多く混入。



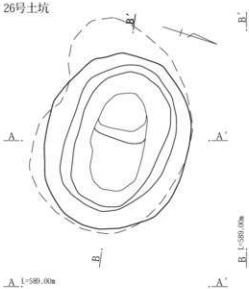
25号土坑B-B'
1　表土
2　黒色土　やや粘質。As-YPk、赤色粒子散在。
3　暗褐色土　やや粘質。As-YPk、赤色粒子、小礫を含む。
4　黒色土　やや粘質。均質。As-YPk、赤色粒子僅かに散在。
5　黒褐色土　やや締まりなし。ロームブロックをブロック状に多く含む。

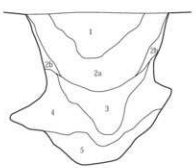
0　1:3　10cm

0　1:40　1m

第80図　土坑７（24・25号土坑　25号土坑出土遺物）

26号土坑





26号土坑
1　暗褐色土　やや砂質。As-YPkを非常に多く含むブロック土主体。
2ａ　黒色土　粘質。均質。As-YPk、赤色粒子僅かに散在。
2ｂ　黒色土　粘質。均質。As-YPk、赤色粒子僅かに散在。ロームブロックを多く含む。
3　暗褐色土　粘質。５～15cm程の明黄褐色ロームブロックを多く含む。
4　明黄褐色土　ロームブロック主体。僅かに黒色粘質土を含む。
5　黒褐色土　砂質。As-YPkに少量の黒色粘質土が混土。

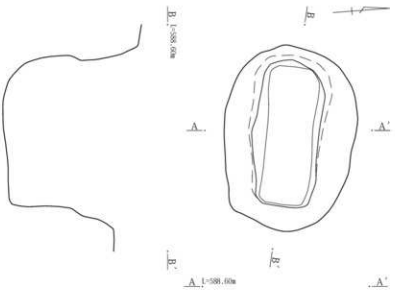
27号土坑

27号土坑
1　黒色土　粘質。均質。As-YPk、赤色粒子僅かに散在。
2　暗褐色土　粘質。１～10cm程の明黄褐色ロームブロックを多く含む。
3　褐色土　粘質。明黄褐色ロームブロックを非常に多く含む。
4　黒色土　粘質。植物の痕跡か。

0　1:40　1m

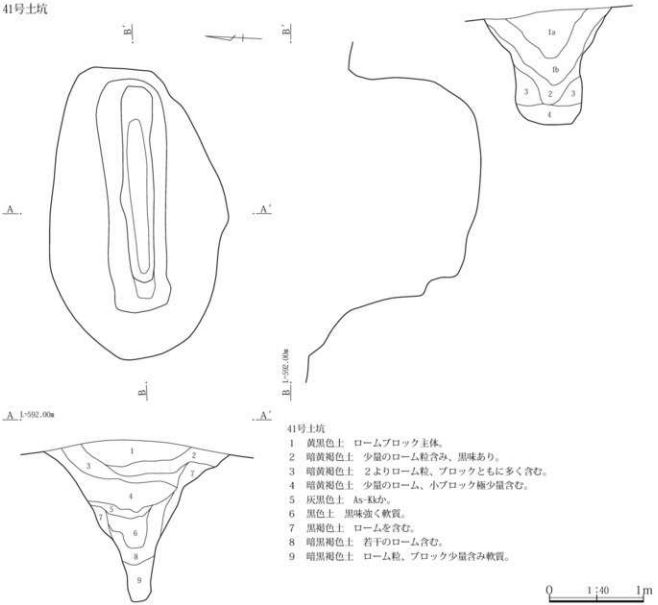
第81図　土坑８（26・27号土坑）

30号土坑



30号土坑
1 a　黒褐色土　やや砂質。１ｂ層とAs-YPkを多く含むにぶい黄褐色ブロック土との混土。
1 b　黒褐色土　やや粘質。ほぼ均質。白色粒子、赤色粒子散在。
2　暗褐色土　やや粘質。明黄褐色ロームブロックを多く含む。
3　明黄褐色土　やや締まりなし。ロームブロック主体。
4　黒褐色土　砂質。

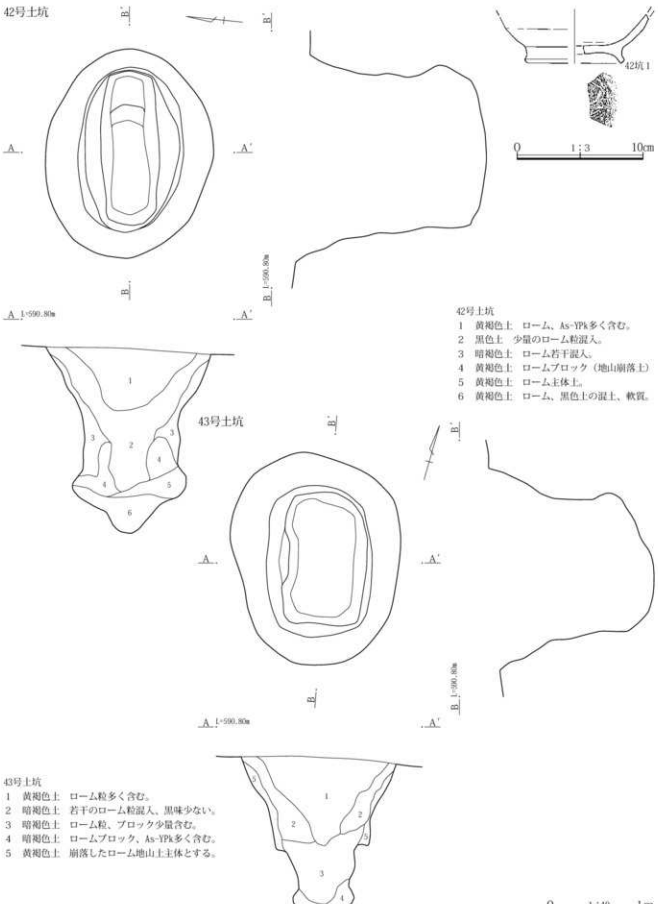
41号土坑



41号土坑
1　黄黒色土　ロームブロック主体。
2　暗黄褐色土　少量のローム粒含み、黒味あり。
3　暗黄褐色土　２よりローム粒、ブロックともに多く含む。
4　暗黄褐色土　少量のローム、小ブロック極少量含む。
5　灰黒色土　As-Kkか。
6　黒色土　黒味強く軟質。
7　黒褐色土　ロームを含む。
8　暗黒褐色土　若干のローム含む。
9　暗黒褐色土　ローム粒、ブロック少量含み軟質。

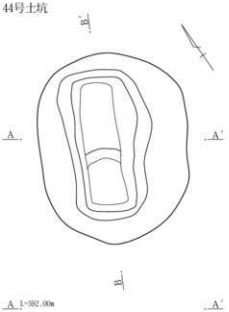
0　1:40　1m

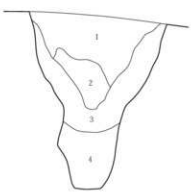
第82図　土坑９（30・41号土坑）



第83図　土坑10（42・43号土坑　42号土坑出土遺物）

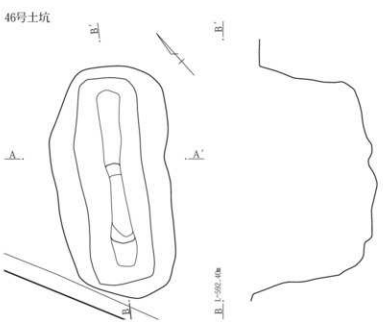
44号土坑

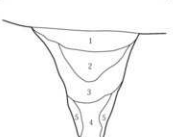




44号土坑
1　暗褐色土　ローム粒、ブロック多く含む。
2　暗黄褐色土　ローム粒（軽石）多く含む。
3　暗褐色土　ローム粒ほとんど含まず。
4　暗褐色土　ローム粒ほとんど含まず、軟質。

46号土坑



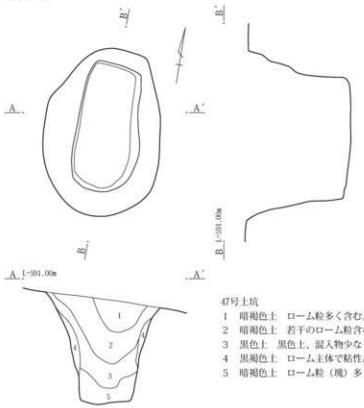


46号土坑
1　黒色土　ローム粒含み粗粒。
2　黒色土　少量のローム粒混入。
3　黒色土　細粒で黒味強い。
4　黒色土　若干のローム小ブロック含む。
5　暗褐色土　ロームブロック多く含む、地山崩落土。

0　1:40　1m

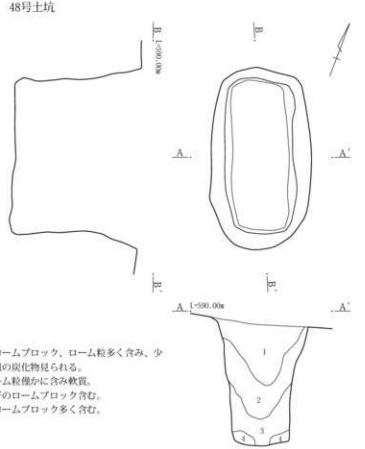
第84図　土坑11（44・46号土坑）

47号土坑



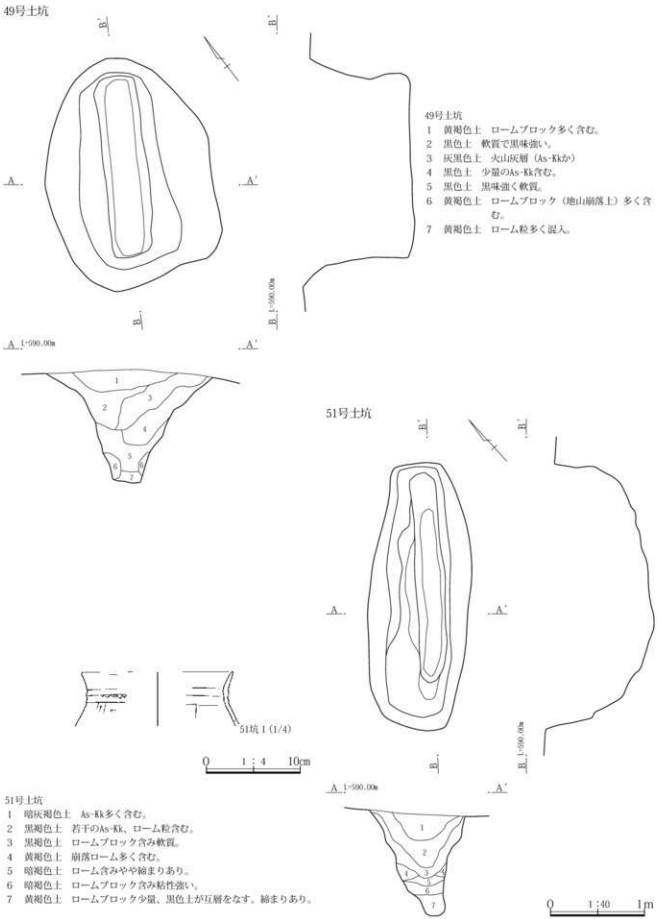
47号土坑
1　暗褐色土　ローム粒多く含む。
2　暗褐色土　若干のローム粒含む。
3　黒色土　黒色土、混入物少なく軟質。
4　黒褐色土　ローム主体で粘性あり。
5　暗褐色土　ローム粒（塊）多く含む。

48号土坑

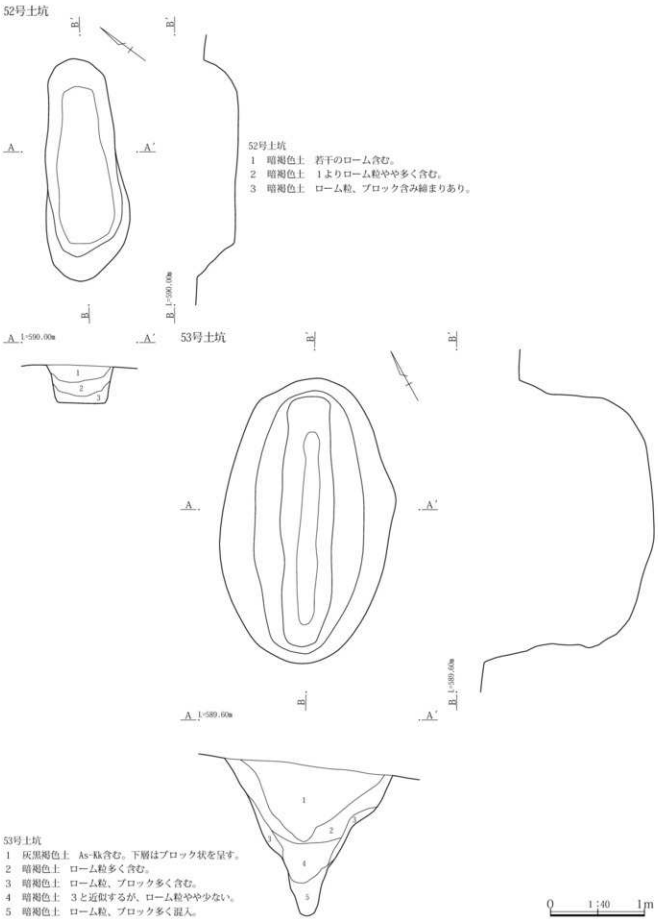


48号土坑
1　黄褐色土　ロームブロック、ローム粒多く含み、少量の炭化物見られる。
2　黒色土　ローム粒僅かに含み軟質。
3　黒色土　若干のロームブロック含む。
4　黄褐色土　ロームブロック多く含む。

第85図　土坑12（47・48号土坑）



第86図　土坑13（49・51号土坑　51号土坑出土遺物）



52号土坑
1　暗褐色土　若干のローム含む。
2　暗褐色土　1よりローム粒やや多く含む。
3　暗褐色土　ローム粒、ブロック含み締まりあり。

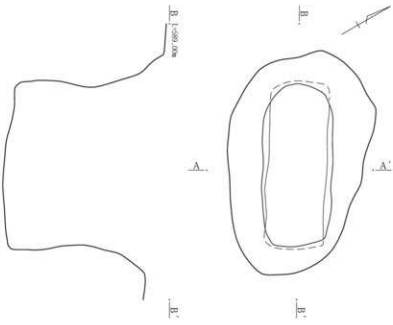
53号土坑
1　灰黒褐色土　As-B含む。下層はブロック状を呈す。
2　暗褐色土　ローム粒多く含む。
3　暗褐色土　ローム粒、ブロック多く含む。
4　暗褐色土　3と近似するが、ローム粒やや少ない。
5　暗褐色土　ローム粒、ブロック多く混入。

0　1:40　1m

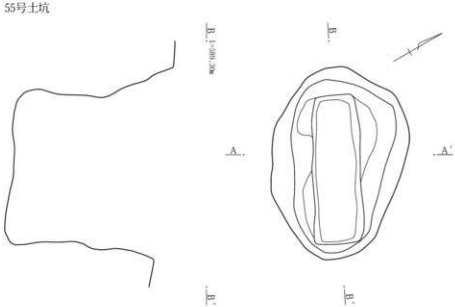
第87図　土坑14（52・53号土坑）

54号土坑

54号土坑
1　暗褐色土　ローム粒、少量の炭化物混入。
2　黒褐色土　ローム粒少量含み軟質。
3　黒色土　黒味強く軟質。
4　黄褐色土　ローム粒、ブロック多く含む。



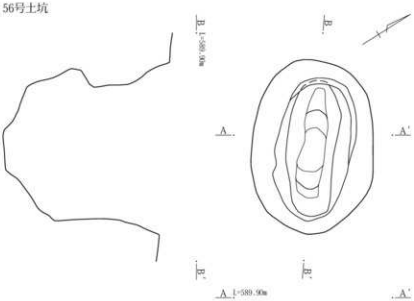
55号土坑



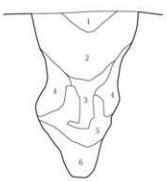
55号土坑
1　黄褐色土　ローム粒、ブロック多く含む。
2　黒色土　少量のローム粒含み軟質。
3　黒色土　ローム粒（As-YPk）多く含む。
4　黒色土　As-YPk多量に含む土と黒色土の混土。

第88図　土坑15（54・55号土坑　54号土坑出土遺物）

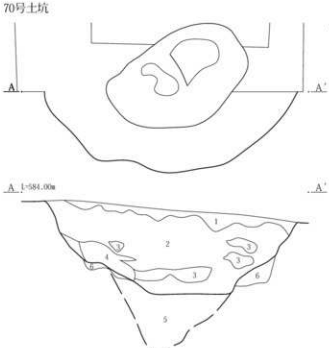
56号土坑



56号土坑
1　淡黄褐色土　As-Kk多く含む。
2　黒色土　ローム粒含む。
3　黒色土　ローム粒、小ブロック含む。
4　黒色土　ローム粒多く含み軟質。
5　黄色土　ロームブロック主体。
6　黄褐色土　ローム粒、黒色土の混土で軟質。



70号土坑

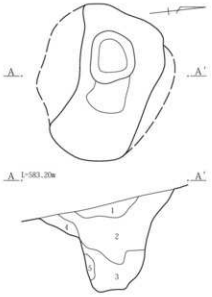


70号土坑
1　灰黄褐色土　軽石多量、炭化物・ローム粒少量、橙色粒子・黒色土ブロック僅か含む。締まり・粘性あり。
2　黒色土　ロームブロック少量、軽石僅か含む。締まり弱い。粒子が細かい黒色土。
3　にぶい黄褐色土　暗いローム。軟質土で粘性あり。軽石等混入物少量含む。
4　にぶい黄橙色軽石　As-YPkとみられる軽石が多く含まれる。
5　にぶい黄橙色軽石　As-YPkとみられる軽石層に僅かに黒色土が入る。撹乱。
6　灰色土　火山灰層。数層を成す。灰色・灰褐色・明褐色等の層。

0　1:40　1m

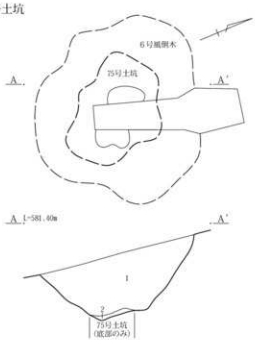
第89図　土坑16（56・70号土坑）

71号土坑



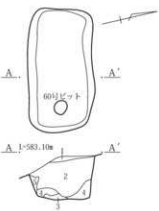
71号土坑
1　黒褐色土　軽石僅か、白・黄・褐色微細粒子少量含む。締まりややあり。
2　黒褐色土　黄褐色軽石・ローム粒多量に含む。ロームが斑状に入るところもある。締まりややあり。
3　暗褐色土　混入物の種類は2と同じだが量が多い。2より明るい土色である。
4　暗褐色土　土色は3と同じだが、軽石等混入粒子が少ない。締まりあり。
5　にぶい黄褐色土　軽石・ローム粒多量に含む。締まりあり。

75号土坑



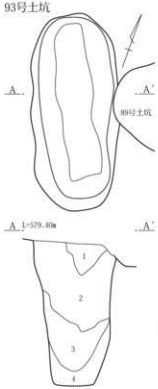
75号土坑
1　黒褐色土　倒木による攪乱部分。ロームと黒色土が混合している。
2　黒褐色土　黄・黄褐色の軽石・ロームブロックを多量に含む。やや締まっている。

81号土坑



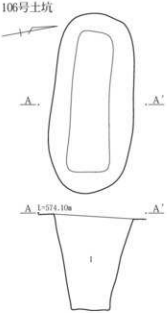
81号土坑
1　黒褐色土　褐色ロームブロック（硬化）僅かに、黄・浅黄橙・橙色粒子少量含む。やや締まっている。
2　黒色土　混入物は1に準ずるが量が少なく、全体が黒っぽい。炭化物少量含む。締まりがない。
3　黒褐色土　褐・橙色粒子僅かに含む。ロームブロックや斑状のロームを少量含む。締まりがない。
4　褐色土　3に多量のロームが入って褐色の部分。
5　にぶい黄褐色土　白色粒子和僅かに含む。やや締まっている。

93号土坑



93号土坑
1　黒褐色土　2の黒色土に多量のロームをブロック・斑状含む。締まり弱い。
2　黒色土　黄・褐・橙色微細粒子やや多く、黄・浅黄橙軽石やロームブロック少量含む。ロームブロック2が斑状に入る。締まり弱い。
3　黒色土　褐色粒子僅か、ロームブロック少量含む。締まりやや弱い。
4　黒色土　にぶい黄橙色軽石（As-YPkか）が大量に入る部分あり。

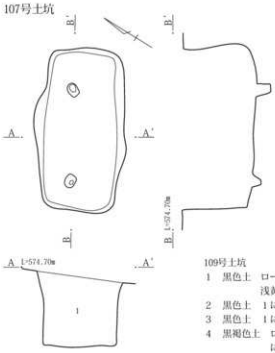
106号土坑



106号土坑
1　黒色土　ロームブロック少量、褐色粒子（ローム粒か）を含む。浅黄橙色粒子（軽石か）僅か含む。締まり弱い。

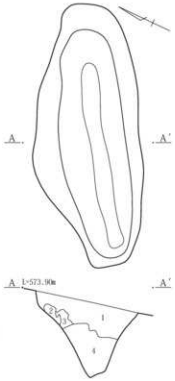
第90図　土坑17（71・75・81・93・106号土坑）

107号土坑



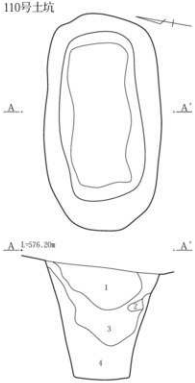
107号土坑
1　黒色土　ロームブロック少量、褐色粒子（ローム粒か）含む。
　　浅黄橙色粒子（軽石か）僅か含む。締まり弱い。

109号土坑



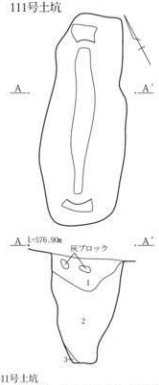
109号土坑
1　黒色土　ロームブロック少量、褐色粒子（ローム粒）を含む。
　　浅黄橙色粒子（軽石）僅かに含む。締まり弱い。
2　黒色土　1に準ずる。ロームブロックを多量に含む。
3　黒色土　1に準ずる。浅黄橙色粒子（軽石）やや多く含む。
4　黒褐色土　ロームブロック少量含む。軽石（As-YPkか）多量
　　に含む。（崩れ）ロームが斑状に混入。締まり弱い。

110号土坑



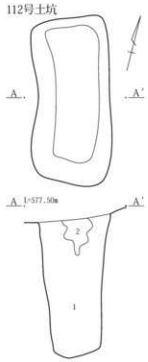
110号土坑
1　黒褐色土　黄色軽石・炭化物僅かに含む。褐色粒子（ローム粒か）多量に含む。締まり弱い。
2　黒褐色土　ロームを多量に含むブロック状の部分。
3　黒色土　黄色軽石・褐色粒子（ローム粒か）・ロームブロック・灰白・黄色微細粒子僅かに含む。締まり弱い。
4　黒色土　褐色粒子（ローム粒か）・ロームブロック僅かに含む。灰白灰（As-Kkか）が観察できる。締まり弱い。

111号土坑



111号土坑
1　黒褐色土　褐色粒子・黄・褐色微細粒子僅かか含む。締まりなし。灰のブロック（As-Kkか）がまばらに混入する。
2　黒色土　褐色粒子・やや砂質土（砂粒子か）僅かか含む。締まり弱い。
3　黒色土　2の一部。ローム粒・ブロックが多く混入。埋めるときに崩れた部分か。

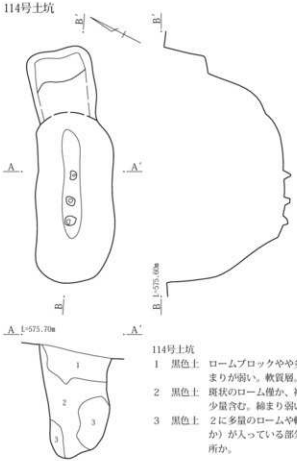
112号土坑



112号土坑
1　黒色土　浅黄橙軽石・ロームブロック・ローム粒・浅黄橙軽石僅かに含む。締まり弱い。
2　黒褐色土　ロームが混入する。微細粒子やや多く、浅黄橙・黄・褐色粒子少量含む。締まりやや弱い。

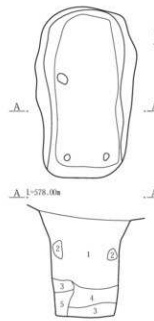
第91図　土坑18（107・109～112号土坑）

114号土坑



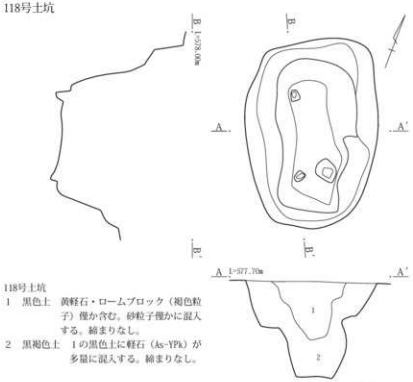
114号土坑
1　黒色土　ロームブロックやや多く含む。締まりが弱い。軟質層。
2　黒色土　斑状のローム僅か、褐色微細粒子少量含む。締まり弱い。
3　黒色土　2に多量のロームや軽石（As-YPkか）が入っている部分。崩れた箇所か。

115号土坑



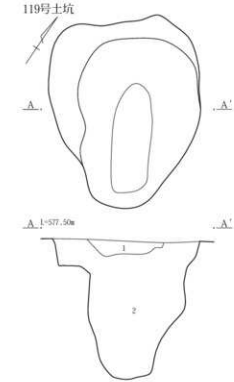
115号土坑
1　黒色土　浅黄橙・褐色粒子（軽石か）含む。ロームブロック（粉状・斑状）混入（特に壁際）。締まりなし。
2　黒色土　ロームが多量に混入。含まれる粒子は1に準ずる。
3　黒色土　2より軽石をやや多く含む。軽石が層状に集中する部分あり。
4　黒褐色土　浅黄橙・褐色軽石・同色の微細粒子多量に含む。締まりなし。
5　黒色土　ローム粒・粉が僅かに混入する。締まりなし。

118号土坑



118号土坑
1　黒色土　黄軽石・ロームブロック（褐色粒子）僅か含む。砂粒子僅かに混入する。締まりなし。
2　黒褐色土　1の黒色土に軽石（As-YPk）が多量に混入する。締まりなし。

119号土坑

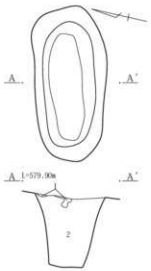


119号土坑
1　黒褐色土　ゴミ・軽石・小礫・橙色粒子等が入る攪乱土。近年か。
2　黒色土　黄軽石・ロームブロック（褐色粒子）僅かに含む。砂粒子僅かに混入か。締まりなし。

0　1:40　1m

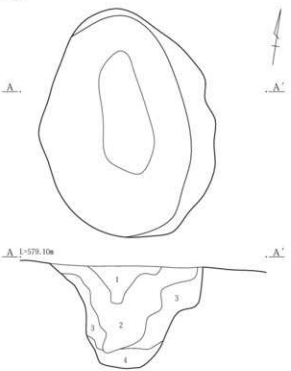
第92図　土坑19（114・115・118・119号土坑）

123号土坑



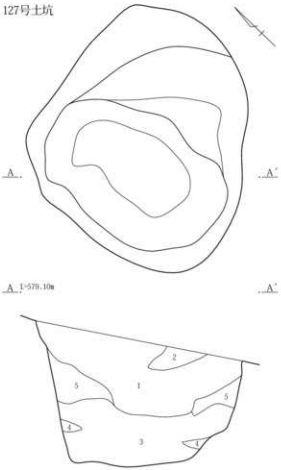
123号土坑
1　黒褐色土　ゴミ・陶器・軽石・小礫・橙色粒子等が入る攪乱土。近年か。
2　黒色土　黄・浅黄橙・褐色粒子（As-YPkか）やや多く含む。橙色粒子・ロームブロック僅かに含む。やや締まりあり。

126号土坑



126号土坑
1　にぶい黄褐色土　黄褐・浅黄橙色軽石多量に含む。締まり弱い。
2　暗褐色土　斑状のロームブロック多量に含む。黄褐色軽石僅かに含む。締まり弱い。
3　暗褐色土　2に準ずる。やや多くの粉状ロームや軽石（As-YPk）が混入する。
4　黄褐色土　軽石多量に含む。ロームに軽石が混入する層。

127号土坑



127号土坑
1　黒褐色土　黄褐・灰白軽石少量含む。地山の崩落土ロームブロック状に入る。締まりあまりなし。
2　にぶい黄褐色土　黄褐・浅黄橙色軽石多量に含む。締まり弱い。
3　黒色土　黄・黄褐・灰白色軽石多量に含む。ロームがブロック状・斑状に混入する。締まりややあり。
4　黒色土　3に軽石がより多く入るブロック。
5　黒色土　3にロームがより多く入るブロック。

0　1:40　1m

第93図　土坑20（123・126・127号土坑）

第３項　遺構外から発見された遺物

当該面の調査中に、遺構に伴わない遺物が出土した。須恵器３点、土師器55点他が出土したものの掲載する遺物はなかった。出土遺物は本調査面の時期とおおむね矛盾しない。

第９表　平安時代　遺物観察表

１号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第53図 PL.52	1	上師器 甕	覆土 口縁部片	口	(16.0)			やや粗　砂粒多く含む/酸化炎焼成良好 やや硬質/にぶい赤褐	コ字状口縁甕　口唇端部強く撫でて肥厚　口縁やや粗い横撫　頸部指押さえ後横撫　肩部との接合部横撫　肩部横方向へう削り　内面頸部まで丁寧な撫で　肩部横方向へう撫で　内面肩部に指頭痕跡残る　内外面とも口縁に薄いスス付着するが使用痕跡ない	
第53図 PL.52	2	上師器 甕	覆土 口縁部片	口	(22.5)			やや粗　砂粒多く含む/酸化炎焼成良好 やや硬質/にぶい褐	コ字状口縁甕　器壁やや厚い　口縁横撫　頸部指押さえ後やや粗い横撫　肩部横方向へう削り　内面頸部まで丁寧な撫で　肩部へう撫でか　外面肩部スス付着あり　内面肩部やや変色するが使用痕跡ではないだろう	

２号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第59図 PL.52	1	須恵器 壺	覆土 口縁部片	口	(15.0)			砂粒、褐色粒、白色粒含む/還元炎焼成　やや軟質 全体に浅く吸炭/灰黄褐	右回転ろくろ成形　口縁横撫　端部外反してやや肥厚	
第59図 PL.52	2	須恵器 壺	覆土 底部片	底	(7.0)			砂粒、褐色粒、白色粒含む/還元炎焼成　やや軟質 全体に浅く吸炭/にぶい黄橙	右回転ろくろ成形　底部回転糸切り離し後高台貼り付け　外面胴下部に墨書　判読できない	
第59図 PL.52	3	須恵器 壺	覆土 底部片	底	(7.0)			砂粒含む/還元炎焼成　軟質/浅黄	右回転ろくろ成形　底部回転糸切り離し後周縁ヘラ調整	
第59図 PL.52	4	土師器 甕	覆土 口縁～底部 1/4	口 底	19.4 4.2	高	26.8	やや粗　砂粒多く含む/酸化炎焼成 やや軟質/橙	口縁横撫　口唇端強く撫で沈線状にくぼむ部分あり　頸部やや粗い撫で　肩部横方向へう削り　胴部縦方向へう削り　内面丁寧な撫で　外面最大径位置近くにスス付着　胴下部は熱ストレスによる変色　内面劣化激しく観察困難だが、胴下部は特に劣化が激しい	
第59図 PL.52	5	土製品 羽口	2号炉 破片					緻密 砂粒、含む 草本茎状圧痕あり/やや軟質/灰白	復元孔径2.6cm　先端強く溶融	
第59図 PL.52	6	鉄滓 椀状滓	東南四半 貯蔵穴西 完形	長辺 短辺	9.9 6	厚 重	3.5 163.2		上面溶融して流動。下面は発泡し、粘土、砂粒付着。半球形突起がある	
第59図 PL.52	7	鉄滓 椀状滓 割滓	覆土 欠損	長辺 短辺	8.2 5	厚 重	2.9 125		円形滓の半割片。破断面を持つ。上面溶融し粒状滓、鍛造滓片が付着。下面は細かく発泡。容器の器形を示す	
第59図 PL.52	8	鉄滓 椀状滓	覆土 欠損	長辺 短辺	8.1 5.9	厚 重	2.8 150.3		円形滓が割れたもの。上面溶融。粒状滓付着。縁辺が隆起。裏面砂粒、粘土付着。容器の器形を示す	
第59図 PL.52	9	鍛冶炉 金床石または砥石	1号炉 破片	長辺 短辺	(14.5) (7.8)	厚 重	(2.9) 136.0	粗粒輝石安山岩	金床石あるいは砥石か。出土時点では数片に割れた状態。上面は平らで、形状は楕円形を呈す。表面鍛打着し長軸に沿って複数の溝が見られる	
PL.52	10	粒状滓	1号炉	長辺	最大：径0.7 最小：径0.3				1号炉から出土した粒状滓である。磁着はやや弱い。きれいな球形で気孔を有する。光沢はない。ややいびつな球形で気孔を有する。小さな突起が認められるものもある	写真のみ
PL.52	11	鍛造剥片	1号炉	長辺 短辺	最大：1.2 最小：1.1 最大：0.9 最小：0.7	厚	最大：0.1 最小：0.05		1号炉から出土した鍛造剥片である。磁着はやや弱い。表裏平滑でありやや内凹を有する。光沢を有するものもある	写真のみ
PL.52	12	粒状滓	2号炉	長辺	最大：径0.8 最小：径0.2				2号炉から出土した粒状滓である。磁着はやや弱い。きれいな球形で気孔を有する。光沢はない。ややいびつな球形で気孔を有する。小さな突起が認められるものもある	写真のみ
PL.52	13	鍛造剥片	2号炉	長辺 短辺	最大：1.0 最小：0.7 最大：0.8 最小：0.5	厚	最大：0.1 最小：0.05		2号炉から出土した鍛造剥片である。磁着はやや弱い。表裏平滑でありやや内凹を有する。光沢を有するものもある	写真のみ

３号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第63図 PL.52	1	須恵器 壺	覆土 口縁部片	口	(16.8)			やや密　細砂粒含む/還元炎焼成　やや軟質/黄褐	右回転ろくろ成形　口唇端部やや肥厚	
第63図 PL.52	2	須恵器 壺	覆土 口縁部片	口	(15.0)			やや密　細砂粒含む/酸化気味の還元炎焼成　内外面黒斑あり 軟質/浅黄	右回転ろくろ成形　口唇端を強く撫でて外反させる	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）					胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第63図 PL.52	3	須恵器 坏	貯蔵穴、カマド 口縁～底部 1/2	口 底	13.3 6.8	高	3.5		やや粗　砂粒やや多く含む　白色鉱物含む/還元炎焼成　硬質/灰	右回転ろくろ成形　底部回転糸切り離し後調整なし	
第63図 PL.52	4	須恵器 壺	覆土 底部片	底	6.8				やや粗　砂粒含む/酸化気味の還元炎焼成　全体に吸湿　軟質/黒褐	右回転ろくろ成形　底部回転糸切り離し後高台貼り付け	
第63図 PL.52	5	須恵器 坏	覆土 底部片						やや密　細砂粒含む/還元炎焼成　やや硬質/褐灰	右回転ろくろ成形　底部回転糸切り後調整なし	
第63図 PL.52	6	土師器 甕	覆土 口縁部片	口	(19.0)				やや粗　砂粒含む/酸化炎焼成　良好/明赤褐	コ字状口縁甕　口縁横撫　口唇端強く撫でる　頸部指押さえ後口縁、肩部との接合部を強く撫でる　肩部横方向ヘラ削り　内面口縁から頸部丁寧な撫で　肩部刷毛目に近い撫で　肩部に粘土付着　内外面使用痕跡なし（7と同一個体か）	
第63図 PL.52	7	土師器 甕	覆土 口縁部片	口	(18.0)				やや密　細砂粒含む/酸化炎焼成　良好/にぶい橙	コ字状口縁甕　口縁横撫　口唇端強く撫でる　頸部指押さえ後口縁、肩部との接合部を強く撫でる　肩部横方向ヘラ削り　内面口縁から頸部丁寧な撫で　肩部刷毛目に近い撫で　肩部に粘土付着　内外面使用痕跡なし（6と同一個体か）	
第63図 PL.53	8	土師器 甕	カマド、カマド掘り方 口縁部片	口	(20.0)				やや粗　砂粒含む/酸化炎焼成　やや軟質/にぶい橙	コ字状口縁甕　口唇端強く撫でる　頸部指押さえ後口縁部から頸部上部までを幅広く横撫　頸部の直立性が弱い　肩部横方向ヘラ削り　胴部口縁から底部方向に緩方向ヘラ削り　内面頸部まで丁寧な撫で、胴部横方向ヘラ撫で　二次被熱により大部分がスス酸化消失　残存片外面は煤いスス、内面胴部上位にやや濃いヨゴレ	
第63図 PL.53	9	土師器 甕	カマド 口縁部片	口	(19.0)				やや粗　砂粒含む/酸化炎焼成　やや軟質/にぶい橙	口縁横撫　口唇端強く撫で沈線状にくぼむ　頸部上下強い撫で　内面丁寧な撫で　使用痕跡なし	
第63図 PL.53	10	土師器 甕	カマド 胴～底部片	底	(3.4)				やや密　細砂粒含む/酸化炎焼成　良好　やや軟質/灰褐	器壁薄くコ字状口縁甕と思われる　縦方向ヘラ削り　外面全体にスス付着　内面にはコゲ、ヨゴレなく漏釜か　底部まで粘土が付着しており、袖側としてもややキツ目　遺構造材として転用されか	
第63図 PL.53	11	須恵器 甕	貯蔵穴、1号床下土坑 口縁～底部片	口 底	(18.1) (9.0)	高	(23.0)		やや密　細砂粒含む赤褐色粒含む/酸化炎焼成　やや軟質/浅黄橙・橙	右回転ろくろ成形　口縁部横撫　胴部整った カキ目 底部回転糸切り離し後調整なし 内面口縁部横撫　胴部撫で　全体に二次被熱し使用痕乏しい　残存片では外面胴部中位に一部黒状スス　内面観察不可	

5号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）					胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第69図 PL.53	1	須恵器 坏	覆土 口縁～底部 1/2	口 底	12.3 6.4	高	3.8		細砂粒、白色鉱物多く含む/還元炎焼成　良好　硬質/灰	右回転ろくろ成形　口唇部横撫で　底部回転糸切放し後周縁部ヘラ調整なし	
第69図 PL.53	2	須恵器 坏	覆土 口縁～底部 1/4	口 底	(13.0) 6.0	高	3.5		やや粗　砂粒、黒色微細岩片含む/還元炎焼成　良好　やや軟質/灰	右回転ろくろ成形　口唇部横撫で　底部回転糸切放し後周縁部ヘラ調整　底面に切り離し後に付着した太めの糸痕跡あり	
第69図 PL.53	3	須恵器 坏	覆土 口縁部片	口	(16.0)				やや粗　砂粒、白色鉱物含む/やや酸化気味の還元炎焼成　軟質/褐灰	右回転ろくろ成形　口唇部横撫、外反する　底部近く内外面とも整形がやや粗い	
第69図 PL.53	4	須恵器 坏	覆土 口縁部片	口	(12.0)				やや密　細砂粒、黒色鉱物粒多く含む/還元炎焼成　良好　硬質/灰白	右回転ろくろ成形　口唇部横撫、口唇内面直下がくぼむ	
第69図 PL.53	5	須恵器 坏	覆土 底部片	底	(6.0)				緻密　細砂粒含む/還元炎焼成　良好　軟質/灰	右回転ろくろ成形　底部回転糸切り離し　ヘラ調整後指撫で	
第69図 PL.53	6	須恵器 壺	覆土 底部片	底	(8.0)				やや粗　砂粒、白色鉱物含む 草本茎痕跡あり/やや酸化気味の還元炎焼成 軟質/暗灰黄	右回転ろくろ成形　底部回転糸切り離し　高台貼り付け　高台部に楕円形小圧痕２か所	
第69図 PL.53	7	須恵器 甕	覆土 頸部片						密　細砂粒含む/還元炎焼成　良好　硬質/灰	甕頸部　復元頸部径6.0cm　右回転ろくろ成形　頸部接合部で剥離か	
第69図 PL.53	8	須恵器 蓋	覆土 口縁部片						密　細砂粒含む/還元炎焼成　良好　硬質/黄灰	被せ蓋端部か　復元径12.0cm　右回転ろくろ成形　端部引き出し	

挿　図 PL.No.	No.	種　類 器　種	出土位置 残 存 率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備　考
第69図 PL.53	9	土師器 甕	覆土 口縁～底部 1/2	口 底	18.9 4.0	高	24.6	やや粗 砂粒を多く含む/酸化炎焼成 やや軟質/灰褐	コ字状口縁甕　頸部指押さえ後口縁及び肩部との接合部を強く撫でる　肩部横方向ヘラ削り　胴上部斜め方向、胴下部縦方向ヘラ削り　内面口縁から頸部にかけて横撫　胴部ヘラ撫で　欠損部が火前相当かと思われる　この部分の口縁は二次被熱でスス酸化消失　他面は広くススが付着するが、右側に縦長のスス抜けがあり、粘土付着はないものの袖痕跡かもしれない　対応左側もややすすが薄くなる　横二個掛けなら隣の土器との接点かもしれない　かなりススが漏れていて口縁にもススが付着する　胴下部のスス酸化消失は強くない　支脚痕跡は観察できない　内面は胴下部火前側に強いコゲが斑状に付着し、左側の胴上部から口縁にかけても変則的にコゲがのこるが、二個掛けの土器の間に火が通ったとすれば理解できる　火裏側胴下部には点状の強いコゲがまとまって見られる　この点状コゲは火裏側肩部などにも見られる　穀粒痕跡かもしれない　内容物のある調理なべ　もしかしたら炊飯	
第69図 PL.53	10	土師器 甕	カマド、２号竪穴建物 口縁～底部 1/2	口 底	19.8 4.0	高	27.2	やや密 砂粒含む/酸化炎焼成 良好/にぶい赤褐	コ字状口縁甕　口縁横撫　頸部は指押さえ後口縁及び肩部との接合部を強く撫でる　肩部から胴部最大径直下まで横方向ヘラ削り　胴中位以下縦方向ヘラ削り　内面は丁寧な撫で　頸部に粘土付着　一部二次被熱片があるが、比較的強いススが付着する面（火裏相当か）とススの薄い面（火前相当か）があり、火裏側に粘土付着が目立ち、火前側では口縁部外面にススが斑状に付着する　底部外面には強いスス酸化消失などは見られないが、支脚痕と思われるスス抜けがある　内面には目立ったコゲ、汚れはない　湯釜か	
第69図 PL.53	11	土師器 甕	覆土 口縁～底部 1/3	口 底	19.0 4.0	高	24.3	緻密 細砂粒含む/酸化炎焼成 良好/橙	コ字状口縁甕　口縁横撫　頸部は口縁及び肩部との接合部を強く撫でてややくぼむ　肩部横方向ヘラ削り　胴部から底部にかけて縦方向ヘラ削り　内面口縁から肩部にかけて丁寧な撫で　胴部以下横方向ヘラ撫で　外面胴中位から肩部にかけて広く斑状のスス付着　一部二次比熱片がある　粘土の付着は見られないがススのない部分が袖か　胴下位はスス付着ない　特に強い熱ストレスの痕跡も認められない　内面胴中位に斑状剥離が集中する部分がありその下位は底部近くまで汚れが目立つ　肩部以上にやや強いヨゴレ、薄いコゲが付着する　外面に帯状のススが付着する部分の対応内面にはコゲ、ヨゴレがない　　内容物のある調理をした鍋	
第69図 PL.53	12	土師器 甕	覆土 口縁部片	口	(19.0)			やや密 細砂粒含む/酸化炎焼成 良好 やや硬質/赤褐	口縁部横撫　口唇端を撫でて稜を形成する　頸部指押さえ後口縁との接合部を強く撫でる　肩部との接合部は撫で　肩部横方向ヘラ削り　内面丁寧な撫で　頸部から口縁まで粘土が付着する　割れ口までススがあり、全体に二次被熱	
第69図 PL.53	13	土師器 甕	覆土 口縁～胴部片	口	19.0			やや粗 砂粒多く含む/酸化炎焼成良好/明赤褐	コ字状口縁甕　口唇部横撫　外面口唇端がくぼむ　頸部指押さえ後横撫で　頸部と口縁、肩部との接合部は強く撫でられてくぼむ　肩部横方向ヘラ削り　内面口縁、頸部丁寧な撫で　肩部横方向ヘラ撫で　外面は薄いスス付着　内面薄い汚れが部分的にあるが使用痕跡乏しい　湯釜か	
第69図 PL.53	14	土師器 甕	覆土 口縁部片					緻密 細砂粒含む/酸化炎焼成 良好/褐	コ字状口縁甕　口唇部横撫　外面口唇直下がくぼむ　頸部指押さえ後横撫で　下位横方向ヘラ削り　内面横方向ヘラ撫で　使用痕跡乏しい　湯釜か	
第69図 PL.53	15	土師器 甕	覆土 口縁部片	口	(19.0)			やや密 砂粒含む/酸化炎焼成 良好/橙	コ字状口縁甕　口縁は短く外反。横撫でするが粘土帯の接合痕が残る　頸部との接合部がくぼむ　頸部指押さえ後横撫　肩部横方向ヘラ削り　　内面丁寧な撫で　肩部横方向ヘラ撫で　肩部から頸部外面に薄いスス　肩部がやや強い　外面スス対応内面にヨゴレ　二次比熱片あり	
第69図 PL.53	16	土師器 甕	覆土 口縁部片	口	(9.0)			やや密 砂粒含む/酸化炎焼成 良好 やや軟質/にぶい橙	コ字状口縁甕　口唇部横撫　頸部外面指押さえ後横撫　内面丁寧な横撫　肩部以下外面横方向ヘラ削り　内面横方向ヘラ撫で　外面肩部スス付着　内面頸部直下に薄いコゲ、以下薄いヨゴレ	
第70図 PL.53	17	土師器 甕	覆土 口縁部片	口	(19.0)			やや密 砂粒含む/酸化炎焼成 良好/にぶい赤褐	コ字状口縁甕　口唇部横撫　頸部外面指押さえ後２段階に横撫　内面丁寧な横撫　肩部以下外面横方向ヘラ削り　内面横方向ヘラ撫で　外面肩部から口唇にかけてスス付着、一部口唇内面にまわるが、内面は基本的にはコゲ・汚れなし　断面にスス等なく、二次比熱なし　湯釜か	
第70図 PL.53	18	土師器 甕	覆土 口縁部片	口	(19.0)			やや密 砂粒含む/酸化炎焼成 良好 やや軟質/にぶい赤褐	コ字状口縁甕　器壁やや厚い　口縁部横撫で　頸部指押さえ後横撫　肩部横方向ヘラ削り　内面全体に丁寧な撫で　外面薄いスス　肩部ススやや濃い部分あり　内面頸部から口縁にかけて薄いヨゴレ　口縁にやや強いヨゴレ部あり	
第70図 PL.53	19	土師器 甕	覆土 口縁部片	口	(18.0)			やや密 細砂粒含む/酸化炎焼成 良好/灰褐	コ字状口縁甕　器壁やや厚い　口唇部横撫　短く外反する　頸部外面横撫　内面丁寧な撫で　外面全体に薄いスス吹きこぼれかと思われる斑が点在　口縁内面にヨゴレ　頸部は薄い汚れ　断面は汚れ等なく、二次比熱はない	
第70図 PL.53	20	土師器 甕	覆土 口縁部片	口	(18.0)			やや粗 砂粒を多く含む/酸化炎焼成 良好 やや硬質/にぶい黄褐	コ字状口縁甕　口唇部横撫　外面口唇直下沈線状　頸部内外面横撫　内面に指頭痕あり　肩部外面横方向ヘラ削り　内面縦方向ヘラ撫で　口縁から頸部内面に弱いコゲがある	
第70図 PL.53	21	土師器 甕	覆土 口縁部片	口	(20.0)			やや密 細砂粒含む/酸化炎焼成 良好 やや軟質/橙	コ字状口縁甕　口唇部から頸部横撫　口唇端部僅かに肥厚　肩部外面横方向ヘラ削り　内面丁寧な撫で　外面摩耗、内面も使用痕跡乏しい	

挿　図 PL.No.	No.	種　類 器　種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備　考
第70図 PL.53	22	鉄製品 ヤットコ	張り出し部中央西壁際 一部欠損	長辺 短辺	(21.9) 2.1	厚 重	0.75 112		ヤットコの本体部分及び柄の一部。表面は溶融した流動状である。部分的に細かく発泡する。随所に突起がある。先端部分の断面は長方形でやや平たく物を掴みやすい造作である。柄の部分の断面はほぼ正方形で強度を保っている。柄の一部は、先端部と交差する部分に近いため、やや湾曲している。	
第70図 PL.53	23	鉄製品 釘	東壁中央近く 欠損	長辺 短辺	(8.3) 0.4	厚 重	0.4 1.3		断面は長方形の角釘破片で上端は薄く広げ緩やかに曲げられており端部は劣化破損する。端部も劣化破損しているが、全体形状はほぼ残存している。木質等の痕跡は確認できない。	
第70図 PL.53	24	鉄製品 釘	カマド内 欠損	長辺 短辺	(2.1) 0.35	厚 重	0.3 0.7		断面は長方形の角釘破片で上端は薄く広げ直角に折り曲げられている。先端側は劣化破損している。木質等の痕跡は確認できない。	
第70図 PL.53	25	鉄製品 釘	貯蔵穴内 欠損	長辺 短辺	(3.5) 0.6	厚 重	0.6 1.6		断面はほぼ正方形の角釘破片である。上端は及び先端は劣化破損している。木質等の痕跡は確認できない。	
第70図 PL.53	26	鉄製品 釘または鎹	張り出し部中央西寄り 欠損	長辺 短辺	(2.6) 0.4	厚 重	0.4 1.3		断面は長方形の角釘または鎹破片である。両端部が直角に曲げられており、先端部は劣化破損している。木質等の痕跡は確認できない。	
第70図 PL.53	27	鉄製品 板状製品	覆土 破片	長辺 短辺	(2.3) 1.6	厚 重	0.3 1.5		板状製品の一部である。緩やかに弧を描く部分が板状製品の先端部にあたると考えられる。表面は平板で、裏面には突起物がある。	
第70図 PL.53	28	鉄製品 板状製品	覆土 破片	長辺 短辺	(2.5) 1.7	厚 重	0.2 3.0		板状製品の一部である。緩やかに弧を描く部分が板状製品の隅部または先端部にあたると考えられる。表面は平板で、裏面には突起物がある。	
第70図 PL.54	29	鉄滓 碗状滓	張り出し部北西隅 完形	長辺 短辺	6 4.8	厚 重	3.8 103.2		円形滓が割れたもの。上面溶融。粒状滓付着。中央部が隆起。裏面細かく発泡。粘土付着。容器の器形を示す。	
第70図 PL.54	30	鉄滓 碗状滓 割滓	張り出し部北部西壁寄り 欠損	長辺 短辺	3 2.7	厚 重	2.5 30.1		円形滓の半割片。破断面を持つ。上面溶融し粒状滓、鍛造剥片が付着。下面は細かく発泡。容器の器形を示す。	
第70図 PL.54	31	鉄滓 流状滓	竪穴建物北東部北壁寄り —	長辺 短辺	5.6 2.3	厚 重	1.9 23		表裏面は溶融した流動状である。裏面はやや発泡しており、輪状の突起がある。	
第70図 PL.54	32	鉄滓 塊状滓	竪穴建物中央南壁寄り —	長辺 短辺	4.5 3.7	厚 重	1.4 21.1		表裏面は溶融した流動状である。表面は粒状滓が付着している。裏面はやや発泡しており、突起がある。	
第70図 PL.54	33	鉄滓 碗状滓 割滓	張り出し部中央 欠損	長辺 短辺	5.8 3.8	厚 重	2.8 75.6		円形滓の半割片。破断面を持つ。上面溶融し粒状滓、鍛造剥片が付着。下面は細かく発泡。容器の器形を示す。	
第70図 PL.54	34	石製品 砥石	北東部のピット4上 欠損	長 幅	(7.98) 1.53	厚 重	(0.76) 18.0	珪質粘板岩	細長い小型の砥石で、欠損品がさらに、縦に割れたものと思われる。端部が厚く、中央部は薄い。欠損面除く三面に擦痕及び刃均し痕がある。	

7号竪穴建物

挿　図 PL.No.	No.	種　類 器　種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備　考
第73図 PL.54	1	須恵器 甕	カマド 口縁部片	口	(19.0)			やや粗　砂粒を僅かに含む/還元炎焼成一部二次焼成により明褐色化　やや軟質/灰黒	ろくろ成形　口縁部開き　端部直立気味に成形　横撫によりややへこませ上下尖り気味に作り出す　器面に剥離斑目立つ	

土坑

挿　図 PL.No.	No.	種　類 器　種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備　考
第80図 PL.54	25坑 1	須恵器 埦	覆土 口縁部片	口	(15.0)			やや密　細砂粒、黒色鉱物粒多く含む/還元炎焼成　良好　やや硬質/褐灰	右回転ろくろ成形 口縁横撫 内面口唇直下がくぼむ	
第83図 PL.54	42坑 1	須恵器 埦	覆土 底部片	底	(7.4)			やや粗 砂粒を多く含む/還元炎焼成 内外面ともやや吸炭 やや軟質/黄灰	右回転ろくろ成形　底部回転糸切り離し　高台貼り付け後ヘラ調整	
第86図 PL.54	51坑 1	土師器 甕	覆土 口縁部片	口	(13.0)			緻密 細砂粒含む/酸化炎焼成 良好 やや硬質/にぶい赤褐	口唇部横撫　頸部上位ヘラ押さえ後横撫　下位横方向及び下から上へのヘラ削り　内面横方向ヘラ撫で　二次比熱により内外面スス付着	
第88図 PL.54	54坑 1	在地系土器 内耳鍋(把手)	覆土 把手片					砂粒含む/良/にぶい黄橙色	内耳鍋の把手片	中世以降

第４節　中世以後の遺構と遺物

本節では第１面で調査された遺構・遺物のうち、中世以後の時期に帰属すると判断されたもの及び帰属時期を特定できなかったものについて記載する。平成24・25年度調査区では、掘立柱建物１棟、土坑13基、ピット37基、焼土遺構１基、石垣１基を検出した。平成30年度調査区については、ロームを含む暗褐色土及び黒褐色土を確認面とした遺構と遺物であり、調査区の１面上面として調査を行った。遺構は、吾妻川に張り出した舌状台地上にある。掘立柱建物１棟、土坑６基、ピット85基、柱穴列２条、溝３条、畑３条を検出した。遺構の大半は軽石を含む暗褐色土及び黒褐色土で埋没している。天明泥流の影響は受けていないと考えらる。遺物は豊富ではないが、調査面の時期の想定に矛盾はない。

第１項　掘立柱建物

概要　本調査区では、２棟の掘立柱建物を検出した。平成24・25年度調査では、調査区南東部の緩斜面に掘立柱建物を１棟確認した。平成30年度調査では、舌状台地の中央部南よりに掘立柱建物を１棟確認した。２棟は直線距離で110m程離れており関係性は不明だが、棟方向が一致している。周囲には、その他にも建物の柱穴と思われるピット群が調査されたものの、位置関係などから、さらなる掘立柱建物等の復元には至らなかった。また、周辺に関連施設は確認されなかった。２号掘立柱建物と１・２号溝との関連については、掘立柱建物の棟方向と溝の走行が一致しておらず明瞭でない。さらに、本調査区の掘立柱建物は、傾斜地に建設された建物でもある。傾斜地に立地する建物の特徴については明瞭でないため、検討が必要である。

１号掘立柱建物（第94・95図　PL. 37・54）

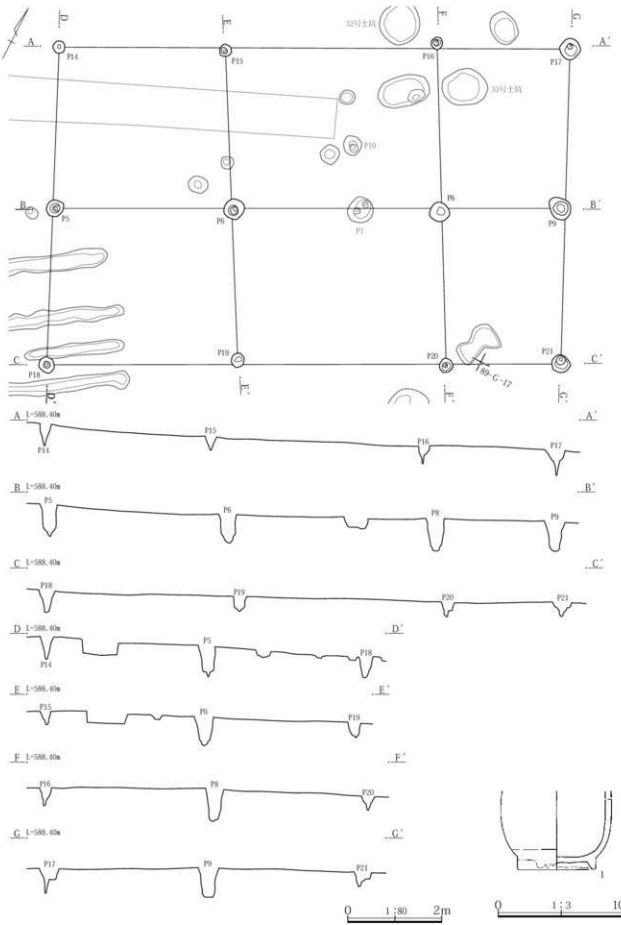
位置　89区F-16 ～ J-19グリッド　調査区南東部にある。**規模形態**　梁行２間、桁行３間の総柱建物ないし２間×２間の母屋の東に縁ないし庇状の張出を持つ建物と想定する。北辺長10.86m、東辺長6.74m、面積は72.35㎡である。**主軸方位**　長軸方向はN-63°-E　**柱穴**　5・6・8・9・14～21号ピットにより構成される。（詳細は、第３項ピット参照。）**遺物**　陶器が出土している。　**重複遺構**　認められない。**所見**　この建物がある地点は、東西方向の小さな尾根状を呈していて、西から東への傾斜が周囲に比してやや緩くなっている。最高位標高はP14の588.3m、最低位はP21の587.6mで、比高が70cmほどある。各柱穴間の距離は第10表に示したが、全体にゆがみが目立つ。総柱であるが、中央のP6・8は大きく、深く掘られており、床束とは考えられない。P5・9を含め、棟を支える柱は大きく、現状での深さ及び底面の標高両面において、深く掘られているのに対し、側柱は小さく浅い（第94図）。これから見ると、床張りのある建物ではなく、棟柱を主柱とした、簡易な造りの小屋掛けのような建物であったのではないだろうか。

２号掘立柱建物（第96図　PL. 38）

位置　79区E-14 ～ G-15　**規模形態**　梁行３間・桁行４間（3.58 ～ 3.64m×4.88 ～ 5.02m）、面積16.58㎡の東西

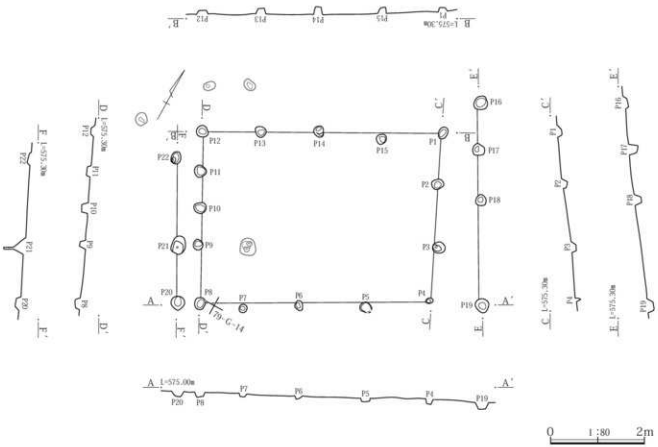
第10表　１号掘立柱建物計測表

建物全体の規模		２間×３間または２間×２間＋庇・東西棟					面積	72.35㎡	
主軸方位		N－63°－E					位置	89区F-16 ～ J-19グリッド	
梁・桁の規模（m）		柱穴№	柱穴規模（m）			形状	底部標高（m）	次柱穴との間隔（m）	備考
			長径	短径	深さ				
東辺	6.74	P 17	0.46	0.44	0.55	円形	587.52	3.46	
		P 9	0.52	0.43	0.62	長円形	587.15	3.28	
南辺	10.72	P 21	0.40	0.36	0.31	円形	587.68	2.44	
		P 20	0.30	0.29	0.20	円形	587.37	4.23、P 8へ 3.26	
		P 19	0.32	0.26	0.31	円形	587.50	4.05、P 6へ 3.28	
西辺	6.75	P 18	0.34	0.32	0.43	円形	587.47	3.29	
		P 5	0.38	0.34	0.69	円形	587.46	3.46	
北辺	10.86	P 14	0.25	0.24	0.47	円形	587.86	3.51	
		P 15	0.26	0.25	0.30	円形	587.76	4.54、P 6へ 3.44	
		P 16	0.25	0.24	0.38	円形	587.66	P 17へ 2.81、P 8へ 3.45	
		P 8	0.42	0.41	0.69	円形	587.16	4.43、P 9へ 2.61	
		P 6	0.46	0.43	0.62	円形	587.31	P 5へ 3.78	



第94図　１号掘立柱建物

第95図　１号掘立柱建物出土遺物



第96図　２号掘立柱建物

第11表　２号掘立柱建物計測表

建物全体の規模		3間×4間・東西棟					面積	16.58㎡	
主軸方位		N－62°－E					位置	79区E-14～G-15グリッド	
梁・桁の規模（m）		柱穴№	柱穴規模（m）			形状	底部標高（m）	次柱穴との間隔（m）	備考
			長径	短径	深さ				
東辺	3.58	P 1	0.27	0.18	0.10	長円形	575.06	1.08	
		P 2	0.25	0.24	0.11	長円形	574.94	1.30	
		P 3	0.26	0.24	0.29	円形	574.55	1.20	
南辺	4.88	P 4	0.16	0.11	0.11	長円形	574.63	1.38	
		P 5	(0.26)	0.21	0.08	不整形	574.71	1.44	
		P 6	0.22	0.17	0.08	長円形	574.74	1.16	
		P 7	0.18	0.17	0.08	円形	574.80	0.90	
西辺	3.64	P 8	0.25	0.22	0.12	長円形	574.80	1.28	
		P 9	0.23	0.20	0.13	円形	574.91	0.76	
		P10	0.26	0.23	0.13	長円形	574.92	0.78	
		P11	0.25	0.25	0.09	円形	575.04	0.82	
北辺	5.02	P12	0.25	0.25	0.09	円形	575.13	1.24	
		P13	0.24	0.22	0.13	円形	575.06	1.20	
		P14	0.24	0.21	0.18	不整形	575.06	1.36	
		P15	0.21	0.21	0.13	円形	575.05	P１へ 1.22	
庇	4.26	P16	0.30	0.28	0.09	円形	575.09	0.96	
		P17	0.25	0.25	0.22	円形	574.87	1.08	
		P18	0.23	0.22	0.15	円形	574.78	2.22	
		P19	0.30	0.30	0.15	円形	574.54	－	
庇	3.06	P20	0.29	0.28	0.12	円形	574.82	1.16	
		P21	0.38	0.28	0.45	不整形	574.58	1.90	
		P22	0.26	0.21	0.07	長円形	575.00	－	

方向に棟方向を取る側柱建物である。柱間は梁行が0.76～1.30m、桁行が0.90～1.44mである。確認した柱穴の柱筋は、おおむね通っている。　**主軸方位**　N-62°-E

柱穴　P1～22から成り、南列と北列は柱穴が対応する。東列と西列は西列の柱穴が１基多い。柱穴の平面形は円形、長円形及び不整形で、長径0.16～0.38m、短径0.11～0.30m、深さ0.07～0.45mであり、深さにはややばらつきがあるものの、同一遺構のものであると考える。東列の外側P16～19及び西列の外側P20～22は本体に付属する施設であると考える。（詳細な記録なし。）**遺物**　認められない。**重複遺構**　なし　**所見**　柱穴埋没土は、軽石やロームブロックを含む黒褐色土、及び暗褐色土であり、土層から近世以降と考えるが、傾斜地における掘立柱建物であるか検討の余地がある。東西辺に並行する柱穴列は柱間が正確には一致していないものの庇に類するものと考えることができる。

第２項　土坑

概要　平成24・25年度調査では、第１面で調査された土坑のうち、形状や覆土の堆積状況から中世以後の所産と想定されるもの13基について記載する。中世以後の土坑の多くは円形及び隅丸方形を呈しており、断面形は箱型及び碗状を呈する。遺物を伴うことはほとんどない。掘削目的は明確ではない。標高587～589m、590m以下に特に多く造られている。底部幅の比較的広いもの、狭いもの、等高線に直交するもの、並行するものなど、いくつかの分類が可能であり、計画的な配置があったことも想定される。平成30年度調査では、第１面で調査された土坑のうち、形状や覆土の堆積状況から中世以後の所産と想定されるもの６基について記載する。中世以後の土坑の多くは円形及び隅丸方形を呈しており、断面形は箱型及び碗状を呈する。遺物を伴うことはほとんどない。掘削目的は明確ではない。標高580～583m、585m以下に特に多く造られている。計画的な配置があったと想定される。

21号土坑（第97図）

位置　89区E-16・17グリッド　調査区の南東端近く、標高587.4mにある。北に22号土坑が近接する。**形状**　東壁が失われているが、ほぼ円形の平面形を呈するものと思われる。壁は僅かに外に広がり、断面形はコの字状。**規模**　0.93×（0.84）m　**深さ**　0.35m　**主軸方位**　N-4°-E　**覆土**　下位はロームブロックを含む暗褐色土、上位は砂質気味の黒褐色土で、ともに締まりは弱い。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　時期判定できない。

28号土坑（第97図）

位置　89区M-13グリッド　調査区南部、標高588.4mほどにあり、等高線に直交して掘られる。北西3mほどに25号土坑がある。**形状**　平面形は隅丸長方形で、底面でも幅が広く、陥し穴とは異なる用途であろう。壁は丸みをもって立ち上がり、やや外に広がる。**規模**　1.52×1.11m　**深さ**　0.71m　**主軸方位**　N-30°-W　**覆土**　黒色の地山ブロックを含む灰黄褐色土である。他の平安時代土坑と異なる。**重複**　認められない。**遺物**　土師器甕、須恵器坏の小片が含まれる。**所見**　遺物混入の可能性があり、時期判定できない。

29号土坑（第97図　PL. 39）

位置　89区J-15グリッド　調査区南部、標高588.5mほどにある。北東1.5mに31号土坑がある。**形状**　平面形は東西にやや長いゆがんだ円形で、底面には小さな凹凸があり、壁は外に広がる。**規模**　1.12×0.95m　**深さ**　0.39m　**主軸方位**　N-68°-E　**覆土**　下層は固く締まったにぶい黄褐色土、上層は締まりのある暗褐色土である。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　時期判定できない。

31号土坑（第97図）

位置　89区J-15・16グリッド　調査区南部、標高588.4mにある。南西1.5mに29号土坑、北東2.5mに39号土坑がある。**形状**　平面形は円形で、断面は箱型を呈する。**規模**　0.91×0.80m　**深さ**　0.56m　**主軸方位**　N-16°-W　**覆土**　下層は小型のロームブロックと炭化物を多く含む黒褐色土で、上位はロームブロックを含む暗褐色土となる。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　時期判定できない。

32号土坑（第97図）

位置　89区H-18グリッド　調査区東部、標高587.9mにある。南東1.5mに同形態の33号土坑がある。**形状**　平面形は不整円形、断面形は浅い箱型を呈する。**規模**　0.98×0.84m　**深さ**　0.21m　**主軸方位**　N-12°-W　**覆土**　下位は小型のロームブロックを含む締まりの強い褐色土、上位はやや砂質で締まりの弱い暗褐色土である。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　時期判定できない。

33号土坑（第97図）

位置　89区G-18グリッド　調査区東部、標高587.9mにある。北西1.5mに同形態の32号土坑がある。**形状**　平面形は不整円形、断面形は碗状を呈する。**規模**　0.97×0.76m　**深さ**　0.29m　**主軸方位**　N-64°-E　**覆土**　下位は大型のロームブロックを含む締まりの強い黄褐色土、黒褐色土で、上位はやや砂質の暗褐色土である。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　時期判定できない。

34号土坑（第97図）

位置　89区F・G-20グリッド　調査区東部、標高587.4mにある。北西7mに38号土坑がある。**形状**　平面形は南北にやや長い不整円形で北側に浅い段を持つが、土層断面3層は地山を掘りすぎたものともみられ、本来は円形で箱型の断面を持つ小土坑であった可能性が高い。**規模**　1.38×1.18m　**深さ**　0.48m　**主軸方位**　N-36°-W　**覆土**　ロームブロックが多く含まれ、下層が黒褐色土、上層が暗褐色土である。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　時期判定できない。

35号土坑（第98図）

位置　89区M-17グリッド　調査区中央南寄り、標高589.2mにある。東2.5mに37号土坑、南東3mに36号土坑がある。**形状**　平面形は東西にやや長い円形で、底面は中央が窪み、小さな凹凸が不規則にみられる。断面形は皿形に近い。**規模**　0.95×0.81m　**深さ**　0.22m　**主軸方位**　N-65°-W。**覆土**　記載を欠く。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　時期判定できない。

36号土坑（第98図）

位置　89区L-16グリッド　調査区中央南寄り、標高589.1mにある。北西3mに35号土坑、北3mに37号土坑がある。**形状**　西部は軽石層を掘り込んでいて、形が崩れ、また一部掘りすぎているため、東西に長い隅丸長方形を基本とするものと思われるが判然としてない。底面も軽石中にあって中央が窪み、断面形はU字型に近い。**規模**　1.37×1.03m　**深さ**　0.65m　**主軸方位**　N-89°-W　**覆土**　下位は軽石層に若干の黒色土が混じ、上位は軽石粒を含む黒褐色土である。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　時期判定できない。

37号土坑（第98図）

位置　89区L-17グリッド　調査区中央南寄り、標高589.1mにある。西2.5mに35号土坑、南3mに36号土坑がある。**形状**　平面形は南北にやや長い円形で、底部は中央が窪み、断面形はU字状を呈する。**規模**　1.09×0.94m　**深さ**　0.52m　**主軸方位**　N-1°-E。**覆土**　下位はロームブロックを多く含む暗褐色土、上位はロームブロックと軽石粒を多く含む黒褐色土である。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　時期判定できない。

38号土坑（第98図　PL. 39）

位置　89区G・H-21グリッド　調査区東部、標高587.6mにある。南東7mに34号土坑がある。**形状**　平面形は東西にやや長い円形で、断面形は浅い碗状を呈する。**規模**　1.18×1.06m　**深さ**　0.38m　**主軸方位**　N-35°-W。**覆土**　下位にはロームブロックを含む、締まりの弱い暗褐色土があり、上位は炭化物を少量含む締まりの弱い黒色土だが、ここに多数の角礫が入る。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　時期判定できない。

39号土坑（第98図）

位置　89区J-16グリッド　調査区中央南寄り、標高588.4mにある。南西2.5mに31号土坑がある。**形状**　平面形は円形で、壁は丸みをもって立ち上がり、外に広がる。**規模**　1.15×0.97m　**深さ**　0.77m　**主軸方位**　N-32°-W　**覆土**　下位がローム小ブロックや軽石粒、炭化物を含む黒褐色土、上位は褐色土やロームのブロックを含む

暗褐色土である。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　時期判定できない。

57号土坑（第98図）

位置　89区N・O-15グリッド　調査区南西部の標高589.3mに等高線と直交よりやや斜めに交わって掘られている。**形状**　隅丸方形の平面形を呈し、壁は上方に向かって外に開く。**規模**　1.97×1.40m　**深さ**　0.48m。**主軸方位**　N-34°-W　**覆土**　覆土下位はロームブロックをランダムに含む黄褐色土で、人為的に埋められたものと考えられる。上位はロームブロックを含む暗褐色土である。写真記録を欠く。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　時期判定できない。

72号土坑（第99図　PL. 39）

位置　79区T・U-23グリッド　**形状**　隅丸長方形である。断面形は不整形である。平底である。**規模**　1.84×0.97m　**深さ**　0.35m　**主軸方位**　N-57°-E　**覆土**　黒褐色土で埋没している。軽石、ロームブロックを含む。全体的に締まりは弱い。**重複**　74号土坑より古い。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。時期判断の根拠に乏しいが、確認面、埋没土及び形状から、近世以降の所産と考えられる。

73号土坑（第99図　PL. 39）

位置　79区H-７グリッド　**形状**　円形である。断面形は方形を呈する。平底である。全体的に整った形状である。**規模**　1.03×1.00m　**深さ**　0.70m　**主軸方位**　N-13°-W　**覆土**　黒褐色土で埋没している。As-YPkを含む。上層には炭化物を含む。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。時期判断の根拠に乏しいが、確認面、埋没土及び形状から、近世以降の所産と考えられる。

74号土坑（第99図　PL. 39）

位置　79区U-23グリッド　**形状**　隅丸長方形である。断面形は不整形を呈する。**規模**　（1.85）×0.57m　**深さ**　0.42m　**主軸方位**　N-83°-E　**覆土**　黒褐色土で埋没している。軽石、ロームブロックを含む。全体的に締まりは弱い。72号土坑に準ずる。**重複**　72号土坑より新しい。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。時期判断の根拠に乏しいが、確認面、埋没土及び形状から、近世以降の所産と考えられる。

78号土坑（第99図　PL. 39）

位置　78区T-19グリッド　**形状**　不整形である。断面形は逆台形を呈する。平底である。**規模**　0.84×0.41m　**深さ**　0.16m　**主軸方位**　N-21°-W　**覆土**　暗褐色土で埋没している。軽石、ロームブロックを含む。締まりはない。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。削平されており底部のみの残存で、時期判断の根拠に乏しいが、確認面、埋没土及び形状から、近世以降の所産と考えられる。

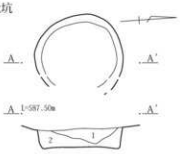
80号土坑（第99図）

位置　78区X-17グリッド　**形状**　平面形、断面形共に不整形である。**規模**　0.63×0.57m　**深さ**　0.31m　**主軸方位**　N-35°-E　**覆土**　主に黒色土で埋没している。炭化物を含む。締まりはない。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。削平されており底部のみの残存で、時期判断の根拠に乏しいが、確認面、埋没土及び形状から、近世以降の所産と考えられる。

92号土坑（第99図　PL. 39）

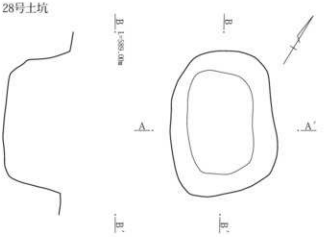
位置　79区M-16グリッド　**形状**　円形である。断面形は長方形を呈する。底面は平底である。**規模**　1.20×1.18m　**深さ**　0.55m　**主軸方位**　N-30°-E　**覆土**　暗褐色土、黒褐色土で埋没している。軽石、炭化物含み、締まりは弱い。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　本土坑の掘削目的は判断できなかった。時期判断の根拠に乏しいが、埋没土及び形状から、近世以降の所産と考えられる。

21号土坑



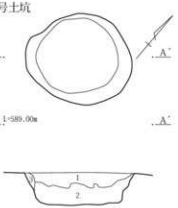
21号土坑
1　黒褐色土　締まりなくやや砂質。
2　暗褐色土　締まりなくやや粘質。1～20cm程の明黄褐色ロームブロックを多く含む。

28号土坑



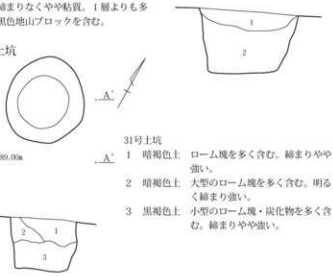
28号土坑（覆土から古代～中近世頃の遺構と思われる）
1　灰黄褐色土　やや粘質。As-YPk、赤色粒子、1～2cm程の黒色地山ブロックを僅かに含む。
2　灰黄褐色土　やや締まりなくやや粘質。1層よりも多くの黒色地山ブロックを含む。

29号土坑



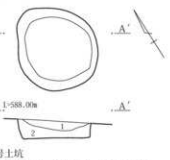
29号土坑
1　暗褐色土　締まりあり。やや粘質。粒子の細かい白色粒子、赤色粒子を多く含む。
2　にぶい黄褐色土　固く締まる。やや粘質。粒子の細かい白色粒子、赤色粒子を多く含む。壁際に1～10cm程の明黄褐色ロームブロックを含む。
3　明黄褐色土　やや締まりなし。ロームブロック主体。

31号土坑



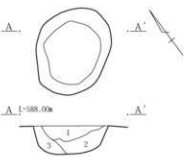
31号土坑
1　暗褐色土　ローム塊を多く含む。締まりやや強い。
2　暗褐色土　大型のローム塊を多く含む。明るく締まり強い。
3　黒褐色土　小型のローム塊・炭化物を多く含む。締まりやや強い。

32号土坑



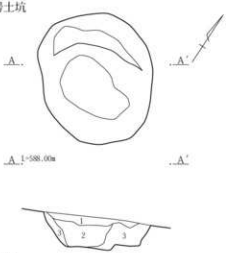
32号土坑
1　暗褐色土　やや砂質。締まり弱い。
2　褐色土　小型のローム塊を多く含む。締まり強い。

33号土坑

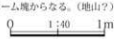


33号土坑
1　暗褐色土　やや砂質。ローム塊を少量含む。
2　黒褐色土　ローム塊を多く含む。締まり強い。
3　黄褐色土　大型のローム塊を含む。締まり強い。

34号土坑

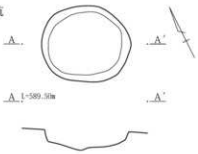


34号土坑
1　暗褐色土　ローム塊を含む。締まり強い。
2　黒褐色土　ローム塊を多く含む。締まり強い。
3　褐色土　明るい。大型のローム塊からなる。（地山？）

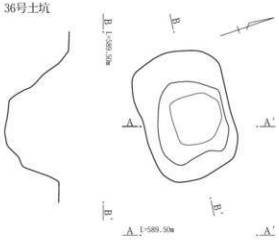


第97図　土坑1（21・28・29・31～34号土坑）

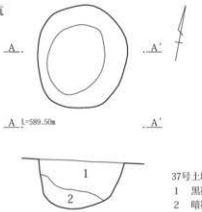
35号土坑



36号土坑



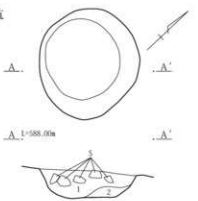
37号土坑



36号土坑
1　黒褐色土　As-YPk・ローム粒を含む。締まり弱い。
2　黄褐色土　As-YPk・ローム塊を主体。黒色土塊を含む。締まり弱い。

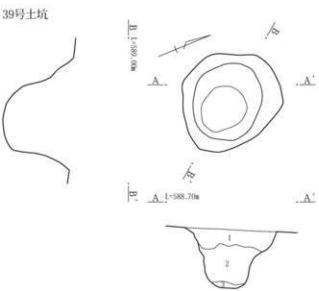
37号土坑
1　黒褐色土　明るい。As-YPk・ローム塊を多く含む。締まり強い。
2　暗褐色土　ローム塊を多く炭化物を少量含む。締まり強い。

38号土坑



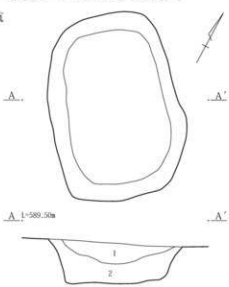
38号土坑
1　黒色土　炭化物を少量含む。締まり弱い。
2　暗褐色土　ローム塊を含む。締まり弱い。

39号土坑



39号土坑
1　暗褐色土　ローム塊・褐色土塊を含む。締まり弱い。
2　黒褐色土　炭化物・As-YPkを多く含む。締まり強い。
3　黒褐色土　小型のローム塊を含む。締まりやや弱い。
（底面は硬くなる）

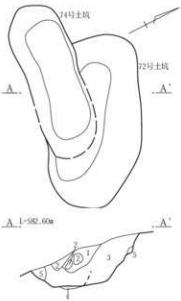
57号土坑



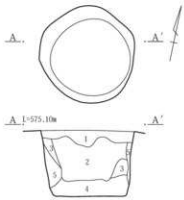
57号土坑
1　暗褐色土　若干のロームブロック混入。
2　黄褐色土　ロームブロック乱雑に多く含む。（一括埋土）

第98図　土坑２（35～39・57号土坑）

72・74号土坑



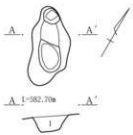
73号土坑



73号土坑
1　暗褐色土　黄・灰白・褐色粒子多量に、炭化物・ローム粒子少し含む。黒色土がブロック状に入る。締まりあり。
2　黒褐色土　ロームブロック・褐・淡黄色の軽石少量含む。軽石（As-YPk）が入る。
3　褐灰色土　２と同様だが、軽石（As-YPkか？）をやや多く含む。
4　黒褐色土　２に多量の軽石（As-YPkか？）を含む。
5　黒褐色土　４にさらに多くの軽石を含む。

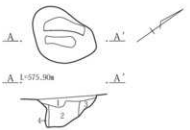
72・74号土坑
1　褐色土　ローム・ロームブロック多量に、黄・黄褐・橙色粒子やや多く含む。締まりややあり。
2　黄褐色土　大型のロームブロック。
3　黒褐色土　黄・黄褐色軽石多量に、白・橙色等微細粒子やや多く含む。締まりあまりなし。
4　暗褐色土　混入物は３と同じ。ロームの割合が多くやや明るい色。締まりややあり。
5　にぶい黄褐色土　漸移層　黄・黄褐色粒子僅かに含む。締まりあまりなし。

78号土坑



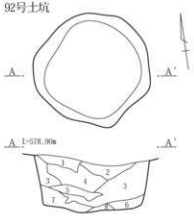
78号土坑
1　暗褐色土　黄・褐色軽石・ローム粒・ロームブロック少量含む。斑状のローム・黒色土を含む。締まりなし。

80号土坑



80号土坑
1　灰黄褐色土　白・黄軽石やや多く含む。褐色粒子多量に含む。黒色土斑状に含む。締まりあまりなし。
2　黒色土　白・黄軽石少量含む。炭化物僅かに含む。締まりなし。
3　黒褐色土　軽石やや多く含む。
4　淡黄色土　軽石（As-YPk）含む。

92号土坑



92 号土坑
1　灰黄褐色土　ロームブロックやや多く、浅黄橙色軽石・炭化物少量含む。締まり弱い。
2　黒褐色土　黄・白・橙軽石・橙・黄粒子やや多く、炭化物少量含む。締まりやや弱い。
3　暗褐色土　黄色軽石・黄・橙色粒子少量、ロームブロックやや多く斑状に含む。締まり弱い。
4　暗褐色土　浅黄橙・黄・褐色軽石・炭化物やや多く、ロームブロックやや多く斑状に、黄・橙色粒子少量含む。締まり弱い。
5　褐色土　３に準ずる。軽石やローム粒多く入り明るい。大粒ブロック状のロームも含む。
6　黒褐色土　橙・黄・浅黄橙軽石・ロームブロック僅かに含む。締まりやや弱い。
7　にぶい黄褐色土　斑状にロームを僅か含む。橙・褐色微細粒子少量含む。
8　明黄褐色土　ローム層、黄・白軽石や硬化したロームブロックを少量含む。

0　1:40　1m

第99図　土坑３（72～74・78・80・92号土坑）

第３項　ピット

概要　三平１遺跡、平成24・25年度調査の１面では、37基のピットを検出しており、全てを記述した。5・6・8・9・14～21号ピットは、１号掘立柱建物を構成しており、詳細な記録を本項で個別に記載した。平成30年度調査の１面では、85基のピットを検出しており、そのうち21基のピットを記述した。**位置**　平成24・25年度調査については、南東方向へ傾斜する調査区の中央から南部にかけての緩斜面に位置している。１号掘立柱建物以外のピット群の中には、建物の柱穴や柱穴列を構成する可能性を否定できないものもあるが、柱穴の規模形状、柱間、建物全体の形状等、建物や柱穴列を復元するための明確な資料が見つからなかった。平成30年度調査については、ほとんどのピットがＣ区で確認したものである。舌状台地の東側斜面のＢ区から続く谷地形、及び西斜面、調査区の中央部分から検出した。ピット群の中には、建物の柱穴や柱穴列を構成する可能性を否定できないものもあるが、柱穴の規模形状、柱間、建物全体の形状等、建物や柱穴列を復元するための明確な資料が見つからなかった。ピットが配置されている範囲が、２面のピットと重複しているものはほとんどなく、２面の遺構との関連はほとんどないと考えられる。後世の崩れや開拓によって削平が進んでいるものの、人の活動が見て取れる。**重複**　認められない。**規模形状**　多くが中～小型で楕円形や円形を呈する。これらのピット群は、建物の柱穴である可能性も否定できないが、復元には至らなかった。**埋没土**　主に暗褐色土及び黒褐色土で埋没しており、軽石やロームブロックを含む。締まりがある。**遺物**　認められない。**所見**　ロームブロックを含み、ほぼ共通する埋没土により、同一時期のものと考えらる。掘立柱建物等、周辺の遺構と同時期であると比定される。関連施設の柱穴の可能性がある。(詳細については第16表に記載した。)

１号ピット（第100図　PL. 39）　89区P-24グリッド　長軸40、短軸38、深さ25㎝。調査区の中央北部、標高591.76m近くにある。平面形は円形、断面形は西側がやや深い碗状を呈する。覆土はロームブロック、ローム粒を含む暗褐色土。２号ピットと近接する。帰属時期不明。

２号ピット（第100図　PL. 40）　89区O-24グリッド　長軸32、短軸29、深さ21㎝。調査区の中央北部、標高591.67m近くにある。平面形はゆがんだ偏円形、断面形はU字状を呈する。覆土はロームブロック、ローム粒を含む褐色土・暗褐色土。１号ピットと近接する。帰属時期不明。

３号ピット（第100図　PL. 40）　89区N-22グリッド　長軸37、短軸29、深さ40㎝。調査区の中央北より、標高590.01m付近にある。平面形は東南部が窪むようなゆがんだ円形、断面形は漏斗状を呈する。覆土はローム、黒色土の小斑を含む暗褐色土。周囲に遺構はなく、孤立している。帰属時期不明。

４号ピット（第100図　PL. 40）　89区K-19グリッド　長軸31、短軸30、深さ30㎝。調査区の中央南寄り、標高588.50m近くにある。平面形は円形、断面形は逆台形を呈する。覆土はロームブロック、斑状のローム粒を含む褐色土。長円形の土坑状落ち込みの底部にある。帰属時期不明。

５号ピット（第100図）　89区I-16グリッド　長軸36、短軸43、深さ69㎝。調査区の中央南部、標高588.15m近くにある。平面形は円形、断面形は深いU字状を呈する。覆土はロームブロックを含む締まりの強い暗褐色土で、中央に締まりの弱い暗褐色砂質土で埋まった柱痕を残す。１号掘立柱建物を構成する。帰属時期不明。

６号ピット（第100図）　89区H-17グリッド　長軸42、短軸40、深さ62㎝。調査区の南東部、標高587.93m近くにある。平面形は円形、断面形は深いU字状を呈する。覆土はロームブロックを含む締まりの強い暗褐色土で、中央に締まりの弱い暗褐色砂質土で埋まった柱痕を残す。１号掘立柱建物を構成する。帰属時期不明。

７号ピット（第100図　PL. 40）　89区G-17グリッド　長軸54、短軸50、深さ28㎝。調査区の南東部、標高587.86m近くにある。平面形は円形、断面形は逆台形を呈する。覆土下層はロームブロックを多く含む締まりの強い褐色土、上層は褐色土ブロックを含む締まりの弱い暗褐色土。帰属時期不明。

８号ピット（第100図）　89区G-17グリッド　長軸40、短軸38、深さ69㎝。調査区の南東部、標高587.85m近くにある。平面形は円形、断面形は深いU字状を呈する。覆土はロームブロックを含む締まりの強い暗褐色土で、中央に締まりの弱い暗褐色砂質土で埋まった柱痕を残す。土師器甕胴部細片、須恵器杯口縁部細片を含む。１号掘

立柱建物を構成する。帰属時期不明。

9号ピット（第100図）　89区F・G-17グリッド　長軸50、短軸44、深さ62cm。調査区の南東部、標高587.77m近くにある。平面形はゆがんだ円形、断面形は深いU字状を呈する。覆土はロームブロックを含むしまりの強い暗褐色土で、中央に締まりの弱い暗褐色砂質土で埋まった柱痕を残す。1号掘立柱建物を構成する。帰属時期不明。

10号ピット（第100図　PL. 40）　89区H-17グリッド　長軸41、短軸38、深さ33cm。調査区の南東部、標高587.9m近くにある。平面形はゆがんだ円形、断面形はややゆがんだU字状を呈する。覆土は下位は西側にロームブロックが集中し、中央には柱痕状に黒褐色土が混入するが、全体に締まりが弱い。上位は砂質の黒色土。帰属時期不明。

11号ピット（第100図）　89区M-16グリッド　長軸44、短軸30、深さ13cm。調査区の中央南部、標高589.13m近くにある。平面形は偏円形、断面形は浅い箱形を呈する。覆土は締まりの弱い黒褐色土。小ピット、円形土坑が多い位置にあたる。帰属時期不明。

12号ピット（第100図）　89区M-17グリッド　長軸32、短軸29、深さ26cm。調査区の中央南部、標高589.18m近くにある。平面形は円形、断面形はU字状を呈する。覆土は締まりの弱い黒褐色土。小ピット、円形土坑が多い位置にあたる。帰属時期不明。

13号ピット（第100図）　89区M-17グリッド　長軸38、短軸36、深さ15cm。調査区の中央南部、標高589.2m近くにある。平面形はゆがんだ円形、断面形はゆがんだ碗状を呈する。覆土は締まりの強い暗褐色土。小ピット、円形土坑が多い位置にあたる。帰属時期不明。

14号ピット（第100図）　89区I-17グリッド　長軸26、短軸24、深さ47cm。調査区の南東部、標高588.33m近くにある。平面形は円形、断面形は深いU字状を呈する。覆土はロームブロックを含む締まりの強い暗褐色土で、中央に締まりの弱い暗褐色砂質土で埋まった柱痕を残す。1号掘立柱建物を構成する。帰属時期不明。

15号ピット（第100図）　89区H-17グリッド　長軸26、短軸25、深さ30cm。調査区の南東部、標高588.06m近くにある。平面形は円形、断面形はV字状を呈する。覆土はロームブロックを含む締まりの強い暗褐色土で、中央に締まりの弱い暗褐色砂質土で埋まった柱痕を残すが、他の柱穴より不明瞭。1号掘立柱建物を構成する。帰属時期不明。

16号ピット（第101図）　89区G・H-18グリッド　長軸26、短軸24、深さ38cm。調査区の南東部、標高587.85m近くにある。平面形は円形、断面形はU字状を呈する。覆土はロームブロックを含む締まりの強い暗褐色土で、中央に締まりの弱い暗褐色砂質土で埋まった柱痕を残す。1号掘立柱建物を構成する。帰属時期不明。

17号ピット（第101図　PL. 40）　89区G-18グリッド　長軸42、短軸40、深さ55cm。調査区の南東部、標高587.77m近くにある。平面形は隅丸方形ないし円形、断面形は椀型で中央に打ち込んだような柱痕があり、全体としては漏斗状を呈する。覆土はロームブロックを含む締まりの強い暗褐色土で、中央に締まりの弱い暗褐色砂質土で埋まった柱痕を残す。1号掘立柱建物を構成する。帰属時期不明。

18号ピット（第101図）　89区H・I-15グリッド　長軸34、短軸30、深さ43cm。調査区の南東部、標高587.9m近くにある。平面形はゆがんだ円形、断面形は上部の開いたU字状を呈する。覆土は記載を欠く。1号掘立柱建物を構成する。帰属時期不明。

19号ピット（第101図　PL. 40）　89区H-16グリッド　長軸30、短軸26、深さ31cm。調査区の南東部、標高587.81m近くにある。平面形は円形、断面形はU字状を呈する。覆土はロームブロックを含む締まりの強い暗褐色土で、中央に締まりの弱い暗褐色砂質土で埋まった柱痕を残す。土師器甕胴部細片を含む。1号掘立柱建物を構成する。帰属時期は不明。

20号ピット（第101図　PL. 40）　89区G-16グリッド　長軸30、短軸28、深さ32cm。調査区の南東部、標高587.69m近くにある。平面形は円形、断面形は椀型を基本とするものと思われるが、中央に打ち込んだような柱痕があり、全体としてはV字状を呈する。覆土はロームブロックを含む締まりの強い暗褐色土で、中央に締まりの弱い暗褐色砂質土で埋まった柱痕を残す。陶器の瓶出土。1号掘立柱建物を構成する。帰属時期不明。

21号ピット（第101図　PL. 40）　89区F-17グリッド　長軸38、短軸36、深さ31cm。調査区の南東部、標高587.68m近くにある。平面形は円形、断面形は椀型を基本とするものと思われるが、中央に打ち込んだような柱

痕がある。図より深くまで柱先端が達するものと思われ、全体としてはV字状を呈する。覆土はロームブロックを含む締まりの強い暗褐色土で、中央に締まりの弱い暗褐色砂質土で埋まった柱痕を残す。１号掘立柱建物を構成する。帰属時期不明。

22号ピット（第101図）　89区F-17グリッド　長軸38、短軸28、深さ27cm。調査区の南東部、標高587.65m近くにある。平面形は円形、断面形はU字状を呈する。覆土は締まりの弱い黒色砂質土。１号掘立柱建物に近接し、小ピットが多い部分にあたる。帰属時期不明。

23号ピット（第101図）　89区F-17グリッド　長軸25、短軸24、深さ34cm。調査区の南東部、標高587.69m近くにある。平面形は円形、断面形はU字状を呈する。覆土は締まりの弱い黒色砂質土。１号掘立柱建物に近接し、小ピットが多い部分にあたる。帰属時期不明。

24号ピット（第101図）　89区G-19グリッド　長軸29、短軸27、深さ15cm。調査区の南東部、標高587.68m近くにある。平面形は円形、断面形は逆台型を基本とするものと思われるが、中央に柱痕状の窪みがあり、全体としては漏斗状を呈する。覆土はローム粒を含む締まりの強い暗褐色土で、中央に柱痕状に締まりの弱い黒色土がある。１号掘立柱建物の北に小ピット群が伸びる部分にあたる。帰属時期は不明。

25号ピット（第101図）　89区H-19グリッド　長軸24、短軸24、深さ20cm。調査区の南東部、標高587.92m近くにある。平面形は円形、断面形は逆台形に近いU字状を呈する。覆土は締まりの弱い黒色土。１号掘立柱建物の北に小ピット群が伸びる部分にあたる。帰属時期は不明。

26号ピット（第101図）　89区H-19グリッド　長軸44、短軸37、深さ22cm。調査区の南東部、標高587.87m近くにある。平面形はゆがんだ偏円形、断面形は鍋状を呈する。覆土は下層はロームブロックを含む黒褐色土、上層は砂質の黒色土で、ともに締まりは弱い。１号掘立柱建物の北に小ピット群が伸びる部分にあたる。帰属時期は不明。

27号ピット（第101図）　89区H-20グリッド　長軸45、短軸35、深さ22cm。調査区の南東部、標高587.9m近くにある。平面形はゆがんだ偏円形、断面形は箱型を呈する。覆土は26号ピットと近い。下層はロームブロックを含む黒褐色土、上層は砂質の黒色土で、ともに締まりは弱い。１号掘立柱建物の北に小ピット群が伸びる部分にあたる。帰属時期は不明。

28号ピット（第101図）　89区K-16グリッド　長軸46、短軸37、深さ28cm。調査区の中央南部、標高588.81m近くにある。平面形は偏円形、断面形は上部の開いたU字状を呈する。覆土は周辺の地山であるAs-YPkを含む締まりの弱い褐色土、黒褐色土。小ピット、円形土坑が多い位置にあたる。帰属時期は不明。

29号ピット（第101図）　89区K-16グリッド　長軸40、短軸30、深さ34cm。調査区の中央南部、標高588.84m近くにある。平面形は偏円形、断面形はやや深いU字状を呈する。覆土はAs-YPkを含む黒褐色土。小ピット、円形土坑が多い位置にあたる。帰属時期は不明。

30号ピット（第101図）　89区L-16グリッド　長軸59、短軸50、深さ23cm。調査区の中央南部、標高588.85m近くにある。平面形は円形、断面形は鍋状を呈する。覆土は大粒のAs-YPkを含む黒褐色土。小ピット、円形土坑が多い位置にあたる。帰属時期は不明。

31号ピット（第101図）　89区L-17グリッド　長軸32、短軸26、深さ30cm。調査区の中央南部、標高589.14m近くにある。平面形は偏円形、断面形はやや深いU字状を呈する。覆土は小型のロームブロックを含む黒褐色土。小ピット、円形土坑が多い位置にあたる。帰属時期は不明。

32号ピット（第102図　PL. 40）　89区O-19グリッド　長軸61、短軸50、深さ33cm。調査区の中央部、標高589.73m近くにある。平面形は偏円形、断面形はやや深い碗状を呈する。覆土はロームブロックを多く含む締まった暗褐色土。帰属時期不明。

33号ピット（第102図）　89区J-19グリッド　長軸40、短軸40、深さ71cm。調査区の中央東部、標高588.48m近くにある。平面形は偏円形、断面形はV字状を呈する。覆土は小型のロームブロックを含む暗褐色土を基本とする。中央に柱痕と思われる締まりの弱い黒色土が認められる。周囲には組み合うピットは認められない。帰属時期不明。

34号ピット（第102図　PL. 40）　89区K-15グリッド　長軸30、短軸29、深さ25cm。調査区の中央南部、標高588.61m近くにある。平面形は円形、断面形は逆台形を呈する。覆土は小型のロームブロックを含む締まりの弱い暗褐色土。小ピット、円形土坑集中部の南端近くにあたる。帰属時期不明。

35号ピット（第102図）　89区O-16グリッド　長軸45、短軸37、深さ39cm。調査区の南西部、標高589.62m近くにある。平面形は偏円形。覆土は軽石を極僅かに含む暗褐色土。写真記録を欠く。36・37号ピットと直線的に並ぶ。帰属時期不明。

36号ピット（第102図）　89区P-16グリッド　長軸38、短軸30、深さ47cm。調査区の南西部、標高589.84m近くにある。平面形は偏円形。覆土は暗褐色土。写真記録を欠く。35・37号ピットと直線的に並ぶ。帰属時期不明。

37号ピット（第102図）　89区Q-16グリッド　長軸42、短軸38、深さ33cm。調査区の南西部、標高590.03m近くにある。平面形は円形。覆土は土器片を含む暗褐色土。写真記録を欠く。35・36号ピットと直線的に並ぶ。帰属時期不明。

48号ピット（第102図　PL. 40）　89区B-３グリッド　長軸52、短軸35、深さ23cm。B区の中央部東、標高580.60mにある。平面形は楕円形、断面形は不整形を呈する。覆土はロームブロック、ローム粒を含む黒褐色土である。柱痕確認。帰属時期不明である。

52号ピット（第102図　PL. 40）　79区S-22グリッド　長軸28、短軸26、深さ18cm。C区北西部、標高581.60mにある。平面形は円形、断面形はU字状を呈する。覆土はロームブロック、軽石を含む黒褐色土である。53号ピットと対である。帰属時期不明である。

61号ピット（第103図　PL. 40）　89区E-１グリッド　長軸39、短軸28、深さ16cm。B区中央北寄り、標高579.70mにある。平面形は楕円形、断面形は逆台形を呈する。覆土はロームブロック、軽石を含む黒褐色土である。柱痕か。帰属時期不明。

72号ピット（第103図　PL. 41）　79区W-25グリッド　長軸50、短軸50、深さ17cm。C区北西部ピット群の中、標高582.30mにある。平面形は円形、断面形は碗状を呈する。覆土はロームブロック、軽石を含む黒褐色土である。にぶい黄褐色土で埋まった柱痕を残す。帰属時期不明である。

73号ピット（第103図　PL. 41）　79区V-24グリッド　長軸29、短軸27、深さ12cm。C区北西部、標高581.90mにある。平面形は円形、断面形はU字状を呈する。覆土はローム、軽石を含む黒褐色土である。帰属時期不明である。

78号ピット（第103図　PL. 41）　79区V-23グリッド　長軸57、短軸51、深さ21cm。C区北西部ピット群中、標高581.80mにある。平面形は不整円形、断面形は碗状を呈する。覆土は黒褐色土を含む締まりの強い褐色土である。にぶい黄褐色土で埋まった柱痕を残す。帰属時期不明である。

117号ピット（第104図　PL. 41）　79区D-14グリッド　長軸26、短軸20、深さ44cm。C区南東部、標高574.00mにある。平面形は不整円形、断面形は漏斗状を呈する。覆土はロームブロック、軽石を含み、締まりが弱い黒色土である。形状が整っている。帰属時期不明。

118号ピット（第104図　PL. 41）　79区D-14グリッド　長軸25、短軸20、深さ49cm。C区南東部、標高574.20mにある。平面形は円形、断面形は深いU字状を呈する。覆土はロームブロック、軽石を含む締まりのある黒褐色土である。形状が整っている。帰属時期不明である。

119号ピット（第104図　PL. 41）　79区D-14グリッド　長軸17、短軸16、深さ43cm。C区南東部、標高574.40mにある。平面形は円形、断面形は深いU字状を呈する。覆土はロームブロック、軽石を含む締まりのある黒褐色土である。形状が整っている。帰属時期不明である。

120号ピット（第104図　PL. 41）　79区D-14グリッド　長軸28、短軸24、深さ35cm。C区南東部、標高574.10mにある。平面形は円形、断面形は不整形を呈する。覆土はロームブロック、軽石を含む締まりの弱い黒色土である。柱の根元を固めた形状あり。帰属時期不明。

123号ピット（第104図　PL. 41）　79区G-18グリッド　長軸57、短軸56、深さ19cm。C区中央部ピット群中、標高577.70mにある。平面形は円形、断面形は浅い鍋形を呈する。覆土はロームブロック、軽石を含む締まりの強い黒褐色土である。124号ピットと対を成す。帰属時期不明。

124号ピット（第104図　PL. 41）　79区G-18グリッド　長軸55、短軸52、深さ24cm。C区中央部ピット群中、標高577.80mにある。平面形は不整円形、断面形は碗状を呈する。覆土はロームブロック、軽石を含む締まりの強い黒褐色土である。123号ピットと対を成す。帰属時期不明。

126号ピット（第104図　PL. 41）　79区J-17グリッド　長軸44、短軸34、深さ16cm。C区中央部西より、標高577.80mにある。平面形は楕円形、断面形はゆがんだ碗

状を呈する。覆土はローム、軽石を含む締まりの強い暗褐色土である。127号ピットと対を成す。帰属時期不明。

127号ピット（第104図　PL. 41）　79区J-17グリッド　長軸47、短軸44、深さ18cm。C区中央部西より、標高578.10mにある。平面形は円形、断面形はゆがんだ碗状を呈する。覆土はローム、軽石を含む締まりの強い暗褐色土である。126号ピットと対を成す。帰属時期不明。

131号ピット（第104図　PL. 41）　79区F-17グリッド　長軸40、短軸30、深さ21cm。C区中央部ピット群中、標高576.00mにある。平面形は円形、断面形は逆台形を呈する。覆土はロームブロック、軽石を含む黒褐色土である。削平が進んだ柱穴の底部か。帰属時期不明である。

151号ピット（第105図　PL. 41）　79区D-17グリッド　長軸34、短軸25、深さ28cm。C区中央部東より、標高575.80mにある。平面形は楕円形、断面形はU字状を呈する。覆土はロームブロック、軽石を含む黒色土である。削平が進んだ柱穴の底部か。帰属時期不明である。

152号ピット（第105図　PL. 41）　79区D-17グリッド　長軸42、短軸35、深さ50cm。C区中央部東より、標高575.80mにある。平面形は円形、断面形は椀型で中央に打ち込んだような柱痕があり、全体としては漏斗状を呈する。覆土はロームブロック、軽石を含む締まりの強い暗褐色土である。柱の根元を固めた形状あり。帰属時期不明である。

159号ピット（第105図　PL. 41）　79区D-21グリッド　長軸54、短軸46、深さ30cm。C区中央部北東よりピット群中、標高577.20mにある。平面形は不整円形、断面形は椀型で中央に打ち込んだような柱痕があり、全体としては漏斗状を呈する。覆土はロームブロック、軽石を含む締まりの強い黒褐色土である。柱の根元を固めた形状あり。帰属時期不明である。

163号ピット（第106図）　79区C-24グリッド　長軸42、短軸29、深さ19cm。C区北部ピット群中、標高578.40mにある。平面形は楕円形、断面形は逆台形を呈する。覆土はロームブロック、軽石を含む締まりの強い暗褐色土である。削平が進んだ柱穴の底部か。帰属時期不明である。

168号ピット（第106図）　79区D-24グリッド　長軸43、短軸39、深さ27cm。C区北部ピット群中、標高578.30mにある。平面形は円形、断面形は椀型で中央に打ち込んだような柱痕があり、全体としては漏斗状を呈する。覆土はロームブロック、軽石を含む締まりの強い暗褐色土である。柱の根元を固めた形状あり。帰属時期不明である。

173号ピット（第106図）　79区D-23グリッド　長軸66、短軸49、深さ26cm。C区北部ピット群中、標高578.00mにある。平面形は長円形、断面形は椀型で壁際に打ち込んだような柱痕があり、全体としては漏斗状を呈する。覆土はロームブロック、軽石を含む締まりの強い黒褐色土であり、周辺はロームブロックで、柱の根元を固めた形状がある。帰属時期不明である。

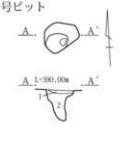
1号ピット

1号ピット
1　暗褐色土　ローム粒を少量含む。締まり強い。
2　暗褐色土　小型のローム塊を多く含む。締まり強い。

2号ピット

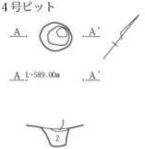
2号ピット
1　暗褐色土　やや明るい。ローム粒を少量含む。締まり強い。
2　褐色土　小型のローム塊を少量含む。

3号ピット



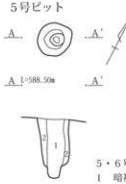
3号ピット
1　黒褐色土　やや粘質。1～2cm程の黒色地山ブロック、層上半を中心に含む。
2　暗褐色土　やや粘質。黄色粒子（As-YPk）散在。1～2cm程のにぶい黄褐色、黒色を含む。

4号ピット

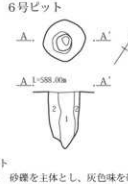


4号ピット
1　黒褐色土　やや粘質。As-YPk。1cm未満のロームブロック散在。
2　褐色土　やや粘質。ロームブロックを多く含む。

5号ピット

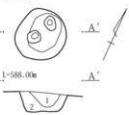


6号ピット



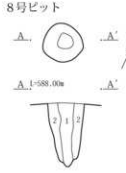
5・6号ピット
1　暗褐色土　砂礫を主体とし、灰色味を帯びる。締まり弱い。柱痕。
2　暗褐色土　ローム塊を多く含む。締まり強い。

7号ピット

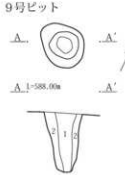


7号ピット
1　暗褐色土　褐色土塊を少量含む。締まり弱い。
2　褐色土　ローム塊を多く含む。締まりやや強い。

8号ピット

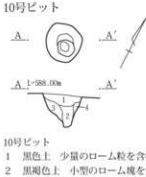


9号ピット

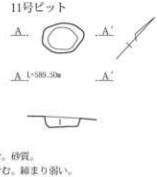


8・9・14・15号ピット
1　暗褐色土　砂礫を主体とし、灰色味を帯びる。締まり弱い。柱痕。
2　暗褐色土　ローム塊を多く含む。締まり強い。

10号ピット



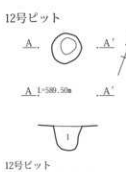
11号ピット



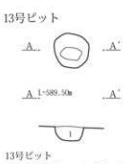
10号ピット
1　黒色土　少量のローム粒を含む。砂質。
2　黒褐色土　小型のローム塊を含む。締まり弱い。
3　黄褐色土　ローム塊を多く含む。締まり強い。
4　黒色土　均質で締まり弱い。

11号ピット
1　黒褐色土　少量のローム粒を含む。締まり弱い。

12号ピット



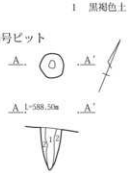
13号ピット



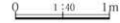
12号ピット
1　黒褐色土　小型のローム塊を多く含む。締まり弱い。

13号ピット
1　暗褐色土　ローム塊・褐色土塊を含む。締まり強い。

14号ピット

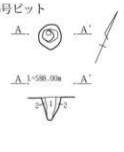


15号ピット

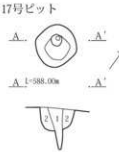


第100図　ピット1（1～15号ピット）

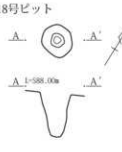
16号ピット



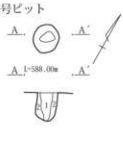
17号ピット



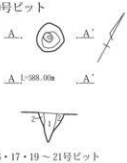
18号ピット



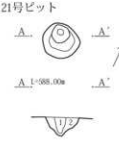
19号ピット



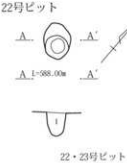
20号ピット



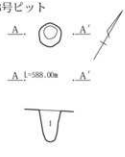
21号ピット



22号ピット



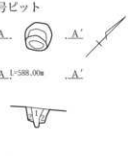
23号ピット



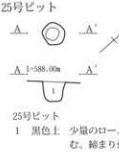
16・17・19～21号ピット
1　暗褐色土　砂礫を主体とし、灰色味を帯びる。締まり弱い。柱痕。
2　暗褐色土　ローム塊を多く含む。締まり強い。

22・23号ピット
1　黒色土　砂質・砂礫含む。締まり弱い。

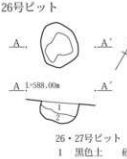
24号ピット



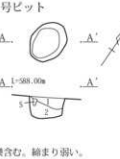
25号ピット



26号ピット



27号ピット

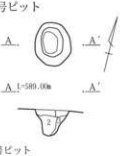


24号ピット
1　黒色土　　少量の砂礫・ローム粒を含む。締まり弱い。
2　暗褐色土　ローム粒を含む。締まり強い。

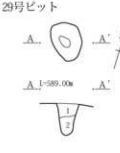
25号ピット
1　黒色土　少量のローム粒を含む。締まり弱い。

26・27号ピット
1　黒色土　　砂質。砂礫含む。締まり弱い。
2　黒褐色土　ローム塊を含む。締まり弱い。
(27号ピット周辺のピットも１層と同じ。)

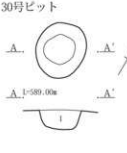
28号ピット



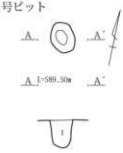
29号ピット



30号ピット



31号ピット



28号ピット
1　黒褐色土　As-YPkを少量含む。締まり弱い。
2　黒褐色土　大粒のAs-YPkを多く含む。締まり弱い。
3　褐色土　　As-YPk・ローム粒からなる。締まりが弱い。
(周辺はAs-YPk)

29号ピット
1　黒褐色土　As-YPkを多く含む。締まり弱い。
2　黒褐色土　As-YPk・ローム塊を含む。締まり弱い。

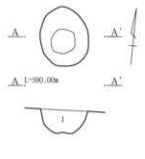
30号ピット
1　黒褐色土　大粒のAs-YPkを含む。締まり弱い。

31号ピット
1　黒褐色土　小型のローム塊を多く含む。締まり弱い。

0　1:40　1m

第101図　ピット２（16～31号ピット）

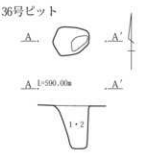
32号ピット



32号ピット
1　暗褐色土　締まりあり。粘質。明黄褐色ロームブロックを多く含む。

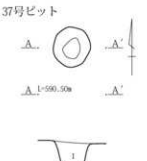
33号ピット
1　黒色土　灰色味を帯びる。砂質を含み締まり弱い。
2　暗褐色土　小型のローム塊を多く含む。締まりやや弱い。
1は柱痕か。

36号ピット



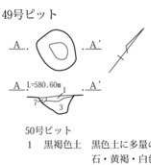
36号ピット
1　暗褐色土　色調くすみ、均質。締まり弱く、中世のピット群にみられるような覆土。灰色味がやや強い。
2　暗褐色土　地山ロームを不均質に少量含む不均質土。

37号ピット

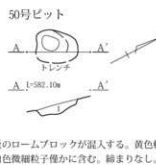


37号ピット
1　暗褐色土　少量の地山ロームを不均質に含み、土器片を覆土に含む。

49号ピット

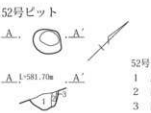


50号ピット



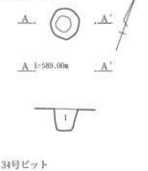
50号ピット
1　黒褐色土　黒色土に多量のロームブロックが混入する。黄色軽石・黄褐・白色微細粒子僅かに含む。締まりなし。

52号ピット



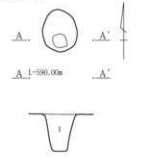
52号ピット
1　黒褐色土　浅黄橙・黄・橙色軽石やや多く含む。ロームが斑状に混入する。
2　灰黄褐色土　黄・黄褐色微細粒子少量含む。斑状に黄褐色ロームが混入する。締まりなし。
3　灰黄褐色土　2に準ずる。ロームの斑がより多い。黄・褐色粒子少量混入する。締まりあり。

34号ピット



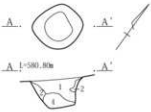
34号ピット
1　暗褐色土　やや締まりなく砂質。1～5センチの明黄褐色ロームブロックを多く含む。

35号ピット

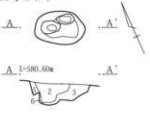


35号ピット
1　暗褐色土　色調くすんだ均質土。軽石を極僅か含む。

47号ピット

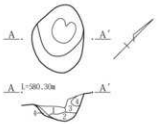


48号ピット



47～49号ピット
1　黒褐色土　ロームブロック僅かに、白・黄・褐色微細粒子やや多く含む。黒色土と黒褐色土が斑状に混入する。
2　黒褐色土　1に準ずる。ロームがやや多く混入する。
3　黒褐色土　2に準ずる。微細粒子がややすくない。ロームの混入がやや多い。
4　黒色土　ロームブロック含む。ローム粒微量含む。締まりが弱い。
5　暗灰黄色土　ロームに黒褐色土が斑状に混入する。白・黄粒子・ロームブロック僅かに含む。
6　明黄褐色土　ローム・白・黄微細粒子少量含む。軽石(As-YPkか)含む。
7　暗灰黄色土　5に準ずる。黄・褐色粒子・ロームブロック僅かに含む。締まりなし。

51号ピット



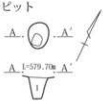
51号ピット
1　黒褐色土　ロームブロック・黄色粒子僅かに含む。
2　暗褐色土　黄色粒子僅かに含む。1よりロームの量が多い。
3　暗褐色土　2に準ずる。2よりロームの量が多い。
4　褐色土　ロームへの漸移層。黄褐色粒子僅かに含む。

0　1:40　1m

第102図　ピット３（32～37・47～52号ピット）

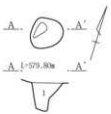
61号ピット

62号ピット



61・62号ピット
1　黒褐色土　浅黄橙色軽石やや多く含む。ロームブロック（As-YPk上の火山灰層か）僅かに混入する。
2　黒褐色土　黄・浅黄橙・褐色軽石・ロームがブロックやや多く含む。

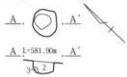
63号ピット



63号ピット
1　黒褐色土　白・橙・黄微細粒子やや多く、ロームブロック、黄・浅黄橙・褐色軽石、炭化物少量含む。ロームが斑状に入る。締まりあり。

72号ピット

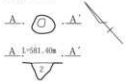
73号ピット



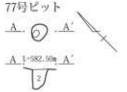
74号ピット

75号ピット

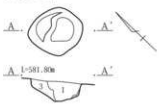
76号ピット



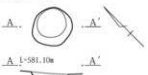
77号ピット



78号ピット



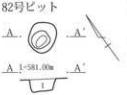
79号ピット



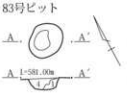
80号ピット

81号ピット

82号ピット

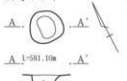


83号ピット



84号ピット

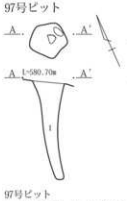
85号ピット



72～85号ピット
1　にぶい黄褐色土　微細粒子少量、白・黄軽石僅かに含む。ローム粒が斑状に多量に混入する。締まっている。
2　黒褐色土　白・浅黄橙色軽石少量、大粒軽石僅かに含む。ロームが多量に混入する。
3　褐色土　黒褐色土が混入する。橙・褐色粒子、黄・橙粒子少量含む。締まっている。
4　黒褐色土　浅黄橙色軽石少量、ロームブロック、橙・褐色粒子僅かに含む。締まりあり。

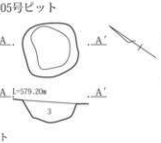
87号ピット

97号ピット

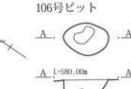


103号ピット

105号ピット



106号ピット



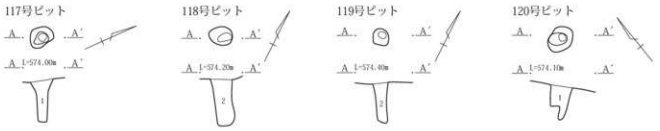
107号ピット

103・105～107号ピット
1　黒褐色土　ロームが多く混入する。白・浅黄橙色軽石やや多く含む。大粒軽石少量含む。締まりあり。
2　黒褐色土　1に準ずる。ロームが斑状に混入する。
3　黒褐色土　ロームブロック少量、浅黄橙色軽石僅かに含む。2号竪穴建物の6に準ずる。

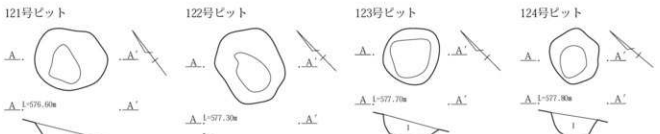
97号ピット
1　黒褐色土　黄・褐色粒子僅かに含む。ロームが斑状に混入する。締まりなし。

0　1:40　1m

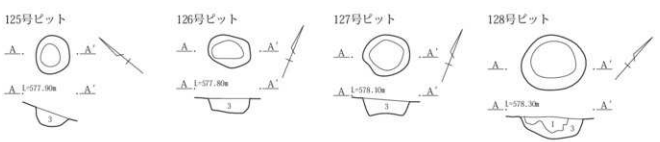
第103図　ピット４（61～63・72～85・87・97・103・105～107号ピット）

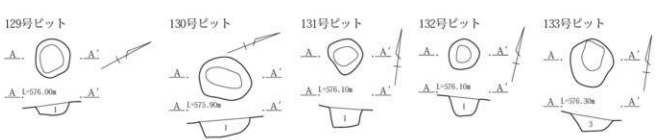


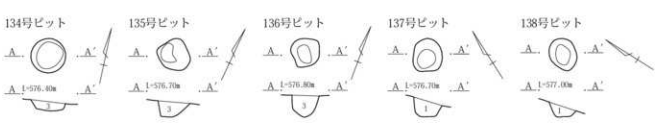
117～120号ピット
1　黒色土　ロームブロック少量・浅黄橙色粒子（軽石か）僅か含む。褐色粒子（ローム粒）混入する。締まり弱い。
2　黒褐色土　ロームブロック少量、軽石（As-YPk）多量含む。ロームが斑状に多量に混入する。やや締まりあり。



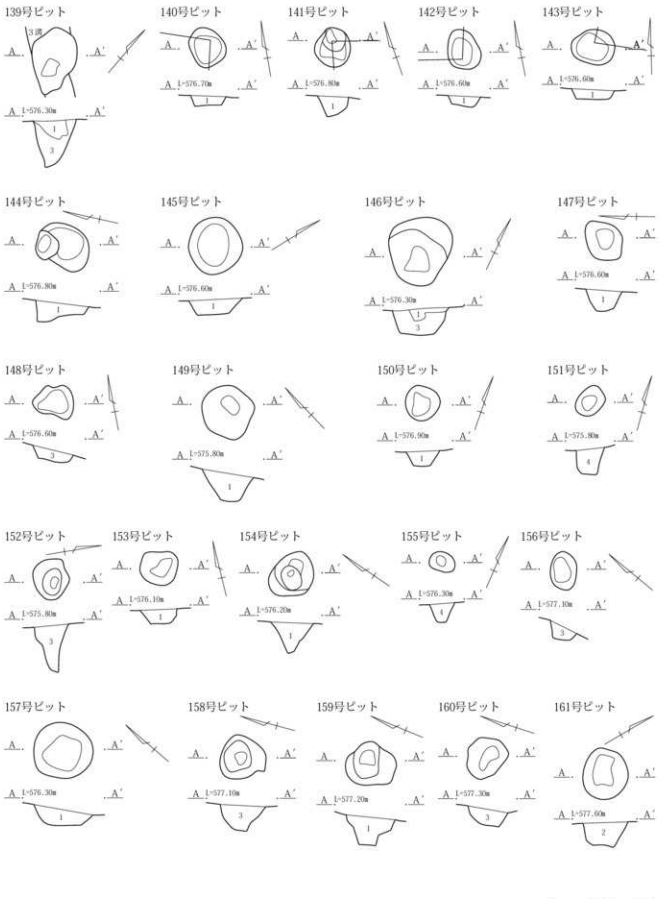
121～124号ピット
1　黒褐色土　灰白・黄・浅黄橙軽石、橙色粒子（As-YPkか）、ロームブロック少量含む。ロームが斑状に多量に混入する。やや締まりあり。



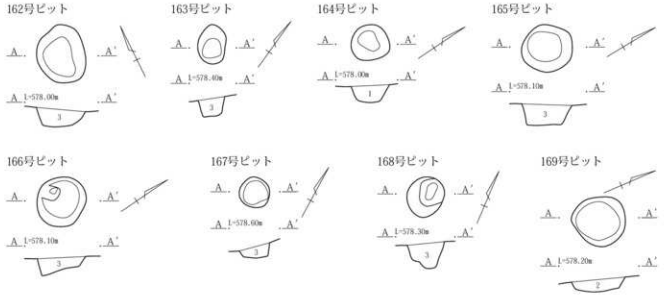




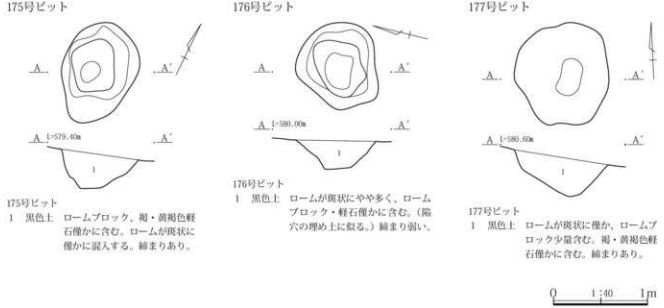
第104図　ピット５（117～138号ピット）



第105図　ピット６（139～161号ピット）



125～174号ピット
1　黒褐色土　浅黄橙・黄褐色粒子（軽石か）、ロームブロック僅かに含む。ロームが斑状に多量に混入する。やや締まりあり。
2　黒褐色土　1に準ずる。ロームブロックをやや多く含む。
3　暗褐色土～黒褐色土　黄・浅黄橙軽石僅かに含む。ロームが斑状に混入する。締まりあり。
4　黒色土　黄褐色粒子（軽石）少量、ロームブロック多く含む。
5　黒色土　黄・浅黄橙色軽石・ロームブロックやや多く、褐色粒子（ローム粒）、斑状に入るローム少量含む。



175号ピット
1　黒色土　ロームブロック、褐・黄褐色軽石僅かに含む。ロームが斑状に僅かに混入する。締まりあり。

176号ピット
1　黒色土　ロームが斑状にやや多く、ロームブロック・軽石僅かに含む。（陥穴の埋め土に似る。）締まり弱い。

177号ピット
1　黒色土　ロームが斑状に僅か、ロームブロック少量含む。褐・黄褐色軽石僅かに含む。締まりあり。

第106図　ピット７（162～177号ピット）

第４項　柱穴列

概要　平成30年度調査では、並行する柱穴列を２条確認できた。調査区外に続くものであり全容は明らかにできない。１・２号柱穴列共に、走行が一致しており、関連施設の可能性が指摘できる。また、およそ平地に立地している。１・２号柱穴列については、削平された段階での検出であったため、各柱穴の上端が明瞭でない。

１号柱穴列（第107図　PL. 42）

概要　Ｂ区中央に確認された。３基と２基の連続するピットを柱穴列とした。柱間は、等間隔でおおむね0.97m前後である。形状は直線を呈しており、調査区域外に残りの遺構があると推察できる。形態は似ており、同じ工具で形成したことが推察される。

位置　89区E- 1

規模形状　本柱穴列は、３本の柱からなり、全長1.92m、柱穴列の長さ1.94mを測り、柱間は芯々距離で0.84～1.10m、平均0.97mを測る。柱筋上に全柱穴が配置されている。確認されたのは一部であり、調査区域外に関連施設が続いていると推察される。

方向　N-45°-E

柱穴　遺構を構成しているピットは３基を確認した。位置、規模及び深さより、同一施設のものと思われる。埋没土も近似している。各柱穴の規模は第12表の通りである。

P1・2・3は均質の黒褐色土で埋没している。ロームブロック、軽石、炭化物を含み、締まりがある。ほぼ同質の土層であり、同時期の埋没の可能性が高い。

柱穴の規格が一定しており、全ての柱穴の形状が類似している。同一の道具で工作した可能性が高く、柱穴掘削時の技術レベルも一定していると考えられる。

その他　建物より、土地を区切る役割の可能性が高いと考えられる。周囲に複数のピットが確認されているが、主筋上にないため別遺構であると考えられる。

重複遺構　認められない。

遺物　認められない。

所見　２号柱穴列と走行が一致している。同一施設か、関連施設の可能性がある。調査区域外に継続しており、全容が把握できないため掘削目的を明らかにすることはできなかった。覆土や形状から近世以降の所産と考えられる。

２号柱穴列（第107図　PL. 42）

概要　Ｂ区中央に確認された。２基の連続するピットを柱穴列とした。柱間は、等間隔でおおむね1.08m前後である。形状は直線を呈しており、調査区域外に残りの遺構があると推察できる。形態は似ており、同じ工具で形成したことが推察される。

位置　89区E- 1

規模形状　本柱穴列は、２本の柱からなり、全長1.08m、柱穴列の長さ1.08mを測り、柱間は芯々距離で1.08～1.08m、平均1.08mを測る。柱筋上に全柱穴が配置されている。確認されたのは一部であり、調査区域外に関連施設が続いていると推察される。

方向　N-48°-E

柱穴　遺構を構成しているピットは２基を確認した。位置、規模及び深さより、同一施設のものと思われる。埋没土も近似している。各柱穴の規模は第13表の通りである。

P1・2は均質の黒褐色土で埋没している。ロームブロック、軽石、炭化物を含み、締まりがある。ほぼ同質の土層であり、同時期の埋没の可能性が高い。

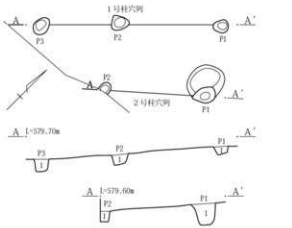
柱穴の規格が一定しており、全ての柱穴の形状が類似している。同一の道具で工作した可能性が高く、柱穴掘削時の技術レベルも一定していると考えられる。

その他　建物より、土地を区切る役割の可能性が高いと考えられる。周囲に複数のピットが確認されているが、主筋上にないため別遺構であると考えられる。

重複遺構　認められない。

遺物　認められない。

所見　１号柱穴列と走行が一致している。同一施設か、関連施設の可能性がある。調査区域外に継続しており、全容が把握できないため掘削目的を明らかにすることはできなかった。覆土や形状から近世以降の所産と考えられる。



1・2号柱穴列
1　黒褐色土　白・橙・黄微細粒子やや多く、ロームブロック、黄・浅黄橙・褐色軽石、炭化物少量含む。ロームが斑状に混入する。締まりあり。

0　1:40　1m

第107図　1・2号柱穴列

第12表　1号柱穴列ピット計測表

1号柱穴列ピットNo	最大長×短×深さ cm
1	16×14×8
2	18×16×10
3	20×14×12

第13表　2号柱穴列ピット計測表

2号柱穴列ピットNo	最大長×短×深さ cm
1	26×16×22
2	(16)　×12×12

第５項　溝

概要　平成30年度調査区では、溝を３条確認した。南部、舌状台地の先端付近に位置している。台地先端部には微細な谷地形があり、溝は、谷地形の傾斜に沿って南北方向に位置している。埋没土は砂質でロームブロックを含む。近世以降の溝であると考えられる。また、谷地形と関連しない溝が確認されてるが、ピットよりも古く、谷地形の溝と時期差があると考えられる。各々の溝の時期及び時期差等について明瞭にするための資料は得られていない。

１号溝（第108図　PL. 42）

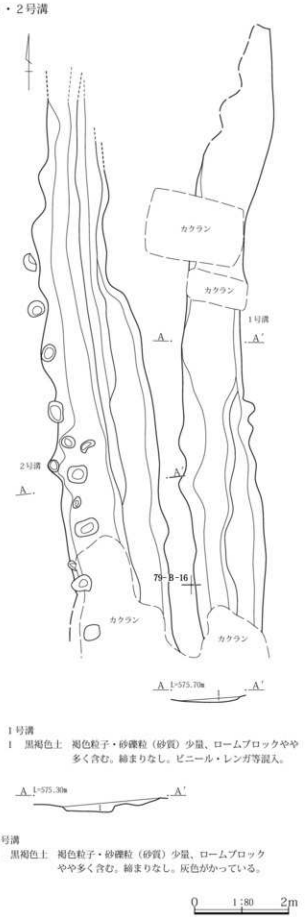
位置　79区A-15～18グリッド　**規模**　(12.40) m×1.20～1.45m　**残存深度**　0.08m　**走行方位**　N-３°-E　**遺物**　認められない。**重複**　認められない。**所見**　黒褐色土で埋没していた。ロームブロックを含み、砂質である。締まりはない。南北に走行しており、傾斜方向に沿っている。ほぼ直線を呈しており、北端がやや東側に曲がっている。攪乱を受けて消滅しており、その先は確認できない。溝の南北両端部の高低差を見ると、北が高く南が低い。溝の断面形はレンズ状を呈している。幅は北端部がやや狭いが全体としては一定である。残存深度は浅い。本溝は、２号溝と平行しているものの、関連は明瞭でない。この溝は、台地から下段へ下りる道と推察される。また、降雨の際は、排水の機能もあったと思われる。近世以降の所産と考えられる。

２号溝（第108図　PL. 42）

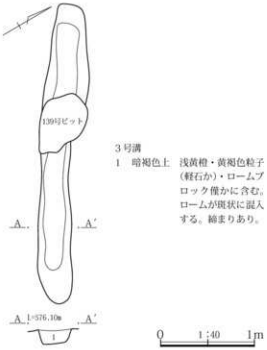
位置　79区B-15～18グリッド　**規模**　(11.40) m×1.25～2.10m　**残存深度**　0.20m　**走行方位**　N-７°-W　**遺物**　認められない。**重複**　認められない。**所見**　黒褐色土で埋没している。ロームブロックを含み、砂質である。締まりはない。溝幅は、北端が狭く途中から東側が広くなる。ほぼ直線で南北に傾斜に沿って走行する。１号溝と同様に攪乱を受けて消滅しており、その先は確認できない。溝の南北両端部の高低差を見ると、北が高く南が低い。溝の断面形は、不整形であるが、溝幅が広くなる箇所から東側が高い段差が生じる形状になる。残存深度はやや浅い。本溝は、１号溝と平行しているものの、関連は明瞭でない。この溝は、１号溝と同様に台地から下段へ下りる道と推察される。また、降雨の際は、排水の機能もあったと思われる。近世以降の所産と考えられる。

３号溝（第109図　PL. 42）

位置　79区E-18グリッド　**規模**　(3.15) m×0.35～0.43m、**残存深度**　0.14m　**走行方位**　N-57°-W　**遺物**　認められない。**重複**　139号ピットより古い。**所見**　暗褐色土で埋没している。軽石及びロームブロックを含み、締まりが強い。北西から南東へ直線的に傾斜に沿って走行しており、傾斜と共に消滅している。その先は確認できない。溝の両端部の高低差を見ると、北西方向が高く南東方向が低い。溝の断面形は基本的には、逆台形で底面は平坦である。溝幅は中央部分がやや狭いがほぼ一定である。残存深度は、やや浅い。本溝の役割は、不明である。溝の形状及び重複関係、埋没土等より、中・近世以降の所産と考えられる。



第108図　１・２号溝



第109図　３号溝

第６項　畑

概要　平成30年度調査では、畑を３条確認した。本調査区、舌状台地上に位置している。周囲にはピットや土坑が確認されている。サク方位が等高線に並行していることが３条の畑に共通している。サク間幅などから、３条の畑が僅かな時間差の中で耕作されていると推察される。互いのサク間幅は、ほぼ等しい。同一種類の作物を栽培していた可能性が高い。検出範囲が狭いため、区画に関しては明瞭でない。また、近接するピットや土坑及び、東に位置する１・２号溝との関連は明瞭でない。

１号畑（第110図　PL. 42）

位置　79区K-12　**サク数**　４条　**規模**　(2.25 ～ 4.22) m×3.48 ～ 3.53m　**残存深度**　0.04 ～ 0.14m　**サク間幅**　0.85 ～ 1.23m　**サク方位**　N-61° -E　**遺物**　認められない。**重複遺構**　認められない。**所見**　本畑は、耕作痕が４条確認された。埋没土は、にぶい黄褐色土である。ロームブロックを多量に含み、軽石や炭化物が混入する。締まりがあり砂質である。削平が進んでおり出土範囲は狭い。耕作痕の状況から、２・３号畑と、耕作の時期差はないと考える。サク方位は、ほぼ東西を示しており、舌状台地の南斜面の傾斜方向に垂直に位置している。２・３号畑とサク方位がややずれるものの、サク間幅は近接しており、同じ目的の畑であると思われる。２号掘立柱

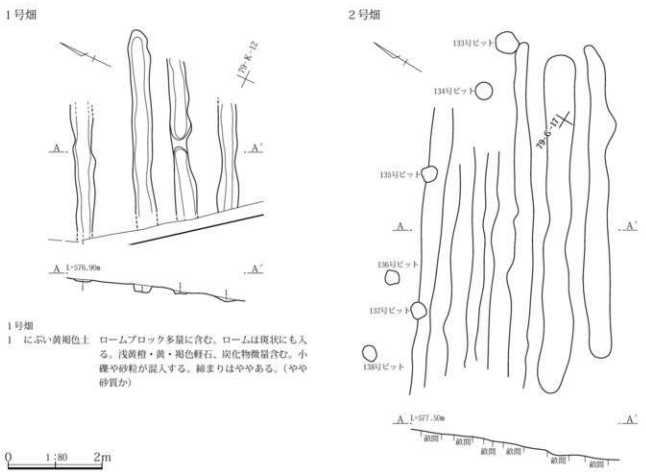
建物と時期差は少ないと考えるが関連は明瞭でない。畑の時期は、形状及び埋没土等から近世以降に位置付けられる。

2号畑（第110図　PL. 42）

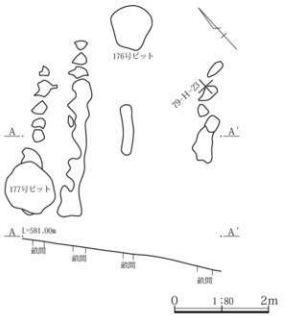
位置　79区F-16～H-17　**サク数**　6条　**規模**　4.60～7.31m×3.72～4.12m　**残存深度**　不明　**サク間幅**　0.55～0.89m　**サク方位**　N-63°-E　**遺物**　認められない。**重複遺構**　133・135・137号ピットと重複している。**所見**　本畑は、耕作痕が6条確認された。削平が進んでおり、埋没土は確認できなかった。出土範囲は狭い。耕作痕の状況から、1・3号畑と、耕作の時期差はないと考えられる。サク方位は、ほぼ東西を示しており、舌状台地の南斜面の傾斜方向に垂直に位置している。1・3号畑とサク方位がややずれるものの、サク間幅は近接しており、同じ目的の畑であると思われる。2号掘立柱建物と時期差は少ないと考えるが関連は明瞭でない。畑の時期は、形状及び周囲の状況から近世以降に位置付けられる。

3号畑（第111図　PL. 42）

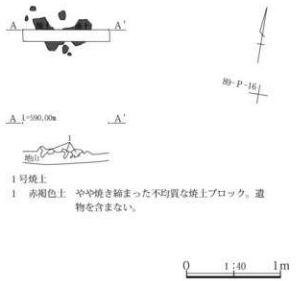
位置　79区H-22・23　**サク数**　4条　**規模**　3.83～4.05m×1.08～3.71m　**残存深度**　不明　**サク間幅**　0.85～1.65（途中削平されている可能性あり）m　**サク方位**　N-53°-E　**遺物**　認められない。**重複遺構**　177号ピットと重複している。**所見**　本畑は、耕作痕が4条確認できた。南側の耕作痕から内側にあと1条あったと推察される。削平が進んでおり埋没土は、確認できなかった。そのため出土範囲は狭い。耕作痕の状況から、1・2号畑と、耕作の時期差はないと考えられる。サク方位は、ほぼ北東-南西を示しており、舌状台地の南斜面の傾斜方向に垂直に位置している。1・2号畑とサク方位がややずれるものの、サク間幅は近接しており、同じ目的の畑であると思われる。2号掘立柱建物と時期差は少ないと考えられるが関連は明瞭でない。本畑の残存状態は不良であるものの、畑の時期は、形状及び周囲の状況から近世以降に位置付けられる。



第110図　1・2号畑



第111図　３号畑



１号焼土
1　赤褐色土　やや焼き締まった不均質な焼土ブロック。遺物を含まない。

第112図　１号焼土

第７項　焼土遺構

概要　平成24・25年度調査では、焼土遺構を１基確認した。焼土遺構は、八ッ場ダム関連地域の他の遺跡でも多く確認されている。ただし、本調査面より下層で確認されることが多く、今回調査された遺構は上面の新しい遺構と考えられる。

１号焼土（第112図　PL. 42）

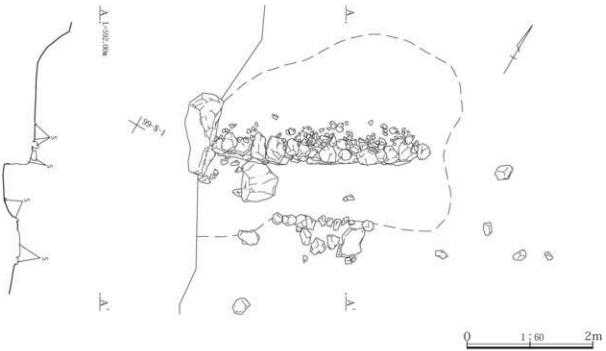
89区P-16グリッド　調査区南西部の標高589.7mの位置にある。火熱により酸化赤変した土粒子やブロックを多く含む土壌が、東西60cm、南北40cmの範囲に不定形に広がっている。焼土ブロックを含む土壌の厚みは15cmほどであるが、木根による攪乱に巻き込まれたように見える。時期を特定できない。焼土遺構は八ッ場ダム地域の各遺跡で注視されており、斜面崩落土が連続的に堆積するという特性から、崩落直前の旧地表面が部分的に保存されたために、通常では捉えがたい遺構が残されていると解釈される。しかし本例は上位の焼土が植物の攪乱を受けたものである可能性が高い。

第８項　石垣

概要　平成24・25年度調査では、石垣が１基確認された。調査区北端に位置する。ほぼ東西に走行する。傾斜に沿って、外側に向けて面をそろえて配置してある。石組の裏込めの仕方など、丁寧な構築がなされている。屋敷等の区画の意味があったと考えられる。

１号石垣（第113図　PL. 43）

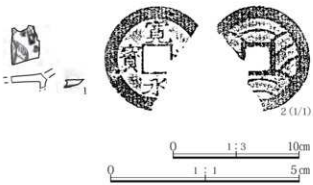
位置　89区L・M-25、99区L・M-１グリッド　調査区北東隅近くにある。標高591mの等高線に沿うように、北東から南西に延びる。**方位**　およそN-59°-Eを示す。**形状**　壁状、２段　**規模**　3.92×2.12m　**高さ**　0.52m　**覆土**　記載なし。**重複**　認められない。**遺物**　認められない。**所見**　西端に長130cm、幅55cmの大型角礫の割石があり、この上部まで地山が削り込まれている。この石から北東に3.5mの範囲で２段分が残っている。１段目は比較的大型の角礫を横位に据え、隙間を中・小型の角礫で谷積み状に埋める。２段目は中型の角礫を積む。西端の角礫上部までは、まだ数段分が積める状態にある。石垣前面に幅80cmの溝状の窪みがあり、これを挟んで対岸にも角礫による石列がみられる。時期を特定できない。また、周辺の攪乱が著しく、機能を想定することも困難である。



第113図　１号石垣

第９項　遺構外から発見された遺物（第114図　PL. 54）

当該面の調査中に、遺構に伴わない遺物が出土した。ここでは出土した遺物のうち、磁器、古銭を掲載した。出土遺物は本調査面の時期とおおむね矛盾しない。



第114図　遺構外出土遺物

第14表　中世以後　遺物観察表

１号掘立柱建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第95図 PL.54	1	陶器 瓶	20ピット 胴下部～高台	底	6.2			精製/良好/灰緑色	胴下半部、底部から余り膨らみを持たずに立ち上がる、釉は高台下部を除き灰釉施釉される	瀬戸・美濃系

遺構外

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値（cm g）				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第114図 PL.54	1	磁器 皿	高台					精製/良好/青白色	摺絵皿	肥前
第114図 PL.54	2	銭貨 寛永通宝	欠損	径	2.7				寛永通寶（波銭）。表は外縁・文字・郭ともに明瞭だが表面はすり減ったように文字がつぶれる。裏面は彫は浅いが外縁・郭ともに明瞭である。	

第４章　旧石器時代の調査

第１節　概要　（第115図　PL. 43）

三平Ⅰ遺跡は、平成30年度調査区に於いて、旧石器時代の確認調査を実施した。平成24・25年度調査区では、基本土層の調査坑を３か所設定しており、平成30年度調査区の旧石器時代確認調査坑16か所のうち２か所の確認調査坑と土層を比較して記述する。旧石器時代の確認調査は、本来暗色帯まで掘削するのだが、現場の状況により、調査区によっては掘削の深度が異なる場合がある。また、本調査区は、暗色帯にたどり着くまで、層が厚く堆積しており、安全上の観点から暗色帯までの掘削を見合わせた。そこで、今回の調査は応桑泥流までの掘削を一つの目安として取り組んだ。

基本土層及び確認調査坑の土層断面を観察したが、堆積状況については、平成24・25年度調査区から、平成30年度調査区まで、ほぼ同じ様相を呈する。ただし、平成30年度調査区は、丘陵地帯のピーク付近にあり、As-YPk層に相当する堆積が、平成24・25年度調査区よりも厚かった。また、本遺跡は全般的に丘陵地帯であり、確認調査坑の同位土層の高低差が生じる。特に、平成30年度調査区については傾斜が急なため、確認調査坑の同位土層の高低差が顕著であった。

確認調査坑の位置及び２か所の確認調査坑土層断面は、第115図に図示した。調査例の増加は必要なことであり、本調査区においても旧石器調査を試みた。しかしながら、平成24・25年度調査区、平成30年度調査区共に、当該時期の遺構や遺物は確認されなかった。

第２節　旧石器時代確認調査坑について

本発掘調査は、３期にわたり実施された。各調査区の実態が異なり調査坑の規格を統一するのは難しいため、平成30年度調査区においては、地形や土層の様相に応じて旧石器時代確認調査坑を設定した。確認調査坑の設定にあたっては、旧石器時代調査の必要十分な結果が得られるよう掘削面積や深度を決定した。16か所の調査坑において確認調査を実施した。１・２号確認調査坑については、土層断面を表示した。各確認調査坑を設定した位置の詳細は以下の通りである。

平成30年度調査区

１号確認調査坑：調査区南部舌状台地の縁辺部、標高574 ～ 575mに設定して掘削した。

２号確認調査坑：調査区東部の南向きの斜面、標高574m前後に設定して掘削した。１号確認調査坑との比高は1m弱である。

その他14か所の確認調査坑：調査区の中央から東にかけて掘削した。標高574 ～ 581.5mに設定した。記載に値する断面図のデータは得られなかった。

１号確認調査坑（ＳＰＡ－Ａ´　ＳＰＢ－Ｂ´）

1　明黄褐色土　固く締まる。灰白・黄褐色微細粒子僅かに入る。微細粒な砂粒が混じる。酸化鉄の付着部分あり。灰白色ブロック層状に入るところあり。粉状の火山灰か。

2　にぶい黄橙色　明黄褐色・明赤褐色・オリーブ黄等の火山灰と見られる層が多数層重なって見られる。固く締まっている。二次堆積の可能性あり。

3　明黄褐色土　固く締まる。やや砂質である。酸化鉄の付着が見られる　黄・褐色粒子（軽石？）僅かに入る。

4　淡黄色土　その他、明黄褐色・黄褐色の軽石が見られる。As-YPkか。下層ほど白っぽい。

5　にぶい黄橙色土　「２」と同様のラミナ層。多数層の重なりが確認できる。二次堆積層（水性）か。

6　黄褐色土　ローム層。粘性あり。締まりあり。黄・褐色粒子（軽石？）僅かに入る。

7　にぶい黄褐色土　大型の礫入る。拳大の礫が多い。粘性あり。締まりあり。黄・黄褐色粒子（軽石？）混入。灰白色の部分も（火山灰？）。やや砂質。応桑泥流の一部か。

２号確認調査坑（ＳＰＡ－Ａ´　ＳＰＢ－Ｂ´）

1　にぶい黄褐色土　締まりなし。黒色土・黄褐色土（ローム）が斑状に入る。灰白・黄・褐色微粒子が少量入る。

2　黄褐色土　黄褐・浅黄橙色粒子（軽石？）、橙・褐色粒子(ローム粒？)少量入る。締まりあり。ロームに黒色土が斑状に混入するところもあり。

3　明黄褐色土　固く締まる。灰白・黄褐色微細粒子僅かに入る。微細粒な砂粒が混じる。酸化鉄の付着部分あり。

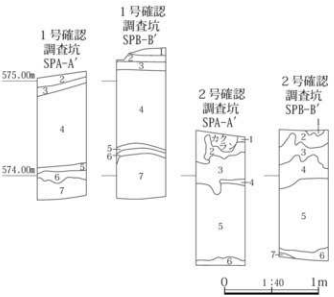
4　明黄褐色土　固く締まる。やや砂質。酸化鉄の付着あり。黄・褐色粒子（軽石？）僅かに入る。上層に浅黄色火山灰層が入る。下層ににぶい黄橙色・明黄褐色・明赤褐色・オリーブ黄等の火山灰と見られる層が多数層重なって入る。固く締まる。

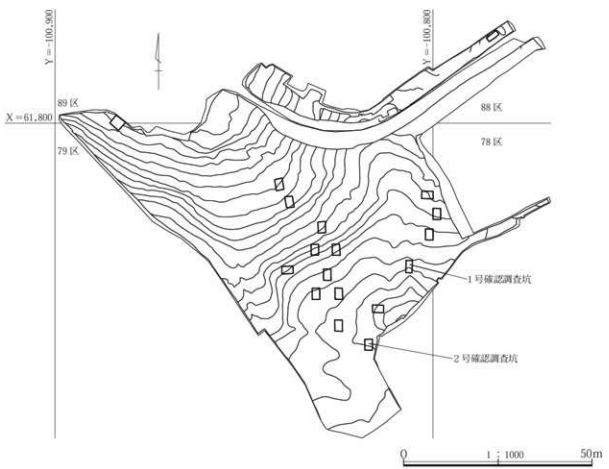
5　淡黄色土　その他、明黄褐色・黄褐色の軽石が見られる。As-YPkか。下層ほど白っぽい。

6　にぶい黄橙色土　「５」内の火山灰層と同様のラミナ層。多数層の重なりが確認できる。二次堆積層（水性）か。

7　黄褐色土　ローム層。粘性あり。締まりあり。黄・褐色粒子（軽石？）僅かに入る。

＊なお、平成24・25年度調査区の基本土層の土層柱状図については、第１章第３節３の基本土層を参照されたい。





第115図　旧石器時代確認調査坑

第５章　自然科学分析

第１節　分析の目的

三平Ⅰ遺跡における発掘調査及び整理作業の工程において、三平Ⅰ遺跡より出土した赤色顔料について、顔料の種類を検討するため、蛍光Ｘ線分析作業を委託した。

自然科学分析の目的及び分析によって得られた成果の概要を述べることとする。

（１）赤色顔料の自然科学分析

三平Ⅰ遺跡の調査で赤色顔料が検出された竪穴建物は２棟である。形状及び出土土器から７号竪穴建物は９世紀後半、８号竪穴建物は縄文時代前期初頭に比定される。竪穴建物は、それぞれの時期に位置付けられるものの、出土した赤色顔料の蛍光Ｘ線分析を行い顔料の種類を検討することにより、各竪穴建物の様相を明らかにすることが目的である。併せて出土土器の年代観と照らし合わせ、今後における再考資料として役立てる。なお、竪穴建物から出土した赤色顔料の種類に関する蛍光Ｘ線分析については、データが少ないのが現状である。

７号竪穴建物から出土した赤色顔料は覆土から検出されたものであり、後の時期の顔料である可能性もある。８号竪穴建物から出土した赤色顔料は床直上から検出した顔料であり、当該の遺構に伴う可能性が高い。２棟の竪穴建物から出土した赤色顔料は、いずれも鉄分が多く検出され、鉄（Ⅲ）による発色と推定される。顔料としてはベンガラに相当する。また、８号竪穴建物から出土した赤色顔料は、パイプ状粒子が多量に確認された鉄バクテリアを起源とするパイプ状ベンガラであった。それに対して、７号竪穴建物から出土した赤色顔料はパイプ状粒子が観察されなかった。パイプ状の粒子形状は、鉄バクテリア起源の含水水酸化鉄を焼成してできた赤鉄鉱がこのような形状を示す。通常湿地で採集される。

（２）赤色顔料と遺物の関係

赤色顔料が確認された８号竪穴建物の周辺から出土した土器を観察したところ、付近の表土から出土した縄文土器２点（遺構外147、遺構外81）にベンガラによる彩色が一部確認されている。８号竪穴建物と同時期のものと思われる。８号竪穴建物出土の赤色顔料が、近くから出土した同時期の縄文土器の彩色に使用されたことは否定できないところではあるが、それを裏付ける明確な根拠に乏しいことも事実である。

ベンガラは、古くから人々の生活に根付いている素材であり、顔料や防虫・防腐の機能を有し利用されてきた。今回、遺構から出土した赤色顔料の具体的な使用目的を示唆するにとどまった。本来の使用目的を明らかにするためには資料が不足しており、当時の様相を解明することはできなかった。今後の調査結果の増加に期待する。

第２節　赤色顔料の蛍光Ｘ線分析

はじめに

吾妻郡長野原町川原畑地内に所在する三平Ⅰ遺跡より出土した赤色顔料について蛍光Ｘ線分析を行い、顔料の種類を検討した。

（１）試料と方法

分析対象は、竪穴建物跡より出土した赤色顔料２点である（第15表）。分析No.１は、７号竪穴建物の覆土より出土した赤色顔料である。７号竪穴建物は９世紀後半の遺構とみられているが、顔料の出土位置は床面直上ではないため、後の時期の顔料である可能性もある。分析No.２は、８号竪穴建物の床より出土した赤色顔料である。８号竪穴建物は縄文時代前期初頭の遺構とみられており、同遺構からは磨石も出土している。周囲の土ごと取り上げられた試料中から、実体顕微鏡下で、セロハンテープに赤色部分を極少量採取して分析試料とした。採取位置を写真１に示す。

第15表　分析対象

分析No.	地区	グリッド	遺構	層位	番号
1	C区（79区）	I-14	７号竪穴建物	覆土	411
2	C西区（89区）	W-1	８号竪穴建物	床	70

分析装置は、エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置である（株）堀場製作所製分析顕微鏡XGT-5000TypeⅡを使用した。装置の仕様は、Ｘ線管が最大50kV・1mAのロジウムターゲット、Ｘ線ビーム径が100μmまたは10μm、検出器は高純度Si検出器（Xerophy）である。検出可能元

素はナトリウム～ウランであるが、ナトリウム、マグネシウムといった軽元素は蛍光Ｘ線分析装置の性質上、検出感度が悪い。

本分析での測定条件は、50kV、0.76～1.00mA（自動設定による）、ビーム径100μm、測定時間500sに設定した。定量分析は、標準試料を用いないファンダメンタル・パラメータ法（FP法）による半定量分析を装置付属ソフトで行った。

さらに、蛍光Ｘ線分析用に採取した試料を観察試料として、生物顕微鏡で赤色顔料の粒子形状を確認した。

（２）結果

分析により得られたスペクトル及びFP法による半定量分析結果を第116図に示す。

いずれもケイ素（Si）、鉄（Fe）、アルミニウム（Al）を中心とした化学組成で、ほかにリン（P）、硫黄（S）、カリウム（K）、カルシウム（Ca）、チタン（Ti）等が検出された。

また、生物顕微鏡観察により得られた画像を写真１-1c、2cに示す。分析No.２からは赤色パイプ状の粒子が多量に観察された。

（３）考察

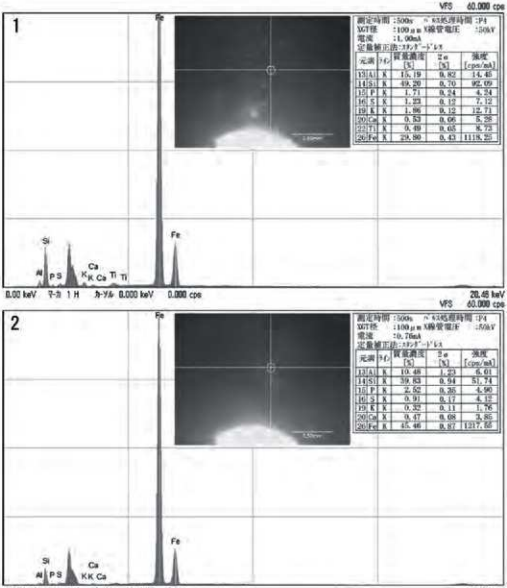
赤色顔料の代表的なものとしては、朱（水銀朱）とベンガラが挙げられる。水銀朱は硫化水銀（HgS）で、鉱物としては辰砂と呼ばれ、産出地はある程度限定される。一方のベンガラは、狭義には三酸化二鉄（Fe2O3、鉱物名は赤鉄鉱）を指すが、広義には鉄（Ⅲ）の発色に伴う赤色顔料全般を指し（成瀬，2004）、広範な地域で採取可能である。また、ベンガラは直径約1μmのパイプ状の粒子形状からなるものも多く報告されている。このパイプ状の粒子形状は鉄バクテリア起源であると判明しており（岡田，1997）、鉄バクテリア起源の含水水酸化鉄を焼いて得た赤鉄鉱がこのような形状を示す（成瀬，1998）。鉄バクテリア起源のパイプ状粒子は、湿地などで採集できる。

今回分析した試料は、いずれもケイ素など土中成分に由来すると考えられる元素は検出されたものの、水銀は検出されなかった。鉄が多く検出されており、赤い色は鉄による発色と推定できる。すなわち、顔料としてはベンガラにあたる。なお、分析No.２では、生物顕微鏡観察でパイプ状粒子が極めて多量に確認され、鉄バクテリアを起源とするいわゆるパイプ状ベンガラであった。一方、分析No.１では、パイプ状粒子は観察されず、対照的であった。

おわりに

竪穴建物跡より出土した赤色顔料２点について分析した結果、いずれも鉄が多く検出され、鉄（Ⅲ）による発色と推定された。顔料としてはベンガラにあたる。２点のうち、縄文時代前期初頭の８号竪穴建物より出土した赤色顔料は、いわゆるパイプ状ベンガラが多量に含まれていた。

引用文献
成瀬正和（1998）縄文時代の赤色顔料１－赤彩土器－．考古学ジャーナル，438，10-14，ニューサイエンス社．
成瀬正和（2004）正倉院宝物に用いられた無機顔料．正倉院紀要，26，13-61，宮内庁正倉院事務所．
岡田文男（1997）パイプ状ベンガラ粒子の復元．日本文化財科学会第14回大会研究発表要旨集，38-39．



第116図　赤色顔料の蛍光Ｘ線分析結果

１．分析No. １　２．分析No. ２

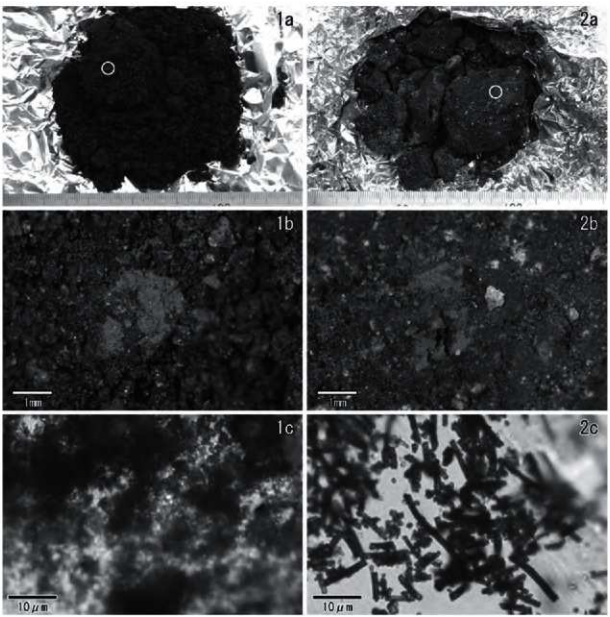


写真１　分析対象となる赤色顔料
採取位置（a）、実体顕微鏡写真（b）、生物顕微鏡写真（c）
１．分析No. １　２．分析No. ２

第６章　総括

第１節　調査の成果

本報告書で報告する三平Ⅰ遺跡で調査した遺構は以下の通りである。平成24･25年度調査区で調査した遺構は、縄文時代の竪穴建物１棟、土坑15基、ピット９基、平安時代の竪穴建物５棟、土坑31基、中世以降の掘立柱建物１棟、土坑13基、ピット37基、焼土遺構１基、石垣１基である。平成30年度調査区で調査した遺構は、縄文時代の竪穴建物３棟、土坑34基、ピット14基、平安時代の竪穴建物１棟、土坑18基、中世以降の掘立柱建物１棟、土坑６基、ピット85基、柱穴列２基、溝３条、畑３条である。

三平Ⅰ遺跡は、吾妻郡長野原町川原畑に所在しており、吾妻川左岸の最上位河岸段丘上に位置している。

これまでの八ッ場ダム建設事業に伴う周辺遺跡の調査では、縄文時代の集落、石列、土坑、ピット、平安時代の竪穴建物、土坑、ピット、掘立柱建物、溝、柱穴列、炉、鍛冶痕、近世の屋敷、石垣、畑、耕作痕、近世復旧痕、水田、道などが確認されている。

今回の三平Ⅰ遺跡の調査により、周辺遺跡との遺構検出状況に矛盾はなかった。本遺跡周辺は、縄文時代から生活が営まれ、平安時代から近世にかけて集落が継続的に形成されてきた地域であることが裏付けられた。

三平Ⅰ遺跡の出土遺物は豊富ではなかったものの、縄文・弥生時代から近世まで時期や種類は多種多様であった。報告書に掲載した遺物は、縄文土器284点、弥生土器４点、縄文時代から中近世の石器及び石製品など25点、須恵器・土師器など43点、中世から近現代に陶磁器類３点、金属類など20点、銭貨１点である。

遺構に伴う遺物ではないが、縄文・弥生時代の土器、須恵器・土師器、石器及び石製品、陶磁器類、金属類など幅広い時期の遺物が表土や埋没土などから出土したため、遺構外遺物として掲載した。

詳細は遺物観察表（63 ～ 73・121 ～ 124・151頁）を参照されたい。

今回の調査により、同一の調査区内でも調査面が確認され文化層が想定された遺構や遺物が認められた範囲、及び調査面が確認されたものの遺構や遺物が認められなかった範囲があった。ただし、平成24・25年度調査区、平成30年度調査区共に、削平から逃れた一部の範囲では、活動の痕跡がうかがえる。調査区の詳細な区分及び調査区ごとの遺構・遺物の確認状況については第１章第２節を参照されたい。

本章では以下のとおり、調査成果の中から、遺構では、縄文時代の遺構及び吾妻川左岸の最上位河岸段丘上に位置する陥し穴について、遺物では、縄文時代の土器、平安時代の鍛冶炉と鍛冶道具について考察する。

第２節　縄文時代のまとめ

本書で報告した、平成24・25年度及び平成30年度調査により、明らかになった点と新たな問題点を述べることとする。

三平Ⅰ遺跡は吾妻川左岸の上位段丘に広がる遺跡で、平成10年に工事用進入路の調査を行い、平成16年及び平成17年度に代替地の調査を行った。（財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第401集　2007）

さらに平成24･25年度及び平成30年度の調査をもって、三平Ⅰ遺跡の調査は終了となった。

遺跡の標高は600m前後で、高間山の南東山麓に位置しており、吾妻川に向かって南東方向に傾斜を持つ、舌状台地の様相を呈す、三平Ⅰ遺跡と三平Ⅱ遺跡は伝承地名の「イドクボ」と呼ばれる谷が入り込んでおり、両遺跡を分けている。小字名の三平（サンダイラ）の由来は三段（三か所）の平らな場所があると言う説、あるいは上の平（ウエノタイラ）、下位段丘の西宮・東宮（ニシミヤ・ヒガシミヤ）そして３番目の平らな場所、三平（サンダイラ）があるという説がある。

いずれにしても、山からの湧水を利用し、この場所が、古くから人々の生活の舞台であったことが、数度にわたる調査によって明らかにされたのである。

三平Ⅰ遺跡では、平成16年度の調査において、縄文時代前期後半、諸磯期の竪穴建物２棟の他、土坑が調査されている。（三平Ⅰ・Ⅱ遺跡2007）

平成24・25・30年度の調査では、平成25年度１棟（前期初頭）、平成30年度３棟（早期１、前期初頭２）の竪穴建物が検出されている。土坑については49基が縄文時

代に帰属するものと考えられる。その分布を見ると、舌状に張り出した台地の縁辺部、特に西側部分に遺構の集中が見られた。また、傾斜地に検出されたものについては、上部が削られているものも多く存在する。

遺物が見られた土坑は少ないが、早期の遺物を出土した土坑も見られる。

平成30年度調査の３棟の竪穴建物は、大きく南西に落ち込む谷の傾斜変換点部に、直線的に並んで検出されている、隅丸方形あるいは長方形とみられるが、南西側が大きく失われており、形状は不明確である。

出土遺物に関しては、６号竪穴建物で石鏃、石錐、石匙類が見られたものの、土器に関しては僅かに小片が出土したのみである。

８号竪穴建物は比較的覆土部分が残っていたこともあり、器形復元可能な土器を含め100点程が出土している、この内約40点を図示、前期初頭を主体とし、楕円押型文土器１点が含まれている。

ほぼ中央に炉とみられる焼土及び炭化物が認められた。なお８号竪穴建物では、石鏃以外は磨石が６点となっており、やや特異な組成に思える。

これに関しては、本遺構覆土中からはベンガラ小塊の出土が見られ、床面に据えられたような平石の出土もあり、磨石３点の表面にベンガラと思われる付着痕が観察されていることから、工房的な性格も考えられる。

また、遺構外出土ではあるが、本址と同時期と考えられる土器片の内側に、僅かに赤彩が認められる。

９号竪穴建物は、後世の削平及び土坑との重複が顕著で、残りの悪い状況であった。明確な炉は認められなかったが、僅かに焼土の広がりが中央やや西で確認されている。出土土器は僅かであったが、表裏縄文、撚糸文が出土している。石器は石鏃、石匙（スクレイパー）が出土した。

本址の周辺でも表裏縄文、撚糸文を出土した土坑が点在しているものの、削平や風倒木の攪乱を受けるなどしており、形状は不明確なものが多かった。

10号竪穴建物は最も削平を受けた状況で、遺構の残りは極めて悪く、遺物は前期初頭の土器片のみが僅かに出土している。

遺構外出土の遺物に関しては、早期～弥生時代中期にかけての土器が出土している。特に早期の土器については、表裏縄文、撚糸文、押型文などが見られる。遺構に伴うものも見られたが、多くは遺構外出土または、混入品と考えられた。量的には、比較的まとまって出土しており、押型文土器については、楕円文、山形文の他異種文様施文なども見られ、当遺跡における重要な発見と言える。

早期末から前期初頭についても比較的多くの土器が検出されており、遺構についても、６・８・10号竪穴建物は当該期に比定されることから、遺跡の主要な時期と判断される。早期末から前期初頭に帰属し、薄手無繊維土器も共伴している。

前期後半の遺構は殆ど確認されてはいないが、遺構外より、ややまとまって諸磯ｂ式期の浮線文系、竹管文系の土器片が出土している。それぞれは同一個体片と見られ、口縁部が強く内屈する靴先状を呈す器形であろう。

中期前半期の土器は阿玉台式期のやや大型破片がピット内より出土、その周辺からも小破片が出土している。位置的には１号焼土を中心とした範囲で、複数の小ピットも検出されている。明確には確定できなかったが、何らかの遺構の存在も想定された。

中期後半及び後期の土器片も散見されたが、当該期の遺構は確認されていない。

晩期末及び弥生時代の土器片も、僅かながら出土しているがやはり遺構は確認されなかった。

三平Ⅰ遺跡は吾妻川を南東に望む舌状台地上に展開した遺跡である。旧石器時代の遺物は確認されなかった。縄文早期から居住が開始され、前期初頭に小規模ではあるが、集落として機能していたことが明らかになった。その後も継続して人々の居住地として利用されて来たことがこれまでの調査によって明らかにされた。

こうした台地に営まれた、生活の場は吾妻川上流に沿って見られ、立馬Ⅰ・Ⅲ遺跡、檜木Ⅱ遺跡などに同時期の遺構、遺物が確認されており相互補完的な関係が想定される。

第３節　吾妻川左岸の最上位河岸段丘上にある陥し穴

１　はじめに

三平Ⅰ遺跡は、標高約576～584mの吾妻川左岸最上位河岸段丘面上にあり、高間山の南東麓に位置する。最上

位河岸段丘面上において、47基の陥し穴が確認された。前回調査（平成16・17年度）では、112基の陥し穴が報告されている。そこで前回の報告『三平Ⅰ・Ⅱ遺跡』(2007、群理文401集）に引き続き、今回の報告においても、陥し穴の傾向を考察するものである。

２　陥し穴について

前回の報告では、（１）形状、（２）重複関係、（３）構築時期、（４）ローム質土レンズ状堆積層の４つの観点から考察を行っている。今回の報告では、調査の状況や遺跡の特徴を勘案して記述する。ただし、資料蓄積、及び比較検討の意味からも、考察の観点や分類等の内容は前回報告に準ずるものとする。

（１）形状の分類

今回の報告では、前回の報告を踏襲して、陥し穴の形状を以下の３タイプ４類に分類した。

①楕円型１類：上面・下面形状ともに長方形が基準で、壁が垂直に立ち上がるタイプ。楕円型２類の上半分が欠損したものの可能性が高い。

②楕円型２類：上面形状は楕円形、下面形状は長方形を基準とし、壁は下半部が垂直で、上半部が緩やかに外反して立ち上がるタイプ。

③溝型：上面形状は細長い楕円か長方形、下面形状は細長い長方形が溝状のタイプ。底部施設（逆茂木痕）を伴うものがある。

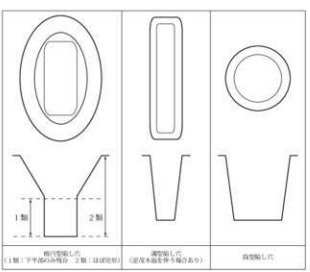
④筒型：上面・下面ともほぼ円形で、壁が垂直に立ち上がるタイプ。

今回調査（平成24・25・30年度）で検出された47基の陥し穴を前記で分類した結果は、楕円型１類10基、楕円型２類21基、溝型13基、筒型３基であった。タイプ別に割合で表すと、楕円型は、47基中31基（66.0％）であり、全体の７割弱を占める。溝型は、47基中13基（27.6％）であり、全体の３割程である。筒型は、47基中３基(6.4％）であり、全体の１割に満たない。前回の報告では、楕円型は、112基中93基（83.0％）であり、全体の８割程を占める。溝型は、112基中16基（14.3％）であり、筒型は、112基中３基（2.7％）であった。前回報告と今回報告を合わせると、楕円型は、159基中124基（78.0％）であり、全体の８割弱を占める。溝型は、159基中29基(18.2％）であり、全体の２割程である。筒型は、159基中６基（3.8％）である。

前回報告では、陥し穴の形状や規模はイノシシやシカなどの大型動物を捕獲するための罠としての機能と直接結びついて改良され定形化させており、８割を占める楕円型陥し穴が最も合理的で効果的な罠の可能性があるとの指摘があった。今回の報告においては、楕円型陥し穴の占める割合が７割弱とやや少ないものの、ほぼ前回報告の指摘を裏付ける結果となった。ただし、溝型陥し穴と筒型陥し穴は前回報告の割合がほぼ２倍になっている。特に、溝型陥し穴と楕円型陥し穴との新旧関係は前回報告から溝型陥し穴のほうが新しいとの指摘があり、今回の調査区では前回の調査区より新しい陥し穴の割合が多い傾向にあるといえる。

また、27・107・114号土坑（溝型）では、陥し穴底部で逆茂木痕と考えられるピットを確認している。前回報告では、溝型陥し穴には、楕円型陥し穴より高い頻度で逆茂木痕が伴う事例が立馬Ⅰ遺跡（群理388集）・立馬Ⅱ遺跡（群理375集）で報告されていると指摘しており、これもまた、前回報告を裏付ける結果となった。

（第117図　陥し穴分類図参照）



第117図　陥し穴分類図
（第401集『三平Ⅰ・Ⅱ遺跡』第162図加筆修正）

（２）重複関係

今回調査では、陥し穴相互での重複関係は認められなかった。前回報告で、楕円型陥し穴が溝型陥し穴に前出しており、古いことが考えられるとの指摘に当てはまる事例は見つからなかった。

また、今回調査においては、他種の遺構との重複では、１号竪穴建物と17号土坑（溝型）の重複関係が確認でき

た。1号竪穴建物は、土師器のコ字状口縁甕破片が出土しており、9世紀後半と比定されている。17号土坑は、1号竪穴建物に後出しており、9世紀後半以降の所産と考えられる。

今回の調査では、前回報告と違って、異なるタイプの陥し穴（楕円型と溝型）相互の新旧関係が明らかになる事例は確認できなかったが、9世紀後半の竪穴建物より新しい陥し穴の事例が見つかった。陥し穴相互の新旧関係は確認できなかったが、相対的に溝型の陥し穴が新しいことは裏付けられた。前回報告では、陥し穴の出土遺物は埋没時の流れ込みの可能性が高く帰属時期を比定できない場合が多いとの指摘があった。今回報告においても、帰属時期の比定には、遺構相互の重複関係は重要であることに変わりはなく、今後の調査例の増加に期待する。

（3）構築時期

今回調査では、形状・埋没土等から、確認された47基の土坑は古代に比定される。構築時期については、今回報告の竪穴建物との新旧関係、前回報告指摘の出土遺物の流れ込みの可能性、花畑遺跡（群理303集）における金属製鋤先痕の検出や放射性炭素年代測定の結果及び三平Ⅰ遺跡の前回報告を踏まえて古代と比定した。

具体的には、17号土坑は、9世紀後半に比定された竪穴建物に後出しており、それ以降の所産であることが分かる。前回報告では、楕円型の陥し穴が、重複関係から9世紀前後に比定されており、溝型の陥し穴が新しいという指摘も、今回の報告と矛盾するものではない。

（4）覆土の堆積状況

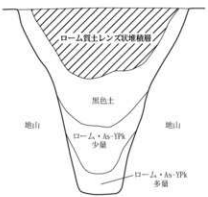
前回報告においては、陥し穴の覆土の堆積状況において基本土層のⅢ層を基準とする黒色土あるいは黒褐色土がレンズ状に自然堆積した事例が多いが、中には「ローム質土レンズ状堆積層」と呼称する土層が確認できる場合があると指摘されており、今回調査においても、これに相当する堆積層が確認できている。

前回調査では、この埋没土層は、112基中48基であり、全体の4割で確認されている。今回調査においては、47基中25基において相当する埋没土層が確認される。形状別でみると、楕円型31基中17基、溝型13基中6基、筒型3基中2基であった。全体の5割以上の陥し穴に、この埋没土層が確認されており、前回調査より、その割合は高い。前回報告と今回報告を合わせると、159基中73基（45.9%）であり、全体の5割弱を占めた。

このローム質土レンズ状堆積層がどのような理由で堆積したかについては、不明であるとの指摘がなされている。一方で、ローム質土レンズ状堆積層に相当する陥し穴の埋没土層は、前回報告の三平Ⅰ・Ⅱ遺跡、花畑遺跡、長野原一本松遺跡、立馬Ⅰ遺跡、立馬Ⅱ遺跡でも確認されている。

これらの遺跡は全て吾妻川左岸に位置しており、構築時期も古代の陥し穴の自然埋没土上層に確認できる。前回指摘されように、ローム質土レンズ状堆積層が、古代の特定時期に、吾妻川流域に発生した地震・地滑り等の自然災害に起因する可能性があり、その時期や年代を比定できる鍵層となれば地域史、災害史を考察する上で重要であるとの指摘は、今回の調査と矛盾はなく、調査例に加えることができるだろう。

（第118図　陥し穴土層埋没状況図参照）



第118図　陥し穴土層埋没状況図
（第401集『三平Ⅰ・Ⅱ遺跡』第163図修正）

3　おわりに

前回報告に今回の調査例を加えて考察を試みた。結果的には、前回の報告で指摘された内容の裏付けとなった。ただし、今回の報告で特徴的だったのは、前回の報告に対して、陥し穴全体に占める楕円型陥し穴の割合が低く、溝型陥し穴及び筒型陥し穴の割合が高かったことが挙げられる。溝型陥し穴が相対的に新しいとの指摘により、今回の調査区で確認された陥し穴群のほうが前回の調査区の陥し穴群よりやや新しい傾向にあると考えることができる。また、「ローム質土レンズ状堆積層」が確認できる陥し穴の割合も前回の報告より高かった。今回の調査区は前回の調査区より台地の先端部にあり、同時に北

西の尾根より遠いところにある。微妙な地形の差異により、吾妻川流域に発生した地震・地滑り等の自然災害の様相が遺構の埋没状況の結果に反映されている可能性は否定できない。今後さらなる調査例の増加により、当該地域の陥し穴の様相が明らかになることを期待する。

第４節　平安時代の鍛冶炉と鍛冶道具

１　はじめに

今回の発掘調査により、本遺跡から鍛冶炉を伴う竪穴建物、鍛冶道具が出土した竪穴建物が確認された。竪穴建物の検出件数が少ない集落の中においても、特徴的な鍛冶関連遺構と遺物が確認されたことは、鍛冶関連遺構が以前から吾妻川左岸に多くみられると指摘されている通りである。新たな調査例として考察する。

２　鍛冶関連遺構と鍛冶道具

２号竪穴建物から鍛冶関連遺構（鍛冶炉）が確認され、５号竪穴建物から鍛冶道具と考えられる鉄製品（ヤットコ）が出土した。（口絵写真６、ＰＬ.53、第３章第３節第１項参照）

２号竪穴建物からは、鍛冶炉が２基確認されている。１号炉からは、鍛造剥片や粒状滓が多量に出土した。２号炉からは、輪羽口が出土している。この場所で鍛錬鍛冶の作業が行われたのは確実である。本竪穴建物は、中断を挟んで２か年にわたって調査されており調査の整合性がない部分（第３章事実記載参照）もある。ただし、遺構や遺物の出土状況から、鍛冶炉を伴う竪穴建物と判断するのが自然であろう。

５号竪穴建物からは、釘、鏃、鉄製品（ヤットコ）が出土した。カマド周辺、掘り方南部、張出部では鉄滓が13点出土した。本竪穴建物は、鍛冶炉を想定させる粘土被覆の掘り込みもあることから、居住用以外に鍛冶作業が行われていた施設と考えることができる。

今回調査検出された同期の竪穴建物は６棟であり、そのうち２棟の竪穴建物が鍛冶作業に関連する遺構や遺物が確認されている。２・５号竪穴建物から鍛冶関連遺構が検出され、鍛冶道具に関連る遺物が出土したことは、少なくとも鍛錬鍛冶を行う集落の形成と関連があると考える。

３　鍛冶関連遺構の様相

本遺跡周辺地域における平安時代遺跡は吾妻川左岸に多く分布する傾向にあるが、当該地において三平Ⅰ遺跡のほかに鍛冶関連遺構を伴う遺跡は上原Ⅲ遺跡である。上原Ⅲ遺跡では、鍛冶炉を伴う竪穴建物跡が確認されており、椀形鍛冶滓、鍛冶滓、粘土質溶解物、鍛造剥片、粒状滓、鉄塊系遺物が出土している。出土遺物の傾向は三平Ⅰ遺跡と類似している。両遺跡は、吾妻川左岸の最上位面に位置しており、それぞれ鍛錬鍛冶を行う竪穴建物が存在する集落を形成しているなど共通点が多い。

４　おわりに

吾妻川左岸の最上位河岸段丘上にある平安時代の集落で鍛冶関連遺物が出土している遺跡は、三平Ⅰ遺跡、上原Ⅲ遺跡の他に、楡木Ⅰ遺跡、楡木Ⅱ遺跡、上原Ⅰ遺跡、上ノ平Ⅰ遺跡などが挙げられる。当該地域においては、鍛冶作業が行われてきた集落の様相が指摘されてきたが、今回の報告もそれを裏付けるものとなった。今後の調査例の増加により、鍛冶に関連する集落の様相が明らかになることを期待する。

参考文献
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　2002『長野原一本松遺跡（１）』第287集
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　2002『八ッ場ダム発掘調査集成（１）』第303集
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　2005『川原湯勝沼遺跡（２）』第356集
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　2006『立馬Ⅱ遺跡』第375集
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　2006『立馬Ⅰ遺跡』第388集
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　2007『三平Ⅰ・Ⅱ遺跡』第401集
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　2008『楡木Ⅱ遺跡（１）』第432集
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　2008『上ノ平Ⅰ遺跡（１）』第440集
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　2009『立馬Ⅲ遺跡』第457集
（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　2009『楡木Ⅱ遺跡（２）』第458集
東日本高速道路株式会社・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　2010『峯山遺跡Ⅱ（古墳時代以降編）一飛鳥時代から奈良時代の製鉄遺構一』第485集
（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　2012『楡木Ⅰ遺跡』第549集
群馬県吾妻郡長野原町教育委員会　2015『林地区遺跡群』第30集
（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　2015『上原Ⅰ遺跡』第604集
（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　2016『林中原Ⅱ遺跡（１）』第617集
（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　2018『林中原Ⅱ遺跡（２）』第643集
（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　2019『林中原Ⅱ遺跡（３）』第650集

第16表　遺構計測表

竪穴建物

区	面	番号	位置	形状	方向	長軸m	短軸m	深さm	時代	出土遺物	備考
89	1	1	O-21・22	横長長方形ないし台形	N-48° -E	(3.75)	3.10	0.20	平安時代	土師器甕	
89	1	2	R・S-23・24	縦長隅丸長方形	N-45° -E	4.20	3.48	0.38	平安時代	須恵器塊 須恵器高台付埦(墨書)土師器甕 羽口 鉄滓	鍛冶炉を伴うとするが,後世の廃滓坑の可能性
89	1	3	P～R-21・22	横長長方形	N-50° -E	3.6	2.9	0.85	平安時代	須恵器坏 須恵器高台付埦 土師器甕 ろくろ甕 鉄滓	カマド、貯蔵穴周辺を盛り上げたテラス状構造
89	1	4	P・Q-21	隅丸方形	N-32° -E	(3.68)	3.22	0.15	平安時代		
89	1	5	R・S-18・19	逆L字形	N-70° -E	5.16	4.20	0.49	平安時代	須恵器坏 須恵器高台付埦 須恵器壺 土師器甕 鍛あるいは釘 鉄滓 砥石	南西部に張り出し
89	2	6	O・P-13・14	偏円形	N- 7° -W	4.00	3.90	0.49	縄文時代前期初頭ないし前半	深鉢 石錐 石鏃未製品 石錘 石匙	
79	1	7	I-14	隅丸方形	N-55° -E	3.60	3.60	0.44	平安時代	須恵器甕	
79・89	2	8	79区W・X-25 80区W・X-1	隅丸長方形	N-74° -E	4.30	(3.80)	0.52	縄文時代前期初頭	深鉢 石鏃 磨石	
79	2	9	R-22	隅丸長方形	N-82° -W	3.90	(3.60)	0.30	縄文時代早期	深鉢 石錐 石匙 スクレイパー	
79	2	10	U-24・25	隅丸長方形	N-50° -W	4.25	(3.40)	0.20	縄文時代前期初頭	深鉢	

土坑

区	面	番号	位置	形状	方向	長軸m	短軸m	深さm	時代	出土遺物	備考
89	1	1	P-1	不整円形	N-8° -W	0.86	0.72	0.48	縄文時代		
89	1	2	R-24・25	不整形	N-0°	2.18	1.46	0.80	—		近代-現代の攪乱　記載除外
89	1	3	N・O-24	長円形	N-73° -W	2.55	1.87	1.57			倒木痕　記載除外
89	1	4	N-24	不整形	N-25° -W	0.94	0.79	0.30	縄文時代		
89	1	5	M-2	長円形	N-9° -W	0.96	0.83	0.41	縄文時代		
89	1	6	L・M-21	長円形	N-74° -W	1.86	1.10	1.35	平安時代		陥し穴
89	1	7	M-20	隅丸長方形	N-0°	1.89	0.81	1.03	平安時代		陥し穴
89	1	8	K・L-23	不整形	N-66° -E	1.04	0.78	0.34	—		近代-現代の攪乱　記載除外
89	1	9	L-23	長円形	N-39° -E	1.04	0.74	0.26	—		植物性攪乱　記載除外
89	1	10	M-24	不整形	N-12° -W	1.81	1.44	0.33	平安時代		陥し穴か
89	1	11	K-24・25	不整形	N-0°	1.04	0.88	0.24	—		植物性攪乱　記載除外
89	1	12	J・K-22・23	長円形	N-3° -E	1.80	1.28	1.04	平安時代		陥し穴
89	1	13	L-20	長円形	N-17° -E	2.12	1.58	0.31	—		植物性攪乱　記載除外
89	1	14	L-1・2	不整形	N-33° -E	2.26	1.70	0.60	—		近代-現代の攪乱　記載除外
89	1	15	H・I-21	長円形	N-51° -W	1.98	1.12	1.59	平安時代		陥し穴
89	1	16	I-20	長円形	N-48° -W	1.86	1.00	1.24	平安時代		陥し穴
89	1	17	O-22	隅丸長方形	N-21° -E	1.36	0.64	0.72	平安時代	土師器甕	陥し穴
89	1	18	P-17	長円形	N-77° -W	2.00	1.22	1.34	平安時代	土師器甕	陥し穴
89	1	19	N・O-17	長円形	N-61° -W	2.10	1.55	1.94	平安時代		陥し穴
89	1	20	M-14・15	長円形	N-40° -W	2.05	1.15	1.40	平安時代		陥し穴か
89	1	21	E-16・17	円形	N-4° -E	0.93	(0.84)	0.35	中世以後		
89	1	22	E-17	長円形	N-19° -W	1.89	1.61	1.14	平安時代		陥し穴か
89	1	23	N-19	長円形	N-80° -E	1.58	1.18	1.25	平安時代		陥し穴
89	1	24	L-16	隅丸長方形	N-42° -W	1.63	0.75	0.47	平安時代	土師器甕	陥し穴か
89	1	25	N-14	長円形	N-38° -W	2.51	1.42	1.51	平安時代	須恵器埦	陥し穴
89	1	26	J・K-19・20	楕円形	N-87° -W	1.88	1.50	1.63	平安時代		陥し穴
89	1	27	O-19	隅丸長方形	N-4° -E	1.43	0.74	0.87	平安時代		陥し穴か
89	1	28	M-13	隅丸長方形	N-30° -W	1.52	1.11	0.71	中世以後	土師器甕 須恵器坏	
89	1	29	J-15	不整形	N-68° -E	1.12	0.95	0.39	中世以後		
89	1	30	I・J-15	長円形	N-85° -W	1.97	1.39	1.42	平安時代		陥し穴か
89	1	31	J-15・16	円形	N-16° -W	0.91	0.80	0.56	中世以後		
89	1	32	H-18	不整円形	N-12° -W	0.98	0.84	0.21	中世以後		
89	1	33	G-18	不整円形	N-64° -E	0.97	0.76	0.29	中世以後		
89	1	34	F・G-20	不整円形	N-36° -W	1.38	1.18	0.48	中世以後		
89	1	35	M-17	円形	N-65° -W	0.95	0.81	0.22	中世以後		
89	1	36	L-16	隅丸長方形	N-89° -W	1.37	1.03	0.65	中世以後		
89	1	37	L-17	円形	N-1° -E	1.09	0.94	0.52	中世以後		
89	1	38	G・H-21	円形	N-35° -W	1.18	1.06	0.38	中世以後		
89	1	39	J-16	不整円形	N-32° -W	1.15	0.97	0.77	中世以後		
89	2	40	R-23	不整円形	N-50° -E	0.85	0.72	0.21	縄文時代		
89	1	41	T-19・20	長円形	N-88° -E	3.07	1.90	1.81	平安時代	土師器甕	陥し穴か
89	1	42	R・S-17	楕円形	N-85° -E	2.21	1.77	2.04	平安時代	須恵器高台付埦	陥し穴か
89	1	43	Q-18	不整楕円形	N-15° -W	2.22	1.80	1.75	平安時代	須恵器高台付埦	陥し穴か
89	1	44	S-21	楕円形	N-28° -E	2.01	1.53	1.83	平安時代		陥し穴か
89	1	45	U-22・23	円形	N-18° -E	2.42	2.06	1.33	—		倒木痕　記載除外

区	面	番号	位置	形状	方向	長軸m	短軸m	深さm	時代	出土遺物	備考
89	1	46	U-19・20	隅丸長方形	N-36°-E	2.46	1.26	1.24	平安時代	土師器甕	陥し穴
89	1	47	S-17	長円形	N-1°-E	1.77	1.23	1.20	平安時代		陥し穴
89	1	48	Q-14	隅丸長方形	N-19°-W	1.92	1.05	1.40	平安時代		陥し穴
89	1	49	P・Q-14	不整形	N-37°-E	2.46	1.71	1.15	平安時代		陥し穴
89	1	50	P・Q-11	不整形	N-64°-W	2.40	2.12	0.47	—		倒木痕　記載除外
89	1	51	Q-14・15	長円形	N-40°-E	2.81	1.06	1.16	平安時代	土師器甕	陥し穴
89	1	52	P・Q-14	長円形	N-51°-E	2.36	0.88	0.43	平安時代		陥し穴
89	1	53	Q・P-11・12	楕円形	N-34°-E	3.01	1.80	1.81	平安時代	土師器甕	陥し穴
89	1	54	Q-12・13	不整形	N-47°-W	2.44	1.46	1.69	平安時代	内耳鍋（把手）	陥し穴
89	1	55	N・O-13	不整形	N-56°-W	2.04	1.44	1.69	平安時代		陥し穴
89	1	56	O-16	楕円形	N-53°-W	1.83	1.28	1.73	平安時代		陥し穴
89	1	57	N・O-15	隅丸方形	N-34°-W	1.97	1.40	0.48	中世以後		
89	2	58	R-15	円形	N-73°-E	0.72	0.66	0.34	縄文時代	深鉢	
89	2	59	P-15・16	円形	N-37°-W	1.18	1.14	0.79	縄文時代	深鉢	
89	2	60	S-15	円形	N-31°-W	1.20	1.10	0.49	—	—	植物性攪乱　記載除外
89	2	61	P-15	(円形)	N-1°-E	0.59	0.57	0.16	縄文時代	深鉢	
89	2	62	P-15	円形	N-51°-W	0.96	0.57	0.19	縄文時代	深鉢　磨石	
89	2	63	R-16	円形	N-34°-W	0.73	0.71	0.24	縄文時代		
89	2	64	Q・R-16	円形	N-20°-W	0.75	0.74	0.29	縄文時代		
89	2	65	R・S-15	円形	N-31°-W	0.64	0.56	0.19	縄文時代		
89	2	66	P-15	円形	N-47°-E	0.64	0.56	0.24	縄文時代	深鉢	
89	2	67	O-14	円形	N-63°-W	0.68	0.60	0.14	縄文時代		
89	2	68	U-23	円形	N-22°-E	1.04	0.83	0.75	縄文時代		
89	1	69	T-19	円形	N-1°-W	2.40	0.90	0.47	縄文時代	深鉢	
79	1	70	U・V-25	長円形	N-50°-E	2.66	(1.75)	1.54	平安時代	土器	陥し穴
79	1	71	U-24	不整形	N-64°-E	1.60	(1.35)	0.94	平安時代		陥し穴
79	1	72	T・U-23	隅丸長方形	N-57°-E	1.84	0.97	0.35	近世以降		風倒木
79	1	73	W-7	円形	N-13°-W	1.03	1.00	0.70	近世以降		
79	1	74	U-23	隅丸長方形	N-83°-E	(1.85)	(0.57)	0.42	近世以降		攪乱
79	1	75	Q-20	不整形	N-37°-W	(1.94)	(1.80)	0.67	平安時代		6号風倒木にきられる
79	1	76	P-20	隅丸長方形	N-25°-W	1.54	0.85	0.23	縄文時代?	深鉢	
79	2	77	R-22	長円形	N-2°-W	0.53	0.39	0.13	縄文時代	深鉢	
78	1	78	T-19	不整形	N-21°-W	0.84	0.41	0.16	—	—	攪乱
79	2	79	R-22	円形	N-65°-W	1.30	(1.18)	0.07	縄文時代	深鉢	
79	1	80	X-17	不整形	N-35°-E	0.63	0.57	0.31	近世以降		
79	2	81	W・X-25	隅丸長方形	N-75°-W	1.30	0.70	0.46	平安時代	土器	
79	2	82	V・W-25	隅丸長方形	N-35°-E	1.60	0.78	0.15	縄文時代		
79	2	83	X-25	長円形	N-10°-W	1.35	0.92	0.38	縄文時代	深鉢	攪乱か
79	2	84	X-25	長円形	N-8°-W	1.28	0.93	0.20	縄文時代		
79	2	85	W-24	隅丸長方形	N-11°-E	(1.45)	0.62	0.28	縄文時代	深鉢	
79	1	86	W-17	円形	N-55°-E	0.96	0.92	0.63	縄文時代		
79	1	87	W-16	円形	N-24°-E	1.10	1.03	0.36	縄文時代		
79	1	88	W-17	円形	N-50°-E	0.95	0.89	0.66	縄文時代	深鉢	
79	1	89	L-17	円形	N-72°-E	1.16	0.98	0.27	縄文時代		
79	1	90	N-17	円形	N-44°-E	0.92	0.90	0.27	縄文時代		
79	1	91	N-16	不整形	N-70°-E	1.32	1.09	0.72	縄文時代		
79	1	92	W-16	円形	N-30°-E	1.20	1.18	0.55	近世以降		
79	1	93	L-17	隅丸長方形	N-25°-W	2.06	0.94	1.07	平安時代		陥し穴
79	1	94	W-16	円形	N-74°-E	1.13	1.03	1.24	縄文時代?	深鉢	
79	1	95	N-15	円形	N-35°-W	1.02	1.00	0.42	縄文時代		
79	2	96	T-21	円形	N-68°-W	1.32	1.18	0.56	縄文時代		風倒木か
79	2	97	R-19・20	長円形	N-4°-E	(1.48)	0.68	0.16	縄文時代		
79	1	98	R・S-20	円形	N-50°-E	0.70	0.61	0.37	縄文時代		
79	2	99	S-21	不整形	N-72°-E	1.20	0.74	0.24	縄文時代		
79	2	100	Q-20	隅丸長方形	N-29°-E	0.62	0.52	0.37	縄文時代		
79	2	101	Q・R-20・21	不整形	N-8°-E	1.70	1.61	0.52	縄文時代	深鉢	
79	2	102	Q・R-22	長円形	N-60°-E	0.61	0.40	0.50	縄文時代		
79	2	103	R-22	不整形	N-36°-W	0.89	0.76	0.66	縄文時代		
79	2	104	R-22	不整円形	N-10°-E	(0.61)	0.59	0.36	縄文時代		
79	2	105	R-19	不整形	N-65°-E	0.85	0.56	0.24	縄文時代		
79	1	106	D・E-12	隅丸長方形	N-75°-W	1.90	0.86	1.00	平安時代		陥し穴
79	1	107	E-14	隅丸長方形	N-60°-E	1.70	0.95	0.77	平安時代		陥し穴
79	1	108	D-13	長円形	N-46°-W	1.15	0.75	0.38	縄文時代		
79	1	109	C-13・14	隅丸長方形	N-57°-E	2.79	1.12	0.81	平安時代	土師器	陥し穴
79	1	110	E・F-16	隅丸長方形	N-79°-E	2.29	1.24	1.19	平安時代		陥し穴
79	1	111	E・F-17	隅丸長方形	N-33°-E	2.22	0.89	1.11	平安時代		陥し穴
79	1	112	A・B-21	隅丸長方形	N-15°-W	1.77	0.75	1.46	平安時代		陥し穴
79	2	113	A-21	不整形	N-53°-E	1.53	0.91	0.64	縄文時代?		
79	1	114	C-16・17	隅丸長方形	N-62°-E	1.80	0.80	1.15	平安時代		陥し穴

区	面	番号	位置	形状	方向	長軸m	短軸m	深さm	時代	出土遺物	備考
79	1	115	K-16	隅丸長方形	N- 2° -W	1.80	1.02	1.07	平安時代		隔し穴
79	2	116	J-14	長円形	N-47° -E	1.09	0.72	0.20	縄文時代		
79	2	117	I-14	長円形	N-69° -W	1.16	0.80	0.22	縄文時代		
79	2	118	G-18	長円形	N-22° -W	1.98	1.40	1.02	平安時代		隔し穴
79	2	119	D・E-20	不整形	N-35° -W	1.97	1.56	1.47	平安時代	土器	隔し穴
79	1	120	J-19	円形	N-49° -E	1.20	1.18	0.49	縄文時代		
79	1	121	I-19	長円形	N-51° -W	0.85	0.64	0.19	縄文時代		
79	1	122	J-21	円形	N-18° -E	0.97	0.93	0.43	縄文時代		
79	1	123	F-19	隅丸長方形	N-70° -E	1.63	0.76	0.74	平安時代	土器	隔し穴
79	1	124	I-17・18	長円形	N-83° -W	1.61	1.02	0.34	縄文時代		
		125									欠番
79	1	126	J-18	不整形	N-17° -W	2.42	1.87	1.08	平安時代		隔し穴
79	1	127	I・J-18	不整形	N-37° -E	2.85	2.35	1.42	平安時代		隔し穴
79	1	128	I-23	円形	N-79° -W	1.38	1.17	0.59	縄文時代		

ピット

区	面	番号	位置	平面形	断面形	長軸m	短軸m	深さm	時代	出土遺物	備考
89	1	1	P-24	円形	椀状	0.40	0.38	0.25	中世以後		
89	1	2	O-24	偏円形	U字状	0.32	0.29	0.21	中世以後		
89	1	3	N-22	不整円形	漏斗状	0.37	0.29	0.40	中世以後		
89	1	4	K-19	円形	逆台形	0.31	0.30	0.30	中世以後		
89	1	5	I-16	円形	深いU字状	0.36	0.43	0.69	中世以後		1号掘立柱建物
89	1	6	H-17	円形	深いU字状	0.42	0.40	0.62	中世以後		1号掘立柱建物
89	1	7	G-17	円形	逆台形	0.54	0.50	0.28	中世以後		
89	1	8	G-17	円形	深いU字状	0.40	0.38	0.69	中世以後	土師器甕　須恵器杯	1号掘立柱建物
89	1	9	F・G-17	不整円形	深いU字状	0.50	0.44	0.62	中世以後		1号掘立柱建物
89	1	10	H-17	不整円形	ゆがんだU字状	0.41	0.38	0.33	中世以後		
89	1	11	H-16	偏円形	浅い箱形	0.44	0.30	0.13	中世以後		
89	1	12	H-17	円形	U字状	0.32	0.29	0.26	中世以後		
89	1	13	H-17	不整円形	ゆがんだ椀状	0.38	0.36	0.15	中世以後		
89	1	14	I-17	円形	深いU字状	0.26	0.24	0.47	中世以後		1号掘立柱建物
89	1	15	H-17	円形	V字状	0.26	0.25	0.30	中世以後		1号掘立柱建物
89	1	16	G・H-18	円形	U字状	0.26	0.24	0.38	中世以後		1号掘立柱建物
89	1	17	G-18	隅丸方形	漏斗状	0.42	0.40	0.55	中世以後		1号掘立柱建物
89	1	18	H・I-15	不整円形	U字状	0.34	0.30	0.43	中世以後		1号掘立柱建物
89	1	19	H-16	円形	U字状	0.30	0.26	0.31	中世以後	土師器甕	1号掘立柱建物
89	1	20	G-16	円形	V字状	0.30	0.28	0.32	中世以後	陶器瓶	1号掘立柱建物
89	1	21	F-17	円形	V字状	0.38	0.36	0.31	中世以後		1号掘立柱建物
89	1	22	F-17	円形	U字状	0.38	0.28	0.27	中世以後		
89	1	23	F-17	円形	U字状	0.25	0.24	0.34	中世以後		
89	1	24	G-19	円形	漏斗状	0.29	0.27	0.15	中世以後		
89	1	25	H-19	円形	U字状	0.24	0.24	0.20	中世以後		
89	1	26	H-19	不整偏円形	鍋状	0.44	0.37	0.22	中世以後		
89	1	27	H-20	不整偏円形	箱型	0.45	0.35	0.22	中世以後		
89	1	28	K-16	偏円形	U字状	0.46	0.37	0.28	中世以後		
89	1	29	K-16	偏円形	やや深いU字状	0.40	0.30	0.34	中世以後		
89	1	30	L-16	円形	鍋状	0.59	0.50	0.23	中世以後		
89	1	31	L-17	偏円形	やや深いU字状	0.32	0.26	0.30	中世以後		
89	1	32	O-19	偏円形	やや深い椀状	0.61	0.50	0.33	中世以後		
89	1	33	J-19	偏円形	V字状	0.40	0.40	0.71	中世以後		
89	1	34	K-15	円形	逆台形	0.30	0.29	0.25	中世以後		
89	1	35	O-16	偏円形	逆台形	0.45	0.37	0.39	中世以後		
89	1	36	P-16	偏円形	逆台形	0.38	0.30	0.47	中世以後		
89	1	37	Q-16	円形	逆台形	0.42	0.38	0.33	中世以後		
89	2	38	Q-15	偏円形	椀状	0.42	0.36	0.25	縄文時代	浅鉢	
89	2	39	S-16	偏円形	鍋状	0.44	0.38	0.26	縄文時代	深鉢	
89	2	40	Q-16	長円形	U字状	0.52	0.37	0.43	縄文時代		
89	2	41	Q・R-15	偏円形	鍋状	0.38	0.36	0.26	縄文時代		
89	2	42	P-17	偏円形	椀型	0.47	0.45	0.25	縄文時代		
89	2	43	P-16	偏円形	鍋状	0.33	0.30	0.16	縄文時代	深鉢	
89	2	44	P-15	偏円形	U字状	0.42	0.40	0.39	縄文時代	土器	
89	2	45	S-20	偏円形	U字状	0.40	0.33	0.43	縄文時代		
89	2	46	S・T-20	偏円形	椀状	0.58	0.48	0.31	縄文時代		
89	1	47	A-3	円形	逆台形	0.48	0.44	0.30	中世以後		
89	1	48	B-3	楕円形	不整形	0.52	0.35	0.23	中世以後		
89	1	49	B-3	円形	不整形	0.43	0.37	0.20	中世以後		
89	1	50	U-23	長円形	不整形	0.44	(0.34)	0.11	中世以後		
89	1	51	K-19	不整円形	椀状	0.72	0.50	0.23	中世以後		

区	面	番号	位置	平面形	断面形	長軸m	短軸m	深さm	時代	出土遺物	備考
79	1	52	S-22	円形	U字状	0.28	0.26	0.18	中世以後		
79	1	53	R-21	円形	U字状	0.30	0.28	0.18	(縄文時代)		9号竪穴建物P1
		54									欠番
79	2	55	W-25	楕円形	U字状	0.26	0.21	0.24	縄文時代		8号竪穴建物P1
79	2	56	W-25	楕円形	U字状	0.22	0.15	0.32	縄文時代		8号竪穴建物P2
89	2	57	W-1	円形	U字状	0.14	0.13	0.38	縄文時代		8号竪穴建物P3
79	2	58	W-25	円形	V字状	0.23	0.19	0.10	縄文時代		8号竪穴建物P4
79	2	59	W-25	不整円形	U字状	0.20	0.14	0.21	縄文時代		8号竪穴建物P5
79	2	60	W-25	円形	V字状	0.15	0.13	0.12	縄文時代		8号竪穴建物P6
89	1	61	E-1	楕円形	逆台形	0.39	0.28	0.16	中世以後		
89	1	62	E-1	円形	逆台形	0.27	0.21	0.23	中世以後		
89	1	63	E-1	円形		0.35	0.32	0.30	中世以後		
79	2	64	W-25	不整形	U字状	0.27	0.13	0.14	縄文時代		8号竪穴建物P7
79	2	65	W-25	円形	U字状	0.18	0.14	0.22	縄文時代		8号竪穴建物P8
79・89	2	66	79区W-25 89区W-1	円形	U字状	0.20	0.19	0.20	縄文時代		8号竪穴建物P9
89	2	67	W-1	楕円形	U字状	0.26	0.18	0.42	縄文時代		8号竪穴建物P10
89	2	68	W-1	楕円形	V字状	0.21	0.15	0.18	縄文時代		8号竪穴建物P11
89	2	69	W-1	円形	U字状	0.14	0.12	0.20	縄文時代		8号竪穴建物P12
89	2	70	X-1	円形		(0.15)	(0.13)	0.07	縄文時代		8号竪穴建物P13
		71									欠番
79	1	72	W-25	円形	碗状	0.50	0.50	0.17	中世以後		
79	1	73	V-24	円形		0.29	0.27	0.12	中世以後		
79	1	74	V-24	円形	箱型	0.29	0.24	0.13	中世以後		
79	1	75	V-24	不整円形	不整形	0.53	0.42	0.16	中世以後		
79	1	76	V-23	円形	V字状	0.22	0.19	0.18	中世以後		
79	1	77	V-24	円形	U字状	0.17	0.17	0.21	中世以後		
79	1	78	V-23	不整円形	碗状	0.57	0.51	0.21	中世以後		
79	1	79	V-23	円形	U字状	0.41	0.40	0.19	中世以後		
79	1	80	V・W-23	円形	逆台形	0.32	0.28	0.14	中世以後		
79	1	81	V-23	円形	箱型	0.31	0.28	0.11	中世以後		
79	1	82	V-23	円形	箱型	0.33	0.28	0.13	中世以後		
79	1	83	U-22	円形	箱型	0.37	0.33	0.12	中世以後		
79	1	84	U-22	楕円形	碗状	0.46	0.39	0.17	中世以後		
79	1	85	U-22	円形	逆台形	0.35	0.35	0.19	中世以後		
		86									欠番
79	2	87	U-23	楕円形	V字状	0.20	0.14	0.18	(縄文時代)		
79	2	88	U-24	円形	U字状	0.28	0.26	0.26	縄文時代		10号竪穴建物P1
79	2	89	U-24	円形	U字状	0.27	0.26	0.32	縄文時代		10号竪穴建物P2
79	2	90	U-25	不整形		0.36	0.23	0.24	縄文時代		10号竪穴建物P3
79	2	91	U-25	円形	U字状	0.16	0.13	0.21	縄文時代		10号竪穴建物P4
79	2	92	U-25	円形	U字状	0.15	0.11	0.22	縄文時代		10号竪穴建物P5
79	2	93	U-25	円形	U字状	0.25	0.22	0.24	縄文時代		10号竪穴建物P6
79	2	94	V-24	不整円形	U字状	0.23	0.19	0.16	縄文時代		10号竪穴建物P7
79	2	95	U-24	不整形	U字状	0.22	0.18	0.20	縄文時代		10号竪穴建物P8
79	2	96	U-25	円形	U字状	0.28	0.24	0.38	縄文時代		10号竪穴建物P9
79	1	97	T-21	不整形	漏斗状	0.38	0.35	1.02	中世以後		
79	1	98	I-14	不整円形		0.29	0.28	0.25	平安時代		7号竪穴建物P1
79	1	99	I-14	長円形	U字状	0.40	0.25	0.16	平安時代		7号竪穴建物P2
79	1	100	I-13	不整円形		0.30	0.26	0.27	平安時代		7号竪穴建物P3
79	1	101	I-14	不整円形		0.30	0.23	0.17	平安時代		7号竪穴建物P4
79	1	102	I-14	不整円形		0.29	0.20	0.17	平安時代		7号竪穴建物P5
79	2	103	T-21	円形	逆台形	0.47	0.42	0.24	(縄文時代)		
79	2	104	T-20	楕円形	不整形	0.38	0.27	0.12	縄文時代		
79	2	105	S-20	隅丸正形	碗状	0.56	0.56	0.22	(縄文時代)		
79	2	106	S-19	楕円形	ゆがんだ碗状	0.48	0.34	0.25	(縄文時代)		
79	2	107	R-20	不整形	逆台形	0.42	0.39	0.16	(縄文時代)		
79	2	108	Q-20	楕円形	不整形	0.46	0.36	0.13	縄文時代		
79	2	109	P-19	円形	逆台形	0.33	0.31	0.17	縄文時代		
79	2	110	P-18	円形	漏斗状	0.28	0.25	0.45	縄文時代		
79	2	111	O-18	不整形	漏斗状	0.39	0.26	0.67	縄文時代		
79	2	112	N-18	円形	逆台形	0.39	0.36	0.18	縄文時代		
79	2	113	O-17	円形	U字状	0.30	0.24	0.54	縄文時代		
79	2	114	P-17	長円形	鍋状	0.72	0.63	0.21	縄文時代		
79	2	115	O-17	円形	碗状	0.72	0.70	0.15	縄文時代		
79	2	116	R-21	不定長円形	V字状	0.44	0.26	0.10	(縄文時代)		9号竪穴建物P2
79	1	117	D-14	不整円形	漏斗状	0.26	0.20	0.44	中世以後		
79	1	118	D-14	円形	深いU字状	0.25	0.20	0.49	中世以後		
79	1	119	D-14	円形	深いU字状	0.17	0.16	0.43	中世以後		

区	面	番号	位置	平面形	断面形	長軸m	短軸m	深さm	時代	出土遺物	備考
79	1	120	D-14	円形	不整形	0.28	0.24	0.35	中世以後		
79	1	121	F-17	楕円形	不整形	0.77	0.63	0.25	中世以後		
79	1	122	G-18	不整円形	ゆがんだ碗状	0.81	0.65	0.35	中世以後		
79	1	123	G-18	円形	鍋形	0.57	0.56	0.19	中世以後		
79	1	124	G-18	不整円形	碗状	0.55	0.52	0.24	中世以後		
79	1	125	I-17	円形	碗状	0.40	0.36	0.16	中世以後		
79	1	126	J-17	楕円形	ゆがんだ碗状	0.44	0.34	0.16	中世以後		
79	1	127	J-17	円形	ゆがんだ碗状	0.47	0.44	0.18	中世以後		
79	1	128	L-16	円形	鍋形	0.68	0.58	0.24	中世以後		
79	1	129	E-18	円形	箱型	0.41	0.36	0.12	中世以後		
79	1	130	E-17	楕円形	ゆがんだ碗状	0.57	0.44	0.18	中世以後		
79	1	131	F-17	円形	逆台形	0.40	0.30	0.21	中世以後		
79	1	132	F-17	円形	U字状	0.30	0.30	0.20	中世以後		
79	1	133	F-17	不整円形	不整形	0.50	0.46	0.17	中世以後		
79	1	134	G-17	円形	逆台形	0.36	0.36	0.10	中世以後		
79	1	135	G-17	不整円形	逆台形	0.33	0.31	0.16	中世以後		
79	1	136	H-17	不整円形	U字状	0.30	0.30	0.23	中世以後		
79	1	137	H-17	楕円形	U字状	0.34	0.30	0.18	中世以後		
79	1	138	H-17	楕円形	逆台形	0.35	0.27	0.13	中世以後		
79	1	139	E-18	不整円形	漏斗状	0.67	0.48	0.49	中世以後		
79	1	140	C-20	楕円形	逆台形	0.42	0.35	0.11	中世以後		
79	1	141	C-20	円形	V字状	0.40	0.37	0.22	中世以後		
79	1	142	C-20	楕円形	逆台形	0.44	0.34	0.11	中世以後		
79	1	143	C-20	楕円形	逆台形	0.45	0.37	0.11	中世以後		
79	1	144	C-20	楕円形	不整形	0.58	0.43	0.22	中世以後		
79	1	145	D-19	円形	逆台形	0.57	0.55	0.16	中世以後		
79	1	146	C-19	不整円形	逆台形	0.72	0.68	0.28	中世以後		
79	1	147	C-19	不整円形	逆台形	0.50	0.38	0.22	中世以後		
79	1	148	F-18	不整形	逆台形	0.43	0.33	0.12	中世以後		
79	1	149	F-16	円形	逆台形	0.53	0.53	0.30	中世以後		
79	1	150	C-17	円形	逆台形	0.36	0.36	0.16	中世以後		
79	1	151	D-17	楕円形	U字状	0.34	0.25	0.28	中世以後		
79	1	152	D-17	円形	漏斗状	0.42	0.35	0.50	中世以後		
79	1	153	C-18	円形	逆台形	0.39	0.37	0.15	中世以後		
79	1	154	C-18	不整円形	V字状	0.51	0.45	0.32	中世以後		
79	1	155	C-19	楕円形	逆台形	0.28	0.20	0.20	中世以後		
79	1	156	E-18	楕円形	逆台形	0.41	0.28	0.16	中世以後		
79	1	157	D-18	円形	逆台形	0.62	0.59	0.19	中世以後		
79	1	158	D-20・21	不整円形	不整形	0.49	0.47	0.27	中世以後		
79	1	159	D-21	不整円形	漏斗状	0.54	0.46	0.30	中世以後		
79	1	160	D-21	不整円形	ゆがんだ碗状	0.46	0.39	0.17	中世以後		
79	1	161	D-22	楕円形	逆台形	0.53	0.48	0.26	中世以後		
79	1	162	C-23	楕円形	ゆがんだ碗状	0.60	0.52	0.19	中世以後		
79	1	163	C-24	楕円形	逆台形	0.42	0.29	0.19	中世以後		
79	1	164	D-23	円形	逆台形	0.40	0.37	0.18	中世以後		
79	1	165	D-23	円形	逆台形	0.54	0.50	0.22	中世以後		
79	1	166	E-23	円形	逆台形	0.55	0.50	0.18	中世以後		
79	1	167	C-24	円形	逆台形	0.32	0.32	0.13	中世以後		
79	1	168	D-24	円形	漏斗状	0.43	0.39	0.27	中世以後		
79	1	169	D-24	円形	浅い箱型	0.54	0.54	0.13	中世以後		
79	1	170	D-22	円形	逆台形	0.26	0.22	0.25	中世以後		
79	1	171	D-22	楕円形	逆台形	0.28	0.21	0.32	中世以後		
79	1	172	D-23	不整円形	逆台形	0.47	0.37	0.16	中世以後		
79	1	173	D-23	長円形	漏斗状	0.66	0.49	0.26	中世以後		
79	1	174	C-23	楕円形	U字状	0.56	0.35	0.21	中世以後		
79	1	175	C-23	長円形	碗状	1.09	0.78	0.38	中世以後		
79	1	176	H-23	不整円形	逆台形	0.90	0.86	0.30	中世以後		
79	1	177	H・I-23	円形	ゆがんだ鍋状	1.08	1.00	0.40	中世以後		

掘立柱建物

区	面	番号	位置	形状	方向	長軸m	短軸m	深さm	時代	出土遺物	備考
89	1	1	F-16～J-19	2間×3間または2間×2間＋庇	N-63°-E	10.86	6.74		中世以後	土師器甕 須恵器坏(8号ピット) 土師器甕(9号ピット) 陶器壺(20号ピット)	5・6・8・9・14～21号ピット
79	1	2	E-14～G-15	3間×4間	N-66°-E	5.02	3.64				主軸3.50m
						0.27	0.18	0.10			P1
						0.25	0.24	0.11			P2
						0.26	0.24	0.29			P3
						0.16	0.11	0.11			P4
						(0.26)	0.21	0.08			P5
						0.22	0.17	0.08			P6
						0.18	0.17	0.08			P7
						0.25	0.22	0.12			P8
						0.23	0.20	0.13			P9
						0.26	0.23	0.13			P10
						0.25	0.25	0.09			P11
						0.25	0.25	0.09			P12
						0.24	0.22	0.13			P13
						0.24	0.21	0.18			P14
						0.21	0.21	0.13			P15
						0.30	0.28	0.09			P16
						0.25	0.25	0.22			P17
						0.23	0.22	0.15			P18
						0.30	0.30	0.15			P19
						0.29	0.28	0.12			P20
						0.38	0.28	0.45			P21
						0.26	0.21	0.07			P22

柱穴列

区	面	番号	位置	形状	方向	長軸m	短軸m	深さm	時代	出土遺物	備考
89	1	1	E-1		N-45°-E				近世以降		
						0.16	0.14	0.08			P1
						0.18	0.16	0.10			P2
						0.20	0.14	0.12			P3
89	1	2	E-1		N-48°-E				近世以降		
						0.26	0.16	0.22			P1
						(0.16)	0.12	0.12			P2

溝

区	面	番号	位置	形状	方向	長軸m	短軸m	深さm	時代	出土遺物	備考
79	1	1	A-15～18		N-3°-E	(12.40)	1.45	0.08	近世以降		
79	1	2	B-15～18		N-7°-W	(11.40)	2.10	0.20	近世以降		
79	1	3	E-18		N-57°-W	(3.15)	0.43	0.14	中・近世以降		

焼土遺構

区	面	番号	位置	形状	方向	長軸m	短軸m	深さm	時代	出土遺物	備考
89	1	1	P-16	不定形	N-10°-E	0.60	0.40	0.15	中世以後		上位遺構の焼土が撹乱されたものか

石垣

区	面	番号	位置	形状	方向	長軸m	短軸m	深さm	時代	出土遺物	備考
89・99	1	1	89区I・J-25 99区I・J-1	乱石積み 2段	N-59°-E	3.92	2.12	0.52	中世以後		